

# 病院年報

令和元年度



 **福井赤十字病院**  
Japanese Red Cross Fukui Hospital  
日本赤十字社

# 福井赤十字病院理念

『人道・博愛の精神のもと、県民が求める優れた医療を行います。』

## 基本方針

- 1 患者さんの権利と意思を尊重し、協働して医療を行います。
- 2 安全と質を向上させ、優しい医療を行います。
- 3 人間性豊かで専門性を兼ね備えた医療人を育成します。
- 4 急性期医療・疾病予防・災害時医療に積極的に取り組みます。
- 5 保健・医療・福祉と連携し、地域社会に貢献します。



# 令和元年度 年報巻頭言

福井赤十字病院

院長 高木 治樹

今回、当院の年報は節目の第30巻を刊行することができた。このような業績の蓄積は当時の知識と経験を振り返るためにも大変重要で、当院の大きな財産である。

令和元年度は、度重なる台風などの襲来により、自然災害受難の年となった。特に、9月に東日本を中心に発生した台風第15号・19号は、各地で大きな爪痕を残した。長野県の千曲川では、堤防が決壊し、広い地域に浸水被害をもたらした。当院からも長野市へ救護班、心のケア班、コーディネーター班を派遣し、被害者の救護活動にあたった。毎年願うことだが、来年こそは災害の少ない年であるように心から祈りたい。

さて、国の医療費抑制の方針や、消費税引き上げにより、病院経営は年々厳しくなっている。そのような中で、2025年に向けた厚労省の地域医療構想は、働き方改革と医師の偏在対策と共に三位一体で進められている。福井県でも様々な議論・検討が行われているが、当院は従来どおり、基本方針を変えることなく、策定した「病院改革プラン」に基づき診療を行っていく。また、働き方改革に対応するため、12月から就労管理システムを本格導入した。慣れるまで大変だが、自己管理をしっかりと行い、年休も確実に取得して頂きたい。

このような医療情勢の中で、病院の新たな診療目標として「地域に寄り添う良質な医療を提供する病院になる」を3カ年の中期ビジョンとして掲げた。それに伴い、救急医療体制を充実し、患者さんの入退院を多職種で切れ目なく支援をすることを目的に、5月に8室の個室を有する入退院支援センターをリニューアルオープンした。また、病院の理念である「県民が求める優れた医療の提供」と、「時代にマッチした医療の実践」のため、これまで行なってきた高度医療の充実をさらに図っていくため、2台のMRIの1台を更新し、造影剤を使わない冠動脈MRAもできるようになった。また、PET-CTを、画質が良く放射線被曝が低減する新機種に更新した。患者さんが安心して医療を受けることができることも重要であると考えている。地域に必要とされる良質な医療を、安全に効率よく提供し、患者さんにとっても、職員にとっても魅力的な病院であり続けることが、当院に課せられた使命と考え、今後も地域から信頼される病院を目指していく所存である。

最後に、年度末に誰も予測しなかった、新型コロナウイルス感染症が発生し、現在このウイルスに全世界が翻弄されている。当院も、感染症指定医療機関として、1月に対策本部を設置し、2月に埼玉県和光市にDMAT班が出動した。福井県においては、3月中旬に第1例目が確認され、3月下旬から当院でも患者さんを受け入れている。この年報が発刊される頃には、コロナ禍もひと段落している事を切に願っている。

令和元年勤務スローガン「繋がる医療」

(令和2年8月記)



# 目 次

1. 沿 革 .....	1
2. 病院の概要	
1. 病院の現況 .....	5
2. 施設の概要 .....	8
3. 委員会 .....	10
4. 臨床研修実施状況 .....	11
5. 学会の指定状況 .....	12
6. 職員院外役職調 .....	14
7. 年間行事 .....	24
3. 患者数・経営状況 .....	29
4. 委員会活動 .....	37
5. トピックス .....	39
6. 診療業務	
1. 内科 .....	43
2. 精神科（ストレス診療科） .....	51
3. 神経内科 .....	53
4. 呼吸器内科 .....	55
5. 消化器内科 .....	58
6. 循環器内科 .....	61
7. 小児科 .....	63
8. 外科 .....	66
9. 整形外科 .....	69
10. 形成外科 .....	72
11. 脳神経外科 .....	73
12. 呼吸器外科 .....	75
13. 皮膚科 .....	77
14. 腎センター（腎臓・泌尿器科） .....	79
15. 産婦人科 .....	85
16. 眼科 .....	88
17. 耳鼻咽喉科 .....	92
18. 放射線部 .....	95
19. 麻酔科 .....	99
20. リハビリテーション科 .....	101
21. 歯科・歯科口腔外科 .....	104
22. 総合診療科 .....	107

23. 救急部	108
24. 健診部	113
25. 病理診断科	117
26. 脳神経センター	118
27. がん診療センター	119
28. 腎センター（透析センター）	123
29. 呼吸器センター	128
30. 消化器センター	129
31. 地域周産期母子医療センター	130
32. 集中治療室	132
33. 中央手術室	136
34. 中央滅菌室	139
35. 薬剤部	141
36. 栄養課	144
37. 臨床工学技術課	148
38. 検査部	153
39. 放射線部	156
40. 医療安全推進室	160
41. 教育研修推進室	165
42. 感染防止対策室	167
43. 災害救護支援室	170
<b>7. 医療社会事業部</b>	
1. 医療社会事業課	177
2. 居宅介護支援事業所	179
3. 訪問看護ステーション	181
4. 地域医療連携課	183
4-(1). 地域医療連携課：退院調整係	187
4-(2). 地域医療連携課：医療福祉相談（医療ソーシャルワーカー）	190
<b>8. 看護部</b>	193
<b>9. 事務部</b>	
1. 総務課	217
2. 人事課	219
3. 病院経営課	222
4. 管財課	226
5. 医事サービス課	229
6. 医療情報課	230
7. 医療支援課	234
8. 医療安全推進課	236
<b>10. 業績</b>	237

# 浴 革

# 福井赤十字病院 沿革

明治初頭、福井市には藩政時代より引き継がれた福井医学校があり、これの附属病院が一般診療を行っていたが、明治19年の医学校廃止後、県立福井病院として県の管理下に置かれていた同病院を、戦時傷病兵や貧困患者の救護、救護員養成等日赤としての事業を推進するため、県内各界からの要望に後押しされる形で日本赤十字社に移管することが大正7年に決定されました。日赤本社及び福井県の補助並びに県民有志の寄付をもって現在地に土地を取得し大正12年12月に着工、同14年3月に完成し、4月1日に日本赤十字社福井支部病院として開院、以降地域の基幹病院として医療、福祉、保健、看護師の養成等の担ってきた流れを継承し現在に至っています。

大正14年	4月	日本赤十字社福井支部病院として診療開始。内科、外科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、138床、薬剤科、事務科、救護員養成部、職員数69人、併せて救護看護婦養成開始
大正15年	8月	小児科設置
昭和4年	4月	159床
	9月	日本赤十字社福井支部病院救護員養成部を指定
昭和6年	4月	伝染病棟竣工
昭和7年	4月	169床
昭和9年	6月	北陸初のサナトリウム棟竣工 188床
昭和10年	4月	192床
昭和13年	6月	放射線科設置
昭和16年	4月	194床
昭和18年	6月	福井赤十字病院と改称
昭和20年	7月	戦災により病棟の一部を焼失
昭和23年	6月	福井大震災により全建物倒壊
昭和24年	4月	福井赤十字看護学院設置 (翌年12月福井赤十字高等看護学院に改称)
昭和25年	3月	建物復旧 221床
昭和27年	8月	産婦人科、外科診療棟、本館復旧工事完了
	11月	整形外科設置
昭和28年	9月	結核病棟竣工 300床(一般200床、結核76床、伝染24床)
昭和32年	9月	歯科設置、総合病院として承認
	10月	福井県赤十字大会来賓 秩父宮勢津子妃殿下ご来院
昭和33年	12月	343床
昭和34年	6月	350床
昭和35年	5月	皮膚科、泌尿器科設置、未熟児センター開設 400床
昭和36年	5月	麻酔科設置
昭和37年	8月	敷地内の県立産院を合併、福井赤十字病院産婦人科となる
	9月	420床

沿革	昭和38年	4月	人間ドック実施病院に指定
	昭和38年	7月	510床（一般410床、結核76床、伝染24床）
	昭和39年	6月	救急告示病院に認定
概要		8月	呼吸器科設置
	昭和41年	7月	看護婦寄宿舍竣工
	昭和42年	4月	小中学校特殊学級開設
要	昭和44年	6月	本館改築工事竣工
	昭和45年	12月	市伝染病棟（20床）改築工事竣工 （一般410床、結核80床、伝染20床）
	昭和48年	4月	臨床研修指定病院に指定
患者数・経営状況		7月	看護専門学校棟改築工事竣工
	昭和50年	4月	脳神経外科設置
	昭和51年	4月	福井赤十字高等看護学院を福井赤十字看護専門学校に改称
委員会	昭和52年	7月	日本赤十字社創立100周年記念福井県大会 三笠宮百合子妃殿下ご来院
	昭和53年	4月	第二次救急医療待機病院に指定
	昭和54年	4月	県立福井東養護学校月見分校開校
トピックス	昭和55年	10月	結核病棟竣工
		12月	診療棟竣工
	昭和56年	11月	集中治療室（ICU）6床開設 516床
診療業務		12月	5病棟竣工 576床（一般516床、結核40床、伝染20床）
	昭和59年	9月	606床（一般546床、結核40床、伝染20床）
	昭和63年	3月	3病棟、放射線棟竣工
医療社会事業部		7月	消化器科設置
	平成2年	8月	福井県赤十字大会来賓 三笠宮信子妃殿下ご来院
		10月	第26回日本赤十字社医学会総会開催
看護部		12月	本館改修工事竣工
	平成4年	8月	呼吸器外科設置
	平成5年	7月	616床（一般556床、結核40床、伝染20床）
事務部	平成6年	7月	病理部設置
		11月	病院駐車場整備工事竣工
	平成7年	3月	救急部設置
業績	平成8年	12月	リハビリテーション科部設置
	平成9年	3月	栄養管理棟竣工
		5月	神経内科部設置
	平成10年	1月	災害拠点病院（地域災害医療センター）に指定
		10月	646床
	平成11年	4月	634床（一般586床、感染症8床、結核40床）
			心臓血管外科設置
			訪問看護ステーション、在宅介護支援センター開設
			第二種感染症指定医療機関に指定
		6月	開放型病床設置（20床）

	8月	歯科口腔外科設置
平成13年	4月	エネルギー棟竣工 630床（一般586床、感染症4床、結核40床） 循環器科部設置、地域医療連携室設置
平成14年	8月	輸血センター設置
	10月	精神科設置
平成15年	4月	620床（一般576床、感染4床、結核40床）
	4月	医療安全管理室設置
	5月	621床（一般577床、感染4床、結核40床） （財）日本医療機能評価機構による病院機能評価認定 （一般病院種別B）
	6月	回復期リハビリテーション病棟開設
	8月	地域がん診療拠点病院に指定
平成16年	3月	形成外科部設置、新本館竣工 630床（一般586床、感染4床、結核40床）
	4月	精神科部設置
	5月	地域周産期母子医療センターに指定
	9月	3病棟改修工事竣工
平成17年	2月	管理棟、研修棟改修工事竣工 620床（一般586床、感染症4床、結核30床）
	6月	健康・医療情報室スマイル設置
平成18年	6月	脳卒中センター設置
	8月	616床（一般586床、感染症4床、結核26床）
平成19年	1月	地域がん診療連携拠点病院に指定
	6月	地域医療支援病院に認定
	9月	45床休床
平成20年	1月	（社）日本病院会・日本人間ドック学会 人間ドック健診施設機能評価認定
	5月	（財）日本医療機能評価機構による病院機能評価認定更新（Ver. 5.0）
平成21年	4月	腎臓・泌尿器科部設置、泌尿器科部廃止、がん診療センター設置 診断群分類包括評価（DPC）導入
	11月	回復期リハビリテーション病棟廃止 在宅復帰支援病棟さいき設置
平成23年	4月	600床（一般586床、感染症4床、結核10床） 呼吸器センター、消化器センター設置
平成24年	2月	（社）日本病院会・日本人間ドック学会 人間ドック健診施設機能評価認定更新（Ver2.0）
平成25年	6月	（財）日本医療機能評価機構による病院機能評価認定更新（Ver. 6.0）
平成26年	8月	病理診断科標榜（病理部を病理診断科部と改正）
平成27年	2月	先進中央棟竣工
	3月	先進中央棟稼働（3月30日）
	4月	緩和ケア病棟開設

沿革

概要

患者数・経営状況

委員会

トピックス

診療業務

医療社会事業部

看護部

事務部

業績

沿革		脳卒中センターを脳神経センター、腎臓・泌尿器透析センターを腎センターに改称
		休床を 21 床追加 休床合計 66 床（許可病床数変更なし） 休床に伴い在宅復帰支援病棟さいき廃止 輸血センターを検査部に統合（輸血課）
概要	6 月	創立 90 周年記念・先進中央棟落成記念式典開催 3 病棟 2 階健診センター改修工事竣工
	1 1 月	創立 90 周年記念特別シンポジウム、結ぶきずな健康ラリー開催 本館 1・2 階改修工事竣工
患者数・経営状況	平成 2 8 年 3 月	原子力災害拠点病院に指定
	平成 2 9 年 3 月	（社）日本病院会・日本人間ドック学会 人間ドック健診施設機能評価認定更新（Ver3.0）
委員会	平成 2 9 年 5 月	総合診療科設置
	平成 3 0 年 5 月	（財）日本医療機能評価機構による病院機能評価認定更新（3rdG:Ver. 1. 1）
	平成 3 0 年 7 月	日本赤十字社福井県支部創立 130 周年記念大会 高円宮久子妃殿下ご来院
	令和元年 1 1 月	小児がん連携病院に指定
トピックス		
診療業務		
医療社会事業部		
看護部		
事務部		
業績		

# 病院の概要

# 1. 病院の現況

## 1 幹部職員（令和2年3月31日現在）

院長	高木 治樹
副院長	廣瀬 由紀
副院長	小松 和人
副院長	高野 誠一郎
副院長兼看護部長	内田 智美
事務部長	木村 正二

## 2 診療科等

内科、精神科、神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、小児科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、腎臓・泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、病理診断科、麻酔科、リハビリテーション科、歯科、歯科口腔外科〔計24科〕

## 3 許可病床数（令和2年3月31日現在）

一般病床	586 床
感染症病床	4 床
結核病床	10 床
計	600 床

## 4 組織図（別記参照）

## 5 職員数（令和2年3月31日現在）

		職種別		人数（人）	
医師	143	言語聴覚士	5	電気工事士	1
歯科医師	3	歯科衛生士	3	電話交換手	2
薬剤師	31	歯科技工士	1	調理師	16
臨床検査技師	38	管理栄養士	12	看護助手	27
臨床工学技士	13	看護師	558	警備員	3
診療放射線技師	31	事務職員	110	業務員	3
公認心理士	1	社会福祉士	9	合計	1,058
視能訓練士	8	介護支援専門員	1		
理学療法士	19	保育士	1		
作業療法士	13	ボイラー技師	6		

6 外来及び入院患者数（人）

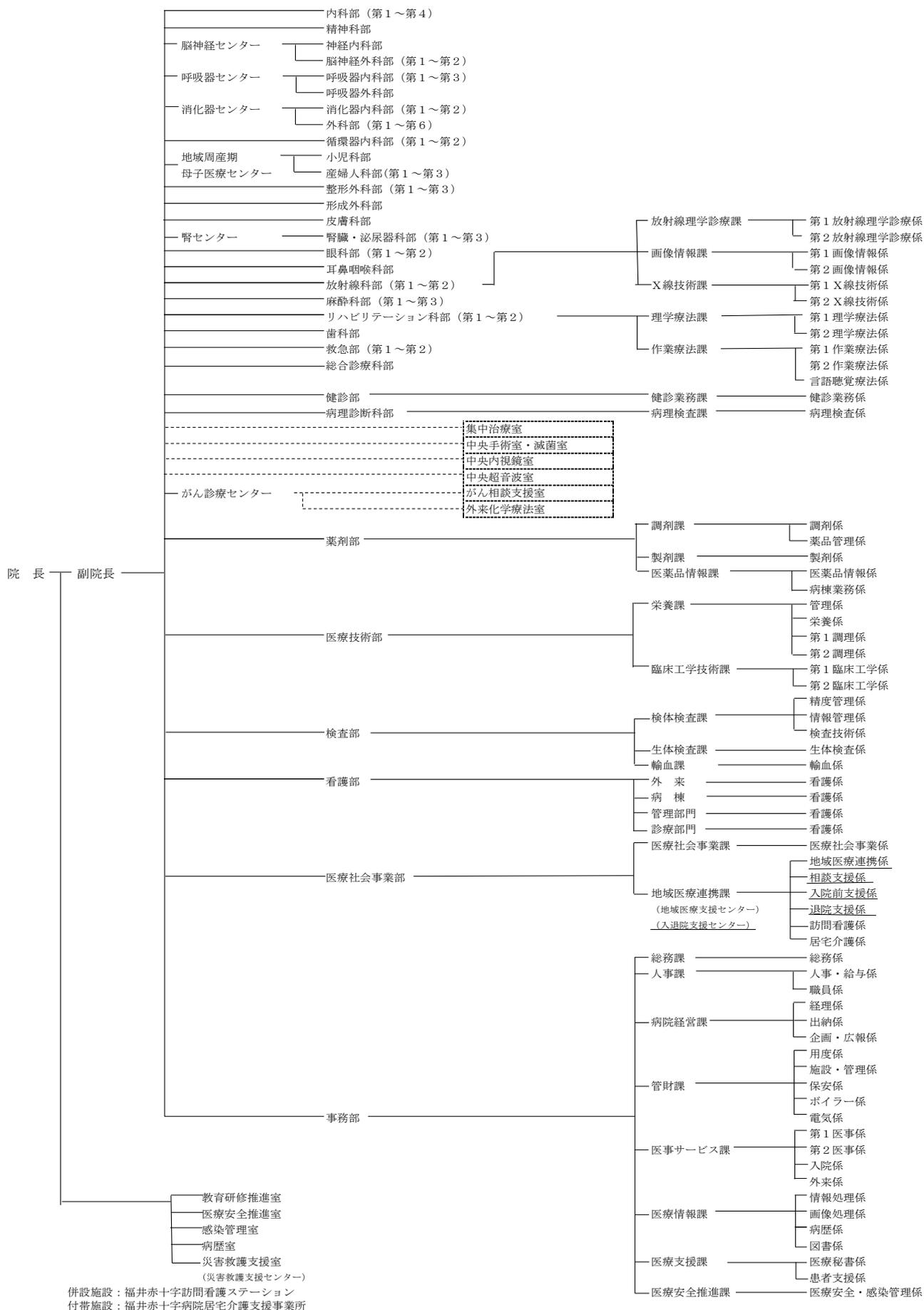
	外来患者数		入院患者数	
	延 数	1日当り	延 数	1日当り
令和元年度	301,124	1,234	165,390	452

（令和2年3月31日現在）

沿革
概要
患者数・経営状況
委員会
トピックス
診療業務
医療社会事業部
看護部
事務部
業績

# 福井赤十字病院組織図

## 【平成31年4月1日現在】



沿革  
概要  
患者数・経営状況  
委員会  
トピックス  
診療業務  
医療社会事業部  
看護部  
事務部  
業績

## 2. 施設の概要

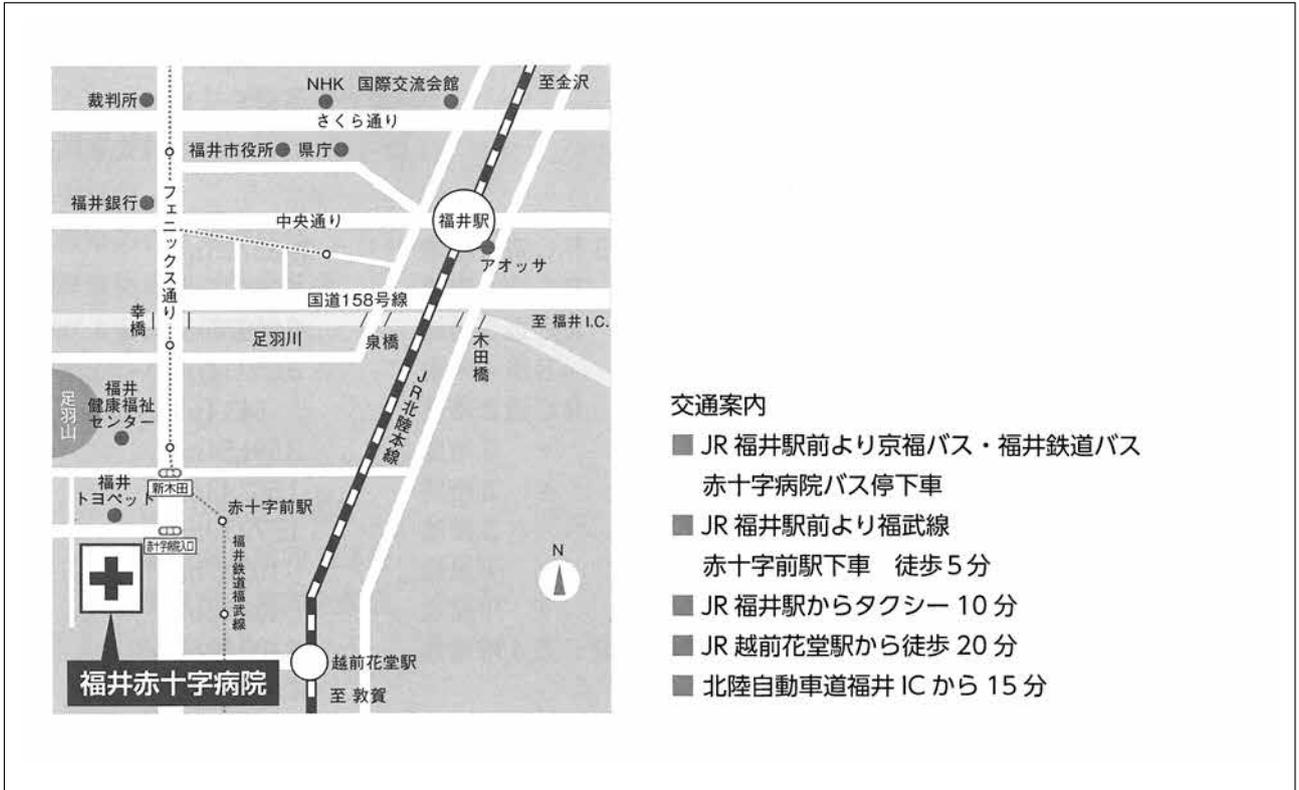
### 敷地及び建物

1. 所在地	福井市月見2丁目4番1号		
2. 敷地	50,194.99 m <sup>2</sup>		
3. 建物	57,028.78 m <sup>2</sup>		
	(内訳) 本館	S R C造8階建	29,527.23 m <sup>2</sup>
	3病棟	R C造5階建	6,066.15 m <sup>2</sup>
	管理棟	R C造5階建	5,269.85 m <sup>2</sup>
	先進中央棟	S造4階建	5,252.27 m <sup>2</sup>
	研修棟	R C造2階建	543.40 m <sup>2</sup>
	栄養管理棟	〃 3階建	3,591.54 m <sup>2</sup>
	エネルギー棟	〃 3階建	1,562.43 m <sup>2</sup>
	職員棟	〃 3階建	1,579.10 m <sup>2</sup>
	MR I室(1)	〃 平屋建	105.81 m <sup>2</sup>
	MR I室(2)	〃 平屋建	123.13 m <sup>2</sup>
	その他	R C造4階建他	3,407.87 m <sup>2</sup>
	合計		57,028.78 m <sup>2</sup>

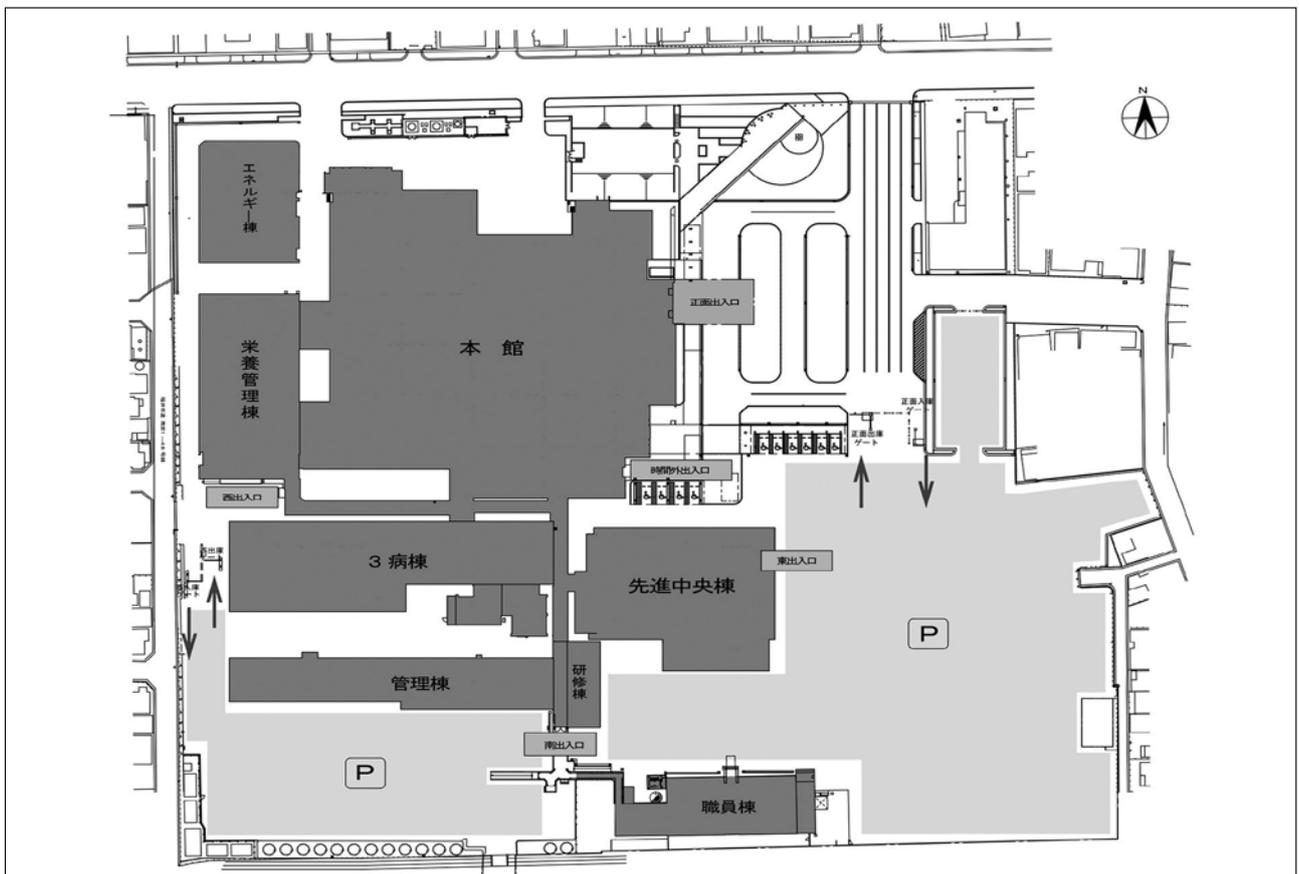
※S R C造(鉄骨鉄筋コンクリート造)  
R C造(鉄筋コンクリート造)  
S造(鉄骨造)

(令和2年3月31日現在)

## 付近見取図



## 構内平面図



# 3. 委 員 会

災害対策・防火・防災委員会

衛生委員会

情報システム管理委員会

倫理委員会

(1. 倫理コンサルテーションチーム)

治験審査委員会

臨床試験審査委員会

臓器移植委員会

医療安全管理委員会

(1. 医療安全推進室部会)

事故調査委員会

院内感染防止対策委員会

(1. Infection Control Team)

医療廃棄物処理対策委員会

医療ガス安全管理委員会

放射線安全委員会

TQM推進委員会

- 1. クリニカルパス推進部会
- 2. QC活動推進部会
- 3. 患者満足度向上部会
- 4. 職員満足度向上部会
- 5. NST部会
- 6. RST部会
- 7. 糖尿病サポート部会
- 8. 認知症ケアチーム部会
- 9. CST部会

栄養委員会

診療録管理委員会

(1. 病歴業務検討会)

インフォームドコンセント推進委員会

診療情報提供委員会

保険診療検討委員会

(1. DPC/PDPS傷病コーディング部会)

救急医療検討委員会

1. 救急作業部会

2. 虐待防止対策部会

褥瘡対策検討委員会

(1. 褥瘡対策チーム)

病床運営委員会

がん診療センター運営委員会

- 1. がん化学療法部会
- 2. 緩和医療検討部会

血液浄化療法委員会

(1. 透析センター(透析機器安全管理)運営委員会)

脳卒中センター運営委員会

輸血療法委員会

地域医療推進委員会

地域医療支援センター運営委員会

ボランティア委員会

薬事委員会

医療機械器具購入委員会

(1. 医療機械器具購入小委員会)

診療材料購入審査委員会

図書委員会

病院施設利用検討委員会

中央放射線部運営委員会

リハビリテーション科部運営委員会

健診センター運営委員会

集中治療室運営委員会

中央手術室・滅菌室運営委員会

検査部運営委員会

(1. 検査機器・試薬管理部会)

病理診断科部業務運営委員会

臨床工学技術運営委員会

健康・医療情報室運営委員会

院内保育施設運営委員会

福井赤十字病院群研修管理委員会

(1. 福井赤十字病院臨床研修推進部会)

教育・研修推進委員会

提案・顕彰審査委員会

広報委員会(広報誌・ホームページ部会)

(1. 年報部会)

就業管理委員会

(令和2年3月31日現在)

## 4. 臨床研修の実施状況

### 1 研修医数（過去5年間）

平成27年度	14名
平成28年度	11名
平成29年度	13名
平成30年度	19名
令和元年度	21名

### 2 福井赤十字病院群研修管理委員会（令和元年度）

委員長	高木 治樹	院長（整形外科部）
委員	高野 誠一郎	副院長（神経内科部長）
（プログラム責任者）		
委員	廣瀬 由紀	副院長（外科部長）
〃	小松 和人	副院長（腎臓・泌尿器科部長）
〃	内田 智美	副院長（看護部長）
〃	神谷 健一	内科部長
〃	道上 学	総合診療科部長
〃	吉田 博之	循環器科内科部長
〃	田邊 毅	麻酔科部長
〃	渡邊 康宏	小児科部長
〃	田嶋 公久	産婦人科部長
〃	嶋田 喜充	救急部長
〃	小西 靖彦	京都大学医学部附属病院教授
〃	野口 善令	名古屋第二赤十字病院副院長
〃	竹上 徹郎	京都第一赤十字病院第一救急科部長
〃	山森 正二	財団法人松原病院長
〃	大里 和雄	福井循環器病院院長
〃	根本 朋幸	越前町国民健康保険織田病院副院長
〃	森島 繁	医療法人林病院副院長
〃	河野 幸裕	若狭高浜病院長
〃	中川 博幾	福仁会病院理事長兼院長
〃	三崎 究	福井厚生病院精神科部長
〃	萩野 正樹	今庄診療所所長
〃	森 満穂	池田町診療所所長
〃	大西 良之	丹南健康福祉センター所長
〃	武藤 眞	福井県赤十字血液センター所長
〃	伊部 晃裕	福井県医師会理事
〃	木村 正二	事務部長
〃	斉藤 孝次	薬剤部長
〃	川島 勇一	人事課長

（令和2年3月31日現在）

## 5. 学会の指定状況

沿革概要	日本内科学会認定医制度教育病院 日本血液学会血液研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本認知症学会専門医制度教育施設 臨床神経生理学会認定教育施設 日本呼吸器学会認定施設 呼吸器外科専門医合同委員会呼吸器外科専門研修連携施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設
患者数・経営状況	
委員会	日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本大腸肛門病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
トピックス	日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 関連四学会構成浅大腿動脈ステントグラフト実施基準管理委員会浅大腿動脈ステントグラフト実施施設 日本外科学会外科専門医制度修練施設 日本消化器外科学会専門医修練施設
診療業務	日本肝胆膵外科学会高度技能専門医修練施設B 日本乳癌学会認定医・専門医制度認定施設 日本乳がん検診精度管理中央機構マンモグラフィ検診施設（画像認定施設） 日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会エキスパンダー実施施設・インプラント実施施設
医療社会事業部	日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本整形外科学会専門医制度研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本形成外科学会認定施設
看護部	日本脳神経外科学会専門医認定制度指定訓練場所 日本脳卒中学会認定研修教育施設 日本脳卒中学会一次脳卒中センター認定施設 日本脳神経血管内治療学会研修施設
事務部	日本皮膚科学会認定専門医研修施設 日本泌尿器科学会専門医教育施設 日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設
業績	日本周産期・新生児医学会（母体・胎児）指定認定施設 日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設 日本眼科学会専門医制度研修施設 日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設 日本医学放射線学会放射線科専門医総合修練機関

日本放射線腫瘍学会 JASTRO 認定施設  
 日本核医学会専門医教育病院  
 日本麻酔科学会麻酔科認定病院  
 日本病理学会研修登録施設  
 日本臨床細胞学会教育研修施設  
 日本輸血・細胞治療学会認定医制度指定施設  
 認定輸血検査技師協議会認定輸血検査技師制度指定施設  
 日本人間ドック学会人間ドック健診専門医制度研修施設  
 日本病態栄養学会認定栄養管理・NST 実施施設  
 日本臨床栄養代謝学会栄養サポートチーム稼働施設  
 日本口腔外科学会専門医制度准研修施設  
 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設  
 日本プライマリ・ケア連合学会認定家庭医療後期研修プログラム認定  
 日本作業療法士協会臨床実習指導施設  
 日本女性医学学会認定研修施設  
 日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療体制機構総合診療協力施設  
 日本臨床衛生検査技師会精度保証施設

(令和2年3月31日現在)

沿  
 革  
 概  
 要  
 患者数・  
 経営状況  
 委員会  
 トピックス  
 診療業務  
 医療社会  
 事業部  
 看護部  
 事務部  
 業績

## 6. 職員の院外役職調

地方自治体・大学法人・公的機関・各種団体

団体名	役職名	本院の役職名もしくは職名	氏名	
朝日大学	非常勤講師	歯科部長	山田 和人	
		歯科医師	松永 良健	
金沢医科大学	非常勤講師	麻酔科部長	田邊 毅	
金沢大学関連病院長会	理事	院長	高木 治樹	
京都大学	臨床教授	院長	高木 治樹	
		副院長兼神経内科部長	高野誠一郎	
		脳神経外科部長	戸田 弘紀	
	非常勤講師	内科部長	夏井 耕之	
		脳神経外科部長	戸田 弘紀	
	芝蘭会理事	名誉院長	野口 正人	
	京大関係病院長協議会評議員	院長	高木 治樹	
京整会（京都大学整形外科教室同門会）幹事	院長	高木 治樹		
順天堂大学	非常勤助教授	外科医師	平崎 憲範	
スペシャルオリンピックス 日本・福井	理事	外科部長	藤井 秀則	
全国健康保険協会福井支部	柔道整復師施術療養費審査委員会委員	整形外科部長	高塚 和孝	
日本医療機能評価機構	産科医療補償制度診断協力医	小児科部長	渡邊 康宏	
日本作業療法士協会	生涯教育部養成教育委員会臨床実習審査会	作業療法課長	仲辻 良二	
	生涯教育部生涯教育制度推進担当	作業療法係長	山田 英二	
日本赤十字社	災害医療コーディネーター	麻酔科部長	田邊 毅	
	原子力災害医療アドバイザー	麻酔科部長	田邊 毅	
福井県	医療審議会	委員	院長	高木 治樹
		救急災害医療審議会座長	麻酔科部長	田邊 毅
	医療審議会 専門部会	救急災害医療体制検討部会座長	麻酔科部長	田邊 毅
		福井県周産期医療協議会委員	産婦人科部長	田嶋 公久
		小児医療体制検討部会委員	小児科部長	渡邊 康宏
		心筋梗塞等の心疾患 医療体制検討部会委員	循環器内科部長	吉田 博之
		脳卒中医療体制検討部会委員	脳神経外科部長	戸田 弘紀
		糖尿病医療体制検討部会委員	内科部長	夏井 耕之
	地域医療推進会議委員	院長	高木 治樹	
	地域医療構想調整会議委員	看護師長	山崎 雪代	
	難病対策協議会	委員	院長	高木 治樹
		指定難病等認定審査部会委員	副院長兼神経内科部長	高野誠一郎
	公安委員		名誉院長	野口 正人
	がん委員会	委員	消化器内科部長	山崎 幸直
		検診部会部会長	消化器内科部長	山崎 幸直
		検診部会委員	呼吸器内科部長	赤井 雅也
		検診部会委員	外科部長	田中 文恵
がん予防部会委員		消化器内科部長	山崎 幸直	
がん登録部会委員		呼吸器内科部長	赤井 雅也	
がん登録部会委員		外科部長	田中 文恵	
ドクターヘリ 運航調整委員会	座長	麻酔科部長	田邊 毅	

団体名	役職名	本院の役職名もしくは職名	氏名	
福井県	福井・坂井地域医療連携在宅医療推進協議会委員	副院長兼外科部長	廣瀬 由紀	
	感染症診査協議会（結核部会）委員長	呼吸器内科部長	赤井 雅也	
	感染症予防対策委員会委員	呼吸器内科部長	赤井 雅也	
	エイズ予防対策委員会委員	内科部長	今村 信	
	福井・坂井地区メディカルコントロール協議会委員	麻酔科部長	田邊 毅	
	非常勤職員公務災害補償等診査委員会委員	外科部長	田中 文恵	
	社会福祉審議会委員	耳鼻咽喉科部長	大澤 陽子	
	原子力災害医療コーディネーター	麻酔科部長	田邊 毅	
	災害医療コーディネーター	麻酔科部長	田邊 毅	
	臓器移植コーディネーター	看護師長	相模 朋恵	
		看護係長	渡辺かな恵	
		看護係長	米村 里美	
		看護係長	板岡 利恵	
		看護係長	妹尾真理子	
中山 幸代				
福井県アイバンク	理事	眼科部長	小堀 朗	
福井県医師会	在宅医療サポートセンター研修企画部会委員	看護師長	山崎 雪代	
	ふくい医療情報連携システム運営協議会委員	院長	高木 治樹	
	システム適正ならびに利用促進検討部会委員	副院長	小松 和人	
		看護師長	山崎 雪代	
	医療システム委員会委員	副院長	小松 和人	
	女性医師支援委員会委員	副院長	小松 和人	
	がん脳卒中委員会がん部会委員	副院長兼外科部長	廣瀬 由紀	
	勤務医委員会委員	外科部長	藤井 秀則	
医療事故調査支援委員会委員	医療安全管理者	西郡 知代		
福井県医療社会事業協会	理事	社会福祉士	吉田 晴香	
福井県看護協会	理事	副院長兼看護部長	内田 智美	
	福井第1地区理事	副院長兼看護部長	内田 智美	
	認定看護管理者教育運営委員会委員	副院長兼看護部長	内田 智美	
	看護職員研修推進協議会委員	副院長兼看護部長	内田 智美	
		看護師長	山崎 雪代	
	新卒者等訪問看護師育成プログラム検討会委員	看護師長	山崎 雪代	
	認定看護管理者教育課程	ファーストレベル非常勤講師	看護副部長	井上 和子 真鍋 照美
		セカンドレベル非常勤講師	副院長兼看護部長	内田 智美
	災害看護委員会委員	看護係長	朝田 和恵	
	教育委員会委員	看護係長	相模 朋恵	
	ナースセンター事業運営委員	看護師長	内田 一美	
	救急看護委員	看護師	小川 佳代	
	広報委員会委員	看護係長	徳橋 珠美	
	学会委員会委員	看護係長	和田 幸子	
	助産師職能委員会委員	看護師（助産師）	井上めぐみ	
	看護師職能委員	看護師長	加藤 智枝	
	福井県母子保健相談担当者	看護師（助産師）	大久保 瞳	
	感染管理地域支援委員会委員	看護師	坪田 マキ	
	第一地区委員	看護係長	辻 香織	
	福井県がん検診精度管理委員会	委員	消化器内科部長	山崎 幸直
委員		呼吸器内科部長	赤井 雅也	
胃がん専門部会 部会長		消化器内科部長	山崎 幸直	

沿革概要  
患者数・経営状況  
委員会  
トピックス  
診療業務  
医療社会事業部  
看護部  
事務部  
業績

沿革概要  
患者数経営状況  
委員会  
トピックス  
診療業務  
医療社会事業部  
看護部  
事務部  
業績

団体名	役職名		本院の役職名もしくは職名	氏名
福井県がん検診精度管理委員会	肺がん専門部会	部会長	呼吸器内科部長	赤井 雅也
	乳がん専門部会	委員	外科部長	田中 文恵
	大腸がん専門部会	委員	消化器内科部長	道上 学
	子宮頸がん専門部会	委員	産婦人科部長	田嶋 公久
福井県外科医会	副会長		外科部長	藤井 秀則
	世話人幹事		外科部長	田中 文恵
福井県健康管理協会	理事		院長	高木 治樹
	乳房検診委員会委員		外科部長	田中 文恵
福井県作業療法士会	教育部	理事	作業療法係長	山田 英二
		部長	作業療法士	樋田 貴紀
		会計	作業療法士	山本 和雅
		部員		浅野 彩香 齋門 聡子
	災害対策委員		作業療法士	山本 和雅
	生活行為向上マネジメント委員		作業療法士	黒田 圭太
福井県歯科医師会	福井県在宅口腔ケア応援センター運営委員		看護師長	山崎 雪代
	福井歯科専門学校	歯科衛生士科非常勤講師	歯科・口腔外科部長	山田 和人
	福井歯科専門学校	歯科衛生士科非常勤講師	歯科衛生士	高崎 裕美
福井県市町村交通災害共済組合	審査委員		院長	高木 治樹
福井県消防学校	講師		麻酔科部長	田邊 毅
				白塚 秀之
福井県腎臓バンク	理事		院長	高木 治樹
福井県診療放射線技師会	副会長		X線技術課長	西郡 克寛
	放射線管理委員		診療放射線技師	柑本 明美
	情報ネットワーク委員会委員		診療放射線技師	二口 亮
	学術研修委員		画像情報係長	上坂 大輔
	女性活躍推進委員		診療放射線技師	吉岡 千絵
福井県体操協会	副会長		外科部長	藤井 秀則
福井県病院薬剤師会	理事		薬剤副部長	小川 純也
			医薬品情報課長	渋谷 貞一
	業務委員会委員		薬剤師	細谷 拓史
	学術委員会委員		薬剤師	草富 翔太
	広報委員会委員		薬剤師	前田 太
福井県訪問看護ステーション連絡講義会	会長		看護師長	山崎 雪代
福井県理学療法士会	理事		第1理学療法係長	山岸 耕二
	理事		理学療法課長	豊田 泰美
	職能局ワークライフバランス部	副部長	理学療法士係長	梅田 美和
		委員	理学療法士	北村愛沙美 齊藤 有里
	社会局広報部	委員		中山 泰博 戸田 友行
	選挙管理委員会	委員長	理学療法士	岡崎 雅樹
	ブロック事業局 福井西ブロック	施設代表	理学療法士	笥 和真
	PTの未来を考える委員会委員長		第1理学療法係長	山岸 耕二
福井県立福井東養護学校月見分校	学校医		小児科部長	渡邊 康宏
福井県立福井南養護学校	学校医		内科部長	神谷 健一
	学校医		小児科部長	渡邊 康宏

団体名	役職名		本院の役職名もしくは職名	氏名
福井県臨床検査技師会	代表理事		技師長	加藤 幸久
	理事		輸血課長	杉本 正雄
	臨床検査総合部門長		臨床検査技師	見谷 敦司
	臨床一般部門長		臨床検査技師	刀根由美子
	臨床生理部門長		臨床検査技師	守部 司
	微生物検査委員		臨床検査技師	芹川 朝衣
	血液検査委員		臨床検査技師	松宮 翔太
	臨床化学検査委員		情報管理係長	猿木 邦之
	輸血細胞治療委員		輸血係長	渡辺 純也
福井県臨床工学技士会	事務局長		臨床工学技術課長	重矢 直彦
	理事		第1臨床工学係長	山中 雅弘
	教育部	血液浄化委員	臨床工学技士	金田 博史
		呼吸器委員	臨床工学技士	平嶋 克次
	人材活性化委員会福井県Yボード担当		臨床工学技士	松村 研斗
	選挙管理委員		第2臨床工学係長	谷口 貴洋
福井工業大学附属福井高等学校	講師		麻酔科部長	福岡 直
	非常勤講師		麻酔科部長	福岡 直
			看護係長	相模 朋恵
			看護師	新保比奈子
福井市	介護認定審査会委員		副院長兼神経内科部長	高野誠一郎
			脳神経外科副部長	佐野 徳隆
			脳神経外科副部長	宮腰 明典
			整形外科部長	高塚 和孝
			リハビリテーション科部長	高嶋 理
			理学療法士係長	山岸 耕二
			作業療法士係長	浜田 友紀
	感染症診査協議会委員長		呼吸器内科部長	赤井 雅也
	社会福祉協議会	障害者福祉専門分科学審査部会委員	耳鼻咽喉科部長	大澤 陽子
	障害者自立支援審査会審査員		第1作業療法係長	山田 英二
	障害者地域自立支援協議会	居宅生活対策部会委員	社会福祉士	横山 友美
高齢者虐待防止ネットワーク運営委員会委員		介護支援専門員	山崎 奈満	
福井市医師会	理事		副院長	小松 和人
	看護専門学校	非常勤講師	看護副部長	西川 順子
			看護師長	松田ゆう子
			看護師長	高嶋 節子
			看護師	新保比奈子
福井大学	福井大学医学部・関連病院長会議	理事	院長	高木 治樹
		副会長	副院長	小松 和人
			内科部長	神谷 健一
			産婦人科部長	田嶋 公久
			放射線科部長	左合 直
		麻酔科部長	田邊 毅	
	臨床教授		副院長兼外科部長	廣瀬 由紀
			副院長兼神経内科部長	高野誠一郎
			呼吸器内科部長	赤井 雅也
			産婦人科部長	田嶋 公久
		小児科部長	渡邊 康宏	

沿革概要  
患者数・経営状況  
委員会  
トピックス  
診療業務  
医療社会事業部  
看護部  
事務部  
業績

団体名	役職名	本院の役職名もしくは職名	氏名	
福井大学	臨床教授	消化器内科部長	山崎 幸直	
		整形外科部長	高塚 和孝	
		眼科部長	小堀 朗	
		耳鼻咽喉科部長	大澤 陽子	
		循環器内科部長	吉田 博之	
		脳神経外科部長	戸田 弘紀	
		麻酔科部長	田邊 毅	
		麻酔科部長	白塚 秀之	
		内科部長	夏井 耕之	
		眼科部長	蒔田 潤	
	臨床講師	腎臓・泌尿器科副部長	高田 昌幸	
		看護師長	濱野みゆき	
		看護師長	布谷喜代美	
		看護師長(助産師)	内田 一美	
		看護係長	皿澤 和美	
		看護係長	中野 裕美	
		看護係長	荒木 有里	
		看護係長	板岡 利恵	
		非常勤講師	呼吸器内科部長	赤井 雅也
			眼科部長	小堀 朗
産婦人科部長	田嶋 公久			
脳神経外科部長	戸田 弘紀			
心理判定員	寺井 堅祐			
看護師長	山崎 雪代			
福井労働基準局	地方労災医員	副院長兼神経内科部長	高野 誠一郎	
	地方じん肺診査医	呼吸器内科部長	赤井 雅也	
	健康管理医	内科副部長	中野 雅子	
	労災保険審査委員	外科部長	藤井 秀則	
放送大学	非常勤講師	心理判定員	寺井 堅祐	

保険関連

団体名	役職名	本院の役職名もしくは職名	氏名
福井県国民健康保険 診療報酬審査委員会	委員	副院長兼外科部長	廣瀬 由紀
		整形外科部長	高塚 和孝
		腎臓・泌尿器科副部長	高田 昌幸
福井県社会保険診療 報酬請求書審査委員会	審査委員	外科部長	藤井 秀則
		脳神経外科部長	戸田 弘紀
		内科部長	今村 信

学会・研究会(全国)

団体名	役職名	本院の役職名もしくは職名	氏名
JOSKAS	評議員	リハビリテーション科部長	浅野 太洋
Needlescopic Surgery Meeting	世話人	外科部長	藤井 秀則
PEG 在宅医療学会	学術評議員	健診部長	西川 邦寿
胃外科・術後障害研究会	幹事	外科部長	藤井 秀則
活動分析研究会	福井県代表	作業療法係長	山田 英二
がん検診精度管理委員会	乳がん部会委員	外科部長	田中 文恵
消化器健康医療研究機構	上部消化管疾患研究会評価委員	消化器内科部長	山崎 幸直

団体名	役職名	本院の役職名もしくは職名	氏名
単孔式内視鏡手術研究会	運営委員兼世話人	外科部長	藤井 秀則
日赤薬剤師会	薬剤部門委員会委員	薬剤部長	齊藤 孝次
日本LPEC研究会	世話人	外科部長	藤井 秀則
日本胃癌学会	評議員	外科部長	藤井 秀則
日本医師ジョガーズ連盟	理事	外科部長	藤井 秀則
日本眼科手術学会	理事	眼科部長	小堀 朗
日本肝胆膵外科学会	評議員	副院長兼外科部長	廣瀬 由紀
		外科部長	土居 幸司
日本血液学会	評議員	内科部長	神谷 健一
日本結核病学会	代議員	呼吸器内科部長	赤井 雅也
	予防委員会委員	呼吸器内科部長	赤井 雅也
日本抗加齢医学会	評議員	外科部長	藤井 秀則
日本呼吸器学会	代議員	呼吸器内科部長	赤井 雅也
日本呼吸器外科学会	評議員	呼吸器外科部長	松倉 規
日本耳鼻咽喉科学会	代議員	耳鼻咽喉科部長	大澤 陽子
日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会	評議員	耳鼻咽喉科部長	大澤 陽子
日本手術看護学会	理事	看護師長	川端 和代
日本消化器内視鏡学会	評議員	健診部長	西川 邦寿
日本消化器病学会	評議員	消化器内科部長	山崎 幸直
日本女性骨盤底医学会	世話人	副院長	小松 和人
日本神経学会	代議員	副院長兼神経内科部長	高野誠一郎
日本整形外科勤務医会	幹事	院長	高木 治樹
日本赤十字社臨床検査技師会	常務理事	技師長	加藤 幸久
日本赤十字社診療放射線技師会	医療情報分科会世話人	放射線科技師長	西村 英明
日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会	評議員	外科部長	田中 文恵
日本内科学会	評議員	内科部長	神谷 健一
日本内視鏡外科学会	評議員	外科部長	藤井 秀則
		外科部長	川上 義行
日本乳癌検診学会	評議員	外科部長	田中 文恵
日本脳神経外科学会	評議員	脳神経外科部長	戸田 弘紀
		脳神経外科部長	早瀬 睦
		脳神経外科医師	宮腰 明典
日本脳卒中学会	評議員	脳神経外科部長	戸田 弘紀
日本泌尿器内視鏡学	評議員	副院長	小松 和人
日本病院会	福井県支部長	名誉院長	野口 正人
日本腹部放射線研究会	世話人	放射線科部長	左合 直
日本ボツリヌス治療学会	代議員	副院長兼神経内科部長	高野誠一郎
日本臨床外科学会	評議員	副院長兼外科部長	廣瀬 由紀
		外科部長	藤井 秀則
		外科部長	土居 幸司
日本臨床薬理学会	評議員	内科部長	神谷 健一
腹腔鏡内視鏡合同手術研究会	世話人	外科部長	藤井 秀則
		消化器内科部長	山崎 幸直

沿革

概要

患者数経営状況

委員会

トピックス

診療業務

医療社会事業部

看護部

事務部

業績

学会・研究会（地方会）

沿 革 概 要	団体名	役職名	本院の役職名もしくは職名	氏名	
患者数 経営状況	Treatment& Discussion の会	世話人	眼科部長	小堀 朗	
	加越硝子体手術の会	世話人	眼科部長	小堀 朗	
	活動分析研修会	福井県代表	第1作業療法係長	山田 英二	
	京整会 R A 懇話会	世話人	院長 整形外科部長	高木 治樹 北折 俊之	
	京都胸部腫瘍研究会	世話人	呼吸器内科部長 呼吸器内科部長	赤井 雅也 出村 芳樹	
	京都放射線腫瘍研究会	顧問 幹事	名誉院長 放射線科部長	野口 正人 坂本 匡人	
	中部日本整形外科災害外科学会	評議員	院長	高木 治樹	
	中部労災年金支援センター	健康管理指導医	整形外科部長	高塚 和孝	
	日本医学放射線学会中部地方会	顧問	放射線科部長	左合 直	
	日本核医学技術学会北陸地方会	監事	放射線理学診療係長	若松敬一郎	
	委員会	日本呼吸器学会・呼吸器内視鏡学会・結核病学会、サルコイドーシス学会合同北陸地方会	評議員，運営協議会委員 評議員	呼吸器内科部長 呼吸器内科部長	赤井 雅也 出村 芳樹
		日本消化器内視鏡学会北陸支部	評議員	消化器内科部長 健診部長	山崎 幸直 西川 邦寿
トピックス	日本消化器病学会北陸地方会	評議員	副院長兼外科部長 健診部長 外科部長 消化器内科部長	廣瀬 由紀 西川 邦寿 藤井 秀則 山崎 幸直	
	日本小児科学会北陸地方会	暫定学術委員会委員	小児科部長	渡邊 康宏	
診療業務	日本耳鼻咽喉科学会中部地方部会連合会	運営委員	耳鼻咽喉科部長	大澤 陽子	
	日本循環器学会北陸地方会	評議員	循環器内科部長	坪川 明義	
医療社会事業部	日本静脈経腸栄養学会北陸支部会	世話人	副院長兼外科部長	廣瀬 由紀	
	日本神経学会東海北陸地方会	世話人	副院長兼神経内科部長	高野誠一郎	
	日本てんかん学会東海北陸地方会	運営委員	副院長兼神経内科部長	高野誠一郎	
	日本肺癌学会 北陸支部会	評議員	呼吸器内科部長 呼吸器内科部長 呼吸器外科部長	赤井 雅也 出村 芳樹 松倉 規	
看護部	日本泌尿器学会北陸地方会	評議員	副院長	小松 和人	
	日本麻酔科学会北陸支部	代議員	麻酔科部長	田邊 毅	
	日本輸血・細胞治療学会北陸支部	評議員	内科部長	今村 信	
	北陸 HIV 臨床談話会	世話人	内科部長	今村 信	
	北陸 IVR 研究会	世話人	脳神経外科部長	早瀬 睦	
事務部	北陸 Nuclear Technology カンファレンス	理事	放射線理学診療係長	若松敬一郎	
	北陸 PEG 在宅栄養研究会	世話人	健診部長 外科部長	西川 邦寿 藤井 秀則	
	北陸胃癌談話会	幹事	副院長兼外科部長 外科部長 消化器内科部長 健診部長	廣瀬 由紀 藤井 秀則 山崎 幸直 西川 邦寿	
業績	北陸核医学技術セミナー	理事	放射線理学診療係長	若松敬一郎	

団体名	役職名	本院の役職名もしくは職名	氏名
北陸画像診断勉強会	幹事	放射線科部長	左合 直
北陸緩和医療研究会	世話人	外科部長	藤井 秀則
北陸クリスタルクラブ	世話人	眼科部長	小堀 朗
北陸骨折研究会	世話人	リハビリテーション科部長	浅野 太洋
北陸サイトカイン研究会	世話人	内科部長	神谷 健一
北陸周産期・新生児研究会	幹事	小児科副部長	玉村 宗一
北陸循環器負荷研究会	幹事	循環器内科部長	吉田 博之
北陸小腸内視鏡研究会	世話人	健診部長	西川 邦寿
北陸静脈結腸栄養研究会	評議員	外科部長兼外科部長	廣瀬 由紀
北陸食道疾患懇話会	幹事	外科部長	藤井 秀則
北陸心不全研究会	幹事	循環器内科部長	吉田 博之
北陸診療情報管理研究会	理事	副院長	小松 和人
		医療情報課長	櫻井 慎二
北陸大腸癌研究会	幹事	外科部長	藤井 秀則
北陸地区脳神経リハビリテーション看護研究会	世話人	看護係長	井口 秀人
北陸糖尿病研究会	世話人	内科副部長	中野 雅子
北陸内視鏡外科研究会	幹事	外科部長	青竹 利治
		外科部長	藤井 秀則
		外科部長	吉羽 秀麿
北陸乳癌懇話会	幹事	外科部長	田中 文恵
北陸乳房画像研究会	世話人	X線技術課長	西郡 克寛
		診療放射線技師	吉岡 千絵
北陸脳腫瘍研究会	世話人	脳神経外科部長	戸田 弘紀
北陸脳腫瘍懇話会	世話人	脳神経外科部長	戸田 弘紀
北陸リウマチ関節研究会	世話人	整形外科部長	浅野 太洋
北陸臨床免疫症例検討 / 研究会	幹事	内科部長	神谷 健一

### 学会・研究会（福井県）

団体名	役職名	本院の役職名もしくは職名	氏名
F A R M研究会	世話人	産婦人科部長	田嶋 公久
Fukui ACT Core Member Meeting	世話人	循環器内科部長	吉田 博之
Fukui Circulation Forum	世話人	循環器内科部長	吉田 博之
Pitfall の会	代表世話人	眼科部長	小堀 朗
医療審議会在宅医療体制検討部会	委員	看護師長	西向 秀代
日本小児科学会福井地方会	委員	小児科部長	渡邊 康宏
福井 IVNR 研究会	世話人	脳神経外科部長	早瀬 睦
福井 PBSCT 研究会	世話人	内科部長	神谷 健一
福井 RA フォーラム	世話人	院長	高木 治樹
福井肝癌研究会	幹事	消化器内科部長	道上 学
		放射線科部長	左合 直
福井冠疾患治療を考える会	世話人	循環器内科部長	吉田 博之
		循環器内科部長	坪川 明義
福井関節外科懇話会	代表世話人	院長	高木 治樹
		世話人	リハビリテーション科部長
福井感染制御ネットワーク	世話人	呼吸器内科部長	赤井 雅也
		看護師	坪田 マキ

沿革概要  
患者数経営状況  
委員会  
トピックス  
診療業務  
医療社会事業部  
看護部  
事務部  
業績

団体名	役職名	本院の役職名もしくは職名	氏名
福井がんとチーム医療研究会	世話人	外科部長	藤井 秀則
福井救急集中治療医学研究会	幹事	麻酔科部長	田邊 毅
福井血液腫瘍 Roundtable Conference	世話人	内科部長	今村 信
福井県 CAPD 看護研究会	会長	看護師長	高嶋 節子
福井県 CT.MR 研究会	世話人	画像情報係長	上坂 大輔
		診療放射線技師	勝木 宏輝
福井県 MRI 研究会	幹事	放射線科部長	左合 直
福井県 NST 研究会	幹事	副院長兼外科部長	廣瀬 由紀
		外科部長	川上 義行
福井県抗加齢医学会	会長	外科部長	藤井 秀則
福井県胃腸疾患懇話会	幹事	外科部長	藤井 秀則
		消化器内科部長	道上 学
		消化器内科部長	山崎 幸直
福井県核医学研究会	幹事	循環器内科部長	吉田 博之
福井県画像技術セミナー	理事	放射線理学診療係長	若松 敬一郎
福井県肝胆膵勉強会	幹事	放射線科部長	左合 直
		外科部長	土居 幸司
福井県緩和医療研究会	幹事	外科部長	藤井 秀則
		外科部長	吉羽 秀麿
福井県外科医会	消化器部門幹事	外科部長	藤井 秀則
	乳がん部門幹事	外科部長	田中 文恵
福井県産婦人科医師連合	理事	産婦人科部長	田嶋 公久
福井県消化管撮影研究会	世話人	X線技術係長	山崎 亮一
福井県小児科医会	理事	小児科部長	渡邊 康宏
	広報委員会委員	小児科部長	渡邊 康宏
福井県診療情報管理懇話会	幹事	副院長	小松 和人
		医療情報課長	櫻井 慎二
福井県末梢血幹細胞移植研究会	世話人	内科部長	神谷 健一
福井県整形外科医会	理事	整形外科部長	高塚 和孝
福井県乳房画像研究会	世話人	X線技術課長	西郡 克寛
		診療放射線技師	田賀 陽子
		診療放射線技師	吉岡 千絵
福井県糖尿病看護研究会	代表	看護師	清水 雅代
福井県糖尿病協会	理事	内科副部長	中野 雅子
		看護師	清水 雅代
福井県糖尿病懇話会	世話人	内科副部長	中野 雅子
		看護師	清水 雅代
福井県糖尿病療養指導研究会	理事	内科部長	夏井 耕之
		看護師	清水 雅代
		栄養課長	大久保 祐子
福井県内科医会	幹事	副院長兼神経内科部長	高野 誠一郎
福井県脳・神経懇話会	幹事	副院長兼神経内科部長	高野 誠一郎
	世話人	脳神経外科部長	戸田 弘紀
福井県脳機能画像カンファレンス	世話人	脳神経外科部長	戸田 弘紀
福井県脳梗塞セミナー	世話人	脳神経外科部長	戸田 弘紀
		神経内科副部長	今村 久司
福井県皮膚潰瘍研究会	世話人	形成外科部長	山脇 聖子

団体名	役職名	本院の役職名もしくは職名	氏名
福井県放射線治療研究会	顧問	名誉院長	野口 正人
	幹事	放射線科部長	坂本 匡人
	事務局	放射線理学診療係長	中尾 秀昭
福井県母性衛生学会	理事	産婦人科部長	田嶋 公久
福井県予防接種研究会	世話人	呼吸器内科部長	赤井 雅也
		小児科部長	渡邊 康宏
福井県リウマチケア研究会	顧問	院長	高木 治樹
	実行委員	看護師長	石田 克子
		理学療法係長	豊田 泰美
		作業療法士	山本 和雅
福井県臨床細胞学会	幹事	産婦人科部長	田嶋 公久
		病理診断科副部長	大越 忠和
		臨床検査技師	藤田 幸宏
福井膠原病研究会	世話人	院長	高木 治樹
福井骨粗鬆症フォーラム	代表世話人	院長	高木 治樹
	世話人	整形外科部長	高塚 和孝
	世話人	産婦人科部長	田嶋 公久
福井周産期症例検討会	世話人	小児科部長	渡邊 康宏
福井循環器カンファレンス	世話人	循環器内科部長	吉田 博之
福井循環器同好会	世話人	循環器内科部長	吉田 博之
福井ショックと蘇生研究会	幹事	麻酔科部長	田邊 毅
福井神経疾患研究会	世話人	副院長兼神経内科部長	高野誠一郎
福井大腸癌研究会	幹事	副院長兼外科部長	廣瀬 由紀
		消化器内科部長	道上 学
福井地区緊急被ばくネットワーク研究会	委員	内科部長	神谷 健一
福井地区緊急被ばくネットワーク検討会	委員	内科部長	神谷 健一
		放射線科技師長	西村 英明
福井認知症を考える会	世話人	副院長兼神経内科部長	高野誠一郎
ふくい在宅医療を支える会	世話人	看護師長	山崎 雪代
		社会福祉士	奈須田 瞳
福井日和見感染症研究会	世話人	内科部長	神谷 健一
福井婦人科腫瘍研究会	世話人	産婦人科部長	田嶋 公久
福井リウマチ研究会	顧問	院長	高木 治樹
	世話人	整形外科部長	北折 俊之
福井臨床薬理を考える会	委員	内科部長	神谷 健一

沿革

概要

患者数・経営状況

委員会

トピックス

診療業務

医療社会事業部

看護部

事務部

業績

## 7. 年 間 行 事

日	時	内 容	場 所
4月 1日	8:00	辞令交付（昇任・医師新規採用者）	院長室
	8:45	辞令交付（新規採用者）	栄養管理棟 3階講堂
		新規採用職員一般研修 ～ 3（水）	栄養管理棟 3階講堂
4月12日	14:30	管理会議	応接室
	16:00	代表部長会議	大会議室
4月17日	13:30	北川さんのハーモニカコンサート	本館 1階エントランスホール
4月26日	17:00	定例医局会	栄養管理棟 3階講堂
5月11日		もっとクロス！赤十字フェスティバル	本館 1階エントランスホール 他
5月17日	14:30	管理会議	応接室
	16:00	代表部長会議	大会議室
5月28日	13:30	中出さんエレクトーンコンサート	本館 1階エントランスホール・ 緩和ケア病棟
5月29日	15:30	すずらんのしおり受領式	本館 1階エントランスホール
5月31日	17:00	定例医局会	栄養管理棟 3階講堂
6月 3日	15:30	臨時管理会議	応接室
6月 7日	13:00	よつばの会コンサート	本館 1階エントランスホール
6月14日	14:30	管理会議	応接室
6月14日	16:00	代表部長会議	大会議室
6月17日	13:30	コンソラータコンサート	本館 1階エントランスホール
6月19日	11:00	日本赤十字社福井県支部評議員会	福井パレスホテル
6月28日	17:00	定例医局会議（院内感染防止対策、医療安全合同研修会）	栄養管理棟 3階講堂
7月 2日	13:30	クレドファコンサート	本館 1階エントランスホール
7月 5日		新採用者宿泊研修 ～ 6（土）	福井県あわら市
7月12日	13:30	トロピカーナ越前コンサート	本館 1階エントランスホール
7月19日	10:00	近畿厚生局による施設基準等にかかる適時調査	管理棟 2階多目的室他
7月22日	14:30	管理会議	応接室
	16:00	代表部長会議	大会議室
7月26日	18:30	医局会	福井市内
7月27日		第11回中部ブロック赤十字病院スポーツ大会 ～28(日)	愛知県
8月 2日	13:00	L U I u（ルル）コンサート	本館 1階エントランスホール
8月 5日	15:00	被剖検者追悼式	栄養管理棟 3階講堂
8月19日	14:30	管理会議	応接室
8月31日	8:30	福井県原子力防災訓練	救急外来
9月 2日		がん征圧月間 がんに関するパネル展 ～27日(金)	本館 1階エントランスホール
9月 7日		リレー・フォー・ライフ・ジャパン2019ふくい ～8(日)	ふくい健康の森400mトラック
9月13日	14:30	管理会議	応接室
9月13日	16:00	代表部長会議	大会議室
9月16日	13:30	福井赤十字病院 命の授業「がん」ってどのような病気？	栄養管理棟 3階講堂
9月25日	13:00	江守中ボランティアグループコンサート	本館 1階エントランスホール
9月27日	17:00	定例医局会（医療安全研修会）	栄養管理棟 3階講堂

日	時	内 容	場 所
10月17日		第55回日本赤十字社医学会総会 ～18(金)	広島市
10月19日	13:30	第51回福井赤十字病院 市民公開講座	栄養管理棟3階講堂
10月21日	14:30	管理会議	応接室
10月21日	16:00	代表部長会議	大会議室
10月25日	17:00	定例医局会	栄養管理棟3階講堂
	13:00	ピアノコンサート	本館1階エントランスホール
10月26日		全国赤十字病(産)院スポーツ大会 ～27(日)	大阪市他
11月2日	9:00	福井県総合防災訓練	大野市および勝山市
11月2日	16:00	日本病院会福井県支部総会	ユアーズホテルフクイ
11月6日	14:30	キャリアラダー認定証授与式(事務職・看護職)	院長室等
11月9日	8:15	令和元年度福井赤十字病院災害対応訓練	本館1階エントランスホール他
11月11日	16:00	代議員会議	栄養管理棟3階講堂
11月12日	13:00	HIROBE & HIROKO コンサート	本館1階エントランスホール
11月13日	13:30	令和元年度医療法第25条第1項の規定に基づく立入検査(医療監視)	大会議室
11月15日	14:30	管理会議	応接室
11月15日	16:00	代表部長会議	大会議室
11月29日	17:00	定例医局会	栄養管理棟3階講堂
12月9日	13:30	雅楽演奏会	本館1階エントランスホール
12月13日	14:30	管理会議	応接室
12月13日	16:00	代表部長会議	大会議室
12月18日	13:30	立川正美 SAXOPHONE コンサート	本館1階エントランスホール・緩和ケア病棟
12月20日	13:30	仁愛女子高等学校クリスマスコンサート	本館1階エントランスホール
12月24日	13:30	高志高校・中学校 弦楽部ウインターコンサート	本館1階エントランスホール
12月24日	17:00	第64回(令和元年度)クリスマスキャンドルサービス	本館1階エントランスホール・病棟等
12月27日	19:00	定例医局会	あわら市内
1月6日	8:15	令和2年 仕事始め式	栄養管理棟3階講堂
1月11日	13:30	市民公開講座「詳しく知りたい腎臓病の予防と治療法」	栄養管理棟3階講堂
1月17日	14:30	管理会議	応接室
1月17日	16:00	代表部長会議	大会議室
1月24日	17:00	定例医局会(医師対象 医師コミュニケーションスキル向上研修)	栄養管理棟3階講堂
2月14日	13:00	優子&純子フルーツデュオコンサート	本館1階エントランスホール
2月14日	14:30	管理会議	応接室
2月14日	16:00	代表部長会議	大会議室
2月26日	16:30	臨時管理会議	応接室
3月11日	16:00	初期臨床研修医修了証授与式	院長室
3月13日	14:30	管理会議	応接室
3月13日	16:00	代表部長会議	大会議室
3月18日	15:00	ホームページリニューアル企画コンペ	管理棟2階多目的室

沿  
革  
概  
要  
患者数・経営状況  
委員会  
トピックス  
診療業務  
医療社会事業部  
看護部  
事務部  
業  
績

沿革
概要
患者数・経営状況
委員会
トピックス
診療業務
医療社会事業部
看護部
事務部
業績

定期コンサート		
9回	DUO詩音コンサート	本館1階エントランスホール
11回	FRMコンサート	
10回	歸山さんのみんなで歌おうピアノコンサート	
8回	こころの薬箱コンサート	



4月 新規採用辞令交付式



5月 もっとクロス！赤十字フェスティバル



5月 全日空からのすずらん受領式



7月 中部ブロック赤十字病院スポーツ大会



8月 被剖検者追悼式



11月 災害対応訓練



12月 クリスマスカンドルサービス



3月 初期臨床研修医修了証授与式

沿革

概要

患者数・経営状況

委員会

トピックス

診療業務

医療社会事業部

看護部

事務部

業績

沿 革
概 要
患者数・経営状況
委員会
トピックス
診療業務
医療社会事業部
看護部
事務部
業 績

# 患者数・経営状況

1. 患者数統計

地区別入院患者数比較（年度別比較）

入院

	2015年	対前年度増減	%	2016年	対前年度増減	%	2017年	対前年度増減	%	2018年	対前年度増減	%	2019年	対前年度増減	%
福井市	105,878	-2,278	98%	104,239	-1,639	98%	103,596	-643	99%	99,360	-4,236	96%	94,772	-4,588	95%
敦賀市	1,023	-567	64%	1,321	298	129%	1,215	-106	92%	1,983	768	163%	1,741	-242	88%
越前市	18,237	1,186	107%	19,474	1,237	107%	18,073	-1,401	93%	17,515	-558	97%	18,183	668	104%
小浜市	417	11	103%	385	-32	92%	105	-280	27%	157	52	150%	248	91	158%
大野市	3,036	394	115%	2,171	-865	72%	1,622	-549	75%	1,784	162	110%	1,873	89	105%
勝山市	1,163	-6	99%	989	-174	85%	614	-375	62%	730	116	119%	1,256	526	172%
鯖江市	23,976	-378	98%	23,035	-941	96%	26,002	2,967	113%	24,309	-1,693	93%	23,706	-603	98%
あわら市	2,218	219	111%	1,488	-730	67%	1,583	95	106%	1,825	242	115%	1,376	-449	75%
永平寺町	507	-284	64%	510	3	101%	650	140	127%	426	-224	66%	806	380	189%
坂井市	4,194	-642	87%	4,125	-69	98%	3,622	-503	88%	3,772	150	104%	3,567	-205	95%
池田町	416	-263	61%	535	119	129%	541	6	101%	540	-1	100%	354	-186	66%
美浜町	173	-29	86%	237	64	137%	54	-183	23%	449	395	831%	365	-84	81%
おおい町	21	11	210%	11	-10	52%	226	215	2055%	46	-180	20%	7	-39	15%
高浜町	18	18	0%	109	91	0%	43	-66	0%	231	188	100%	121	-110	100%
南越前町	2,915	539	123%	3,059	144	105%	2,520	-539	82%	2,520	0	100%	2,907	387	115%
越前町	13,072	79	101%	12,566	-506	96%	12,860	294	102%	12,129	-731	94%	12,264	135	101%
若狭町	446	198	180%	58	-388	13%	36	-22	62%	239	203	664%	315	76	132%
県外その他	1,618	-339	83%	1,631	13	101%	1,887	256	116%	1,492	-395	79%	1,529	37	102%
合計	179,328	-2,131	99%	175,943	-3,385	98%	175,249	-694	100%	169,507	-5,742	97%	165,390	-4,117	98%

業績	事務部	看護部	医療社会事業部	診療業務	トピックス	委員会	患者数・経営状況	概要	革新	沿革
----	-----	-----	---------	------	-------	-----	----------	----	----	----

地区別外来患者数比較（年度別比較）

外来

	2015年	対前年度増減	%	2016年	対前年度増減	%	2017年	対前年度増減	%	2018年	対前年度増減	%	2019年	対前年度増減	%
福井市	192,693	3,098	102%	190,396	-2,297	99%	185,881	-4,515	98%	189,599	3,718	102%	186,584	-3,015	98%
敦賀市	1,732	-8	100%	1,983	251	114%	2,121	138	107%	2,218	97	105%	2,229	11	100%
越前市	31,632	757	102%	31,332	-300	99%	30,636	-696	98%	31,061	425	101%	30,243	-818	97%
小浜市	355	-16	96%	340	-15	96%	203	-137	60%	236	33	116%	270	34	114%
大野市	4,478	279	107%	4,095	-383	91%	3,776	-319	92%	3,664	-112	97%	3,697	33	101%
勝山市	1,589	310	124%	1,477	-112	93%	1,105	-372	75%	1,045	-60	95%	1,277	232	122%
鯖江市	37,802	1,526	104%	37,582	-220	99%	38,858	1,276	103%	38,443	-415	99%	37,929	-514	99%
あわら市	3,323	137	104%	2,978	-345	90%	3,125	147	105%	3,344	219	107%	3,368	24	101%
永平寺町	1,529	-353	81%	1,543	14	101%	1,548	5	100%	1,364	-184	88%	1,403	39	103%
坂井市	8,950	119	101%	8,593	-357	96%	8,203	-390	95%	8,333	130	102%	8,189	-144	98%
池田町	1,115	-50	96%	1,023	-92	92%	976	-47	95%	792	-184	81%	794	2	100%
美浜町	267	1	100%	326	59	122%	304	-22	93%	352	48	116%	352	0	100%
おおい町	36	7	124%	20	-16	56%	100	80	500%	83	-17	83%	23	-60	28%
高浜町	50	21	172%	49	-1	98%	45	-4	92%	74	29	164%	63	-11	85%
南越前町	4,134	-38	99%	4,206	72	102%	3,989	-217	95%	3,844	-145	96%	4,327	483	113%
越前町	17,140	-260	99%	18,043	903	105%	17,539	-504	97%	17,096	-443	97%	17,585	489	103%
若狭町	461	175	161%	288	-173	62%	200	-88	69%	269	69	135%	322	53	120%
県外その他	2,395	202	109%	2,342	-53	98%	2,350	8	100%	2,196	-154	93%	2,469	273	112%
合計	309,681	5,907	102%	306,616	-3,065	99%	300,959	-5,657	98%	304,013	3,054	101%	301,124	-2,889	99%

年齢別入外別 患者延数 (年度別比較)

入院

	2015年	対前年度増減	%	2016年	対前年度増減	%	2017年	対前年度増減	%	2018年	対前年度増減	%	2019年	対前年度増減	%
0 - 5 才	4,083	-435	90%	3,923	-160	96%	3,590	-333	92%	4,112	522	115%	4,038	-74	98%
6 - 14 才	1,289	-358	78%	1,388	99	108%	1,566	178	113%	1,653	87	106%	1,980	327	120%
15 - 19 才	846	-112	88%	1,239	393	146%	1,049	-190	85%	919	-130	88%	1,227	308	134%
20 - 24 才	1,682	-131	93%	1,342	-340	80%	1,503	161	112%	1,267	-236	84%	1,176	-91	93%
25 - 29 才	2,877	124	105%	2,629	-248	91%	2,489	-140	95%	2,310	-179	93%	2,558	248	111%
30 - 34 才	3,653	-704	84%	3,436	-217	94%	3,035	-401	88%	2,824	-211	93%	2,337	-487	83%
35 - 39 才	3,225	-600	84%	3,621	396	112%	3,671	50	101%	2,833	-838	77%	2,831	-2	100%
40 - 44 才	3,831	3	100%	3,690	-141	96%	4,052	362	110%	3,985	-67	98%	3,184	-801	80%
45 - 49 才	5,096	-160	97%	4,428	-668	87%	5,058	630	114%	4,469	-589	88%	4,078	-391	91%
50 - 54 才	5,894	-1,439	80%	4,938	-956	84%	5,843	905	118%	5,119	-724	88%	5,962	843	116%
55 - 59 才	9,002	-1,028	90%	8,941	-61	99%	8,695	-246	97%	7,162	-1,533	82%	7,367	205	103%
60 - 64 才	15,293	1,035	107%	12,391	-2,902	81%	10,197	-2,194	82%	10,259	62	101%	9,747	-512	95%
65 - 69 才	21,903	1,596	108%	23,940	2,037	109%	22,266	-1,674	93%	20,078	-2,188	90%	18,631	-1,447	93%
70 - 74 才	23,315	790	104%	22,404	-911	96%	21,638	-766	97%	22,955	1,317	106%	24,053	1,098	105%
75 - 79 才	24,138	-1,651	94%	25,164	1,026	104%	26,301	1,137	105%	26,292	-9	100%	27,974	1,682	106%
80 才以上	53,201	939	102%	52,469	-732	99%	54,296	1,827	103%	53,270	-1,026	98%	48,247	-5,023	91%
合計	179,328	-2,131	99%	175,943	-3,385	98%	175,249	-694	100%	169,507	-5,742	97%	165,390	-4,117	98%

業績	事務部	看護部	医療社会事業部	診療業務	トピックス	委員会	患者数・経営状況	概要	革新	沿革
----	-----	-----	---------	------	-------	-----	----------	----	----	----

年齢別入外別 患者延数 (年度別比較)

外 来

	2015年	対前年度増減	%	2016年	対前年度増減	%	2017年	対前年度増減	%	2018年	対前年度増減	%	2019年	対前年度増減	%
0 - 5 才	9,788	134	101%	8,631	-1,157	88%	8,099	-532	94%	8,364	265	103%	8,705	341	104%
6 - 14 才	6,925	292	104%	6,681	-244	96%	5,902	-779	88%	6,326	424	107%	6,189	-137	98%
15 - 19 才	3,275	-70	98%	3,573	298	109%	3,150	-423	88%	3,440	290	109%	3,521	81	102%
20 - 24 才	4,380	56	101%	3,921	-459	90%	4,106	185	105%	3,828	-278	93%	3,560	-268	93%
25 - 29 才	6,715	161	102%	6,135	-580	91%	6,328	193	103%	6,273	-55	99%	6,298	25	100%
30 - 34 才	8,419	-368	96%	8,263	-156	98%	8,007	-256	97%	7,637	-370	95%	7,104	-533	93%
35 - 39 才	9,356	-466	95%	8,653	-703	92%	9,045	392	105%	8,818	-227	97%	8,605	-213	98%
40 - 44 才	11,564	357	103%	11,457	-107	99%	11,298	-159	99%	11,228	-70	99%	10,809	-419	96%
45 - 49 才	13,304	786	106%	13,377	73	101%	13,249	-128	99%	12,994	-255	98%	13,240	246	102%
50 - 54 才	15,153	-645	96%	14,017	-1,136	93%	14,580	563	104%	14,430	-150	99%	15,045	615	104%
55 - 59 才	18,675	3	100%	18,478	-197	99%	17,875	-603	97%	17,341	-534	97%	16,731	-610	96%
60 - 64 才	28,451	-680	98%	26,643	-1,808	94%	24,425	-2,218	92%	22,657	-1,768	93%	22,401	-256	99%
65 - 69 才	40,903	3,315	109%	44,079	3,176	108%	41,635	-2,444	94%	39,274	-2,361	94%	34,619	-4,655	88%
70 - 74 才	40,192	1,268	103%	37,892	-2,300	94%	38,462	570	102%	41,467	3,005	108%	45,132	3,665	109%
75 - 79 才	38,362	241	101%	38,874	512	101%	38,327	-547	99%	41,523	3,196	108%	43,323	1,800	104%
80 才以上	54,219	1,523	103%	55,942	1,723	103%	56,471	529	101%	58,413	1,942	103%	55,842	-2,571	96%
合 計	309,681	5,907	102%	306,616	-3,065	99%	300,959	-5,657	98%	304,013	3,054	101%	301,124	-2,889	99%

月別入外別患者延数 (年度別比較)

入院患者数 (年度別比較)

月	年	2015年	対前年度増減	%	2016年	対前年度増減	%	2017年	対前年度増減	%	2018年	対前年度増減	%	2019年	対前年度増減	%
4月		15,073	39	100.3%	15,411	338	102.2%	14,201	-1,210	92.1%	14,038	-163	98.9%	14,785	747	105.3%
5月		14,489	-87	99.4%	14,586	97	100.7%	14,510	-76	99.5%	14,155	-355	97.6%	14,581	426	103.0%
6月		14,732	421	102.9%	14,441	-291	98.0%	14,359	-82	99.4%	14,107	-252	98.2%	14,007	-100	99.3%
7月		14,889	-446	97.1%	14,417	-472	96.8%	14,605	188	101.3%	14,158	-447	96.9%	14,173	15	100.1%
8月		15,696	535	103.5%	14,150	-1,546	90.2%	14,463	313	102.2%	14,375	-88	99.4%	13,695	-680	95.3%
9月		13,688	-786	94.6%	14,273	585	104.3%	14,161	-112	99.2%	13,642	-519	96.3%	12,741	-901	93.4%
10月		14,479	-1,283	91.9%	14,869	390	102.7%	14,565	-304	98.0%	13,930	-635	95.6%	13,378	-552	96.0%
11月		15,003	-604	96.1%	15,058	55	100.4%	15,071	13	100.1%	13,713	-1,358	91.0%	13,277	-436	96.8%
12月		15,371	282	101.9%	14,728	-643	95.8%	14,839	111	100.8%	14,619	-220	98.5%	14,276	-343	97.7%
1月		15,344	-134	99.1%	14,370	-974	93.7%	14,919	549	103.8%	14,295	-624	95.8%	13,848	-447	96.9%
2月		14,840	95	100.6%	14,199	-641	95.7%	14,441	242	101.7%	13,748	-693	95.2%	13,206	-542	96.1%
3月		15,724	-163	99.0%	15,441	-283	98.2%	15,115	-326	97.9%	14,727	-388	97.4%	13,423	-1,304	91.1%
計		179,328	-2,131	98.8%	175,943	-3,385	98.1%	175,249	-694	99.6%	169,507	-5,742	96.7%	165,390	-4,117	97.6%
1日平均		490	-	-	482	-	-	480	-	-	464	-	-	452	-	-

業績	事務部	看護部	医療社会事業部	診療業務	トピックス	委員会	患者数・経営状況	概要	革新	沿革
----	-----	-----	---------	------	-------	-----	----------	----	----	----

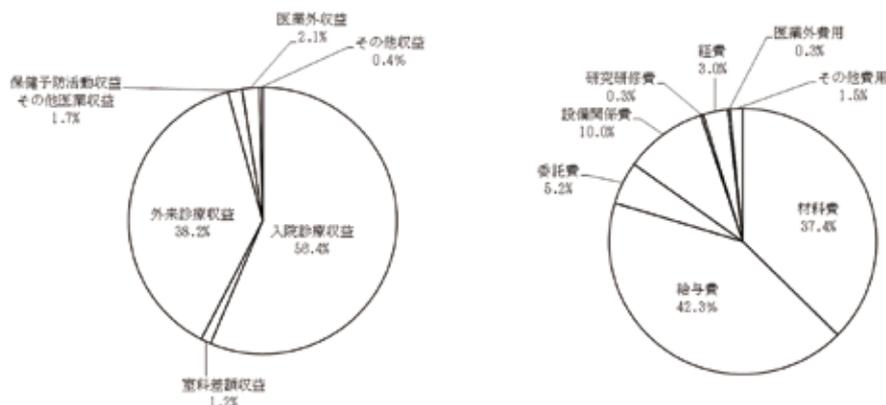
月別入外別患者延数 (年度別比較)

外来患者数 (年度別比較)

年 月	2015年	対前年 度増減	%	2016年	対前年 度増減	%	2017年	対前年 度増減	%	2018年	対前年 度増減	%	2019年	対前年 度増減	%
4月	26,376	610	102.4%	25,420	-956	96.4%	24,490	-930	96.3%	24,387	-103	99.6%	25,575	1,188	104.9%
5月	23,342	-1,499	94.0%	25,365	2,023	108.7%	25,225	-140	99.4%	25,207	-18	99.9%	25,709	502	102.0%
6月	26,231	1,130	104.5%	26,630	399	101.5%	26,376	-254	99.0%	25,741	-635	97.6%	25,048	-693	97.3%
7月	27,294	30	100.1%	25,768	-1,526	94.4%	25,550	-218	99.2%	26,099	549	102.1%	27,279	1,180	104.5%
8月	25,815	406	101.6%	27,036	1,221	104.7%	26,200	-836	96.9%	27,008	808	103.1%	25,707	-1,301	95.2%
9月	25,430	-377	98.5%	25,584	154	100.6%	25,448	-136	99.5%	23,302	-2,146	91.6%	24,142	840	103.6%
10月	26,532	-405	98.5%	25,803	-729	97.3%	25,904	101	100.4%	27,025	1,121	104.3%	26,346	-679	97.5%
11月	25,056	1,956	108.5%	25,624	568	102.3%	25,332	-292	98.9%	25,790	458	101.8%	24,720	-1,070	95.9%
12月	26,323	1,421	105.7%	25,418	-905	96.6%	25,440	22	100.1%	25,536	96	100.4%	25,582	46	100.2%
1月	24,483	221	100.9%	23,718	-765	96.9%	23,228	-490	97.9%	24,747	1,519	106.5%	24,401	-346	98.6%
2月	24,895	1,563	106.7%	23,202	-1,693	93.2%	21,113	-2,089	91.0%	22,921	1,808	108.6%	22,205	-716	96.9%
3月	27,904	851	103.1%	27,048	-856	96.9%	26,653	-395	98.5%	26,250	-403	98.5%	24,410	-1,840	93.0%
計	309,681	5,907	101.9%	306,616	-3,065	99.0%	300,959	-5,657	98.2%	304,013	3,054	101.0%	301,124	-2,889	99.0%
1日平均	1,269	-	-	1,257	-	-	1,228	-	-	1,246	-	-	1,234	-	-

## 2. 収支決算状況

### 収支割合



### 収入

	2018年度		2019年度		決算額対前年度比較	
	金額 千円	対医業収益比 %	金額 千円	対医業収益比 %	金額 千円	増減率 %
入院診療収益	11,023,052	57.7	11,033,642	57.8	10,590	0.1
室料差額収益	247,730	1.3	240,855	1.3	△6,875	△2.8
外来診療収益	7,132,265	37.4	7,481,991	39.2	349,726	4.9
保健予防活動収益	335,797	1.8	334,497	1.8	△1,300	△0.4
受託検査・施設利用収益	90	0.0	141	0.0	51	56.7
その他の医業収益	69,994	0.4	72,702	0.4	2,708	3.9
保険等査定減	△85,746	△0.4	△73,962	△0.4	11,784	-
医業収益合計	18,723,182	98.1	19,089,866	100.0	366,684	2.0
医業外収益	428,154	2.2	405,830	2.1	△22,324	△5.2
医療社会事業収益	5,508	0.0	7,428	0.0	1,920	34.9
付帯事業収益	49,363	0.3	56,853	0.3	7,490	15.2
特別利益	2,982	0.0	3,144	0.0	162	5.4
収入合計	19,209,189	100.7	19,563,121	102.6	353,932	1.8

### 支出

	2018年度		2019年度		決算額対前年度比較	
	金額 千円	対医業収益比 %	金額 千円	対医業収益比 %	金額 千円	増減率 %
材料費	6,870,411	36.0	7,103,334	37.2	232,923	3.4
給与費	8,104,091	42.5	8,027,277	42.0	△76,814	△0.9
委託費	955,424	5.0	986,269	5.2	30,845	3.2
設備関係費	2,043,272	10.7	1,905,757	10.0	△137,515	△6.7
研究研修費	59,519	0.3	58,025	0.3	△1,494	△2.5
経費	588,907	3.1	568,298	3.0	△20,609	△3.5
医業費用合計	18,621,624	97.5	18,648,960	97.7	27,336	0.1
医業外費用	311,333	1.6	51,660	0.3	△259,673	△83.4
医療奉仕費用	146,804	0.8	190,812	1.0	44,008	30.0
付帯事業費用	63,684	0.3	67,269	0.4	3,585	5.6
特別損失	45,125	0.2	11,887	0.1	△33,238	△73.7
法人税等	8,991	0.0	19,511	0.1	10,520	
支出合計	19,197,561	100.6	18,990,099	99.5	△207,462	△1.1
収支差額	11,628		573,022		561,394	

## 収支決算状況

### (収入)

入院診療収益については、入院延べ患者数は前年度比 $\Delta 2.4\%$  ( $\Delta 4,117$ 人)だったが、患者一人当たり診療単価が消費税増に伴う診療報酬改定や注射料収入増により前年度比 $+2.6\%$  ( $+1,683$ 円)となったため、前年度比 $+0.1\%$  ( $+10,590$ 千円)の増収となった。

外来診療収益については、外来患者延数は前年度比 $\Delta 1.0\%$  ( $\Delta 2,889$ 人)だったが、患者一人当たりの診療単価が、投薬・注射料収入や在宅料収入の増により前年度比 $+5.9\%$  ( $+1,386$ 円)となったため、前年度比 $+4.9\%$  ( $+349,726$ 千円)の増収となった。

医業収益全体としては、前年度比 $+2.0\%$  ( $+366,684$ 千円)の $19,089,866$ 千円となった。

また、収益的収入合計では、前年度比 $+1.8\%$  ( $+353,932$ 千円)の $19,563,121$ 千円となった。

### (支出)

材料費については、高額な抗がん剤を用いた治療が増加したことにより医薬品費が前年度比 $+5.5\%$ となった一方で、診療材料費は共同購入による材料費の削減効果等があったことから前年度比 $\Delta 3.1\%$ となった。材料費全体では、前年度比 $+3.4\%$  ( $+232,923$ 千円)となった。

給与費については、職員数が前年度平均 $+11.4$ 名増加したが、退職給付引当金繰入額が前年度比 $\Delta 200,762$ 千円となり、給与費全体としては、前年度比 $\Delta 0.9\%$  ( $\Delta 76,814$ 千円)となった。

委託費については、人件費の上昇により給食委託や医師事務作業補助者等の人材派遣業務委託費用が前年度比 $+4.1\%$  ( $+23,672$ 千円)となった。また、医療廃棄物の廃棄単価が上がり、医療廃棄物処理委託費が前年度比 $+11.6\%$  ( $+2,627$ 千円)となった。委託費全体としては、前年度比 $+3.2\%$  ( $+30,845$ 千円)となった。

設備関係費については、本館の建物附属設備にかかる減価償却が整備後15年を経過し大幅に減少したことで、前年度比 $\Delta 6.7\%$  ( $\Delta 137,515$ 千円)となった。

医業費用全体としては、対前年度比 $+0.1\%$  ( $+27,336$ )の $18,648,960$ 千円となった。

収益的支出合計は、前年度比 $\Delta 1.1\%$  ( $\Delta 207,462$ 千円)の $18,990,099$ 千円となった。

### (収支)

以上のことから医業収支で、 $440,906$ 千円の黒字、収益的収支で $573,022$ 千円の黒字となった。

# 委員 会 活 動

# 委 員 会

区分	委員会(部会)の名称	委員長名 (院内役職)	委員数	事務局	年間 開催回数
法的に設置する委員会	災害対策・防火・防災委員会	田邊毅(災害救護支援室長)	15	災害救護支援室 管財課	0
	衛生委員会	高島 善弘(4~5月) 木村 正二(6月以降) (事務部長)	15	人事課	12
	情報システム管理委員会	小松和人(副院長)	19	医療情報課	10
	倫理委員会(倫理コンサルテーションチーム)	高野誠一郎(副院長)	9	総務課	3
	倫理コンサルテーションチーム	高野誠一郎(副院長)	7	総務課	20
	治験審査委員会	高野誠一郎(副院長)	12	薬剤部	0
	臨床試験審査委員会	高野誠一郎(副院長)	12	薬剤部	1(持ち回り)
	臓器移植委員会	高野誠一郎(副院長)	13	総務課	1
安全管理に関する委員会	医療安全管理委員会	小松和人(副院長)	34	医療安全推進課	12
	医療安全推進室部会	小松和人(副院長)	12	医療安全推進課	37
	事故調査委員会	小松和人(副院長)	6	医療安全推進課	4
	院内感染防止対策委員会(ICT)	小松和人(副院長)	10	医療安全推進課 感染管理室	12
	Infection Control Team	土井幸司(外科部長)	20	医療安全推進課 感染管理室	12
	医療廃棄物処理対策委員会	廣瀬由紀(副院長)	10	管財課	1
	医療ガス安全管理委員会	廣瀬由紀(副院長)	10	管財課	1
	放射線安全委員会	左合直(放射線科部長)	18	放射線科部	1
医療の質に関する委員会	TQM推進委員会	木村正二(事務部長)	18	病院経営課	2
	クリニカルパス推進部会	吉田博之(循環器内科部長)	21	医事サービス課 医療情報課	6
	QC活動推進部会	神谷健一(内科部長)	15	病院経営課	2
	患者満足度向上部会	田嶋公久(産婦人科部長)	17	病院経営課	3
	職員満足度向上部会	田嶋公久(産婦人科部長)	12	人事課	2
	NST部会(NST)	廣瀬由紀(副院長)	15	病院経営課	1
	NST連絡会	廣瀬由紀(副院長)	36	病院経営課	9
	RST部会(RST)	塩崎晃平(呼吸器内科部長)	14	病院経営課	6
	糖尿病サポート部会(糖尿病サポートチーム)	夏井耕之(内科部長)	18	医事サービス課	1
	認知症ケアチーム部会(認知症ケアチーム)	高野誠一郎(副院長)	11	地域医療連携課	1
CST部会(CST)	河野真範(腎臓・泌尿器科部長)	13	医事サービス課	1	
診療に関する委員会	栄養委員会	吉田博之(循環器内科部長)	8	栄養課	2
	診療録管理委員会	小松和人(副院長)	29	医療情報課	0
	病歴業務検討会	藤井秀則(外科部長)	14	医療情報課	1
	インフォームドコンセント推進委員会	左合直(放射線科部長)	9	医療情報課	持ち回り 委員会 7
	診療情報提供委員会	小松和人(副院長)	9	医療情報課	持ち回り 委員会 13
	保険診療検討委員会	廣瀬由紀(副院長)	19	医事サービス課	6
	DPC/PDPS 傷病コーディング部会	廣瀬由紀(副院長)	20	医事サービス課	5

沿革  
概要  
患者数・経営状況  
委員会  
トピックス  
診療業務  
医療社会事業部  
看護部  
事務部  
業績

沿革概要  
患者数経営状況  
委員会  
トピックス  
診療業務  
医療社会事業部  
看護部  
事務部  
業績

区分	委員会(部会)の名称	委員長名 (院内役職)	委員数	事務局	年間 開催回数
診療に関する委員会	救急医療検討委員会	嶋田喜充 (救急部長)	25	救急部 総務課	1
	救急作業部会	嶋田喜充 (救急部長)	11	救急部 総務課	10
	虐待防止対策部会	廣瀬由紀 (副院長)	13	救急部 総務課	0
	褥瘡対策検討委員会(褥瘡対策チーム)	八木洋輔 (皮膚科副部長)	13	看護部	12
	病床運営委員会	内田智美 (副院長)	8	看護部	1
	がん診療センター運営委員会	廣瀬由紀 (副院長)	15	地域医療連携課	1
	がん化学療法部会	青竹利治 (外科部長)	22	地域医療連携課	9
	緩和医療検討部会	藤井秀則 (外科部長)	15	地域医療連携課	2
	血液浄化療法委員会	伊藤正典 (腎臓・泌尿器科部長)	14	医事サービス課	1
	透析センター(透析機器安全管理)運営委員会	伊藤正典 (腎臓・泌尿器科部長)	12	医事サービス課	1
	脳卒中センター運営委員会	戸田弘紀 (脳神経外科部長)	15	総務課	0
輸血療法委員会	今村信 (内科部長)	16	輸血課	6	
地域医療 支援関連	地域医療推進委員会	高木治樹 (院長)	17	地域医療連携課	4
	地域医療支援センター運営委員会	高野誠一郎 (副院長)	10	地域医療連携課	0
	ボランティア委員会	高野誠一郎 (副院長)	9	医療社会事業課	0
経営・運営に関する委員会	薬事委員会	高野誠一郎 (副院長)	24	薬剤部	3
	医療機械器具購入委員会	廣瀬由紀 (副院長)	27	管財課	2
	医療機械器具購入小委員会	廣瀬由紀 (副院長)	5	管財課	2
	診療材料購入審査委員会	廣瀬由紀 (副院長)	11	管財課	2
	図書委員会	田中文恵 (外科部長)	8	医療情報課	1
	病院施設利用検討委員会	廣瀬由紀 (副院長)	9	管財課	0
	中央放射線部運営委員会	左合直 (放射線科部長)	18	放射線科部	1
	リハビリテーション科部運営委員会	浅野太洋 (リハビリテーション科部長)	19	リハビリテーション科部	1
	健診センター運営委員会	西川邦寿 (健診部長)	19	健診業務課	1
	集中治療室運営委員会	田邊毅 (麻酔科部長)	22	総務課	1
	中央手術室・滅菌室運営委員会	廣瀬由紀 (副院長)	23	総務課	2
	検査部運営委員会	今村信 (内科部長)	13	検査部	1
	検査機器・試薬管理部会	今村信 (内科部長)	7	検査部	4
	病理診断科部業務運営委員会	今村 信 (病理診断科部長)	10	病理診断科部	1
	臨床工学技術運営委員会	吉田博之 (循環器内科部長)	5	臨床工学技術課	1
	健康・医療情報室運営委員会	道上学 (総合診療科部長)	6	医療情報課	1
	院内保育施設運営委員会	川島 勇一 (人事課長)	10	人事課	1
教育・研修関連	福井赤十字病院群研修管理委員会	高木治樹 (院長)	30	人事課	1
	福井赤十字病院臨床研修推進部会	高野誠一郎 (副院長)	17	人事課	3
	教育・研修推進委員会	高野誠一郎 (副院長)	13	人事課	2
	提案・顕彰審査委員会	高野誠一郎 (副院長)	9	病院経営課	3
	広報委員会 (広報誌・ホームページ班・年報班)	坪川明義 (循環器内科部長)	広報誌・ホームページ班 17 年報班 11	病院経営課	広報誌・ホームページ班 12 年報班 1
その他	就業管理委員会	高野 誠一郎 (副院長)	15	人事課	3

トピックス

# 新型コロナウイルス感染症に関する福井赤十字病院の対応について

## 1 概要

中国湖北省武漢市で端を発した新型コロナウイルス感染症は全世界に感染が拡がり、日本国内においても令和2年1月16日に初めての感染者が確認されて以降、感染が拡大した。

当院においては、1月31日に新型コロナウイルス感染症に対応するため、高木院長を本部長とする災害対策本部を設置し、新型コロナウイルス感染症に対応することになった。

## 2 時系列

日にち	曜日	項 目
1月31日	金	院長を本部長とする災害対策本部設置
2月7日	金	新型コロナウイルス患者対応フローチャートを制定（以降4版まで改定）
2月10日	月	新型コロナウイルス検体採取当番を決める（救護班医師、DMAT医師、ICD、副院長が対応）
2月15日	土	DMAT1隊（医師2名、看護師2名、事務2名）を埼玉県和光市税務大学校に派遣し武漢チャーター便帰国者の健康観察業務を行う（17日に福井に戻る）
2月下旬		感染初期対応室（旧SARS室）での検査、診療を開始
2月26日	水	臨時管理会議で病院行事の自粛を決定
2月28日	金	5病棟に新型コロナウイルス患者受け入れ病床として7床整備
3月2日	月	職員、ボランティア、業者に通勤、来院前の体温測定を依頼
3月4日	水	患者の面会を家族のみに限定し、面会希望者の体温測定を行い、面会許可証を発行する体制に移行
3月9日	月	厚生労働省の規定に基づき、電話による再診を開始
3月12日	木	集中治療室で新型コロナウイルス患者受け入れシミュレーションを実施
3月12日	木	9診療科からなるコロナ入院担当医師を決定した
3月13日	金	5病棟の新型コロナウイルス患者の受け入れ病床数を10床に変更
3月18日	水	福井県で1例目のコロナウイルス陽性患者が発生
3月23日	月	正面玄関での発熱スクリーニングを実施
3月24日	火	職員に県外での移動の自粛を要請
3月25日	水	病院行事自粛の期限を1ヶ月延長
3月25日	水	福井県2例目のコロナ陽性患者が入院（当院での1例目入院患者）
3月26日	木	体温が正確に測定できないため、発熱スクリーニングの体温測定をおでこから脇の下に変更
3月30日	月	新型コロナウイルス患者へのアビガン、オルベスコの投与について倫理委員会で承認
4月6日	月	救急外来での患者受け入れを中止（脳神経センターは継続）
4月13日	月	LAMP検査を開始（1日2回検査）
4月13日	月	救急部中西医師を福井県医療調整本部に派遣（その後は週1～2回の頻度で派遣）
4月14日	火	コロナ入院担当を9診療科から12診療科（呼吸器外科、皮膚科、耳鼻咽喉科を追加）とした
4月15日	水	LAMP検査を土日祝でも1日1回検査を実施できる体制に移行
4月16日	木	人間ドックで感染のリスクの有る手技中止とした
4月20日	月	新型コロナウイルス患者受け入れ病床を20床、重症用として集中治療室4床に変更
4月20日	月	救急外来を再開

沿革

概要

患者数・経営状況

委員会

トピックス

診療業務

医療社会事業部

看護部

事務部

業績

4月20日	月	脳神経センター内にハイケアユニットとして3床整備し運用を開始
4月20日	月	3-3病棟にコロナ検査の結果待ち用の病床を4床、疑似症の受け入れ用病床を10床整備
4月20日	月	人間ドックの受け入れを中止
5月11日	月	術前LAMP検査を開始
5月14日	木	福井県での緊急事態宣言の解除
5月24日	日	救急部中西医師が派遣されていた福井県入院コーディネートセンターの運用が終了
5月25日	月	人間ドックを再開
5月31日	日	災害対策本部解散、平時の診療体制を再開

### 3 災害対策本部会議の実施

1月31日の災害対策本部の設置以降、5月31日の災害対策本部解散まで「新型コロナウイルス感染症に関するブリーフィング」を午前8時15分より実施した（計69回開催）

### 4 集中治療室での重症患者の受け入れ体制の整備について

集中治療室で重症の新型コロナウイルス感染症の患者（4床）を受け入れるに当たり、グリーンゾーンとレッドゾーンに区別をするために、4月20日（月）に集中治療室内の養生を行い、より多くの新型コロナウイルス感染症患者を受け入れる体制を整えた。



（養生を行った集中治療室）

### 5 脳神経センター内におけるハイケアユニットの設置

集中治療室以外で大手術後の患者、重篤な救急患者等を受け入れるため、4月20日（月）より、1-5病棟の脳神経センター内にハイケアユニットを3床設置した。

### 6 リラクゼーションルームの設置運営について

新型コロナウイルス感染症に従事する職員の不安を少しでも和らげるため、当院のこころのケア要員で4月10日（金）より5月27日（水）までリラクゼーションルームを設置し、職員の不安解消に尽力した。

### 7 福井県入院コーディネートセンターへの派遣について

福井県からの要請に応じて、当院から日本DMAT隊員でもある中西救急部医師を4月13日（月）から18日（土）までは15日（水）を除く毎日、救急外来を再開した20日（月）からは、週2日の頻度で5月24日まで福井県庁内に設置された「福井県入院コーディネートセンター」に派遣した。

同センターでは、各医療機関の責任者との連絡調整、新型コロナウイルス陽性患者の搬送トリアージ（搬送先の選定、緊急度判断）を行った。

#### 8 入院患者の状況について（3月25日～5月末まで）

項目	患者数等
実患者数	31名
（うち5病棟入院患者）	28人
（集中治療室入室患者）	4人
延べ入院数	626人
人工呼吸器装着患者	4人
E CMO使用患者	2人
入院中	2人
退院	26人
死亡	3人

※一部の患者については5病棟、集中治療室の転室患者がいるため、実患者数と一致しない。

沿 革
概 要
患者数・経営状況
委員会
トピックス
診療業務
医療社会事業部
看護部
事務部
業 績

# 診 療 業 務

# 1. 内科

## 1. スタッフ

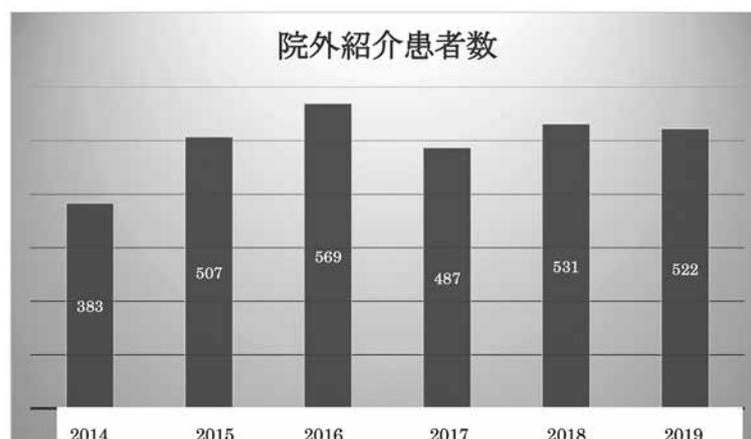
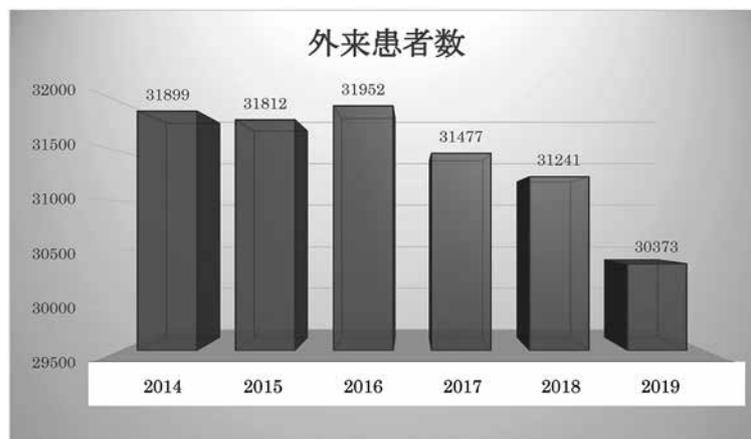
第1部長	神谷 健一	日本内科学会指導医・同認定医 日本血液学会指導医・同専門医
第3部長兼 検査・病理部長 兼 輸血責任医師	今村 信	日本内科学会指導医・同認定医 日本血液学会専門医 日本輸血学会認定医
第4部長	夏井 耕之	日本内科学会指導医・同専門医 日本糖尿病協会指導医
副部長	中野 雅子	日本内科学会専門医 日本糖尿病学会専門医
副部長兼 感染対策室副室長	木下 圭一	日本内科学会専門医 日本血液学会専門医 日本感染症学会 Infection Control Doctor
副部長兼 総合診療科副部長	安富 久記	日本内科学会専門医 総合診療専門医
医師	塚崎 光	日本内科学会認定医
医師	杉山 光寿	日本内科学会認定医
後期研修医	笠原 美沙子	

## 2. 診療

主たる診療領域は血液・免疫・内分泌・代謝分野であるが、これら関連疾患の診療も行っている。さらに、総合診療科や健診センター、自己血採取（検査部輸血課）、内科系救急医療などにも従事している。更に日本赤十字社福井支部救護班、大規模災害時救急（DMAT）にもスタッフとして派遣するなど多岐に亘り種々の業務を行っている。特に年度末の COVID-19 感染症に対する業務も負担している。外来診療は週5日間5診体制で血液・免疫部門2診、内分泌・代謝部門3診で行っている。内科外来診察室はすべて使用している状況である。また入院の病床定数は47で定床配置病棟数は2で（1-7病棟；45、1-8病棟；2）となっている。特殊施設として無菌室はこれまで通り1-7病棟に総数18床（個室10、4人用多床室2）が設置されている。

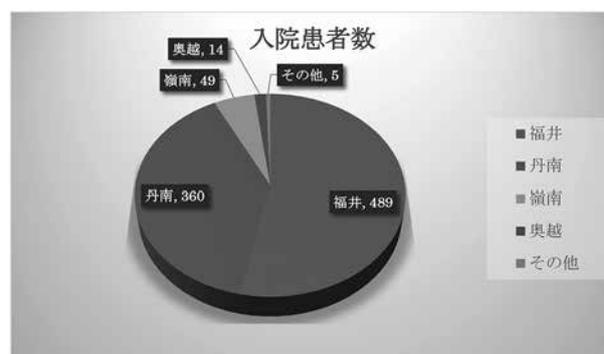
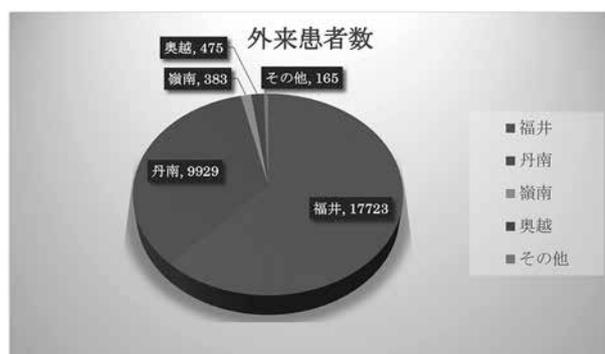
### 3. 実績

外来部門では、上記2領域の専門外来を中心に毎日行っている。延べ外来患者総数（内分泌代謝・血液免疫・一般その他）は、本年度30,373人（新患2,512人）で前年比-2.7%と減少し新患患者も6.2%減（前年31,241（新患2,677））であった。また前々年の2017年度31,477人と比較しても-3.6%と減少している。それ以前の3年間とも比較すると同様にこの3年間は減少傾向となっている（2016年度31,952人、2015年度31,812人、2014年度31,899人）。尤も今年度はCOVID-19感染症という特殊要因があり特に年度末に受診抑制並びに診療制限が加わったことによる影響が大きいと考えられた。その他の要因としては内科専門分化と総合診療科の設立、ここ数年来の経済的要因による患者側受診抑制、内科外来診察室不足による機会逸失なども考えられる。院外紹介患者に関しては本年度522人と前年531人比べ1.7%の微減、前々年487人に比べ7.1%の増加となった（2016年度569人、2015年度507人、2014年度383人）。初診患者数は2,479人と前年2,670人よりも7.2%減で、前々年度2,788人では11.1%の減少となった（2016年度3,169人、2015年度3,169人、2014年度3,054人）。この減少も前述の要因によるものと考えられる。ただ、新患患者の減少率に比較して外来患者延数や院外患者紹介数の減少率が小さいことは依然として再来数が非常に多いことと、地域医療に十二分に対応していることによると思われる。多数の外来患者が受診する内科外来には処置用スペースがないため検査・処置・輸血・注射等はすべて中央点滴室で実施している。内科外来と中央点滴室の看護スタッフが区分されているため十分なケアがなされないことも少なくない。また外来化学療法はすべての投薬が外来化学療法室において実施されるため患者導線が著しく長く化学療法患者の院内滞留時間は勿論だがその影響で他の患者の院内滞留時間も延長しておりこの改善が外来診療上喫緊の問題となっている。



入院部門では今年度在院患者延人数 18,100 人（前年比 13.6%増）で前年 15,939 人と前々年度 17,401 人も大きく上回った。過去 5 年間でも最も少なく（2016 年度 16,458 人、2015 年度 16,589 人、2014 年度 18,486 人）、2019 年度一日あたり平均入院患者数では 49.5 人（平均在院日数 19.1 日）と 2018 年度 43.6（平均在院日数 22.1）であった（2017 年度 47.6 人、2016 年度 45.1 人、2015 年度 45.4 人）。一方、平均在院日数は顕著に短縮している。医療圏別には福井、丹南、嶺南、奥越に分けると以下の通り（円グラフ）であった。入院となる患者割合は丹南地区が多い傾向にあり、入院を要するような福井地区の重症例は相対的に少なかった。入院患者の増加については重症患者数の増加が最大の要因であるが、検査・教育入院の寄与もある。尚、詳細に関しては各領域別の項でそれぞれ記載した。

外来は週 5 日間 5 診体制で血液・免疫部門 2、内分泌・代謝部門 3 で行っている。内科外来診察室はすべて使用している状況である。また入院の病床定数は 47 で定床配置病棟数は 2 で（1-7 病棟；45、1-8 病棟；2）となっている。特殊施設として無菌室はこれまで通り 1-7 病棟に総数 18 床（個室 10、4 人用多床室 2）が設置されている。



#### 4. 目標

血液悪性腫瘍に対する新規薬剤の登場や新しい作用機序を有する経口糖尿病薬の上市など当科に関する分野ではかつてない治療のパラダイムシフトが生じている。これら新規治療法を取り込み臨床実地に生かし、そして至極当然だが患者の医療ニーズに適切かつ十分に応えることである。地域医療や介護などとも一層連携を深め、当科との医療継続のみならず日常生活への円滑な復帰を図ることが重要であると考え。一朝一夕には実現しそうにはないが、そのような取り組みの姿勢は患者や地域の強い信頼を得ることにつながると確信する。それをどのように具体化するかは以下のそれぞれの分野別に記載した。また、ハード面ではこの数年来の問題である狭隘な外来スペースや長い患者導線、院内滞留の長時間化等を関係各部署と協力し改善・対処したい。（神谷）

## 【内分泌・代謝領域】

### 1. 診療

主に内分泌代謝疾患として、糖尿病全般、甲状腺・副腎・下垂体などを中心とする内分泌疾患、脂質異常症、肥満症、あるいは内分泌代謝疾患に起因する電解質異常、などの専門的診療にあたっている。これに付随・合併する各種疾患、および他科/他疾患に上記が合併している場合、あるいは他疾患治療に起因する高血糖ほか二次性糖尿病、そのほかの二次性内分泌疾患などについて、併診加療することで、病院全体の診療体制に深くかかわっている。各科患者の血糖・脂質・電解質コントロールという形での協力のほか、

- 1) 甲状腺疾患・副甲状腺疾患、ステロイドを使用する耳鼻科疾患について耳鼻科と
  - 2) 糖尿病腎症関連・電解質異常・糸球体腎炎ステロイド治療・副腎腫瘍性疾患において腎泌尿器科と
  - 3) 肝疾患関連代謝疾患、消化器がん化学療法ステロイド治療において消化器内科・外科と
  - 4) 糖尿病網膜症を始めとする糖尿病関連眼疾患、糖尿病をもつ眼科患者手術、甲状腺眼症ほかにおいては眼科と
  - 5) ごく少数ではあるが小児糖尿病患者の成長に伴う患者受け渡しや各種検査に関連して小児科と
  - 6) 悪性疾患化学療法関連で、上記のほか呼吸器科・呼吸器外科・産婦人科、腎泌尿器科と
  - 7) リウマチ疾患、関節疾患のステロイド治療ほかに関連して整形外科と
  - 8) 皮膚疾患のステロイド治療、糖尿病起因の皮膚疾患・感染ほかについて皮膚科・形成外科と
  - 9) 下垂体腫瘍性疾患の診断治療に関連して脳外科と
- 等々、各科連携を構築している。

### 2. 実績（病歴室のご協力による・2015～2019年度における）

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
A 総患者数 のべ人	17,715	17,402	17,328	16,675
B 他院からの紹介総数 のべ人	285	238	269	282
C 他科併診例を含む他院への逆紹介数（情報提供書数） のべ人	487	383	346	723
D 外来新患総数 のべ人	1,770	1,601	1,559	1,438
E 入院患者総数 のべ人	267	226	251	306
F 他科よりの院内対診数 のべ人	1,258	1,249	1,239	1,443

当該年度は、福井大学第三内科のご好意により、後期臨床研修医の笠原美紗子医師の赴任がかない、スタッフ一名増とできた。この影響は非常に大きく、各医師の負担軽減と新たな診療への幅の広がりを生んで、外来新患総数以外の各診療指標が前年度に比して大幅にUPした。特に逆紹介数と入院患者総数は、明らかにマンパワーの充実が物を言ったものである。院内対診数もかなり伸びたが、これは当科の病院内での任務遂行能力の向上を示す。一方新患総数の伸び悩みは要因不明であるが、あるいは年度末のコロナ禍が多少影響したかもしれない。

### 3. 目標

#### (1) 患者数/スタッフ体制について

先記載のごとく、関連大学医局、特に福井大学医学部との連携を深め、当院で初期研修→大学ほか

の施設でさらなる研修→当科での専門後期研修、という道筋を確かなものとし、2019年度は若手派遣の好影響で充実、更に次年度は、更に一名増を達成し、5人体制が実現しており、この充実を継続すべく努力を続けたい。

他科対診においては、その「サービス」をさらに一層充実させたい。各科の新規の医療、移植医療や分子標的薬を交えた新しい悪性疾患化学療法の発達を受けて当科診療も変化してきた。特に分子標的薬による抗がん治療において、1型糖尿病の発症が話題になっているほか、実際例として、免疫性のものと考えられる、下垂体-副腎機能低下症、ならびに甲状腺機能低下症の症例がより一層増加しており、対診を受けての甲状腺・副腎ホルモン補充療法が著効し、ひいては原疾患治療の継続・発展に寄与してきている。この領域は、昨今のがん治療事情を鑑みるに、より一層重要度が増すものと考えられる。適切なタイミングでの当科への対診紹介が望ましい。

さらに、原発性アルドステロン症を中心とする内分泌高血圧症へのアプローチを増やし、新規確定診断から外科的治療への橋渡しを増やしていきたい。

### (2) 新規設備・特殊検査などについて

新規のCGMS機器（リブレプロ）が保険収載後、症例数をさらに拡大中である。当科における医療技術向上のみならず、患者の高低血糖危険を避けてそのQOLを向上させるとともに、病院収入にも貢献していると考える。さらに、個人の家庭用自己血糖測定システム（フリースタイルリブレ）の保険収載と採用があり、今後の展開が期待される。さらに非侵襲的な血糖モニタは世界でさらなる発展をみせ、今後に期待ができる。

### (3) 治療法について

経口糖尿病薬では、SGLT2阻害薬の使用症例数がさらに著増、DPP4阻害薬とあわせあらたなスタンダードとなりつつある。双方とも、あまり体重をふやさない、腎保護的作用がある、とされ、特にSGLT2阻害薬の腎保護作用ならびに心保護作用についてはさらに大規模試験の結果が登場しており、今や2型糖尿病内服薬中、ビグアナイドと並んで、第一選択の地位を得つつある。最近の話題として、GLP-1の経口薬の登場がある。様々な作用機序の内服薬が登場し、その組み合わせで治療の幅が広まるとともに、各種の配合剤の登場によって組み合わせ方の多様化とともにDrug Complianceの改善が望まれるようになった。

インスリン製剤も、より効果の安定したアナログ製剤や、新規の混合製剤の使用、さらには薬価の低減に貢献すると思われるバイオシミラー製剤、あるいはGLP-1との配合薬、さらには現在の超速効型よりももっと速く効果を表す超々速効型とされるインスリンの登場が発表されている。先のCGMSとあわせ、より効果的で安全なインスリン療法を試みられる。さらに、持続皮下注インスリンポンプの使用件数も増加しておお、新規の若年1型糖尿病患者、妊娠希望の若年女性患者などでの使用拡大を検討中である。SAP方式の、CGMと組み合わせたポンプにおいては、さらにインスリン注入制御アルゴリズムの進歩があり、今後さらに自動性が高まり、疑似人工膵臓への道も開けている。

「Patient-Oriented」「Patient-Centered」という概念で、患者との治療同盟、患者自己決断の支援と尊重、より患者の状態に寄り添ったサポートという点は例年強調するところである。2019年最新版のアメリカ糖尿病学会のガイドラインにおいても、さらにこの点の重要性が強調されている。

高齢者医療については、高齢者血糖管理目標が、より浸透しつつある。血糖を下げることをのみを価値とするのではなく、全人的医療として、その個人の状況にあった治療目標の設定、また介護介入や訪問看護、デイケア、各種施設、あるいは認知症治療の専門家とのコラボレーションにより、現実的か

沿革

概要

患者数・経営状況

委員会

トピックス

診療業務

医療社会事業部

看護部

事務部

業績

沿革
概要
患者数・経営状況
委員会
トピックス
診療業務
医療社会事業部
看護部
事務部
業績

つ実現可能な方法の工夫と各職種との連携がますます必要度をましており、その点当科の役割もまた、時代とともに社会の中で「治療手段の提供」から「病とともにある人生」のパートナーへと変革が求められている。(夏井)

## 【血液内科領域】

### 1. 診療

血液内科は、神谷・今村・木下・塚崎の4名で外来および入院診療にあたっている。診療は血液疾患（血液悪性腫瘍および非腫瘍性血液疾患）を主とし、血液疾患以外には感染症（HIV感染症を含む）さらに地域医療に貢献するとの立場から広く疾患を受け入れて診療を行っている。外来は月曜日から金曜日まで毎日再来ならびに紹介患者や院内他科からの紹介を含めた新患に対応している。

血液疾患の治療領域では特に造血器悪性腫瘍の治療において分子標的療法や新規抗腫瘍剤、サイトカイン製剤の発展により治療法の改善や変化が見られ外来治療患者数は増加傾向にある。特に悪性リンパ腫や多発性骨髄腫の領域ではここ数年で新薬の開発・臨床応用が相次ぎ、各患者さんの年齢や全身状態にあった治療の選択肢が広がってきている。また非腫瘍性疾患の領域においても免疫性血小板減少症（ITP）ではCD20陽性の悪性リンパ腫に適応のあるリツキシマブが新たに適応追加となったり、再生不良性貧血では特発性血小板減少性紫斑病に適応のあるエルトロンボパグやロミプロスチムが適応追加となるなど各疾患で治療の選択肢は増えてきている。

入院治療は疾患の特殊性から専ら1-7病棟に集中させている。同病棟には造血幹細胞移植を行う高度無菌室2室と個室無菌室8室の計10室に加え、多床型無菌室2室8床の合計18床を配置し高度の感染症対策を施した環境で治療を行っている。個室無菌室のうち1室は陰圧室への変更が可能であり、隔離が必要な感染症治療の際に利用している。近年の化学療法を受ける患者数の増加により無菌室は常時フル回転で稼働している状況である。

治療内容に関しては、「日本血液学会造血器腫瘍診療ガイドライン」や「NCCNガイドライン、造血器腫瘍」などを参考に各疾患の標準的治療を行うことを第一としていることに加え、個別化をはかり各人に最適の治療となるよう心がけている。この分野の疾患は難治性疾患が多く院内他部門と協力し集学的治療を推し進めている。

入院患者は疾患別には血液悪性腫瘍が大部分を占め、急性白血病、慢性白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、骨髄異形成症候群の化学療法を積極的に行っている。悪性リンパ腫の化学療法症例数は変わらず多くかつ高齢者が多い状況は変わっていない。比較的若年で通院が可能な方には外来化学療法も積極的に推進している。

また、細胞治療も積極的に進めており輸血課と共同し造血幹細胞移植（自家末梢血幹細胞移植、同種骨髄移植など）を行っている。特に自家末梢血幹細胞移植併用大量化学療法は標準的治療となっており、適応のある患者さんには説明を十分行い積極的に取り入れている。なお、水曜日には医師による血液カンファレンスを行い、また月に1回、病棟スタッフ・リハビリ部門・栄養課と合同での血液カンファレンスも行いスタッフは患者ごとに疾患の状況などを共有できるよう指向している。

## 2. 実績

### (1) 患者数

#### 血液内科 実績

	2017年度	2018年度	2019年度
総患者数	12,210	12,118	12,000
被紹介総数	249	262	240
逆紹介数	324	279	396
外来新患総数	1,187	1,111	1,041
入院患者総数	517	441	611
在院患者総数 のべ人	14,264	12,127	13,978
他科よりの院内対診数	398	428	452

### (2) 病名別入院患者数

病名	2017年度	2018年度	2019年度
鉄欠乏性貧血	5	2	1
ビタミンB12欠乏性貧血 (PA)	4	3	2
巨赤芽球性貧血	1	2	1
自己免疫性溶血性貧血	4	4	1
再生不良性貧血	8	7	7
赤芽球癆	2	2	1
重症貧血	4	2	2
発作性夜間ヘモグロビン尿症	5	3	4
汎血球減少症	3	3	6
顆粒球減少症	0	0	1
骨髄異形成症候群	50	27	61
慢性骨髄単球性白血病	2	1	4
骨髄増殖性疾患	2	0	0
本態性血小板血症	1	0	2
血小板増多症	0	0	0
骨髄線維症	0	2	1
急性骨髄性白血病	36	25	22
急性リンパ性白血病	4	0	4
急性前骨髄球性白血病	11	2	2
慢性骨髄性白血病	5	11	4
慢性リンパ性白血病	7	1	1
ホジキンリンパ腫	3	5	17
非ホジキンリンパ腫	181	159	243
成人T細胞性リンパ腫	1	3	0

沿革概要 患者数・経営状況 委員会 トピックス	多発性骨髄腫	29	20	52
	原発性マクログロブリン血症	2	11	11
	アミロイドーシス	2	0	0
	芽球性形質細胞様樹状細胞腫	0	5	1
	組織球肉腫	2	0	0
	特発性血小板減少性紫斑病	12	13	18
	赤血球破碎症候群	0	2	0
	血小板減少症	2	6	3
	播種性血管内凝固症候群	1	1	0
	血友病 A	0	0	0
	後天性血友病	1	2	1
	アンチトロンビンⅢ欠乏症	1	0	0
	間質性肺炎	2	1	0
	発熱性好中球減少症	0	3	1
	成人スチル病	1	0	1
	TAFRO 症候群	0	1	1
	顕微鏡的多発血管炎	2	0	0
ベーチェット病	1	1	0	

(3) 造血幹細胞移植

	2017 年度	2018 年度	2019 年度
末梢血幹細胞移植	6	5	6
骨髄移植	0	0	0
合 計	6	5	6

3. 目 標

- (1) 地域医療の一翼を担うべく広く血液疾患および関連疾患を受け入れ、地域完結型医療を目指す。
- (2) 細胞治療の一層の充実を図るため特に造血幹細胞移植を輸血課の協力のもと推し進める。
- (3) 患者の高齢化に伴い新規分子標的薬や支持療法などを積極的に用いることにより治療強度を極端に落とすことなく ADL が保持され副作用の少ない治療選択を行う。(木下)

## 2. 精神科（ストレス診療科）

### 1. スタッフ

部長（兼） 高野 誠一郎  
（本：神経内科部長）

（非常勤） 渡邊 央 医学博士（名古屋大学）  
精神保健指定医（厚生労働省）

高橋 哲也  
山森 正二  
武藤 悠平

心理判定員  
（常 勤） 寺井 堅祐 臨床心理士

### 2. 診 療

当科の渡邊医師は、緩和ケア専従となり、緩和ケア病棟の患者さんの心の問題への取り組みを続けております。

当院のストレス診療科は、旧来の表現を借りて言うならば、いわゆる「総合病院における精神科」として、身体他科に入院中の患者をめぐるのリエゾン精神医療が中心です。有態に言えば、病棟において治療管理上困難を極めている患者についての加療、コンサルテーションが主で、その需要に答えるべく対応してきました。しかし、現時点で次のような問題があります。以下の2点です。

1) 「医師力」が満たされておらず、「診て欲しいその時に、うまく医師がいてくれない」状態のままであること。

身体他科に比べて問診に頼る部分が圧倒的に大きく、患者一人当たりにも多大な時間を要することは今さら言うまでもないことですが、問題は、それを満たすだけの「医師力」（中心となるのは医師稼働数）が充足されていないことです。つまり、常勤医師がおらず、非常勤医師の配置も、需要に応ずるに足る診療日の設定がなされていないこと。言い換えるなら、「診て欲しいその時に、うまく医師がいてくれない」ということです。このような状態の解消がまず求められます。

2) 精神科診療に対する理解と協力の関係が看護師との間で十分に形成されていないこと。

精神科診療では、「患者を分かろう」とする場合には、すなわち、単なる「レッテル張りの診断」ではなく、『対応指針』を導き出すという意味での診断』を行おうとする場合には、病棟での患者のさまざまな様子の記載が、その大きな手がかりを与えてくれます。ところが、病棟から精神科へ対診依頼が出されているにもかかわらず、診断上有力な材料となるはずの病棟看護記録上に所見の記載がないことが多く、あるいは様子を尋ねても十分把握されていないとか、答えられないとかということが多く見受けられ、診療がスムーズに行かないことが多々あります。これは、看護師は精神科診療に寄与しなければならないのに、していない、という趣旨からの指摘ではありません。むしろ、看護活動にとっても精神科診療にとっても共通して求められる『患者を分かろう』とする姿勢の「欠如」を物語るものとして問題視される必要があります。そして、精神科診療にとっても、看護師にとっても、両者の関係が、お互いの仕事が活かされあうような関係として成り立っていない

い、ということの意味するものであり、さらに別の角度から言うと、看護者の「看護的観察力・把握力」の「欠如」という事態であります。いずれにせよ、これらの問題の鍵は、看護者と精神科診療との間の相互の協力関係の中にあることは間違いありません。それ故、当院の看護力と精神科診療力とのそれぞれの向上のために、今後、相互の協力関係を足掛りにした解決に向けての取り組みが求められます。

3. 実績（令和元年度 対診依頼 実績）

総対診数	493 件
------	-------

令和元年度の救急患者の入院3日以内における入院精神療法

4. 目 標

<令和元年度 精神科4大重点目標>

- 1) 精神科医師空白曜日をできるだけ少なくして、可能な限り、「診て欲しい時に、いつも精神科医師がいてくれる」状態に近付けるよう努力します。
- 2) 『患者を分かろうとする』という姿勢を自分達のものにするという観点から、看護者と精神科診療とにおける理解が、お互いに活用され合えるようにするために、場合によっては、看護者（看護部）との勉強会を設けて、看護者との意思疎通の機会を作り出し、相互の協力関係を築き上げていきます。
- 3) リエゾン精神医学の一步踏み込んだ形として、精神腫瘍学的アプローチに、今まで以上に積極的に取り組んでいきます。
- 4) 入院患者で精神疾患を併存しておられる方も多くおられます。救急入院された患者さんに対して、3日以内に入院精神療法を開始できるように体制を整えます。

沿  
革

概  
要

患者数  
経営状況

委  
員  
会

ト  
ピ  
ク  
ス

診  
療  
業  
務

医  
療  
社  
会  
事  
業  
部

看  
護  
部

事  
務  
部

業  
績

# 3. 神 経 内 科

## 1. スタッフ

副院長兼部長 高野 誠一郎

日本内科学会認定内科医・総合内科専門医  
日本神経学会認定神経内科専門医、指導医  
日本脳卒中学会専門医  
日本臨床神経生理学会認定医（脳波）（筋電図・神経伝導）  
日本認知症学会認定専門医、指導医  
日本プライマリ・ケア連合学会認定医

副部長 今村 久司

日本内科学会認定内科医・総合内科専門医  
日本神経学会認定神経内科専門医、指導医  
日本てんかん学会 専門医  
日本臨床神経生理学会認定医（脳波）

医師 早瀬 史子

日本内科学会認定内科医・総合内科専門医  
日本神経学会認定神経内科専門医  
日本認知症学会認定専門医  
認知症予防学会専門医

後期研修医 柳田 成史 2020年3月31日退職

後期研修医 長谷川 華子 2020年3月31日退職

## 2. 診 療

2019 度、当院神経内科診療体制は、高野副院長、今村副部長、早瀬医師、柳田医師、長谷川医師の 5 人で神経内科の診療を行いました。

## 3. 実 績

入院数 361 (299) 人、脳卒中 172 (138) 人、DPCI+II 49.6 (45.0) %，紹介患者数 686 (623) 人、逆紹介患者数 1,249 (846) 人（）内は 2018 年度のため大幅な増加を達成できました。  
脳卒中入院は神経内科+脳外科では 529 人

## 4. 目 標

2006 年 6 月に脳神経外科と共同で創設した、脳卒中センター（Stroke Care Unit）を継続し、適切な脳卒中治療を行うことを第一の目標としました。当院の場合、神経内科と脳神経外科の医師で、24 時間診療体制を継続しています。医師、看護師、リハビリ（理学療法士、作業療法士、言語療法士）、

沿  
革

概  
要

患者数・  
経営状況

委  
員  
会

ト  
ピ  
ッ  
ク  
ス

診  
療  
業  
務

医  
療  
社  
会  
事  
業  
部

看  
護  
部

事  
務  
部

業  
績

沿革
概要
患者数・経営状況
委員会
トピックス
診療業務
医療社会事業部
看護部
事務部
業績

ソーシャルワーカーが共同して、治療に当たっています。また、認知症、パーキンソン病、頭痛、てんかん、多発性硬化症、神経筋疾患など、神経内科領域で頻度の高い疾患について、適切な治療を全ての医師がおこなえるよう、研鑽を行っています。

## 4. 呼吸器内科

### 1. スタッフ

第1部長 兼 呼吸器科長 兼 感染管理室長	赤井 雅也	日本呼吸器学会認定呼吸器専門医、指導医 日本内科学会認定内科医、総合内科専門医、指導医 日本結核・非結核性抗酸菌症学会結核・抗酸菌症認定医、 指導医 ICD 制度協議会認定インフェクションコントロール科 日本医師会認定産業医 医学博士（福井医科大学）
第2部長	出村 芳樹	日本呼吸器学会認定呼吸器専門医、指導医 日本内科学会認定内科医、総合内科専門医 日本呼吸器内視鏡学会認定気管支鏡専門医、指導医 日本アレルギー学会認定アレルギー専門医、指導医 日本臨床腫瘍学会暫定指導医 日本プライマリケア連合学会プライマリケア認定医、指導医 医学博士（福井医科大学）
第3部長	塩崎 晃平	日本呼吸器学会認定呼吸器専門医 日本内科学会認定内科医、総合内科専門医 日本呼吸器内視鏡学会認定気管支鏡専門医 日本アレルギー学会認定アレルギー専門医 日本禁煙学会認定禁煙専門医 医学博士（福井医科大学）
医師	多田 利彦	日本内科学会認定内科医 日本呼吸器学会認定呼吸器専門医
医師	田畑 未央	日本内科学会認定内科医
後期研修医	大井 昌寛	日本内科学会認定内科医
後期研修医	中嶋 康貴	日本内科学会認定内科医

令和元年度は人事に変動は無く、呼吸器内科としては7人体制維持となっています。

### 2. 診療

令和2年3月31日現在、当科は2-6病棟、3-3病棟、5病棟、PCUに定床を持ち、計63床（結核10床を含む）です。診療内容としては、超音波気管支鏡、特殊光気管支鏡、仮想気管支鏡システム

沿革

概要

患者数・経営状況

委員会

トピックス

診療業務

医療社会事業部

看護部

事務部

業績

沿革概要
患者数・経営状況
委員会
トピックス
診療業務
医療社会事業部
看護部
事務部
業績

などの最新の呼吸器内視鏡が運用開始となって9年目に入り、肺癌をはじめとする各種疾患の低侵襲での早期診断や診断率向上に寄与、定着しています。

肺感染症は、各種疾患の最終的・末期的な病態として現れることが多く、従って致死性・難治性で難渋させられる症例が増えてきています。なかでも抗癌剤やステロイド剤・免疫抑制剤使用患者の日和見感染や、MRSAなどの多剤耐性菌対策が重要です。当科でも他科やICTと連携し、また各種ガイドラインに則って治療を行っています。

慢性感染症としての結核は、他施設の結核病棟が廃止・縮小される中、県内での当科の重要性が増してきています。病棟は結核の感染様式を考慮して陰圧個室の多い病棟です。初回の開放性結核はもちろんの事ですが、多剤耐性、老人、重症初感染例に加えて外国人の結核も多く見られるようになりました。集団発生例・若年発症例など貴重な症例も多く、治療に難渋する事もしばしばです。肺非結核性抗酸菌症は近年罹患率が上昇しており、中でも9割弱を占めるMAC症は中年の女性に多く、当科でも難治例が年々増加してきています。

COPD（慢性閉塞性肺疾患）は今後しばらく患者数が右肩上がりに増加すると見られています。当科ではCOPDに対して、包括的呼吸リハビリテーションや在宅酸素療法、在宅NPPV療法なども含めて積極的に取り組んでおります。特に前者はリハビリ科や栄養課にも御理解頂き、対象患者を増やしているところです。在宅酸素療法、在宅NPPV療法では60人を超える患者さんが治療を行っています。

気管支喘息治療も進歩しており、吸入ステロイド薬・長時間作用型β2刺激薬、長時間作用型抗コリン薬、IgEやIL-5に対する抗体薬により喘息コントロール状態は飛躍的に改善しました。そのため救急入院の頻度は減りましたが、外来通院患者数は北陸でもトップクラスです。また、ここ10年以上、喘息死は当院では0です。H28年度から立ち上げたBronchial Thermoplasty（気管支温熱療法）も順調に症例数が伸びています。気管支鏡で施行しますが、北陸ではまだ5施設のみでしか行っておらず、しかも局麻下で行っているのは当院のみです。喘息の病状の安定や薬の減量が長期に渡って期待できます。

肺癌はいまや当科入院患者の7割を占めるに至っています。気管支鏡検査数も2012年以降は200-300件前後で推移しており増加傾向です。当科では肺癌に対して積極的に取り組み、呼吸器外科・放射線科と連携して手術・化学療法・放射線療法を組み合わせた集学的な治療を展開しています。また、近年個別化治療も進歩し、当科でも積極的にEGFR遺伝子変異やEML4-ALK融合遺伝子異常などのdriver mutationやPD-L1発現を検査し、分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬の適応を考慮しています。ステント挿入など内視鏡的インターベンションも、出村部長を中心に積極的に行っています。滲出性胸水症例に行う局麻下胸腔鏡検査も2004年に導入以降、400例を越えて胸水の原因診断率が飛躍的にあがりました。胸腔鏡も含めて、冒頭に述べたように最新の呼吸器内視鏡も導入され、最近では「咳ゼロ気管支鏡」をモットーにして、患者に苦痛を与えない気管支鏡を目指しています。今後も県内では当科が先頭に立って肺癌治療に取り組むと考えています。

びまん性肺疾患では、特発性間質性肺炎や、好酸球性肺炎、過敏性肺臓炎などアレルギーの関与した病態に対して今関心が集まっていますが、まだまだ新しい知見の多い部門で、これから診断・治療に大きな発展が期待されます。睡眠時無呼吸症候群は、専門外来を設け積極的に取り組んでいます。その結果、閉塞型に対する夜間の鼻マスク式陽圧呼吸(nasal CPAP)療法導入の患者が増加しています。今年度も病院の方針に協力すべく、在院日数の短縮、病診連携の緊密化、DPCへの対応等を進めていきます。呼吸器内科としては、外来・入院ともに比重が増え多忙ではありますが、責任の重さを痛感し頑張っていく所存です。令和2年1月からパンデミックを起こしたCOVID-19に関しては、当院1例目の受け入れが年度末であったため、次年度年報で詳報したいと思います。

### 3. 実績

気管支鏡検査施行件数（病棟での処置内視鏡数は除く。TS は内数で局麻下胸腔鏡検査）

2017年：190件（TS 15件）

EBUS-GS：62件

EBUS-TBNA：36件

末梢TBNA：3件

BAL：4件

Hot biopsy：16件

金マーカー留置：2件

ステント留置：2件

EWS：1件

Thermoplasty：21件

2018年：214件（TS 21件）

EBUS-GS：81件

EBUS-TBNA：62件

末梢TBNA：7件

BAL：9件

Hot biopsy：18件

金マーカー留置：1件

ステント留置：1件

EWS：1件

バルーン拡張：2件

Thermoplasty：9件

2019年：207件（TS 23件）

EBUS-GS：99件

EBUS-TBNA：60件

末梢TBNA：7件

BAL：7件

Hot biopsy：3件

異物除去：1件

ステント留置：1件

EWS：1件

インジゴ噴霧：1件

Thermoplasty：4件

沿革

概要

患者数・経営状況

委員会

トピックス

診療業務

医療社会事業部

看護部

事務部

業績

# 5. 消化器内科

## 1. スタッフ

第1部長	山崎 幸直	日本消化器内視鏡学会専門医・指導医 日本消化器病学会専門医・指導医 日本内科学会認定医・指導医 日本カプセル内視鏡学会指導医 福井大学臨床教授 TNT 講習受講 緩和ケア研修会終了
第2部長	道上 学	日本消化器内視鏡学会専門医・指導医 日本消化器病学会専門医 日本肝臓学会専門医 日本内科学会認定医・総合内科専門医 日本プライマリ・ケア連合学会認定プライマリ・ケア指導医 TNT 講習受講 緩和ケア研修会終了
副部長	里見 聡子	日本消化器内視鏡学会専門医 日本消化器病学会専門医 日本肝臓学会専門医 日本内科学会認定医・総合内科専門医 TNT 講習受講 緩和ケア研修会終了
副部長	松永 心祐	日本消化器内視鏡学会専門医 日本消化器病学会専門医 日本内科学会認定医・総合内科専門医 TNT 講習受講 緩和ケア研修会終了
副部長	三原 美香	日本消化器内視鏡学会専門医 日本消化器病学会専門医 日本内科学会認定医 TNT 講習受講 緩和ケア研修会終了
医師	西山 悟	日本消化器内視鏡学会専門医 日本消化器病学会専門医

		日本内科学会認定医 TNT 講習受講 緩和ケア研修会終了
医師	鳥居 志充	日本内科学会認定医 TNT 講習受講 緩和ケア研修会終了
医師	保坂 亮介	
非常勤講師	久津見 弘	
非常勤医師	畑 正典	

## 2. 診 療

令和元年度は齋藤萌加医師の退職と山崎剛明医師の内科専攻医カリキュラムの一環に伴う一時退職（上半期 福井大学救急部、下半期 福井厚生病院内科勤務）のため、スタッフが2名減となる予定であったが、諏訪赤十字病院から専攻医3年目の保坂亮介医師が加わってくれたため、8人体制での診療を行うことが出来た。そのため、令和元年度も北海道置戸赤十字病院への医師派遣（1ヶ月）を担当し、引き続き日赤グループ医師不足施設への医師派遣協力を行なった。

毎月第1金曜日に開催している内視鏡室カンファレンスでは検査待ち時間削減、時間内検査終了、高水準かつ安全安楽な検査施行に必要な事項について継続的に話し合い、1日の総検査件数が70件を超える日も散見される中、時間内業務終了を達成出来る日が多くなり、確実な成果を挙げた。

令和元年度は医師数が1名減での診療となったものの、上下部消化管内視鏡検査総数は各々微減に留まったが、消化器特殊内視鏡手技においては、これまで経年的に増加傾向にあったERCP関連手技が約80件減少し、内視鏡的胃粘膜下層切開剥離術、内視鏡的食道静脈瘤硬化療法、食道・胃十二指腸・大腸ステント留置術も各々減少した。

働き方改革の一環として、前年度から年間5日の有給休暇取得が義務づけられたが、今年度は12月までが取得期限に指定され、例年の夏季休暇取得期間6月～10月も7月～9月に短縮されたため、スタッフの夏季休暇取得が3ヶ月間に集中し、かつ、10月には北海道置戸赤十字病院への医師派遣もあり、7月から10月までは概ね7人体制での診療を余儀なくされた。そのため、7人勤務体制時に行っていた内視鏡検査予約制限を要した日数が増加したことも、内視鏡検査減少の要因の一つと考えられた。

学術面では、日本消化器内視鏡病学会総会に5題、日本消化器病学会大会に1題、日本消化器病学会および日本消化器内視鏡病学会支部例会に計4題の演題と日本消化器がん検診学会東海北陸地方会シンポジウムに1題を発表した。

また、2017年に北陸で初めて神経内科が導入した重度パーキンソン病患者への持続薬物投与方法であるLCIG治療において、当科が胃瘻造設および十二指腸チューブ留置に全面的に協力してきたことから、消化器内科としての経験を「LCIG Gastroenterologists Expert Exchange Program 2019 in Osaka」、「aPD 研究会 2019 関西」で発表した。

沿革
概要
患者数・経営状況
委員会
トピックス
診療業務
医療社会事業部
看護部
事務部
業績

### 3. 実績

#### 2016年度から2019年度までの検査件数

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
上部消化管内視鏡検査	9,947回	10,584回	11,089回	10,713回
上部超音波内視鏡検査	51回	103回	87回	64回
EUS-FNA	29回	31回	41回	35回
内視鏡的消化管止血術	128回	125回	116回	108回
内視鏡的粘膜下層切開剥離術	85回(胃)	101回(胃)	108回	87回
	9回(食道)	8回(食道)	12回(食道)	16回(食道)
内視鏡的食道硬化療法	34回	29回	40回	14回
経皮内視鏡的胃瘻造設術	26回	26回	35回	36回
食道ステント留置	2回	9回	11回	1回
胃十二指腸ステント留置	24回	13回	12回	4回
カプセル内視鏡	28件	22回	26回	19回
下部消化管内視鏡検査	2,433回	2,335回	2,484回	2,427回
内視鏡的ポリペクトミー	109回	239回	480回	433回
内視鏡的粘膜剥離術(ESD)	23回	11回	29回	16回
内視鏡的粘膜切徐術	421回	356回	305回	326回
下部消化管ステント留置術	29回	32回	20回	15回
胆膵内視鏡検査(検査数重複あり)				
ERCP	359回	354回	388回	309回
胆道ステント留置	184回	182回	180回	143回
内視鏡的乳頭切開術	152回	147回	159回	120回
胆道結石除去術	84回	79回	112回	90回
小腸内視鏡	29件	30回	16回	11回

## 6. 循環器内科

### 1. スタッフ

第1部長 兼 医療技術部長	吉田 博之	日本内科学会 総合内科専門医・指導医 日本循環器学会 専門医
第2部長 兼 救急部長	坪川 明義	日本内科学会 総合内科専門医 日本循環器学会 専門医 日本心血管インターベンション学会指導医
副部長	血澤 克彦	日本内科学会 総合内科専門医 日本循環器学会 専門医
副部長	榊原 圭一	日本内科学会 総合内科専門医 日本循環器学会 専門医 日本心臓リハビリテーション学会指導士
医師	三好 真智子	日本内科学会 認定医 日本循環器内科 専門医
医師	片岡 達宏	日本内科学会 認定医

### 2. 診療

狭心症、心不全、不整脈を中心とする循環器疾患の診断と治療のほか、24時間体制で急性心筋梗塞に対応し、福井県急性心筋梗塞医療体系では急性期に対応する病院として認定されています。心臓リハビリテーション指導士の協力のもと、多職種カンファレンスで情報共有しながら心大血管リハビリテーション1の認定施設として治療を提供しています。入院患者の8割以上にクリニカルパスが適用され、質と安全を確保しています。医師、看護師、管理栄養士、心臓リハビリテーション指導士、医療ソーシャルワーカーによる心臓病教室を開催しアドヒアランスの向上に努めています。心臓カテーテル治療の high volume center として、島津製心血管撮影装置や血管内超音波装置 (IVUS)・光周波数領域画像 (OFDI) などを用いた質の高い治療と、橈骨動脈アプローチによる低侵襲治療を心掛け、診療実績は日本循環器学会や福井県冠動脈疾患治療を考える会に公開しています。冠動脈の他、下肢や腎臓のカテーテル治療にも対応しています。血管エコーによる深部静脈血栓症や慢性動脈閉塞症の診断や、冠動脈 CT・心筋シンチグラフィ・心臓 MRI・心臓 PET-CT で心臓の形態的、機能的診断を行っています。冠動脈 CT は不整脈対応型 256 スライス (128 列) のため前投薬なく心房細動患者にも適用可能で、当日検査にも対応しています。ペースメーカー手術では生理的ペーシングに心掛け、年2回ペースメーカーの予約外来で定期検査を行うほか、対応するペースメーカーではインターネットを介した遠隔モニタリングをしています。また不整脈診断のため、3週間装着可能な長期間ホルター心電図や皮下植込型の小型心電計デバイス手術も行っています。当院慢性心不全認定看護師による心不

全看護外来や、福井循環器病院医療総合マネージャーによる予約制の心臓血管外科外来も行っていません。

### 3. 実績

	2017年	2018年	2019年
ホルター	680	585	485
UCG	4,170	4,350	4,233
心筋血流シンチ	230	379	289
冠動脈CT	491	467	358
心臓MRI	29	28	33
PCI	184	229	202
緊急PCI	55	61	68
待機PCI	129	168	134
PTA	53	47	67
心不全患者	239	230	210
心不全入院中死亡	19	20	22
入院患者	796	828	794
平均入院日数	13.2	13.1	13.8

(1 - 12月)

#### 2019年 急性心筋梗塞治療内容

AMI年間症例数 54件 (うち救急車搬送 28件)

ST上昇型 32件

非ST上昇型 22件

院内死亡率 11%

AMIへの緊急PCI実施件数 50件 (93%)

ST上昇患者の救急車到着から再灌流までの平均所要時間 78分

### 4. 目標

急性期医療を担い、地域の医療機関と協働して医療を行います。

高度医療機器を用いた診断と治療を提供します。

慢性心不全急性増悪患者の教育や入院に対応します。

# 7. 小 児 科

## 1. スタッフ

部長	渡邊 康宏	日本小児科学会専門医・指導医・臨床研修指導医
副部長	平野 聡子	(令和元年12月から) 日本小児科学会専門医 臨床遺伝専門医
副部長	玉村 宗一	日本小児科学会専門医・指導医・臨床研修指導医 日本腎臓病学会腎臓専門医 ICD 制度協議会認定インフェクションコントロール・クター 本周産期新生児医学会新生児蘇生法 「専門」コース(Aコース)インストラクター 日本旅行医学会認定医
医師	野村 詠史	
後期臨床研修医	宮永 光次	(令和元年9月まで)
後期臨床研修医	清水 沙知	
非常勤医師	中田 庸平	
非常勤医師	安富 素子	
非常勤医師	森 夕紀子	
非常勤医師	杉原 啓一	
非常勤医師	奥島 華純	

人事面では臨床後期研修医を2名引き受け、外来医療も行える若手小児科医を養成するための、県内で数少ない研修病院の役割を担っている。

## 2. 診 療

診療面では、小児腎臓に関しては、玉村医師が森医師や腎臓泌尿器科医師の協力を得つつ診療に当たり、高い専門性を発揮している。月1回、福井大学病院小児科の腎臓外来も行っており、また大学の後進の指導・育成や他院医師からの相談対応なども行っており、県内の中心的な役割を担っている。腎生検数は年10-15件で推移しており、一定数を保っている。渡邊は神経・発達を中心に診療し、難治性てんかんなどを含め広い分野の症例を担当している。近年多い慢性頭痛・腹痛、不登校など心身症への対応も、臨床心理士と連携をとり行っている。平野医師は幅広く一般小児科診療を行いつつ、専門の内分泌・代謝疾患患児を担当し、また遺伝性疾患のカウンセリングにも力を入れている。野村医師は一般小児科臨床の経験をつみながら、アレルギーをサブスペシャリティとすべく専門分野の診療も行い、特に食物アレルギー児の食物負荷試験を積極的に行い診断・閾値判定に努めている。宮永医師、清水医師は入院症例の主治医を主に担当しながら、一般外来、予防接種、乳児健診などプライマリーケアができるように研鑽を積んだ。

良性疾患を中心とした血液・腫瘍性疾患は必要に応じ、大学等とも連携しながら診療に当たっている。予防接種も、アレルギーや基礎疾患のある児への接種や、渡航ワクチンなど積極的に専門外来で実施している。併存疾患を同時に治療するなど、患者中心の医療が行えることも当科の特色と言える。

新生児関連では、当院は引き続き地域周産期母子医療センターとして、人工呼吸管理が必要な児も含め対応している。新生児搬送や総合周産期母子医療センターからのバックトランスファーも積極的に受け入れ、福井県の周産期医療が円滑に進むべく努力している。産科とも定期的にカンファレンスを行い、合併症妊娠例への対応も行っている。

他、院内活動として、当院スタッフ向けの病児保育の運営に参加しており、よりよい職場環境がづくりに役立っている。またスタッフが早く始業できるように、8時15分から病児保育を希望する児の診察ができる体制を整えている。

外科系他科の小児が入院した際、必要に応じ、全身管理目的で小児科医も担当となり、異常時の早期発見に努めている。

患者動向は予防接種を含めた予防医学の進歩や、医療内容の進歩による慢性疾患の外来管理の改善により、診療の外来シフトは小児科で着実に進行している中、入院患者数が増加した。

病院小児科外来は今後、医学の進歩から予防・感染管理・慢性疾患管理が重要になると考えられる。

小児救急体制に関しては、引き続き月・木曜日の週2日間、嶺北小児救急輪番病院を担当し、また紹介は365日受け入れるなど、地域医療に貢献できるように努力している。1次救急を担う福井県こども急患センターへの出務も行っている。

### 3. 実績

	2019年度
小児科入院患者総数	802
1. 一般病棟・ICU入院患者数	700
呼吸器疾患	
気管支炎・細気管支炎・肺炎	173
上気道炎・クループ症候群（Flu含む）	58
扁桃炎・扁桃周囲膿瘍	11
中耳炎	4
その他（間質性肺炎など）	3
消化器疾患	
急性胃腸炎・脱水症	73
腸重積	2
その他（NASH、虫垂炎、GERDなど）	9
神経筋疾患	
熱性痙攣 単純型	38
熱性痙攣 複雑型	22
無熱性痙攣	4
てんかん	30
片頭痛・周期性嘔吐症	6
睡眠時無呼吸検査（PSG）	8
その他（痙攣重積、脱髄性疾患など）	5

腎疾患	
ネフローゼ症候群	13
慢性腎炎	4
腎生検	6
尿路感染症	9
免疫・アレルギー疾患	
気管支喘息	19
食物アレルギー（食物負荷試験）	52
アナフィラキシー	9
川崎病	16
IgA 血管炎	4
多形紅斑	4
その他（菊池病など）	6
血液・腫瘍疾患	
免疫性血小板減少性紫斑病	5
乳児血管腫（ヘマンジオル導入）	6
その他	2
内分泌・代謝	
下垂体ホルモン分泌負荷試験	8
その他（糖尿病、ケトン性低血糖など）	10
その他の感染症（蜂窩織炎、手足口病など）	25
心身症・精神疾患	7
MRI、シンチなど鎮静下の検査目的	20
その他（不明熱、薬物中毒など）	29
2. ベビーセンター入院患者数	102
早産児	21
低出生体重児（早産児を除く）	11
新生児呼吸障害（TTN、MAS など）	18
新生児黄疸	26
新生児低血糖（高インスリン血症を含む）	3
新生児感染症（疑いも含む）	4
哺乳不良・体重増加不良	5
先天性心疾患・不整脈	3
その他の先天奇形（口蓋裂など）	5
その他	6

# 8. 外 科

## 1. スタッフ

平成 31 年 3 月 31 日をもって大西竜平医師が退職した

第 1 部長 廣瀬 由紀 日本外科学会 専門医、指導医 日本消化器外科学会 専門医、指導医  
日本消化器病学会 専門医、指導医 日本乳癌学会 専門医  
日本肝胆膵外科学会 高度技能指導医

第 2 部長 藤井 秀則 日本外科学会 専門医、指導医 日本消化器外科学会 専門医指導医  
日本消化器病学会 専門医、指導医 日本乳癌学会 認定医  
日本内視鏡外科学会 技術認定医

第 3 部長 田中 文恵 日本外科学会 専門医 日本乳癌学会 専門医

第 4 部長 青竹 利治 日本外科学会 専門医、指導医 日本消化器外科学会 専門医、指導医  
日本消化器病学会 専門医 日本乳癌学会 認定医  
日本内視鏡外科学会 技術認定医

第 5 部長 川上 義行 日本外科学会 専門医、指導医 日本消化器外科学会 専門医  
日本消化器病学会 専門医

第 6 部長 土居 幸司 日本外科学会 専門医、指導医 日本消化器外科学会 専門医、指導医  
日本消化器病学会 専門医、指導医 日本消化器内視鏡学会 専門医  
日本乳癌学会 認定医 日本肝胆膵外科学会 高度技能指導医

副部長 吉羽 秀麿 日本外科学会 専門医 日本消化器外科学会 専門医、指導医  
日本内視鏡外科学会 技術認定医

医師 加藤 成 日本外科学会 専門医

医師 平崎 憲範 日本外科学会 専門医 日本消化器外科学会 専門医  
日本内視鏡外科学会 技術認定医

## 2. 診 療

令和元年の手術件数は合計で 910 件であった。手術の内訳では全国的な傾向と同様であり、悪性疾患においては大腸癌が最も多く、次に乳癌、そして胃癌の手術であった。麻酔別の手術件数では全身麻酔が 775 件で著明に増加し、腰椎麻酔と局所麻酔は共に前年と比較して著変はなかった。緊急手術は昨年は 205 例であり全体の手術の約 22.5%であった。

外科の診療以外ではチーム医療としての活動として、栄養管理は NST(Nutritional support team) と

して広瀬医師、川上医師が、また感染管理では ICT(Infection control team) に土居医師が活動している。  
そしてさらに緩和医療に藤井医師、吉羽医師が活動を継続している。

### 3. 実績

#### 外科手術実績

手術別手術症例数	2017年	2018年	2019年
食道切除術	3	6	3
乳房切除術	32	35	54
乳房温存術	35	36	56
胃全摘術	14	8	12
噴門側胃切除術	0	1	0
幽門側胃切除術	18	12	13
腹腔鏡下胃切除術	7	5	7
腹腔鏡下幽門側胃切除術	15	17	15
腹腔鏡下噴門側胃切除術	3	2	8
腹腔鏡下胃全摘術	2	5	2
結腸切除術	39	22	1
前方切除術	2	1	3
直腸切除術	7	3	1
腹腔鏡下結腸切除術	65	69	28
腹腔鏡下直腸切除術	35	28	3
腹腔鏡下大腸切除術	0	0	5
虫垂切除術	10	1	92
腹腔鏡下虫垂切除術	60	57	18
痔手術	23	17	24
肝部分切除術	2	3	1
肝亜区域切除術	4	1	2
肝区域切除術	2	3	68
肝葉切除術	8	2	17
胆嚢摘除術（開腹）	12	12	2
腹腔鏡下肝切除術	10	14	1
腹腔鏡下胆のう切除術	120	112	5
臍頭（十二指腸）切除術	14	14	2
臍尾側切除術	7	8	5
単径大腿ヘルニア術	44	40	44
腹腔鏡下单径大腿ヘルニア手術	63	82	90
腹腔鏡下臍体尾部腫瘍切除術	1	2	0
	643	624	741

沿革

概要

患者数・経営状況

委員会

トピックス

診療業務

医療社会事業部

看護部

事務部

業績

沿革概要 患者数・経営状況 委員会 トピックス 診療業務	疾患別手術症例数	2017年	2018年	2019年
	食道癌	3	6	3
	乳癌	72	75	107
	胃癌	53	45	55
	結腸癌	114	77	96
	直腸癌	14	30	42
	虫垂炎	69	56	64
	原発性肝癌	13	14	13
	転移性肝癌	7	10	11
	胆石胆嚢炎胆嚢ポリープ	122	112	121
	胆嚢癌	6	4	2
	胆管癌	9	3	4
	膵癌	9	14	9
	膵腫瘍	3	3	1
	単径大腿ヘルニア	107	122	133
	胃GIST	9	5	7
	小腸GIST	4	2	
十二指腸乳頭癌	3	3	1	
直腸GIST			1	
肛門管癌				
	617	581	670	

医療社会事業部	麻酔別手術症例数	2017年	2018年	2019年
	全身麻酔	683	650	775
	腰椎麻酔（含む、硬麻）	56	53	64
	局所麻酔	87	105	71
	合計	826	808	910

看護部		2017年	2018年	2019年
	緊急手術	156	155	205
	待機手術	670	653	705
	合計	826	808	910

#### 4. 目標

根治性と QOL を求めたより質の高い外科治療を引き続き追求していきたい。

昨年より導入された胃切除と大腸切除におけるロボット支援手術は今年度も引き続き継続し発展させていきたい。

## 9. 整形外科

### 1. スタッフ

常勤医師 10 名（リハビリテーション医師を含む）、うち専門医 7 名

院長兼整形外科部長 高木 治樹

京都大学医学博士  
京都大学医学部 臨床教授  
日本整形外科学会専門医  
日本整形外科学会認定スポーツ認定医  
日本整形外科学会認定リウマチ認定医  
日本整形外科学会認定脊椎髄病認定医  
日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション医  
日本医師会認定産業医  
日本医師会認定健康スポーツ医  
日本リウマチ学会専門医  
日本リウマチ財団登録医  
日本リハビリテーション学会認定臨床医  
日本骨粗鬆症学会認定医

整形外科第 1 部長 高塚 和孝

京都大学医学博士  
福井大学医学部臨床教授  
日本整形外科学会専門医  
日本整形外科学会認定スポーツ認定医  
日本整形外科学会認定リウマチ認定医  
日本整形外科学会認定脊椎髄病認定医  
日本リウマチ学会専門医

リハビリテーション科代表部長兼第 2 整形外科部長

浅野 太洋

京都大学医学博士  
日本整形外科学会専門医  
日本整形外科学会認定リウマチ認定医  
日本整形外科学会認定脊椎髄病認定医  
日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会（JOSCAS）評議員

リハビリテーション科部長

高嶋 理

日本整形外科学会専門医

沿革

概要

患者数・経営状況

委員会

トピックス

診療業務

医療社会事業部

看護部

事務部

業績

整形外科第3部長 北折 俊之  
 京都大学医学博士  
 日本整形外科学会専門医  
 日本整形外科学会認定リウマチ認定医  
 日本整形外科学会認定脊椎脊髄病認定医  
 日本整形外科学会認定スポーツ認定医  
 日本リウマチ学会専門医  
 日本骨粗鬆症学会認定医

整形外科副部長 相模 昭嘉  
 日本整形外科学会専門医  
 日本整形外科学会認定リウマチ認定医

医師 森瀬 博子  
 日本整形外科学会専門医  
 日本整形外科学会認定リウマチ認定医  
 日本リウマチ学会専門医  
 日本リウマチ学会登録ソノグラファー

医師 仲谷 健次

医師 小谷 友弥 日本整形外科学会専門医

医師 村上 晃規

## 2. 診療

- ・関節手術：術前にコンピューターシミュレーションを行い、より正確な人工関節の設置を実現している。  
 また、膝関節は症例により骨切り術、人工膝全置換術、単顆置換術を使い分け良好な成績を得ている。
- ・脊椎手術：後腹膜アプローチを含む術式の改良、内視鏡手術、経皮的スクリュー固定術の導入により低侵襲な手術を目指している。
- ・関節鏡手術：半月板手術、靭帯再建術による QOL 向上、スポーツ復帰に貢献している。
- ・関節リウマチ：他科と連携しながら生物学的製剤を含めた集学的治療を積極的に行っている。
- ・骨粗鬆症：新規治療薬、骨折リエゾンリハビリを導入し骨折2次予防を主眼とした積極的介入を行っている。

## 3. 実績

末尾の手術統計（表）のとおり

#### 4. 目 標

他科との連携を図り、関節リウマチをはじめとする整形外科疾患の集学的治療をさらに推進する。  
 地域連携医との連携を密にし、地域基幹病院としての役割を果たす。  
 整形外科後期研修医、整形外科専門医の育成、研鑽に努める。

#### <手術統計>

			2017	2018	2019	
脊椎外科		頚椎	13	11	13	
		胸椎、腰椎	62	88	94	
		脊髄腫瘍	2	1	0	
関節外科	股関節	人工関節	39	46	54	
		人工関節再置換	3	2	4	
		人工骨頭	37	39	45	
		その他	5	7	4	
	膝関節	人工関節	63	44	46	
		人工関節再置換	0	1	2	
		単顆置換	12	12	19	
		腱、靭帯再建	1	1	6	
		半月板手術	21	26	31	
		その他	24	35	24	
	肩関節	人工骨頭、関節	3	2	1	
		腱板修復	5	2	3	
		その他	3	0	1	
	肘関節	人工関節	0	3	2	
		その他	2	0	2	
	足関節、足部関節	人工関節	0	0	0	
		関節固定術	4	3	1	
		関節形成術	5	2	3	
		その他	13	15	12	
	外傷外科	骨接合術	上肢	134	111	139
			下肢	153	202	168
再接着術 その他の外傷		1 76	1 78	0 86		
手外科	関節手術	4	12	6		
	腱・靭帯手術	41	52	37		
	その他	5	3	11		
末梢神経手術			123	25	41	
骨軟部腫瘍			19	8	13	
その他			61	46	34	
Microsurgery			4	4	2	
手術総数			834	878	902	

# 10. 形 成 外 科

## 1. スタッフ

副部長 寺村 あずみ 日本形成外科学会専門医  
 日本形成外科学会小児形成外科分野指導医  
 日本形成外科学会再建・マイクロサージャリー分野指導医  
 (2020年1月1日着任)

部長 山脇 聖子 日本形成外科学会専門医 日本創傷外科学会専門医  
 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 日本形成外科学会皮膚腫瘍外科指導専門医  
 日本形成外科学会小児形成外科分野指導医  
 福井大学医学部臨床教授  
 (2016年4月1日～2020年1月1日)

医師 秋田 梨恵 (2017年12月1日～2020年3月31日)

## 2. 診 療

現在、月・水・金曜日の午前中と木曜日の午後に外来診療を行っている。手術に関しては火・水・木曜日に主に全麻下手術を、月・金の午後に小手術、レーザー治療などを行っている。木曜日の午後は「瘢痕・ケロイド専門外来」を開設している。

## 3. 実 績

	2017年度	2018年度	2019年度
外傷	141	143	147
先天異常	17	23	23
腫瘍	301	317	348
瘢痕・ケロイド	41	67	46
難治性潰瘍	52	30	16
眼瞼下垂	20	29	33
レーザー治療	60	76	120
炎症・変性疾患	31	9	6
その他	50	14	69
	713	708	808

## 4. 目 標

秋田医師産休中は玉内医師が代わりに診療体制に加わった。秋田医師が産休から復帰し、2020年3月31日まで診療を行った。2020年度は4月1日から秋田医師に代わり遠藤医師が赴任となり、診療を継続したが、10月中旬から産休に伴う退職となり、12月までの間形成外科は一人体制となる予定である。

地域の先生方と連携を取りながら、幅広い症例に対応し、学術面での活動も継続していく予定である。

# 11. 脳神経外科

## 1. スタッフ

### 第1 脳神経外科部長

戸田 弘紀 日本脳神経外科学会専門医・指導医  
 日本脳卒中学会専門医 日本脳卒中の外科学会技術指導医  
 日本脊髄外科学会認定医 日本がん治療認定医機構認定医  
 日本定位・機脳神経外科学会技術認定医  
 京都大学臨床教授 福井大学臨床教授  
 日本定位・機能脳神経外科学会社員  
 国際定位・機能神経外科学会理事  
 日本脳卒中学会評議員・代議員  
 (2020年6月30日異動)

### 第2 脳神経外科部長

早瀬 睦 日本脳神経外科学会専門医・指導医 日本脳卒中学会専門医  
 日本脳神経血管内治療学会専門医・指導医 日本神経内視鏡学会技術認定医

### 副部長

佐野 徳隆 日本脳神経外科学会専門医・指導医 日本脳卒中学会専門医  
 日本脳卒中の外科学会技術認定医 日本脳血管内治療専門医  
 日本神経内視鏡学会技術認定医

池田 宏之 日本脳神経外科学会専門医・指導医 日本脳卒中学会専門医  
 日本脳血管内治療専門医 日本神経内視鏡学会認定医  
 (2020年3月31日異動)

### 医師

取越 貞治 日本脳神経外科学会専門医 日本脳卒中学会専門医  
 日本脳血管内治療専門医  
 (2019年4月1日着任)

鎌田 貴彦 日本脳神経外科学会専門医  
 (2019年7月1日着任、2019年9月30日異動)

辻本 吉孝 (2019年6月30日異動)

大塚 亮太郎 (2020年3月31日異動)

山下 智之 (2019年10月1日着任、2020年3月31日異動)

沿革  
概要  
患者数・経営状況  
委員会  
トピックス  
診療業務  
医療社会事業部  
看護部  
事務部  
業績

## 2. 診療

脳腫瘍 脳血管障害 脊椎・脊髄疾患 定位・機能外科疾患の外科的治療

## 3. 実績

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
総手術件数	273	310	321	328	297
脳腫瘍手術	34	24	24	26	24
脳卒中開頭手術	28	42	45	47	22
血行再建術	12	7	16	16	18
脊椎脊髄手術	6	15	20	18	8
定位・機能外科手術		5	8	9	9
血管内治療手術	87	69	97	93	69

## 4. 目標

北越地域の超急性期脳梗塞の血栓溶解・血栓回収術の中心となり、クモ膜下出血や脳出血などに対する外科治療も活発に行う。また脳動脈瘤や頸動脈狭窄/閉塞・もやもや病など脳卒中の予防的治療においても福井県の中心的役割を果たす。脳腫瘍など脳卒中以外の分野の治療も積極的に展開する。学会報告や論文発表を通じて学術活動を活発に行う。京都大学脳神経外科の研修病院として若手医師の教育に積極的に取り組み、また地域中核研修病院として医学生や初期研修医の参加を積極的に受け入れる。

# 12. 呼吸器外科

## 1. スタッフ

部長 松倉 規

呼吸器外科専門医  
外科専門医  
日本呼吸器外科学会 評議員  
日本胸部外科学会 指導医・認定医  
日本外科学会 指導医・認定医

副部長 福井 哲矢

呼吸器外科専門医  
外科専門医  
気管支鏡専門医  
日本外科学会 認定医

医師 若月 悠佑

日本外科学会 認定医

医師 南 紀久子

## 2. 診療

自分の身内にも行いたい患者さん本位の医療を心がけています。

科内でのカンファレンスや呼吸器内科、放射線科、病理部とのカンサーボードを行いチームとして統一性のとれた診療を行っています。また看護部は当然のこと、薬剤部やリハビリ科など院内他科、地域医療連携課の社会福祉士、入退院支援センターなど多職種・多部門とのカンファレンスも行い情報伝達を密にしています。

治療方針は各種ガイドラインを参考にグローバルスタンダードであるよう努めています。

日本赤十字社の使命の一つである災害時医療にも参加します。

また、病診連携を進める事が重要と考えています。平成23年4月から福井県統一の肺がん地域連携パスが稼働しており上皮内腺癌パスとI A期パスを用いています。

さらに平成26年4月から開始されたふくいメディカルネットを活用し、御紹介いただいた患者さんの当院でのデータを紹介元の連携医に公開する事も進めています。

当科の特徴として周術期の呼吸リハビリテーションを重視しています。「術後経過良好」を目指し、術前からの呼吸リハビリで手術を無事に乗り越え、一日も早く日常生活を取り戻し、社会復帰を果たしていただくよう努めています。

### 3. 実績

#### 呼吸器外科手術統計

手術実績	2017年度	2018年度	2019年度
肺 癌	56	75	90
転 移 性 肺 腫 瘍	9	9	14
縦 隔 腫 瘍	12	7	8
気 胸	27	27	39
膿 胸	19	4	10
外 傷	1	2	4
手 掌 多 汗 症	9	13	8
そ の 他	43	39	48
( 胸 腔 鏡 手 術 )	(134)	(150)	(178)
合 計	176	176	221

### 4. 目標

我々呼吸器外科の目標は、呼吸器外科手術を通して地域の皆様の医療に貢献することです。

沿  
革  
概  
要  
患者数・経営状況  
委員会  
トピックス  
診療業務  
医療社会事業部  
看護部  
事務部  
業績

# 13. 皮 膚 科

## 1. スタッフ

副部長 八木 洋輔 日本皮膚科学会認定皮膚科専門医  
医師 滝本 莉子  
医師 桑井 匠 (令和元年4月1日付けで着任)

## 2. 診 療

外来は午前診療が中心で3診体制です。月曜日、火曜日、金曜日の午前中の紹介患者は、副部長が診察をしています。午後は完全予約制で、火曜日に小手術やレーザー治療などを、木曜日は脱毛症外来を行っています。火曜日はデイサージェリー室で外来手術、金曜日は中央手術室で比較的大きな外来手術や入院手術を行っています。

### <特 徴>

#### 1) 外来：

皮膚悪性および良性腫瘍、円形脱毛症、アトピー性皮膚炎など湿疹群、乾癬、膠原病、水疱症、白癬症、陥入爪や疣贅などです。ほか、特殊な外来としては円形脱毛症の治療のために脱毛症専門外来を毎週木曜日午後に行っています。メイクアップケア外来も行っています(月1回)。男性型脱毛症に対しては自費にてプロペシア内服を行っています。また、生物学的製剤も積極的に導入しており、乾癬、蕁麻疹、アトピー性皮膚炎の方に対して希望があれば導入も行っています。皮膚・皮下腫瘍に対してはデイサージェリー室で日帰り手術、中央手術室で入院手術を行っています。

#### 2) 入院：

皮膚悪性腫瘍、水疱症や膿疱症、帯状疱疹、蜂窩織炎・丹毒、重症薬疹などを中心にみています。皮膚悪性腫瘍は、手術、化学療法、放射線治療を組み合わせた集学的治療を行っています。

## 3. 実 績

入院症例	2017年度	2018年度	2019年度	計
帯状疱疹	67	103	78	248
皮膚感染症	57	64	63	184
良性腫瘍	5	14	38	57
悪性腫瘍	34	39	49	122
その他入院	167	142	141	450
計	330	362	369	1,061

手術症例(入院・デイ)	2017年度	2018年度	2019年度	計
良性腫瘍	71	123	176	370
悪性腫瘍	34	37	48	119
計	105	160	224	489

沿革

概要

患者数・経営状況

委員会

トピックス

診療業務

医療社会事業部

看護部

事務部

業績

	2017年度	2018年度	2019年度	計
レーザー	32	31	28	91

#### 4. 目 標

これまで通り地域に貢献し、地域・院内における福井赤十字病院皮膚科の役割を、しっかりと果たしていく。

沿 革
概 要
患者数・ 経営状況
委 員 会
ト ピ ッ ク ス
診 療 業 務
医 療 社 会 事 業 部
看 護 部
事 務 部
業 績

# 14. 腎センター（腎臓・泌尿器科）

## 1. スタッフ

副院長

腎センター長

第1 腎臓・泌尿器科部長 小松 和人

日本泌尿器科学会指導医・専門医

福井大学医学部臨床教授

日本がん治療認定医機構がん治療認定医

第2 腎臓・泌尿器科部長 伊藤 正典

日本内科学会専門医（総合内科専門医）

日本腎臓学会腎臓専門医・指導医

日本透析医学会専門医

福井大学医学部臨床教授

第3 腎臓・泌尿器科部長 片野 健一

日本内科学会認定内科医・総合内科専門医

日本腎臓学会腎臓指導医・専門医

日本透析医学会指導医・専門医

北陸VAIVT（透析シャント血管カテーテル治療）研究会世話人

第2 腎臓・泌尿器科部長 河野 眞範

日本泌尿器科学会指導医・専門医

日本泌尿器科学会・日本泌尿器内視鏡学会泌尿器腹腔鏡技術認定

日本内視鏡外科学会技術認定医（泌尿器腹腔鏡）

日本がん治療認定医機構がん治療認定医

副部長 高田 昌幸

日本泌尿器科学会指導医・専門医

日本がん治療認定医機構がん治療認定医

日本泌尿器科学会・日本泌尿器内視鏡学会泌尿器腹腔鏡技術認定

日本内視鏡外科学会技術認定医（泌尿器腹腔鏡）

日本移植学会移植認定医

副部長 山内 寛喜

日本泌尿器科学会指導医・専門医

日本泌尿器科学会・日本泌尿器内視鏡学会泌尿器腹腔鏡技術認定

沿革概要  
患者数・経営状況  
委員会  
トピックス  
診療業務  
医療社会事業部  
看護部  
事務部  
業績

沿革概要
患者数・経営状況
委員会
トピックス
診療業務
医療社会事業部
看護部
事務部
業績

医師 松井 佑樹

日本内科学会認定医・総合内科専門医  
 日本腎臓学会専門医  
 日本透析医学会専門医  
 日本移植学会移植認定医

医師 品川 友親

日本泌尿器科学会専門医

医師 山岸 瑞希

日本内科学会認定内科医

2019年度は腎臓・泌尿器科として泌尿器科は塚原医監（緩和ケア病棟）含め小松副院長以下、合計6名のスタッフにて診療に従事しました。一方、腎臓内科は伊藤部長以下4名で診療にあたる事が可能となり総合診療部への派遣も可能となりました。腎臓内科医、泌尿器科医の協調により腎泌尿器疾患のトータルケアが実践できていると自負しております。

## 2. 診療

（診療方針）

内科的腎疾患と泌尿器科的疾患を統合的に診療する。副腎、腎臓、尿路、前立腺、男性器等下記の疾患を対象にした、高度専門的治療が基本方針である。内科的腎疾患に対する高度専門的治療、低侵襲的外科治療、悪性腫瘍に対する集学的治療を行う。

（目標）患者ニーズに即した診療体制の維持

以下、部門別の診療内容を略記いたします。

### 1) 腎臓内科領域：

腎臓内科の主要検査である腎生検は、前年度とは少なくなりましたが、40例実施することができました。原発性腎疾患のみならず、全身性疾患に伴う腎病変の腎生検も多く実施できました。松井・山岸両名の先生の存在は今後の腎病理診断能力の向上につながっています。

また、慢性腎臓病（CKD）教育入院は主に伊藤および片野先生が担当して1週間のパスに従い継続しています。2019年度は20例の教育入院を行うことができました。ほぼ全例が、他科あるいは連携医の先生方からのご紹介であり、病診連携に貢献できているものと思われます。高血圧、糖尿病といった生活習慣病から発症するCKDは今後も増加の一途かと思われます。2020年度は糖尿病腎症重症化予防プログラムも開始されています。透析導入を一人でも減少させるべく、今後も病診連携の一つの柱として努力しております。

### 2) 透析センター

2019年度は透析監視装置計32台にて稼働いたしました。うちオンラインHDFについては10台で実施されており、重矢課長をはじめとする臨床工学課技師により厳重な透析液水質管理のもと、きわめて順調に継続されています。おもな実績を別表に示します。

腎代替療法のうち、血液透析において2019年度は合計35名の透析導入を行いました。当院における維持透析患者数も2016年度末には100名を超えましたが令和元年度も透析、腹膜透析の両者

を合わせ 110 名前後の維持透析患者を診療しております。

血液透析患者さんは合併症も多く、スタッフは身体のみならず精神的ケアも求められています。日々の研鑽をかさね、患者様のニーズに対応している姿勢には脱帽です。

シャント血管内治療（VAIVT）症例は 2019 年度は合計 188 例となっています。片野部長は、県内全域にわたる各透析施設からの紹介にスピーディに対応しており、透析におけるバスキュラーアクセスの重要性を県内外に知らしめています。

腎代替療法以外の浄化療法では、昨年度同様、消化器科より炎症性腸疾患に対するアフエーシス療法として白血球除去療法、顆粒球除去療法、また難治性腹水に対する腹水濾過濃縮のご依頼を消化器内科・外科さらには婦人科からも多くいただき感謝しております。

また、夜間・休日の緊急透析は集中治療部（ICU）にて実施できるように田辺麻酔科部長はじめ麻酔科先生方のご配慮を頂いております。少人数の腎臓内科にとりまして感謝の一言に尽きます。この場をお借りしましてお礼申し上げます。

### 3) 泌尿器科領域

腎・泌尿器科領域の手術件数は北陸最多です。中央手術室での手術以外に、体外衝撃波結石破碎術、TV 透視室での手技等を加えると外科的手術は 1,200 件を超えて推移しております。外科治療の最近の概要を別紙表に示します。

特徴的なのは、ロボット支援手術に代表される高度で先進的な外科治療を行う一方、腎移植などの腎不全外科まで幅広く手術に取り組んでいる点であり、若手泌尿器科医師の良いトレーニングセンターとして機能しています。

外科治療以外で特筆すべきは 2017 年 10 月から活動を開始している排尿ケアチーム（CST）であり、浅田看護師をリーダーとしてスタッフ一丸となって院内ラウンドを毎週実施しています。下部尿路障害に悩む患者さんも数多く、各病棟から貴重な存在となっています。

## 3. 実績

腎臓・泌尿器科診療実績		2017年度		2018年度		2019年度	
対象臓器	術式名		小計		小計		小計
副腎・後腹膜	腹腔鏡下副腎摘出術 <K7542>	3		2		5	
	そのほかの副腎・後腹膜手術					1	
	副腎悪性腫瘍手術						
	腹腔鏡下副腎悪性腫瘍手術 <K756-2>	2				1	
	後腹膜悪性腫瘍手術						
	大綱、腸間膜、後腹膜腫瘍摘出術（腸切除を伴わない）						
	腹腔鏡下後腹膜腫瘍切除術			1			
副腎・後腹膜手術合計		5	5	3	3	7	7
腎、腎盂	腹腔鏡下生体腎採取術	2				2	
	生体腎移植術	2				2	
	経皮的尿路結石摘除術	13		4		4	
	経皮的上部尿管拡張術						
	体外衝撃波腎・尿管結石破碎術（一連につき）	49		45		34	

腎臓・泌尿器科診療実績		2017年度		2018年度		2019年度	
腎、腎盂	腹腔鏡下腎部分切除術			1			
	ロボット支援腎部分切除術（腎癌）	9		16		10	
	腹腔鏡下腎嚢胞切除縮小術						
	経皮的腎嚢胞穿刺術						
	腎（尿管）悪性腫瘍手術 / 腎摘出術（開放）	2		3		2	
	腹腔鏡下腎摘出術	4				2	
	腹腔鏡下根治術腎摘除術（腎癌）	12		7		12	
	腎（尿管）悪性腫瘍手術（開放）						
	腹腔鏡下腎（尿管）悪性腫瘍手術						1
	腹腔鏡下腎（尿管）全摘除術（腎盂 / 尿管癌）	14		15		13	
	経皮的腎（腎盂）瘻造設術	17		23		12	
	腎瘻交換	35		53		36	
	腹腔鏡下腎盂形成術	2		1		1	
	そのほかの腎、腎盂手術	4		2			
腎、腎盂手術合計		165	165	170	170	131	131
尿管	経尿道的尿路結石摘出術	68		102		93	
	経尿道的尿管狭窄拡張術			2			
	経尿道的尿管ステント留置術・交換	262		317		280	
	経尿道的尿管ステント抜去術	102		114		119	
	尿管膀胱新吻合術						
	尿管膀胱新吻合（小児）	2		1			
	尿管膀胱吻合術	2				3	
	尿管鏡検査	12		12		9	
そのほかの尿管手術	4				4		
尿管手術合計		452	452	548	548	508	508
膀胱	膀胱破裂閉鎖術	1					
	膀胱内凝血除去術	5		16		17	
	膀胱結石，異物摘出術（経尿道的手術）<K7981>	13		18		12	
	経尿道的電気凝固術	30		30		34	
	膀胱水圧拡張術	4		2		3	
	膀胱腫瘍摘出術 <K802>			1			
	膀胱脱、性器脱、直腸脱、メッシュを利用するもの	13		9		2	
	膀胱悪性腫瘍手術（開放手術）						
	膀胱悪性腫瘍手術 2 全摘（腸管等を利用して尿路変更を行わないもの）			2		1	
	膀胱悪性腫瘍手術 4 全摘（回腸または結腸導管を利用して尿路変更を行うもの）<K8034>	2				3	
膀胱悪性腫瘍手術 5 全摘（代用膀胱を利用して尿路変更を行うもの）							
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	5				1		

腎臓・泌尿器科診療実績		2017年度		2018年度		2019年度	
膀胱	ロボット支援膀胱悪性腫瘍手術1全摘 (腸管等を利用して尿路変更を行わない)<K80321>			11		3	
	ロボット支援膀胱悪性腫瘍手術2全摘 (回腸または結腸導管を利用して尿路変更を行うもの)<K80322>					6	
	ロボット支援膀胱悪性腫瘍手術全摘3 (代用膀胱を利用して尿路変更を行うもの)<K80323>					1	
	膀胱悪性腫瘍手術6経尿道的手術	114		101		104	
	膀胱瘻造設術	6		1		2	
	膀胱尿管逆流手術						
	腸管利用膀胱拡大術						
	回腸(結腸)導管造設術						
	膀胱生検	4		2		8	
腹腔鏡下尿膜管切除術	1		1		5		
膀胱手術合計		202	202	197	197	209	209
尿道	尿道結石、異物摘出術(全部/後部尿道)			3			
	外尿道腫瘍切除術<K816>					3	
	尿道悪性腫瘍摘出術						
	尿道形成手術						
	尿道下裂形成手術			1			
	尿道狭窄内視鏡手術	7		3		5	
	尿失禁手術			2		1	
	尿失禁又は膀胱尿管逆流現象コラーゲン 注入手術						
そのほかの尿道手術	1						
尿道手術合計		8	8	9	9	9	9
陰茎	陰茎尖圭コンジローム切除術			1			
	陰茎腫瘍切除術<K826>						
	陰茎悪性腫瘍手術(陰茎切除術) <K8271>	1					
	陰茎悪性腫瘍手術(陰茎切除術) <K8272>						
	包茎手術	4		10		7	
	陰茎生検						
そのほかの陰茎手術							
陰茎手術合計		5	5	11	11	7	7
陰嚢、精巣、 精巣上部、精索	精管切断術			2		1	
	精巣(睾丸)摘出術	1		5		4	
	停留精巣(睾丸)摘出術					1	
	精巣上部摘出術					1	
	精巣悪性腫瘍手術	6		2		8	
	陰嚢水腫手術	4		4		2	
	停留精巣固定術	1		4		3	

沿革

概要

患者数・経営状況

委員会

トピックス

診療業務

医療社会事業部

看護部

事務部

業績

沿革概要患者数経営状況委員会トピックス診療業務医療社会事業部看護部事務部業績

腎臓・泌尿器科診療実績		2017年度		2018年度		2019年度	
陰嚢、精巣、 精巣上体、精索	精索捻転手術	1		2			
	その他の陰嚢、精巣、精巣上体、精索手術			3		1	
陰嚢、精巣、精巣上体、精索手術合計		13	13	22	22	21	21
精嚢、前立腺	前立腺膿瘍切開術						
	前立腺被膜下手術	1					
	経尿道的手術	19		23		28	
	前立腺悪性腫瘍手術（恥骨後式）					1	
	前立腺悪性腫瘍手術（腹腔鏡下）						
	前立腺悪性腫瘍手術（ロボット補助下）	41		30		44	
	前立腺針生検			7		4	
	前立腺小線源療法						
	針生検（手術室）	5					
その他の精嚢、前立腺手術							
精嚢、前立腺手術合計		66	66	60	60	77	77
腎不全に対する 手術	内シャントまたは外シャント設置術	72		80		66	
	内シャント血栓除去術	1				2	
	連携携行式腹膜還流用カテーテル腹腔内留置術 / 抜去術	4		1		3	
	CAPD カテーテル抜去	3				5	
	CAPD カテーテル体表化術	2		1		1	
	VAIVT（経皮的シャント拡張術・血栓除去術）	165		149		193	
	血管結紮術					1	
	その他			3			
腎不全に対する手術合計		247	247	234	234	271	271
その他の 泌尿器科手術	上皮小体過形成手術						
	骨盤内臓全摘						
	その他の泌尿器科手術 / 処置	60		24		51	
その他の泌尿器科手術合計		60	60	24	24	51	51
総 計		1223	1223	1278	1278	1291	1291

# 15. 産 婦 人 科

## 1. スタッフ

第1部長	田嶋 公久	日本産婦人科学会専門医 母体保護法指定医 日本内視鏡外科学会技術認定医 日本産婦人科内視鏡学会技術認定医 福井大学医学部臨床教授
第2部長	辻 隆博	日本産婦人科学会専門医 母体保護法指定医 日本医師会認定産業医 日本内視鏡外科学会技術認定医 日本産婦人科内視鏡学会技術認定医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
第3部長	福田 真	日本産科婦人科学会産婦人科専門医 母体保護法指定医師 日本医師会認定産業医 日本女性医学学会女性ヘルスケア専門医 日本生殖医学会生殖医療専門医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
医師	佐藤 久美子	日本産婦人科学会専門医 母体保護法指定医 日本周産期・新生児医学会周産期専門医
医師	山本 真	日本産婦人科学会専門医
医師	杉田 元気	日本産婦人科学会専門医 母体保護法指定医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医

令和1年度はスタッフ構成に変化がありました。井上医師が福井大学病院へ転出し、杉田元気医師が10月1日から赴任しました。杉田医師は、すでに10年の臨床経験があり、当科医師の層がさらに厚くなりました。活力あふれる杉田医師が、緊急手術や夜間の分娩に積極的に参加してくれることで、年長医師の負担軽減にもなっています。また、長年当科で不妊治療を担当してきた服部克成医師が、加藤内科・婦人科クリニックを継承するため、3月31日をもって退職しました。今後は、福井市内の地域医療を担うとともに、当科の力強い連携パートナーとなってくれることと思います。

## 2. 診療

手術については、腹腔鏡下手術が多く福井県下最多の件数となっています。腹腔鏡下手術の技術認定医の存在（田嶋・辻）とともに、当院での腹腔鏡下手術が地域に認められていることを示していると考えます。最近の腹腔鏡手術では、妊孕性の温存改善に十分な注意をはらうようになっており、日本生殖医学会生殖医療専門医である福田医師が、不妊患者の手術に取り組んでいます。

令和1年度の分娩数は285件と前年よりも少ない件数でした。当院で分娩される方は、合併症や高齢妊婦の割合が高くなっているため、一人一人の分娩管理に注意が必要です。令和1年度に分娩された初産婦164人中52人（31.7%）が、35歳以上の高齢初産婦でした。日本周産期・新生児医学界専門医である佐藤医師が、小児科医師とも協力しながらハイリスク分娩の管理に取り組んでいます。

## 3. 実績

術式	症例	2017年度	2018年度	2019年度
悪性腫瘍手術	円錐切除	22	38	34
	子宮頸癌	12	10	12
	子宮体癌	13	16	18
	卵巣癌	21	15	15
	外陰・膣癌	0	1	1
	その他	3	3	6
腹腔鏡良性疾患	子宮全摘	76	94	85
	子宮筋腫核出	43	41	41
	良性卵巣	101	113	121
	異所性妊娠	9	9	11
	性器脱	20	16	25
子宮鏡下	子宮筋腫切除	13	14	17
	ポリープ切除	19	17	30
	子宮鏡検査	0	0	0
開腹良性	子宮全摘	9	10	13
	筋腫核出	5	1	2
	良性卵巣	4	2	2
	その他	0	0	0
膣式良性	子宮全摘	3	3	2
	性器脱	1	4	1
	その他	3	0	3
産科手術	帝王切開	90	82	82
	子宮頸管縫縮	1	4	0
	人工中絶	11	26	21
	流産手術	17	17	19
	羊水穿刺	4	3	1
その他	その他	5	4	6
合計		506	543	570

	2017 年度	2018 年度	2019 年度
分娩数	352	292	285
双胎、品胎	2	2	1
初産婦	176	155	164
正期産	332	268	260
早産	18	22	24
過期産	1	0	0
死産（22 週以降）	1	2	1
早期新生児死亡数	0	0	0
周産期死亡数	1	2	1
高齡初産（35 歳以上 40 未満）	40	27	47
高齡初産（40 歳以上）	10	12	5
ART 妊娠	22	27	21

#### 4. 目 標

当科での腹腔鏡下手術は、技術的に成熟・安定した時期に入ってきています。現在、不妊治療を専門とするスタッフと協力しながら妊孕性を改善させる腹腔鏡下治療を推し進めたいと思います。最近、当院で CO2 レーザー装置が利用できるようになりました。CO2 レーザーを用いた腹腔鏡下手術は、世界の子宮内膜症治療センターで用いられていますが、まだ日本ではほとんど行われていません。今後は、CO2 レーザーを用いた子宮内膜症の腹腔鏡下焼灼術や多嚢胞性卵巣症候群の卵巣開窓術を積極的に取り入れる予定です。

悪性腫瘍の治療においては、引き続き初期子宮体癌の腹腔鏡下手術に注力します。また、若年者の子宮頸部上皮内腫瘍治療において子宮頸部の切除（円錐切除）が、流産を増加させることが問題となっています。CO2 レーザーを用いた上皮内腫瘍焼灼は、早産を増加させないとされますので、今後症例を選んで取り入れていきたいと思っています。

産科の目標は、より安全で安心できる分娩環境を妊婦さんに提供することです。超緊急帝王切開のマニュアルを整備しシミュレーションを行うことで、緊急対応がスムーズにできるよう態勢を整えます。また、今後問題となる新型コロナに関連した妊婦に対しても、分娩や帝王切開のシミュレーションを十分行い、迅速に安全な対応ができるよう準備します。

# 16. 眼 科

## 1. スタッフ

第1部長兼アイセンター長

小堀朗 (H3 宮崎大学卒→和歌山赤十字医療センター→京都大学→  
公立豊岡病院→当院)

日本眼科学会専門医、加齢性黄斑変性症の光線力学療法認定医  
近視矯正手術認定医、ICL手術認定医&指導医（フェイキック IOL）、  
多焦点眼内レンズ手術認定医

福井大学臨床教授、日本眼科手術学会評議員／理事

Best Doctors in Japan2016-2017, 2018-2019, 2020-2021

第2部長

蒔田潤 (H8 福井大学卒→小浜病院→福井大学大学院→  
ネブラスカ医科大学留学→福井大学→当院)

日本眼科学会専門医、加齢性黄斑変性症の光線力学療法認定医

福井大学医学博士、近視矯正術認定医、多焦点眼内レンズ手術認定医  
視覚障害者用補装具適合判定医師、福井大学臨床教授

(公財) 日本障がい者スポーツ協会認定障がい者スポーツ医、

日本抗加齢医学会専門医

後期研修医

市岡悠 (H25 兵庫医科大学卒→京都大学／当院→京都大学→当院)

李相沅 (H9 檀国大学卒→韓国で皮膚科専門医→日本の医師国家試験合格→

神戸中央病院→京都大学眼科→京都医療センター→当院)

河合健太郎 (H26 京都大学卒→京都大学→当院)

横田開人 (H28 関西医科大学卒→関西医科大学→当院)

非常勤医師

清水悠介 蒔田潤 佐々木次壽 辻隆宏 高村佳弘 後沢誠

眼科医

常勤4名＋非常勤6名

視能訓練士

西畑 吉田 横田 木原 高畑 小林 杞根 土江 福田

看護師

3名

事務

4名

外来クラーク

3名

4月より6年半当院に勤めてくれた蒔田先生が埼玉医科大学准教授として転勤しました。地方の市中病院からの栄転は珍しいことで、当院眼科の発表活動が全国的でも認知されたための人事異動とされています。蒔田先生には白内障や硝子体手術だけでなく、黄斑変性治療や涙道疾患にも頑張り眼科を盛り立ててくれました。急な人事であったため、代替りの先生を補充することができず、非常勤医師の助けを借りていきます。週一回の小児眼科外来は今まで通り清水先生にお願いします。黄斑変性の光線力学的治療 PDT は月一回引き続き蒔田先生にお願いします。涙道疾患は国内でも有名なスペシャリストである佐々木先生に2ヶ月に一度手術に来てもらいます。若手眼科医の手術指導として週一回福井大学（辻隆宏・高村佳弘・後沢誠先生）から応援に来てもらいます。

河合先生も4月から京大大学院に行くこととなりました。河合先生は当院のデータから巨大黄斑円孔の論文を書き上げ、大学院で益々活躍されると思います。かわりに関西医科大学から横田先生が転

任されました。関西医科大学からの受け入れは初めてであり、新しい風を入れてくれるのではと期待しております。

5名から4名に常勤医に減ります。眼科医を募集していますが、全国的に大学以外の眼科病院勤務医は不足しております。6名の非常勤医とコメディカルのサポートのもと若いドクターの奮起に期待します。

視能訓練士 ORT の 小林君が家庭の事情で4月で大阪に転勤となりました。細かいところによく気がつく優秀なスタッフでした。代わりに ORT になりたての福田さんが赴任となりました。

## 2. 診 療

### 【新しいこと】

ICL（眼内コンタクトレンズ）が増加しています。見え方が抜群に良く不満が出ません。高度近視は絶対的適応ですが、軽度近視の症例も増えて来ています。

加齢性の下眼瞼内反症に対する「Wide everting suture」、重症ドライアイに対する「涙小管切除」がとても有効です。眼形性手術のスペシャリスト（木下先生）のお墨付きをもらいましたので、共に第一選択の手術にしました。

白内障手術で最も困る合併症と言えばチン小帯断裂が挙げられ、その対処法として水晶体嚢内リングCTRを挿入します。CTRを最も安全に挿入するためのフック「小堀氏Spiral法用フック」を考案し発売しました。

極小切開緑内障手術MIGSが増加しています。主にiStentと眼内アプローチによるsuture-LOTOMYを行なっています。iStentは術後3ヶ月すると眼圧下がっていきます。半導体レーザーによるマイクロパルスレーザーも始めました。経強膜から毛様体扁平部に弱いレーザーを当ててuveoscleral flowの増加を期待します。繰り返し照射できるところが強みです。今後、副作用の少ない緑内障手術が増加します。初期の段階から積極的に治療を行い実用視力を維持することが目標になります。

光干渉断層計OCTを増設しました。最も解像度の高いSpectralisの最新機種であるOCT 2を導入しました（県内初）。撮影速度が格段に早くなり、解像度が向上しています。造影剤を使わない網膜血管撮影を行うことができ、糖尿病網膜症・網膜静脈閉塞症・黄斑変性の診断治療に威力を発揮します。今までは、高度近視を伴う緑内障ではOCTによる網膜神経繊維の菲薄化の検出は困難でしたが、Spectralis OCT 2なら眼球形状の修正も自動で行うので検出できるようになりました。

## 3. 目 標

当科は眼の外科治療を専門とし、北陸随一の眼科手術件数を行っております。今後も白内障・屈折矯正・緑内障・網膜硝子体手術を中心に治療して行きます。

最後に紹介していただいている開業医の皆様には本当に感謝しております。できるだけ早くお帰りいただけるよう努力しておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

治 革
概 要
患者数・経営状況
委員会
トピックス
診療業務
医療社会事業部
看護部
事務部
業 績

#### 4. 実績

##### 中央手術部&アイセンター手術統計

平成 30 年術式分類	当院
白内障手術 小計	2,011
PEA/ECCE/ICCE (+IOL 含む)	1,965
眼内レンズ縫着術 (強膜内固定含む)	39
その他、IOL2次挿入など	7
緑内障手術 小計	90
線維柱帯切開術	65
線維柱帯切除術 (Express)	4
ロングチューブ挿入術	10
隅角癒着解離術 / その他	11
網膜剥離手術 = 経強膜法	12
経強膜裂孔閉鎖術	9
ガス注入 / 冷凍凝固	3
硝子体手術	381
硝子体注射	3
斜視手術	21
角膜移植	1
翼状片	33
その他 小計	110
内反症手術	30
眼瞼下垂手術	16
涙道手術 (涙嚢鼻腔吻合術含む)	6
腫瘍摘出	18
霰粒腫	6
眼球摘出	1
乱視矯正 LRI	0
その他 (外傷を含む)	33
ICL	
合計	32
	<b>2,694</b>

\* IOL = 眼内レンズ挿入術

両眼や同時手術を別々に算定した (白内障手術 + IOL は 1 つ、硝子体 + 白内障は 2 つ、硝子体 + 緑内障は 2 つ)  
統計はその年度の 1 月～ 12 月までのものである。外来手術場における軽手術は上記に含まず

眼科外来ブースにおける軽手術	2019
角膜異物除去術	9
角膜潰瘍搔爬術	11
結膜異物除去	5
結膜結石除去術	0
涙点プラグ挿入術	20
虹彩光凝固術	0
後発切開術（レーザー）	266
網膜光凝固術（通常）	164
網膜光凝固術（特殊）	97
網膜光凝固術（特殊：光線力学的療法 PDT）	19
硝子体注射	983
合計	1,573

\*コストとった回数で調べました

沿革

概要

患者数・経営状況

委員会

トピックス

診療業務

医療社会事業部

看護部

事務部

業績

# 17. 耳鼻咽喉科

## 1. スタッフ

部長 大澤 陽子  
日本耳鼻咽喉科学会耳鼻咽喉科専門医  
日本アレルギー学会指導医・専門医  
日本耳鼻咽喉科学会耳鼻咽喉科専門研修指導医  
補聴器適合判定医師

医師 森川 太洋  
日本耳鼻咽喉科学会耳鼻咽喉科専門医

医師 小山 桂祐（令和元年5月31日退職）

医師 加藤 永一

後期研修医 坪川 亜優美（令和元年6月1日赴任）

## 2. 診療

### (1) 基本方針

目標は、地域医療をさらに充実させるために病診連携を今まで以上に強固にすることであり、そのためにはとにかく手術症例数を増加させ、さらに質の高い医療を目指すことが重要である。

### (2) 診療責任体制

#### ① 主治医制

原則的には主治医制をとっている。しかし日頃からスタッフが患者同意の上、交代で診察しスタッフ全員の目でチェックする体制となっている。また、部長が担当医になって随時主治医の相談に応じている。

#### ② 研修医の指導

後期研修医：外来は、1年目で耳鼻咽喉科手技全般ができるようにする。手術は、一年目で口蓋扁桃摘出術、鼻茸切除術、頸部リンパ節生検などの簡単な手術が、二年目で副鼻腔手術、良性腫瘍手術が指導医の下でできるようにする。年一回の学会発表をする。

#### ③ 主治医不在時の対応

代診医を決め対応する。関連病棟にも連絡する。

#### ④ 休日・夜間体制

当番を決めオンコール体制で対応している。主治医に連絡があれば主治医も対応する。

#### ⑤ 救急体制

救急待機医を決めオンコールで24時間対応できる。緊急手術などバックアップ体制も常に心がけている。

#### ⑥ 病棟回診

部長回診：週2回 火・木曜日 午前（大澤）

医師回診：月（加藤）・水（森川）・金（小山・坪川）・土（当番制）

(3) 院内症例検討会

毎週月曜日 耳鼻咽喉科外来 耳鼻咽喉科医師 必要に応じて放射線治療担当医師  
 毎週水曜日 嚥下摂食チーム（耳鼻咽喉科医師・言語聴覚士・認定看護師）  
 毎月第一水曜日 2の5病棟 耳鼻咽喉科医師・病棟看護師・耳鼻咽喉科外来看護師

(4) 院内症例検討会の記録に保管形態・保管場所

患者の電子カルテに検討した内容を記載。

3. 実績

①手術実績

手術名	2017年度	2018年度	2019年度
鼓膜形成術	3	1	6
鼓室形成術	10	10	8
乳突削開術	-	-	4
鼻中隔矯正術	10	13	16
鼻甲介切除術	10	8	22
翼突管（後鼻）神経切断術	-	-	28
内視鏡下鼻副鼻腔手術	64	38	48
鼻副鼻腔良性腫瘍手術	2	4	2
鼻副鼻腔悪性腫瘍手術	3	1	2
顎・顔面骨折整復手術	-	-	6
口蓋扁桃摘出術	43	25	65
舌・口腔良性腫瘍手術	3	5	11
舌・口腔悪性腫瘍手術	3	2	5
顕微鏡下喉頭微細手術	10	12	17
喉頭悪性腫瘍手術	3	2	0
喉頭形成術	2	2	1
気管切開術	11	23	18
頸部良性腫瘍手術	10	9	3
頸部郭清術	8	17	14
顎下腺摘出術	0	2	4
顎下腺良性腫瘍手術	3	2	0
耳下腺良性腫瘍手術	7	8	8
耳下腺悪性腫瘍手術	0	2	1
甲状腺良性腫瘍手術	17(内視鏡8)	15(内視鏡2)	16(内視鏡9)
甲状腺悪性腫瘍手術	21	22(内視鏡5)	34(内視鏡9)
上皮小体腺腫・過形成手術	2	1	1(内視鏡1)
鼓膜チューブ留置術	14	8	19

沿革  
概要  
患者数・経営状況  
委員会  
トピックス  
診療業務  
医療社会事業部  
看護部  
事務部  
業績

手術名	2017年度	2018年度	2019年度
鼻茸切除術	0	1	1
鼻粘膜焼灼術	0	3	82
頸部リンパ節生検	14	21	15
アデノイド切除術	15	3	4
耳瘻孔摘出術	2	4	3
外鼻形成術	2	2	4
鼻内涙囊鼻腔吻合術	4	4	0
唾石摘出術	2	3	9
気管喉頭分離術	0	0	1
その他	3	34	14
入院患者数	513	495	492

#### 4. 目 標

急性期医療・がん診療を中心に展開していきます。手術支援機器や内視鏡を用いた高度な手術治療を実施し、良質な医療を提供します。また、地域の医療機関と連携して、早期社会復帰が可能な診療体制を充実させていきます。

# 18. 放 射 線 部

## 1. スタッフ

第1部長	左合 直	(日本医学放射線学会専門医)
第2部長	坂本 匡人	(放射線治療専門医 (日本医学放射線学会認定) 研修指導者 (日本医学放射線学会認定) がん治療認定医 (日本がん治療医認定機構認定) 臨床研修指導医 (厚生労働省認定))
部長代行	高橋 孝博	
副部長	松井 謙	(日本医学放射線学会専門医)
副部長	都司 和伸	(日本医学放射線学会専門医)
医 師	新谷 堯	(放射線治療専門医 (日本医学放射線学会認定))
医 師	高橋 美紗	(令和2年3月31日 退職)
医 師	若林 佑	(令和2年3月31日 退職)

## 2. 診 療

### 〈診断部門〉

#### (1) 稼働実績とコロナ禍の影響

今年に入ってからコロナ禍により、CTでは前年比で最大6割程度までの減少があったが、コロナ禍は現在進行中でもあり、本年度は稼働実績に関する総括評価の対象外とする。

#### (2) IVRの一部業務縮小

担当医の異動によりRFAとPEIT、他の一部の手技は撤退した。それ以外の手技は継続しており件数の変動と異動は直接の関連はない。血管系での「その他」の増加は副腎静脈サンプリングの再増加による。

#### (3) PET-CTの更新

今回の更新は、装置の性能や稼働の障害によるものではなく、メーカーからのサポート打ち切りによる理由であった。高額の医療機器でもあり、更新での入札においてはスペックだけでなくサポート期限も評価対象とした。

#### (4) 乳腺外科への乳腺USの新規整備と移転、および、中央超音波室腹部エコーの技師参加

既に予定されていた乳腺USの乳腺外来移転に伴い、中央超音波室の一般腹部USに、健診USで実績のある2名の技師が12月からの3ヶ月余の研修を経て、新年度の4月より新規参入した。直接的には人事異動に伴う一時的な医師の戦力低下への対応だが、昨年度の本稿でも述べた通り、不透明な医局人事に依存しない戦力の確保は、今後の医師の負担減と安定した業務運営に資するとの考えである。参入3ヶ月後の現時点では2名の技量や姿勢とも十分満足できるものであるが、USという検査の性質上、本当の意味の修練はこれからである。技師の参入についての主旨をご理解の上で協力頂いた関連診療科の各先生には感謝と今後の継続した指導のお願いを申し上げる。

### 〈治療部門〉

放射線照射による悪性(一部、良性)の腫瘍性疾患の治療

2019年の症例数は287件(のべ件数)で、前年(2018年)の293件(のべ件数)とほぼ同数となった。

沿  
革

概  
要

患者数・  
経営状況

委  
員  
会

ト  
ピ  
ク  
ス

診  
療  
業  
務

医  
療  
社  
会  
事  
業  
部

看  
護  
部

事  
務  
部

業  
績

沿革
概要
患者数経営状況
委員会
トピックス
診療業務
医療社会事業部
看護部
事務部
業績

今年、乳腺腫瘍症例の割合が高く、70件(のべ件数)で全症例の24.4%を占めた(2018年は45件(のべ件数)で15.4%(以下、同様))。これに肺・縦隔腫瘍症例(53件(18.5%))、泌尿器科腫瘍症例(35件(12.2%))が続いた。各分野の割合に変動は見られるものの、当放射線治療部門の全症例の内、これら3分野が上位となる例年同様の傾向が見られた。

一方で、皮膚・骨軟部腫瘍症例(2018年:2件、2019年:17件)の増加が目立つのが今年の特徴である。症例のほとんどは他科からの紹介であるためその内訳は各科の方針や強みのある領域に依存するが、放射線治療の適応を拡大するためには各科とより緊密に連携し変化し続ける様々な要求に応じていくことが必要である。

特殊治療に関しては、定位放射線治療の件数は前年より若干減少したが(2018年:29件、2019年:20件)、強度変調放射線治療(IMRTおよびVMAT)の実施回数は大幅に増加した(2018年:30件、2019年:66件)。これは、2015年6月の高精度放射線治療装置『Vero4DRT』(三菱重工業社・日立メディコ社)の臨床稼働に続き、2017年9月に稼働した高精度放射線治療汎用機『VitalBeam』(Varian Medical System社製)により、回転IMRTと言えるVMATの治療が可能となり、従来のIMRTでは困難とされた、広範囲な病変あるいは形状の複雑な病変にも迅速・安全な照射が可能となったことが院内でも広く認知されるに至り、VMATを前提とした症例の紹介が増加しているためと考えられる。さらに、今年、1.放射線による有害事象の生じやすい臓器(特に、肺)に病変が隣接することが多い肺腫瘍や食道腫瘍、2.病変の分布が広範囲に及び、かつ、形状が不整になりやすい、血液疾患(主に悪性リンパ腫)や皮膚腫瘍といった、従来、IMRTやVMATの実施に際し、慎重な配慮が必要とされてきた領域にも、当部門の総力を結集することで対処可能となり、適応を広げられた成果が件数の変動として現れたものと思われる。

他の特殊治療としては、今年も温熱療法が実施できたことは明るい材料である。近年、温熱療法は臨床面での科学的根拠が確立され、がんの根治治療のための補助療法の立場を築きつつある。今後も、適応のある症例には積極的に実施していきたい。

反面、骨髄移植のための全身照射(TBI)は今年も実施されなかった。治療技術継承の観点からも問題であり関係各科ともよく検討して次年以降実施できるよう図りたい。

### 3. 目標

『Vero4DRT』・『VitalBeam』の両装置を更に活用して、凡そ全ての悪性疾患に対して高精度放射線治療の適応を広げ、のべ件数300件を目指したい。

#### 4. 実績

##### 血管系 IVR

	2017年	2018年	2019年
1) 肝腫瘍 TAE	19	15	20
2) 動注	1	0	0
3) 止血 TAE	4	9	3
4) PTA (stent)	0	0	0
5) BRTO	2	1	0
6) 動注リザーバー	0	1	0
7) その他	1	3	10
8) マッピング	0	0	0
計	27	29	33

##### 非血管系 IVR

	2017年	2018年	2019年
PTCD(stent)	2	1	0
胆嚢ドレナージ術	5	7	2
膿瘍ドレナージ術	14	12	5
RFA(ラジオ波凝固)	7	5	0
PEIT	0	0	0
エコー下生検	24	16	10
CT下生検	0	0	0
他	3	8	1
計	55	49	18

##### 超音波検査

部位 / 年	2017年	2018年	2019年
腹部	13,113(20)	13,300(22)	12,868(0件)
(放科施行)	13,071	13,268	12,833
ドック(腹部)	3,290	3,599	3,570
乳腺	2,687	2,959	3,227
ドック(乳腺)	354	508	658
頸部	3,575	3,641	3,934
その他	940	946	874
総数	20,315	20,846	20,903

- ・腹部下段は放射線科（放射線技師のドック例も含む）施行数
- ・腹部の件数はドックも含む
- ・腹部の（ ）は造影件数
- ・ドックは診療放射線技師が施行
- ・頸部は放科医、その他は放科と他科医の合計
- ・乳腺は外科医が施行、件数にはドックを含む

## 放射線科部消化管造影検査

部位 / 年	2017 年	2018 年	2019 年
上部消化管	514(411)	537 (436)	538(437)
小腸	21(1)	15 (0)	19(1)
大腸	5(0)	9 (1)	6(0)

( ) : 放射線科担当件数

## 放射線治療（特殊治療）症例数内訳

治療法 / 年	2017 年	2018 年	2019 年
定位照射			
頭部	19	18	20
体幹部（肺腫瘍） （内、動体追尾照射）	7 (1)	8 (0)	0 (0)
体幹部（肝腫瘍） （内、動体追尾照射）	2 (0)	3 (1)	0 (0)
強度変調放射線治療（IMRT・VMAT）			
総 数	19	36	66
脳	0	2	5
頭頸部	5	9	13
食道	-	-	7
肺	-	-	6
乳	-	-	4
肝・胆・膵	0	6	4
結腸・直腸	0	6	5
婦人科癌	-	-	5
前立腺	12	11	10
泌尿器癌（前立腺以外）	-	-	2
血液疾患	-	-	4
皮膚	-	-	1
その他	2	2	0
全身照射（TBI）	0	0	0

# 19. 麻 醉 科

## 1. スタッフ

第一部長	田邊 毅	厚生労働省麻酔科標榜医 日本麻酔科学会 認定医 専門医 指導医 社会医学系 指導医 専門医 福井大学医学部臨床教授 統括日本 DMAT 隊員 福井県災害医療コーディネーター 日本赤十字社災害医療コーディネーター 日赤緊急被ばく医療アドバイザー
第二部長	福岡 直	厚生労働省麻酔科標榜医 日本麻酔科学会 認定医 専門医 指導医
第三部長	白塚秀之	厚生労働省麻酔科標榜医 日本麻酔科学会 認定医 専門医 指導医 抗菌化学療法認定医 福井大学医学部臨床准教授 統括日本 DMAT 隊員 福井県災害医療コーディネーター 日赤災害医療コーディネーター
副部長	小柳 覚	厚生労働省麻酔科標榜医
医師	田中弓子	厚生労働省麻酔科標榜医 日本麻酔科学会 認定医 専門医 がん治療認定医
医師	山岸一也	厚生労働省麻酔科標榜医 日本麻酔科学会 認定医 専門医
医師	藤岡沙織	厚生労働省麻酔科標榜医 日本麻酔科学会 認定医
後期研修医	片岡 滯	日本麻酔科学会 認定医

令和2年度4月1日現在の麻酔科スタッフは、令和2年3月31日付けで鈴木由紀子先生が福井大学麻酔科蘇生科へ移動となり、交代で片岡滯先生が後期研修医として着任しました。他のスタッフ移動はなく昨年と同じ8人体制を維持しております。また、昨年同様福井大学より週3回の医師派遣をいただいております。

## 2. 診 療

麻酔部門ですが、平成30年度の麻酔科依頼件数は2442件（全麻2387）でしたが、平成31年度の件数は2578件（全麻2531）と136（全麻144）件増加しました。内訳では、最先端手術のロボット手術症例数が前年度72→98に伸びています。しかし、令和2年度初めより全世界的に広がりを見せているCOVID19感染症の影響で、次年度の件数は減少するものと思われま。麻酔関連機器ですが、

沿革
概要
患者数・経営状況
委員会
トピックス
診療業務
医療社会事業部
看護部
事務部
業績

今年度は2台の麻酔器を最新式のものに更新しましたので、よりクオリティの高い麻酔管理が出来るようになりました。安全で質の高い麻酔管理の実現には、周術期管理チームが不可欠ですが、幸い周術期管理ナースも昨年より3名増員できました。今後も更なるチームの充実を図っていきたいと考えています。

集中治療部門ですが、今年度最大に出来事としましては、何と言っても COVID 19 重症患者の受け入れです。3月終わりに1名の患者を受け入れましたが、急激な呼吸状態の悪化のため V-V ECMO の導入を決定しました。当院では初めての経験でしたが、院内及び他機関から協力して頂くことにより、無事安全に導入する事が出来ました。しかし、COVID19 患者の受け入れにより著しく本来の ICU 機能が損なわれるため、一般重症患者をいかに安全に受け入れるかが課題となっています。重症 COVID19 受け入れ機関である当院は、今後更に蔓延すると思われるこの感染症に対する対応が急務と考えております。

### 3. 目 標

- ① COVI19 騒動で延期されていた周術期管理部会開催を次年度は実現する。
- ② 麻酔・集中治療部門ともに COVID19 対策を徹底する。

## 20. リハビリテーション科

### 1. スタッフ

第1リハビリテーション科部長	浅野 太洋	第2リハビリテーション科部長	高嶋 理
リハビリテーション科技師長	矢部 信明		
理学療法課長	豊田 泰美		
第1理学療法係長	山岸 耕二	第2理学療法係長	梅田 美和
作業療法課長	仲辻 良仁		
第1作業療法係長	山田 英二	第2作業療法係長	浜田 友紀
言語聴覚療法係長	岩佐 茂美		

他、理学療法士15名、作業療法士10名、言語聴覚士4名、助手1名、事務0.5名

### 2. 診療

- ・疾患別リハビリテーション（以下リハ）である運動器、脳血管、呼吸、心大血管、がん、廃用症候群のすべての施設基準（I）を満たし、摂食機能療法に対応している。
- ・術後や超急性期の患者については継続性を持たせるために休日リハを実施している。SCUにおいては救急入院時よりリハが介入し、365日リハを実施している。
- ・ICUにおける早期離床・リハチームに、理学療法士1名、作業療法士1名を専任として配置している。

### 3. 実績

#### 1) 稼働実績

表1 リハビリ科実施単位数（PCU含む）およびスタッフ1日一人当たり単位数

	理学療法	作業療法	言語聴覚療法	合計
2017年度	72,230	47,049	13,012	132,291
スタッフ一人当たり	17.7	16.9	16.0	
2018年度	73,397	45,636	17,653	136,686
スタッフ一人当たり	17.3	17.4	14.9	
2019年度	69,341	42,514	15,776	127,631
スタッフ一人当たり	17.5	17.0	14.1	

表2 リハビリ科実施のべ件数（PCU含む）と1件当たりの実施単位数

	2017年度	2018年度	2019年度
のべ件数	78,638	82,544	77,745
ICU（早期離床・リハ加算）	/	915	689
1件当たり単位数	1.68	1.66	1.64

表3 2019年度診療科別リハビリテーション実施単位数(PCU含む)

診療科	単位数	診療科	単位数	診療科	単位数
整形外科	31,617	腎臓泌尿器科	5,692	小児科	278
脳神経外科	22,461	消化器科	5,399	産婦人科	219
神経内科	18,723	呼吸器外科	2,747	歯科	18
循環器科	12,710	形成外科	1,201	眼科	8
内科	9,168	耳鼻咽喉科	1,002	麻酔科	6
外科	7,897	皮膚科	765	他科	40
呼吸器科	7,278	総合診療科	402	合計	109,854

2) 専門資格取得者状況

表4 専門分野資格取得者

専門分野別資格	2017.4	2018.4	2019.4
心臓リハビリテーション指導士	9名	11名(+2名)	11名
呼吸療法認定士	9名	12名(+3名)	13名(+1名)
骨粗鬆症マネージャー	3名	5名(+2名)	6名(+1名)
糖尿病療養指導士	3名	3名	3名
NST 専門療法士	2名	2名	2名
日本摂食嚥下リハ学会認定士	1名	1名	2名(+1名)
腎臓リハビリテーション指導士			1名
排泄機能指導士			1名
認知症ケア専門士	1名	1名	1名
職種別資格	2017.4	2018.4	2019.4
専門理学療法士(基礎)	1名	1名	1名
認定理学療法士(脳卒中)	2名	2名	2名
認定理学療法士(呼吸)	1名	1名	1名
認定理学療法士(運動器)	なし	2名(+2名)	4名(+2名)
認定作業療法士	なし	3名(+3名)	4名(+1名)
認定言語聴覚士	1名	1名	1名

がんのリハビリテーション研修終了者:

医師6名、看護師6名、理学療法士11名、作業療法士8名、言語聴覚士3名

3) その他の活動

[医療チーム]

・NST ・RST ・CST ・認知症ケア ・褥瘡対策検討委員会

[健康教室]

・糖尿病教室(月2回/内科) ・心臓病教室(月1回/循環器科)  
 ・人工股関節教室(年1回/ 整形外科)

[新人、学生研修の受け入れ]

- ・介護保険リハビリ施設（ほっとリハビリシステムズ）からの新人研修受入れ  
2019. 7. 26、8. 21 各理学療法士 1 名
- ・臨床実習受け入れ  
理学療法 : 若狭医療福祉専門学校 5/7-7/3  
作業療法 : 金城大学 6/10-8/3 群馬大学 8/19-10/4  
言語聴覚療法 : 聖隷クリストファー大学 4/8-5/24

#### 4. 目 標

- 1) リハビリテーション科人材育成キャリアラダーのレベルⅣ、Ⅴを作成し、すべてのレベルにおいて評価会を実施する。
- 2) 専門領域資格、職種別認定資格取得を奨励しスキルを向上させる。がんリハの研修をスタッフ全員が履修する。
- 3) 人工股関節教室を継続して開催する。各医療チームに参加し、健康教室の講師を行う。

沿  
革

概  
要

患  
者  
数  
・  
経  
営  
状  
況

委  
員  
会

ト  
ピ  
ッ  
ク  
ス

診  
療  
業  
務

医  
療  
社  
会  
事  
業  
部

看  
護  
部

事  
務  
部

業  
績

# 21. 歯科・歯科口腔外科

## 1. スタッフ

部長	山田 和人	日本口腔外科学会専門医・同指導医 日本歯科麻酔学会認定医 日本口腔科学会認定医、指導医 歯科医師臨床研修指導医
後期研修歯科医師	松永 良健	平成 29 年 4 月 1 日赴任
	山本 瞳	令和 2 年 4 月 1 日赴任
	森 亮介	平成 31 年 4 月 1 日赴任、令和 2 年 3 月 31 日退職
前期研修歯科医師	大嶋 莉加	令和 2 年 4 月 1 日赴任
非常勤歯科医師	入江 道文	

今年度は平成 31 年度 4 月より赴任された森 亮介先生が退職され、令和 2 年 4 月より後期研修歯科医師の山本 瞳先生と今年度より始まった前期研修歯科医師の大嶋莉加先生が赴任され、歯科医師 3 名、前期研修歯科医師 1 名、歯科衛生士 3 名（正規職員 3 名）、歯科技工士 1 名の診療体制です。

## 2. 診療

### 1) 外来診療

外来患者数は延べ 14,064 人で、そのうち新患 2,724 人、紹介患者 1,278 人です。

昨年の外来患者数は延べ 14,267 人で、そのうち新患 2,565 人、紹介患者 1,145 人でしたので、これに比較して、外来患者数で 203 人減、新患で 158 人増、紹介患者は 133 人増となりました。また紹介率では昨年 46.2%が 48.5%と 2.3%増加しております。

### 2) 入院

入院患者数は 218 人で、昨年の 217 人に比較して、1 人増加しております。

平成 30 年度の診療報酬改定でかかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所と病院歯科との明確な機能分科がはかられ、病院歯科には入院患者のより濃厚な口腔機能管理を求められるようになりました。ただ一方で病院歯科には外来にて診察してよい外来患者数が決められており、それを上回った場合、施設基準を順守していないとの指摘を受け、場合によっては診療費返還などの指導を受ける可能性があります。このため昨年は外来患者数の縮小を行っており、外来患者数は減少しました。しかしながら、平成 28 年の通知で、当院他科に入院中の患者さんは、外来患者さんとみなさないとのことで、他科入院中の外来患者数は増加しております。

### 3. 実績

#### 入院手術統計

		2017年	2018年	2019年
形態異常	顎変形症	0	0	0
	小帯異常	0	0	1
	歯肉増殖症	0	0	0
	歯槽骨不正	0	1	1
外傷	裂傷	0	0	0
	上下顎骨骨折	0	0	0
	下顎骨骨折	3	2	0
	上顎骨骨折	0	0	0
	頬骨骨折	0	0	0
	術後プレート除去	0	1	1
炎症	下顎周囲膿瘍	0	0	0
	顎下膿瘍	0	0	0
	眼窩下膿瘍	0	0	0
	頬部膿瘍	0	4	0
	オトガイ下膿瘍	0	0	0
	翼突下顎膿瘍	0	0	0
	ろう孔形成	0	0	0
	歯性上顎洞炎	0	0	0
	唾石症	0	0	1
	骨髓炎	0	0	4
	拔牙後感染	0	0	0
	歯周炎	3	0	0
	唾液腺炎	0	0	0
	顎放線菌症	0	0	0
	その他	2	0	2
嚢胞	歯根嚢胞	5	13	7
	切歯管嚢胞	0	17	0
	含歯性嚢胞	9	0	7
	術後性上顎嚢胞	0	0	0
	ガマ腫	0	0	0
	その他	1	1	0
腫瘍	良性腫瘍	5	2	0
	悪性腫瘍	5	3	4
顎関節	顎関節症	0	0	0

		2017年	2018年	2019年
抜歯	埋伏智歯抜歯	111	113	144
	歯科集中治療	8	2	1
その他	口腔内出血	0	1	0
計		152	160	173

#### 4. 目標

新年度の目標は、歯科医師の確保と口腔機能低下症への取り組みです。

昨年度の当院単独型の初期臨床歯科医師研修施設を申請が受理され、本年度より単独型の初期研修歯科医師が赴任されました。来年度も赴任される方が増えるよう努力する予定です。

また昨年平成30年度診療改正報酬に掲載された口腔機能低下症に対しても取り組んでいこうと考えております。

## 22. 総合診療科

沿革  
概要  
患者数・経営状況  
委員会  
トピックス  
診療業務  
医療社会事業部  
看護部  
事務部  
業績

### 1. スタッフ

消化器内科 第2部長  
道上 学

日本プライマリ・ケア連合学会認定プライマリ・ケア認定医・指導医  
日本内科学会総合内科専門医 日本消化器内視鏡学会専門医・指導医  
日本消化器病学会専門医 日本肝臓学会専門医

呼吸器内科 第2部長  
出村 芳樹

日本プライマリ・ケア連合学会認定プライマリ・ケア認定医・指導医  
日本呼吸器学会専門医・指導医 日本内科学会認定医・総合内科専門医  
日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医・指導医  
日本消化器病学会専門医  
日本アレルギー学会専門医・指導医 日本臨床腫瘍学会暫定指導医

内科 副部長  
安富 久記

日本プライマリ・ケア連合学会認定プライマリ・ケア認定医  
日本内科学会総合内科専門医

### 2. 診療

2016年4月から振り分け内科外来を総合診療科として診療を開始したが総合診療科担当医師はすべてが他科と併任しており、体制は十分ではない。2017年4月からは毎週水曜日および内科（毎週金曜日）、呼吸器内科担当（第4火曜日）を総合診療科医師が担当することになった。また、2017年5月より入院5床での入院加療も開始している。入院患者の主治医は外来で診療した内科系医師にお願いしている。その他、他施設からの紹介は受けているが院内対診はう受けていない。

### 3. 実績

学会参加のみ

### 4. 目標

日本専門医機構による新専門医制度でのプログラムでは基幹病院として認可されたが専攻医の応募はなし。現状では施設認定基準を満たす診療や指導はできておらず。選任医師の応募、着任が不可欠であるが、それまでは現状の診療を継続していく。

# 23. 救 急 部

## 1. スタッフ

救急部第1部長	嶋田 喜充
救急部第2部長（循環器科部長）	坪川 明義
救急部副部長（外科部長）	川上 義行
集中治療室看護師長	相模 朋恵
集中治療室看護係長（救急担当）	朝田 和枝（救急看護認定看護師）

## 2. 診 療

### <救急部の活動>

- 1 救急部作業部会の定期開催（毎月）（場所：集中治療室カンファレンス室）
- 2 救急医療検討委員会（年1回）  
第1回 令和2年3月26日（金）16：00～17：00  
議題 1) 令和元年度救急実績報告、救急者応需率報告  
2) 令和元年度救急外来受け入れ困難事例報告  
3) 救急作業部会で検討した議題検討報告  
4) ドクターヘリの単独導入にかかる経緯について

### 3 院内における講習会

- 1) ACLS 協会による BLS、ACLS コース開催  
（対象：院内医師及びコメディカル、募集定員約12名）  
BLS 第1回 令和元年5月25日（土）7名参加  
BLS 第2回 令和元年10月14日（月・祝日）10名参加  
BLS 第3回 令和2年1月25日（土）7名参加  
ACLS 第1回 令和2年7月20日（土）・21日（日）3名参加

- 2) 日本救急医学会による I C L S コース開催  
（対象：院内医師及びコメディカル、募集定員約18名）  
ICLS 第1回 令和元年6月29日（土）18名参加  
ICLS 第2回 令和元年11月30日（土）18名参加

- 3) 日本救急医学会による I C L S 指導者養成ワークショップ開催  
（対象：院内医師及びコメディカル）  
第1回 令和元年10月22日（火・祝日）8名参加

- 4) 日本内科学会による J M E C C 開催  
（対象：院内医師）  
令和2年2月22日（土）5名参加

- 4 令和元年度第1回日本赤十字社「JTAS プロバイダーコース」への参加  
 令和元年7月6日（土）9時～15時 名古屋第二赤十字病院  
 集中治療室 看護師 寺井 美穂子 出席
- 令和元年度ドクターヘリ事業従事者研修（基礎コース）への参加  
 令和2年2月15日（土）16日（日） ヒラタ学園神戸エアセンター  
 救急部長 嶋田 喜充 出席

沿革
概要
患者数・経営状況
委員会
トピックス
診療業務
医療社会事業部
看護部
事務部
業績

### 3. 実績

表 1 救急外来来院患者総数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2017年度	1,431	1,598	1,338	1,568	1,586	1,386	1,367	1,274	1,473	1,738	1,341	1,431	17,531
2018年度	1,326	1,450	1,370	1,636	1,523	1,368	1,288	1,312	1,614	2,076	1,280	1,286	17,529
2019年度	1,414	1,579	1,462	1,517	1,624	1,317	1,300	1,375	1,672	1,796	1,291	1,157	17,504

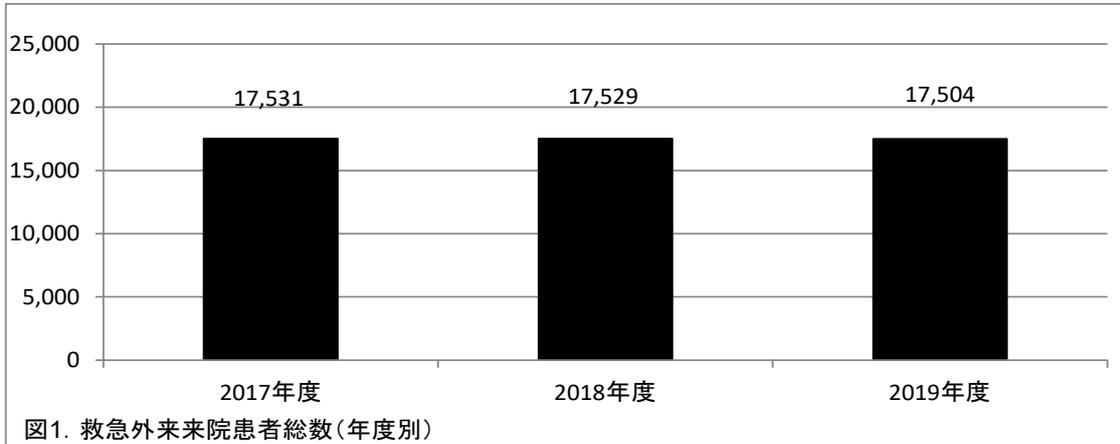


表 2 救急車における来院患者総数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2017年度	231	233	212	249	276	231	244	239	297	293	344	271	3,120
2018年度	233	235	226	287	289	242	245	225	275	292	231	252	3,032
2019年度	254	277	263	259	301	238	258	249	320	267	247	254	3,187

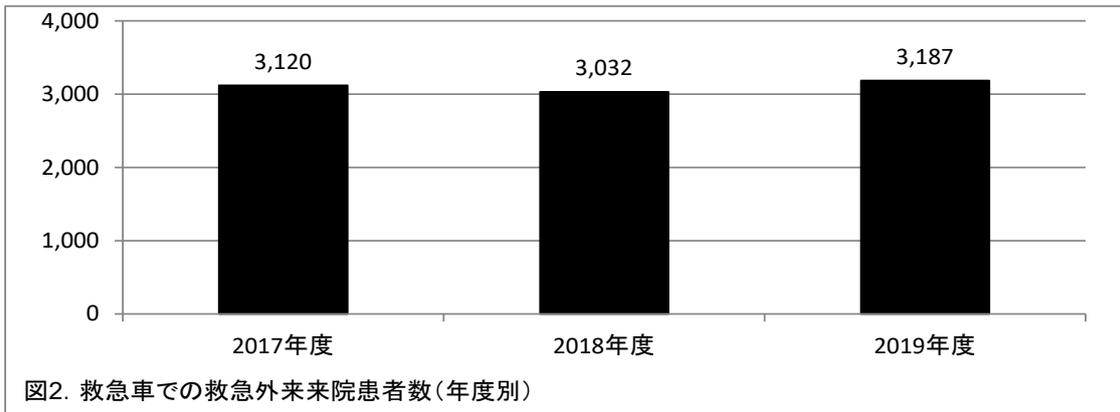
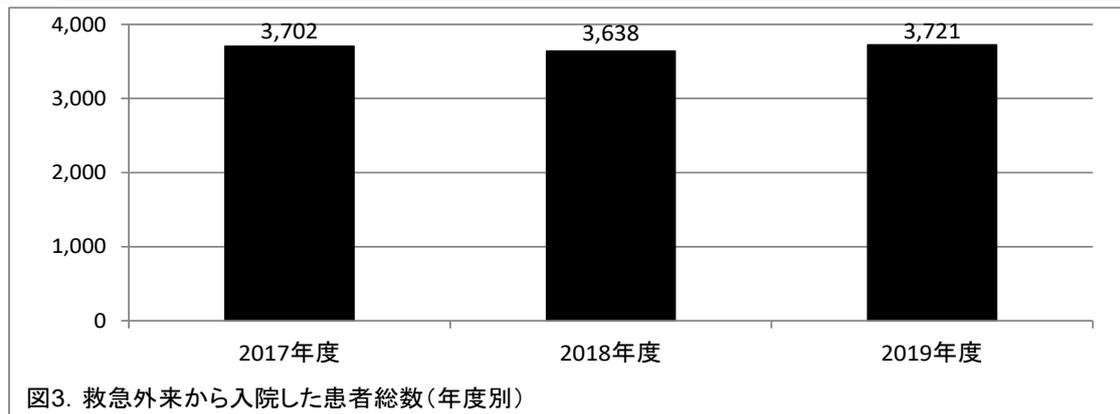


表 3 救急外来から入院した患者総数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2017年度	330	329	278	314	325	286	325	307	284	339	283	302	3,702
2018年度	284	296	306	351	330	298	311	286	310	329	266	271	3,638
2019年度	314	327	323	326	323	293	302	303	327	352	280	251	3,721



【 救急外来来院患者特性(年齢別) 】

年齢階級	0歳	1歳～4歳	5歳～14歳	15歳～24歳	25歳～34歳	35歳～44歳	45歳～54歳	55歳～64歳	65歳～74歳	75歳以上	総計
2017年度	384	1,010	929	1,472	1,815	1,642	1,608	1,550	2,503	4,618	17,531
2018年度	407	1,123	983	1,439	1,890	1,667	1,464	1,421	2,378	4,757	17,529
2019年度	385	1,226	1,069	1,351	1,726	1,620	1,602	1,508	2,390	4,627	17,504

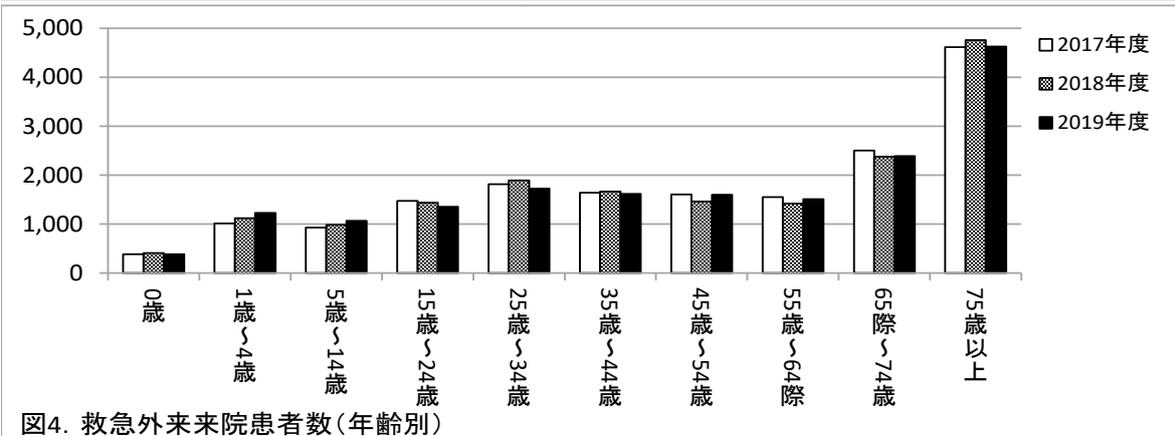


図4. 救急外来来院患者数(年齢別)

年齢階級	0歳	1歳～4歳	5歳～14歳	15歳～24歳	25歳～34歳	35歳～44歳	45歳～54歳	55歳～64歳	65歳～74歳	75歳以上	総計
2017年度	18	57	74	122	129	147	207	292	550	1,524	3,120
2018年度	25	66	66	148	132	141	173	208	522	1,551	3,032
2019年度	20	94	74	137	142	146	215	282	506	1,571	3,187

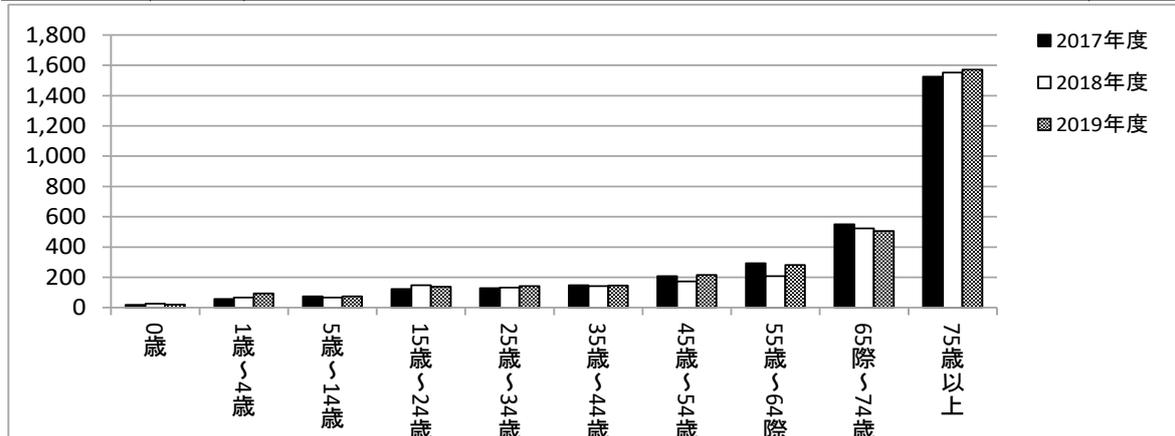


図5. 救急車で来院した患者数(年齢別)

年齢階級	0歳	1歳～4歳	5歳～14歳	15歳～24歳	25歳～34歳	35歳～44歳	45歳～54歳	55歳～64歳	65歳～74歳	75歳以上	総計
2017年度	117	123	97	107	235	177	212	288	608	1,738	3,702
2018年度	152	157	110	113	219	162	152	249	598	1,726	3,638
2019年度	108	216	128	102	204	176	200	275	582	1,730	3,721

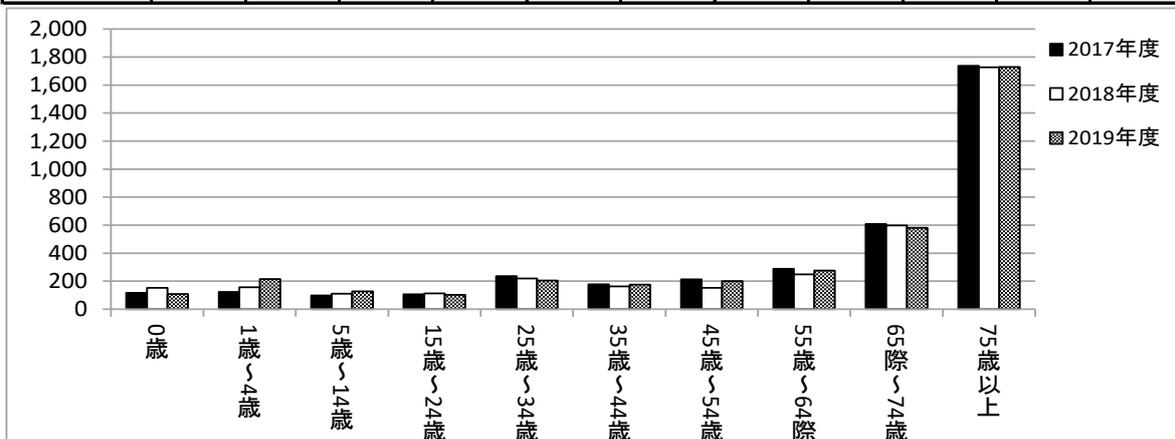


図6. 救急外来から入院した患者数(年齢別)

【 救急外来来院患者特性(最終診療科別) 】

救急患者数	内科	消化器内科	呼吸器内科	小児科	外科	整形外科	脳外科	皮膚科	泌尿器科	循環器内科	産婦人科	眼科	耳鼻科	放射線科	呼吸器外科	神経内科	歯科	形成外科	麻酔科	総合診療科	総数
2017年度	2590	2041	894	1368	651	2378	1365	899	836	792	549	447	1071	6	139	697	257	509	3	39	17,531
2018年度	2416	2208	822	1547	653	2227	1266	928	843	743	492	478	1076	13	147	717	237	467	3	246	17,529
2019年度	1822	1934	742	1679	604	2278	1340	1020	861	740	498	516	1116	1	182	765	223	553	4	626	17,504

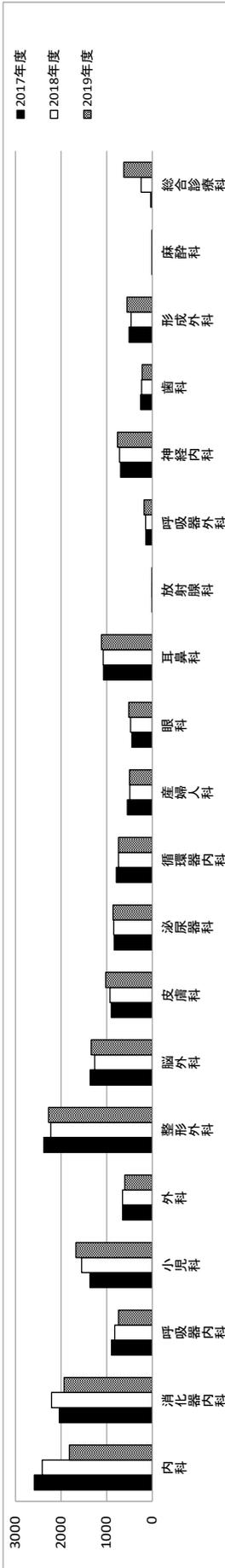


図7. 救急外来来院患者数(最終診療科別)

救急車搬送患者数	内科	消化器内科	呼吸器内科	小児科	外科	整形外科	脳外科	皮膚科	泌尿器科	循環器内科	産婦人科	眼科	耳鼻科	放射線科	呼吸器外科	神経内科	歯科	形成外科	麻酔科	総合診療科	総数
2017年度	336	384	178	91	130	548	489	46	130	274	30	11	126	2	43	223	8	48	1	22	3,120
2018年度	303	385	143	113	130	509	459	40	144	268	39	5	123	0	45	223	8	50	0	45	3,032
2019年度	252	346	134	132	137	544	510	54	138	281	37	11	132	0	55	263	6	50	0	105	3,187

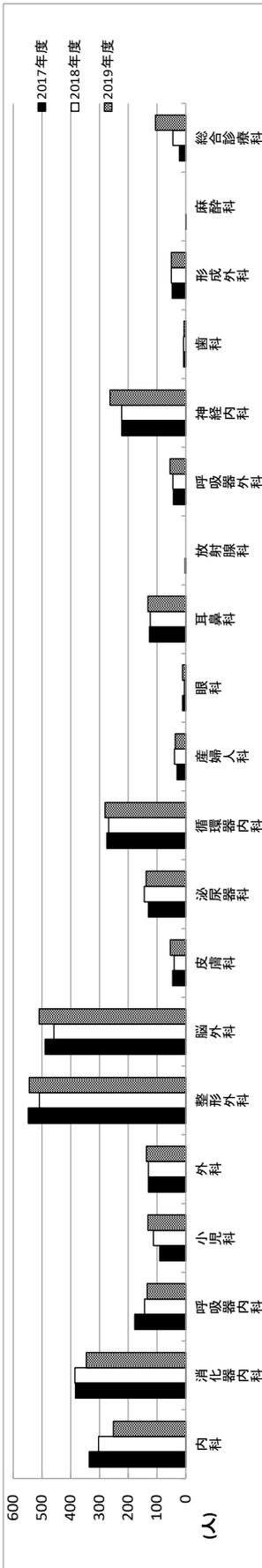


図8. 救急車で来院した患者数(最終診療科別)

入院患者数	内科	消化器内科	呼吸器内科	小児科	外科	整形外科	脳外科	皮膚科	泌尿器科	循環器内科	産婦人科	眼科	耳鼻科	放射線科	呼吸器外科	神経内科	歯科	形成外科	麻酔科	総合診療科	総数
2017年度	166	498	296	308	301	342	407	105	237	309	269	27	111	0	66	204	4	16	0	36	3,702
2018年度	138	501	245	394	297	331	419	67	234	301	254	12	107	0	65	196	5	14	0	58	3,638
2019年度	162	498	232	431	292	337	452	85	197	294	248	11	85	0	88	240	3	17	0	49	3,721

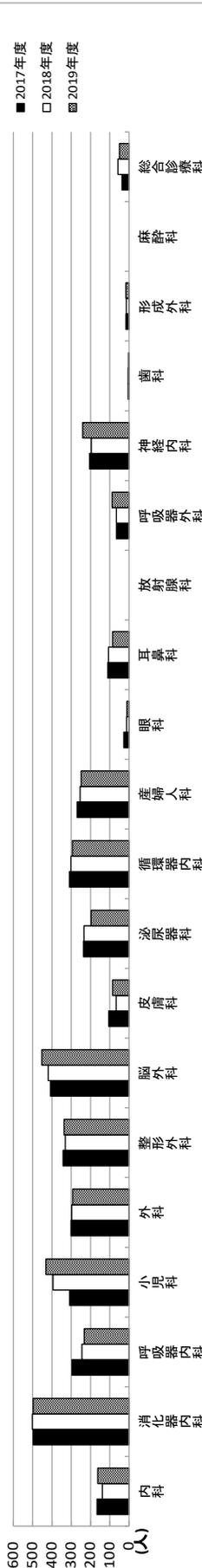


図9. 救急外来から入院した患者数(最終診療科別)

## 24. 健 診 部

### 1. スタッフ

部長	西川 邦寿	日本内科学会認定医、指導医 日本肝臓学会専門医 日本消化器内視鏡学会専門医、指導医 日本消化器病学会専門医、指導医 日本大腸肛門病学会専門医、指導医 日本人間ドック学会認定医、専門医 人間ドック健診情報管理指導士 日本消化器がん検診学会認定医（胃、大腸、肝胆膵） 日本医師会認定健康スポーツ医 日本医師会認定産業医 PEG・在宅医療研究会 専門胃瘻造設者 日本ヘリコバクター学会 H.pylori（ピロリ菌）感染症認定医 日本消化管学会専門医
副部長	吉田 誠	日本外科学会専門医 日本乳癌学会認定医・乳腺専門医 検診マンモグラフィ読影医師
嘱託医師	濱中 大三郎	日本超音波医学会専門医 日本核医学会専門医 日本核医学学会PET核医学認定医 日本医師会認定産業医 日本医師会認定健康スポーツ医 日本人間ドック学会認定医、専門医 人間ドック健診情報管理指導士 日本人間ドック学会健診指導医 日本臨床検査医学会臨床検査管理医 肺がんCT検診認定医師 放射線診断専門医 日本医学放射線学会研修指導者 日本プライマリ・ケア連合学会認定指導医
健診業務課長	大塚 治	
健診業務係長	中山 美穂	
看護師長	中野 敦子	
看護師	2名	
主事	3名	
派遣・委託職員	6名	

沿革

概要

患者数・経営状況

委員会

トピックス

診療業務

医療社会事業部

看護部

事務部

業績

## 2. 実績

当院の中期ビジョン「地域に寄り添う良質な医療を提供する病院になる」に基づき、2019年度の健診部の目標を「安全と質の向上を図り、優しい健診の提供と健全経営の寄与を実践する」とし、目標達成に向け、具体的で効果的なアクションプランを設定し遂行した。主なアクションプランとして、「がん検査の受診率を高め、がん患者の早期発見に努める」では、各スタッフが受診者に対し各がん検査の受診を推奨した。結果、腹部超音波、前立腺がん検査、乳房超音波、経膈超音波の実施率が大幅増となった。

業務実績としては、別表「人間ドック・健康診断受診者数」、「特定健康診査および特定保健指導実施者数」、「主な検査実施数」、「人間ドックの検査別がん発見数」のとおりである。

## 3. 目標

「安全と質の向上を図り、優しい健診の提供と健全経営の寄与を実践する」を引き続き2020年度の目標に掲げ、早期発見のためのがん検査推奨・二次検査の受診勧奨、健診当日の保健指導実施など、安全と質の向上や健全経営に向けた取り組みを実践する。

人間ドック・健康診断受診者数

種 別		性別	2017年度	2018年度	2019年度	前年度増減
人間ドック	一日ドック	男	1,168	1,288	1,241	△47
		女	754	858	893	35
		計	1,922	2,146	2,134	△12
	福井市 国保ドック	男	171	187	112	△75
		女	154	170	97	△73
		計	325	357	209	△148
	協会けんぽ	男	2,327	2,460	2,483	23
		女	1,472	1,511	1,581	70
		計	3,799	3,971	4,064	93
	生活習慣病	男	281	296	312	16
		女	507	518	542	24
		計	788	814	854	40
	船員ドック	男	34	32	31	△1
		女	7	5	8	3
		計	41	37	39	2
	脳ドック (単独)	男	38	38	50	12
		女	57	58	44	△14
		計	95	96	94	△2
	その他	男	6	14	10	△4
		女	189	257	259	2
計		195	271	269	△2	
総 計			7,165	7,692	7,663	△29
健康診断			3,795	3,796	3,626	△170

特定健康診査および特定保健指導実施者数

種 別		性別	2017年度	2018年度	2019年度	前年度増減	
特定健康診査	ドック併用	男	3,544	3,795	3,735	△ 60	
		女	2,515	2,700	2,821	121	
		計	6,059	6,495	6,556	61	
	単独	男	7	8	3	△ 5	
		女	96	85	71	△ 14	
		計	103	93	74	△ 19	
総 計			6,162	6,588	6,630	42	
特定保健指導者数 (初回)	動機付け支援	男	2	2	0	△ 2	
		女	1	1	4	3	
		計	3	3	4	1	
	積極的支援	男	3	4	3	△ 1	
		女	1	0	0	0	
		計	4	4	3	△ 1	
	総 計			7	7	7	0

主な検査実施数

	2017年度		2018年度		2019年度		前年度増減	
胃内視鏡	5,831		6,260		6,119		△ 141	
胃透視	325		351		358		7	
脳ドック	510	(415)	525	(429)	482	(388)	△ 43	(△ 41)
腹部超音波	3,290	(831)	3,599	(859)	3,570	(895)	△ 29	(36)
子宮がん	1,918	(1,069)	1,974	(1,089)	1,951	(1,044)	△ 23	(△ 45)
マンモグラフィ	1,706	(1,020)	1,812	(1,071)	1,815	(1,012)	3	(△ 59)
乳房超音波	321		506	(484)	658	(622)	152	(138)
肺機能	2,600	(94)	2,858	(77)	2,814	(92)	△ 44	(15)
眼底	3,040	(448)	3,740	(474)	3,674	(429)	△ 66	(△ 45)
P E T	31	(18)	52	(28)	44	(29)	△ 8	(1)
卵巣検診(＊)	496		888		911		23	
肺ドック(＊)	195		194		170		△ 24	
喉頭がん(＊)	173		145		150		5	
前立腺がん(＊)	991		1,096		1,189		93	
骨塩定量(＊)	151		181		156		△ 25	
HPV(＊)	48		54		53		△ 1	
FDT視野(＊)	109		102		100		△ 2	
ピロリ菌(＊)	167		289		192		△ 97	
胃がんリスク(＊)	167		104		84		△ 20	
血管ドック(＊)	334		406		324		△ 82	
甲状腺(＊)	176		177		165		△ 12	

\*印の項目および\*印以外の( )内の数値は、オプション検査として実施した件数

人間ドックの検査別がん発見数

全コース（生活習慣病予防健診を含む）

検査名	病名	2016年	2017年	2018年
診察	甲状腺がん	2		1
	胆嚢がん			1
血液検査	前立腺がん	1	6	8
	肺がん	1		1
	大腸がん			1
	多発性骨髄腫			1
	骨髄増殖性腫瘍			1
	白血病		1	
尿検査	膀胱がん		2	2
便検査	大腸がん	4	11	5
	悪性リンパ腫			1
胸部レントゲン	肺がん	1		3
	悪性リンパ腫		1	
			1	
胃内視鏡	胃がん	11	12	10
	悪性リンパ腫	2	2	3
	食道がん	2	3	2
	十二指腸がん	2	1	
	声帯がん			1
胃透視	胃がん			1
腹部超音波	膀胱がん		3	1
	腎臓がん	1	1	1
	肝臓がん			1
	胆嚢がん			1
	膵臓がん	1		
乳がん検診	乳がん	6	1	3
子宮がん検診	子宮頸がん	3	5	2
	子宮体がん			1
	卵巣がん		3	
脳ドック	髄膜腫	1	2	
	甲状腺がん	2		
肺ドック	肺がん		2	
喉頭がん検診	咽頭がん		1	

(※) 今回の直近データはデータの精度向上を目的に 2018 年とする

## 25. 病理診断科

### 1. スタッフ

部長	今村 信	(第3内科部長 兼 検査部長)
副部長	大越 忠和	(病理検査課長 兼 病理検査係長)
		日本病理学会病理専門医・病理専門医研修指導医 日本臨床細胞学会細胞診専門医・教育研修指導医 厚生労働大臣認定死体解剖資格
臨床検査技師	鎌田 公美子・藤田 幸宏・國兼 結麻	細胞検査士
	飯田 穂乃花	
臨床検査技師(パート)	黒川 友夏	細胞検査士

### 2. 診療

- 組織診断：常勤医師1名と非常勤医師8名（福井大学）により診断業務を行っている。  
高品質な標本の作製及び免疫染色や特殊染色の適切な併用により、正確かつ迅速な診断が可能である。
- 細胞診断：ほぼ全例において細胞検査士と細胞診専門医によるダブルチェックを実施することにより、精度の高い診断が可能である。
- 病理解剖：死体解剖資格保有者による適法な病理解剖を実施している。

### 3. 実績

	2017年度	2018年度	2019年度
組織診断	6,256	6,712	6,746
術中迅速	200	186	241
借用標本	47	61	75
細胞診断	7,549	7,666	7,327
術中迅速	96	102	130
病理解剖	11	7	16

#### 臨床病理検討会

令和元年度は下記の臨床病理検討会（CPC）を実施した。  
臨床病理検討会 2019年12月5日（木）剖検例 A19 - 005 再生不良性貧血 内科

### 4. 目標

- ・院内実施可能な免疫染色および特殊染色の項目を拡充する。
- ・若手技師の育成に努める。
- ・院内外の研修会等へ積極的に参加する。

## 26. 脳神経センター

### 1. スタッフ

#### <脳神経外科>

センター長	戸田 弘紀	(2020年6月30日異動)
	早瀬 睦	
	佐野 徳隆	
	池田 宏之	(2020年3月31日異動)
	取越 貞治	(2019年4月1日着任)
	鎌田 貴彦	(2019年7月1日着任、2019年9月30日異動)
	辻本 吉孝	(2019年6月30日異動)
	大塚 亮太郎	(2020年3月31日異動)
	山下 智之	(2019年10月1日着任、2020年3月31日異動)

#### <神経内科>

高野 誠一郎	
今村 久司	
早瀬 史子	
柳田 成史	(2020年3月31日異動)
長谷川 華子	(2020年3月31日異動)

### 2. 診療

脳神経センターは脳神経外科と神経内科で構成されています。医師、看護師、リハビリのスタッフ、MSW との多職種で月曜から金曜まで毎日、脳卒中で入院した患者さんのカンファレンスを行っています。その上で急性期治療の方針、長期的な方針を決めています。

また、脳神経外科の医師、または神経内科の医師が毎日当直し、脳卒中患者さんの治療をより早く開始できるように努めています。日中も、脳卒中センターの医師が、神経系疾患の救急治療を担当しています。その結果、福井県随一の脳卒中診療施設として、歩み続けています。

# 27. がん診療センター

## 1. スタッフ

がん診療センター長：廣瀬 由紀

メンバー：相談支援部門（看護師 11 名、社会福祉士 1 名、公認心理士 1 名）

化学療法部門（医師 1 名、看護師 6 名、薬剤師 2 名）

緩和ケア部門（医師 9 名、看護師 6 名、薬剤師 2 名、放射線技師 1 名、公認心理士 1 名、  
（緩和ケアチーム）理学療法士 1 名、作業療法士 1 名、管理栄養士 1 名、社会福祉士 1 名）

放射線治療部門（医師 2 名、放射線技師 8 名、看護師 1 名）

がん登録部門（診療情報管理士等 7 名）

事務局：地域医療連携課（がん診療センター）、医療情報課（がん登録）

## 2. 業務

相談支援部門：がん相談員の看護師、社会福祉士、公認心理士らが協力し、がん患者の不安や悩みに対する傾聴、助言、情報提供などの適切な支援を行う。がん相談窓口での面談および電話相談、病状説明時におけるがん領域認定看護師の同席、入院患者を対象とするがんケアニーズ評価の面談の他、ハローワークや産業保健支援センターとも連携し、就職支援にも対応している。在宅療養を希望する終末期のがん患者には、入院安心カード「グリーンカード」の発行を行う。またがん患者会「スマイル会」事務局として、世話人との連携や患者会開催準備、広報を担当する。その他、毎週火曜日にメディカルサロンで開催する「おもいでなサロン」では、参加者同士のおしゃべり会や、ヨーガセラピーを行っている。また月に 1 回、心身のリラックスを目的とした女性患者さんのためのヨーガセラピーも行っている。

化学療法部門：がん化学療法に携わる専任医師、認定看護師、認定薬剤師を中心として、安全で能率的な化学療法の実施を推進する。外来化学療法室における治療管理、患者支援、ベッド管理等を行う。がん化学療法部会では、レジメンの妥当性、マニュアルの整備、外来化学療法室の運用、入院化学療法に関する様々な事項を審議する。

緩和ケア部門：緩和ケアに関するスクリーニング（がんケアニーズ評価）に基づき、専門的な緩和ケアニーズを有する患者に対し、緩和ケア実施計画書を作成し緩和ケアチームが介入する。

緩和ケアを提供する場のひとつである緩和ケア病棟を緩和ケアチームが後方支援する。

緩和ケア外来を開設し、外来通院患者が安心して在宅療養ができるよう支援する。緩和ケアチームは緩和医療検討部会と協働し院内の緩和医療に関する検討やマニュアルの整備などを行う。

放射線治療部門：放射線治療の専任医師、専任看護師、専任技師を中心として、安全で確実な放射線治療を実施する。症例に応じた治療計画、治療管理、経過観察と患者指導を行い、定期的な機器の精度管理も行う。

がん登録部門：がん診療連携拠点病院等の指定要件とされる専従のがん登録実務者を配置し、国立研究開発法人国立がん研究センターが提示する「院内がん登録に係る標準的な

沿革

概要

患者数・経営状況

委員会

トピックス

診療業務

医療社会事業部

看護部

事務局

業績

登録用紙」に基づき、院内がん登録業務を実施する。また、生存状況の把握に努め、登録データは全国集計と予後情報付集計のため、毎年国立がん研究センターに提供を行う。併せて、福井県内の院内がん登録の精度の向上とがん対策基礎資料として活用していくため、福井県がん登録部会にも提供を行う。その他、院内のがん診療データに関する統計資料作成や分析も行う。

その他 : がん診療連携拠点病院の指定要件にそったキャンサボードを月に1回以上する。

### 3. 実績

#### ◆相談支援部門

##### (1) がん相談件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2017年度	229	203	237	117	191	140	94	116	176	134	64	158	1,859
2018年度	154	141	148	162	132	130	155	178	184	196	187	194	1,961
2019年度	155	143	170	184	147	156	180	149	166	162	137	151	1,900

##### (2) スマイル会・がんサポート教室の開催

がん患者会スマイル会（会員数48として、参加者同士が語り合う座談会を毎月1回程度開催しており、同日にがんサポート教室として院内の多職種による講義を行なっている。

開催年月日		内 容	担当者	参加人数	
2019年	4月	26日(金)	放射線治療について	放射線科 部長 坂本 匡人	12人
	5月	24日(金)	がんとリハビリ	言語聴覚士 吉川 綾子	15人
	6月	28日(金)	糖尿病について	内科 部長 夏井 耕之	11人
	7月	26日(金)	がんと栄養	管理栄養士 杉原 二葉	15人
	8月	23日(金)	がんの治療とお金	社会福祉士 伊藤 みのり	10人
	9月	7日(土)～ 8日(日)	リレーフォーライフふくいへの参加 in ふくい健康の森	スマイル会	35人
		27日(金)	アピアランスケア 治療に伴う 外見の変化	乳がん看護認定看護師 吉川 朋子	11人
	10月	25日(金)	体に優しい消化器がん治療	消化器内科 部長 山崎 幸直	11人
	11月	29日(金)	クリエイティブセラピー ～パステルアート～	山内 幸子 (1-5病棟 元師長)	5人
12月	26日(木)	健診医と話そう	健診部 部長 西川 邦寿	10人	
2020年	1月	24日(金)	ぐっすり睡眠のコツ	公認心理師 寺井 堅祐	11人

◆緩和ケア部門

緩和ケアチーム依頼件数

	内	神内	呼	消	循	外	整	形	脳	呼外	皮	泌	婦	眼	耳	歯	合計
2017年度	2	1	7	3	28	1	1	0	0	4	7	2	0	0	0	56	
2018年度	4	0	13	9	1	37	0	0	0	12	0	24	3	0	1	1	105
2019年度	1	0	11	7	0	32	1	0	1	2	4	15	11	0	1	0	86

※ 2019年度より非がん患者を含む

◆化学療法部門

外来化学療法の件数（抗悪性腫瘍剤、生物学的製剤）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2017年度	322	324	352	355	361	354	342	325	314	328	295	320	3,992
2018年度	321	312	303	326	326	287	342	335	304	324	302	299	3,781
2019年度	316	323	304	379	355	345	411	337	373	381	358	370	4,252

◆研修会の開催状況

研修会の名称	開催日	内容／講師	院外参加者	院内参加者	合計
緩和ケア研修会	2019. 9. 29	がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会	14人	25人	39人
地域がん診療研修会	2019. 4. 17	「口腔癌と口内炎の見分け方」 歯科・口腔外科部長 山田 和人	16人	15人	31人
	2019. 8. 17	「ナラティブ・メディスンから考えよう！ 対人支援 GRACEプログラム 体験ワークショップ」 がん・感染症センター東京駒込病院緩和ケア科 心理療法士 栗原 幸江 先生	13人	16人	29人
	2019. 11. 7	「スピリチュアルペインとそのケア～がん医療とその緩和ケアの現場で見えてくるもの～」 三重大学医学部附属病院 緩和ケアセンター 松原 貴子 先生	10人	45人	55人
	2019. 12. 6	「消化管癌に対する化学放射線療法」 京都大学医学部附属病院 放射線治療科 助教 坂中 克行 先生	5人	39人	44人
	2020. 2. 7	「がんの早期発見と実用化に向けての展望」 東京医科大学 医学総合研究所 分子細胞治療研究部門 教授 落谷 孝広 先生	10人	29人	39人
	2020. 2. 21	「がんに備えて貯金と貯筋？リハビリ栄養療法の重要性？」 聖路加国際病院 消化器・一般外科 部長 海道 利美 先生	6人	40人	46人
	がん診療センター看護セミナー	2019. 7. 19	「摂食・嚥下障害について」 皮膚・嚥下障害看護認定看護師 板岡 利恵	12人	20人
	2019. 8. 16	「看取りについて」 緩和ケア認定看護師 辻 かおり	10人	25人	35人
	2019. 9. 20	「医療者ができるアピアランスケア」 乳がん看護認定看護師 吉川 朋子	1人	16人	17人

沿革概要
患者数経営状況
委員会
トピックス
診療業務
医療社会事業部
看護部
事務部
業績

がん診療センター 看護セミナー	2019. 10. 18	「終末期褥瘡を考える」 皮膚・排泄ケア認定看護師 上口 美恵	10人	13人	23人
	2019. 11. 15	「緩和的放射線治療を受ける患者の看護～脳転移、骨転移～」 がん放射線療法看護認定看護師 太田 妙子	7人	18人	25人
	2019. 12. 13	「ケースで学ぶがん性疼痛の観察ポイントとケア」 がん性疼痛看護認定看護師 寺井 智子	6人	19人	25人
	2020. 1. 17	「がん化学療法看護曝露対策～点滴投与時・内服の管理」 がん化学療法看護認定看護師 広田 法子	4人	26人	30人
緩和ケア版見える 事例検討会	2019. 8. 28	積極的な抗がん治療（化学療法・放射線）を望む予後不良の若年患者への支援～30歳代、右足部悪性黒色腫、多発骨転移、脊髄横断症状による下肢麻痺	16人	16人	32人
	2020. 2. 19	生きていたいと訴えるうつ病を発症したがん終末期外来患者に対する関わり方	22人	15人	37人
合 計			162人	377人	539人

## 28. 腎センター（透析センター）

### 1. スタッフ

腎センター長兼第1腎臓・泌尿器科部長	小松 和人（再掲）
第2腎臓・泌尿器科部長	伊藤 正典（再掲）
第3腎臓・泌尿器科部長	片野 健一（再掲）
医師	松井 佑樹、山岸 瑞希（再掲）
看護師長	高嶋 節子（透析看護認定看護師、慢性腎臓病療養指導士、透析技術認定士）
看護係長	渡邊 かな恵（臓器移植院内コーディネーター）
看護師	宮木 早百合（透析療法指導看護師、透析技術認定士）、塚本 ひとみ、 前田 裕子、村上 美佐江、猪島 靖子（透析技術認定士）、大庭 和枝、 丸岡 真紀、北島 幸絵、坂本 かずえ、山本ゆり子、清水 冴美（透析担当） 菅原 愛子、浅田 幸江、市地 香理、松田 恵、佐々木 直子（外来担当）
看護助手	佐々木 加代子（透析担当）、塚本 恵子（外来担当）
臨床工学技術課長	重矢 直彦（透析技術認定士）（再掲）、同係長 山中 雅弘（再掲）
臨床工学技士	向井 菜津実（透析技術認定士）、金田 博史（透析技術認定士）、森 彩華、 宮本 龍一、平嶋 克次、北島 真樹、小田 泰嗣（透析担当 再掲）

### 2. 診療

2017年度から2019年度、3年分の診療実績を別表にまとめました。

2019年度は透析監視装置計32台にて稼働いたしました。うちオンラインHDFについては10台で実施されており（2020年15台に増数）、重矢課長をはじめとする臨床工学課技師により厳重な透析液水質管理のもと、きわめて順調に継続されています。

腎代替療法のうち、血液透析において2019年度は合計35名の透析導入を行いました。当院における維持透析患者数も2016年度末には100名を超えましたが2019年度も透析、腹膜透析の両者をあわせ110名前後の維持透析患者を診療しております。

血液透析患者さんは合併症も多く、スタッフは身体のみならず精神的ケアも求められています。日々の研鑽をかさね、患者様のニーズに対応している姿勢には脱帽です。

腹膜透析は患者数では6名の実績があり、病棟と連携をとりながら診療に当たっています。

シャント血管内治療（VAIVT）症例は2019年度は合計188例となっています。片野部長は、県内全域にわたる各透析施設からの紹介にスピーディに対応しており、透析におけるバスキュラーアクセスの重要性を県内外に知らしめています。

腎代替療法以外の浄化療法では、昨年度同様、消化器科より炎症性腸疾患に対するアフエーシス療法として白血球除去療法、顆粒球除去療法、また難治性腹水に対する腹水濾過濃縮のご依頼を消化器内科・外科さらには婦人科からも多くいただいております。

また、夜間・休日の緊急透析は集中治療部（ICU）にて実施できるように田辺麻酔科部長はじめ麻酔科先生方のご配慮を頂いております。少人数の腎臓内科にとりましてこのうえない喜びで、この場をお借りしましてお礼申し上げます。

沿革
概要
患者数・経営状況
委員会
トピックス
診療業務
医療社会事業部
看護部
事務部
業績

業績	事務部	看護部	医療社会事業部	診療業務	トピックス	委員会	患者数経営状況	概要	沿革	沿革
----	-----	-----	---------	------	-------	-----	---------	----	----	----

2019年度(2019.4～2020.3)稼働件数

事項	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
血液透析	1,124	1,133	1,115	1,200	1,187	1,075	1,170	1,090	1,058	1,119	1,068	1,125	13,464
血液濾過透析(オフラインHDF)	105	98	97	116	83	89	87	97	104	113	108	96	1,193
血液濾過透析(オンラインHDF)	312	313	293	307	314	295	319	305	293	305	286	297	3,639
再診(血液透析関係)	22	23	22	20	16	17	24	8	30	18	19	23	242
CAPD(外来指導管理)	5	4	7	4	5	4	5	5	5	4	2	3	53
血漿交換	0	2	0	0	0	2	0	6	7	14	0	2	33
腹水濾過濃縮再静注法	5	6	3	3	2	2	5	5	8	8	10	6	63
吸着式血液浄化法(白血球除去療法)	0	2	5	0	0	11	0	6	8	0	0	0	32
その他血液浄化療法	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	1,573	1,581	1,542	1,650	1,607	1,495	1,610	1,522	1,513	1,581	1,493	1,552	18,719
稼働日数	26	26	25	27	27	25	27	26	26	27	25	26	313
A 稼働日数による透析センター内のベッド数	1,612	1,612	1,550	1,674	1,674	1,550	1,674	1,612	1,612	1,674	1,550	1,664	19,458
B 室外透析・CAPD・再診・を除く件数	1,522	1,527	1,499	1,613	1,571	1,461	1,559	1,470	1,460	1,548	1,450	1,504	18,184
透析センター内の利用率( B ÷ A ) %	94.4	94.7	96.7	96.4	93.8	94.3	93.1	91.2	90.6	92.5	93.5	90.4	93.5
外来	1,263	1,349	1,264	1,373	1,372	1,232	1,332	1,257	1,243	1,333	1,293	1,317	15,628
入院	310	232	278	277	235	263	268	265	270	248	200	235	3,081
室外透析(ICU)	24	19	4	13	9	1	9	24	13	11	23	11	161
室外透析(病棟)	0	8	10	0	5	12	13	13	5	0	0	11	77
VAVT件数(透視下)	11	8	12	8	7	7	10	8	12	9	5	9	106
VAVT件数(超音波下)	11	5	7	3	10	5	11	3	10	6	3	8	82

年度毎稼働状況

事 項	2017 年度	2018 年度	2019 年度
血液透析	13,001	13,300	13,464
血液濾過透析 (オフライン HDF)	1,603	1,173	1,193
血液濾過透析 (オンライン HDF)	2,771	3,366	3,639
血液透析+選択的β 2-MG 吸着器使用	0	0	0
CAPD (バッグ交換・チューブ交換を含む外来指導管理)	96	67	53
血漿交換	7	0	33
腹水濾過濃縮再静注	57	61	63
選択的血漿成分吸着法 (免疫吸着)	17	0	0
選択的血漿成分吸着法 (ビリルビン吸着)			
選択的血漿成分吸着法 (LDLアフェレーシス)			
吸着式血液浄化法 (薬物)			
吸着式血液浄化法 (白血球除去療法)	35	37	32
再診 (血液透析関係)	297	289	242
V A I V T (経皮的シャント拡張術・血栓除去術)	239	213	188
合計	17,884	18,293	18,719
室外透析 (ICU)	116	90	161
室外透析 (病棟)	8	20	77
外来	15,204	15,280	15,628
入院	2,680	3,012	3,081
稼働日数	313	311	313
A 稼働日数による透析センター内のベッド数	19,406	19,282	19,458
B 室外透析・CAPD・再診・を除く件数	17,377	17,832	18,184
透析センター内の利用率 (B ÷ A) %	89.5	92.5	93.5

- \* 2015 年 (平成 27 年) 3/30 より 30 床へ移転増床
- \* 2015 年 (平成 27 年) 12/4 より 31 床へ増床
- \* 2016 年 (平成 28 年) 12/16 より 32 床へ増床
- \* 2020 年 (令和 2 年) 2/15 より 33 床へ増床

患者実数

	2017 年度	2018 年度	2019 年度
患者実数	507	511	514
当院通院中の慢性維持透析患者数	104	108	127
血液透析	315	296	351
血液濾過透析	28	33	35
β 2-MG 吸着器使用	0	0	0
CAPD	9	8	6
その他の血液浄化	60	66	74
V A I V T (経皮的シャント拡張術・血栓除去術)	239	213	188
他施設からの治療患者	289	286	275
新規導入患者 (慢性)	44	41	35
新規導入患者 (急性含めた合計)	55	49	51

(人)

沿革  
概要  
患者数経営状況  
委員会  
トピックス  
診療業務  
医療社会事業部  
看護部  
事務部  
業績

転 帰

	2017 年度	2018 年度	2019 年度
新規導入 (CRF)	44	41	35
急性 (ARF)	11	8	16
死亡	17	16	25
離脱	9	8	10
転入	272	280	271
転出 (転院含)	297	310	287
帰院	3	2	2
他 (県外など)	8	10	1

(人)

転院依頼件数

	2017 年度	2018 年度	2019 年度
細川泌尿器科	1	3	3
藤田記念病院	3		1
あすわクリニック	5	7	5
福井厚生病院	5	7	4
福井県済生会病院		2	1
福島泌尿器科			
福井県立病院	1		1
越前外科内科病院	3		1
林 病院 (越前市)	3	1	
広瀬病院 (鯖江市)	3	6	5
公立丹南病院	3	2	1
坂井市立三国病院			
鈴木クリニック			
福井勝山総合病院	2		
福井総合病院			
福井循環器病院	4	2	4
はやしクリニック	1	2	1
中村病院		1	1
福井大学医学部附属病院	1		
木村病院 (あわら市)		1	
鯖江腎臓クリニック	3	10	7
県外・その他	1	2	1
合 計	39	43	

## 他施設からの紹介患者数

\* VAIVT のみの紹介も含む

	2017年度	2018年度	2019年度
細川泌尿器科医院	26	44	40
藤田記念病院	3	4	4
あすわクリニック	38	29	16
福井厚生病院	9	5	7
福井県済生会病院		1	
福島泌尿器科医院	1	1	1
福井県立病院			
越前外科内科病院	11	8	6
林 病院（越前市）	6	4	2
広瀬病院（鯖江市）	20	19	11
公立丹南病院	17	24	19
公立小浜病院			
鈴木クリニック	24	14	23
福井勝山総合病院	24	17	28
福井循環器病院	3	6	3
市立敦賀病院		2	
はやしクリニック	34	33	40
中村病院			1
福井大学医学部附属病院	4	7	1
福井総合クリニック	5	1	3
木村病院（あわら市）	11	6	3
鯖江腎臓クリニック	35	44	44
坂井市立三国病院	5	4	5
泉ヶ丘病院	4	4	2
県外	9	9	16
合 計	289	286	275

(人)

沿革

概要

患者数・経営状況

委員会

トピックス

診療業務

医療社会事業部

看護部

事務部

業績

## 29. 呼吸器センター

### 1. スタッフ

呼吸器センター長（第1呼吸器内科部長）	赤井 雅也
呼吸器外科部長	松倉 規
第2呼吸器内科部長	出村 芳樹
第3呼吸器内科部長	塩崎 晃平
呼吸器外科副部長	福井 哲矢
呼吸器内科医師	多田 利彦
呼吸器外科医師	若月 悠佑
呼吸器内科医師	田畑 未央
呼吸器内科後期研修医	大井 昌寛
呼吸器内科後期研修医	中嶋 康貴
看護師	戸田 由恵
看護師	藤本 えりか
パート看護師	三田村 由聖

#### 【歴史・沿革・今後の展望】

呼吸器科は京都大学胸部疾患研究所の内科第I部門（現・京都大学呼吸器内科）と外科部門（現・京都大学呼吸器外科）からの人員派遣で、1964年8月に設置されました。内科・外科混合体制は1992年9月まで続き、1992年10月からは呼吸器外科が分離、独立しました。

呼吸器外科分離後も週2回のカンファレンス、病棟当番、人間ドックで胸部異常が指摘された患者の診療などを合同で行うなど、診療は密に協働して行ってきました。

今後更に呼吸器症状の患者さんが、今までよりわかりやすく安心して受診できるように、従来の呼吸器科と呼吸器外科のスタッフが協働して最良の医療を提供するために、2011年4月に呼吸器センターを正式に開設しました。

# 30. 消化器センター

## 1. スタッフ

令和元年度の福井赤十字病院消化器センターは消化器内科医師 8 名、腹部外科医師 9 名と消化器センター / 中央内視鏡室看護師・技師・助手ならびにブースマネージャーの総勢 41 名編成で外来診療ならびに消化器内視鏡診療を行いました。

## 2. 診療

消化器センターは平成 23 年 4 月に消化器内科医および腹部外科医が同一ブース内で外来診療を行うことで、内科・外科の境界を取り払い、互いに協力して迅速かつ合理的な診療を行うことを目的に開設されました。

平成 27 年 11 月 16 日には外来診療ブース再編成による腹部外科の 7 番ブース全面移転参入により、両診療科による同一ブース内診療が完全実現しました。

腹痛や便通異常に代表される消化器症状に悩む患者さんは非常に多く、時には早急な手術治療が必要になるケースも少なくありません。当センターでは消化器症状を有する患者を内科と外科の両方の立場から同時にかつ適切に診療できる体制を整え、多種多様化する消化器疾患に対して最高の医療の提供を目標としています。

当センターでは消化器領域における最新情報を連携医の先生方に提供する使命のもと、福井赤十字病院病診連携医会の後援を得て、平成 24 年 12 月に発足した福井赤十字病院消化器カンファレンスは、令和 2 年 1 月に第 7 回が開催され、消化器内科部長 道上医師、外科副部長 吉羽医師から話題提供として各々に現在、取り組んでいる新規治療等についての報告を行い、加えて特別講演ではがん・感染症センター東京立駒込病院 内視鏡科部長 門馬久美子先生から「バレット腺癌の内視鏡診断と治療」、佐賀大学医学部附属病院 一般・消化器外科教授 能城浩和先生には「食道癌に対するロボット支援下食道切除術」のご講演を頂きました。

当センターはこれからも消化器カンファレンスの継続開催を通じて、連携医の先生方に消化器領域における最先端の情報提供を行うとともに、今後も消化器疾患を専門とする内科医と外科医が互いに協力し、質の高い消化器診療を展開するとともに地域医療に貢献できるよう日々尽力致します。

## 3. 目標

令和 2 年度も消化器センター運営会議を定期的開催し、外来診療における業務改善を通して、消化器センターのコンセプトである内科・外科の境界の越えた質の高い消化器外来診療の実現に向けて尽力し、これを実践します。

また、第 8 回消化器カンファレンスの企画・開催により、日常診療で協力頂いている連携医の先生方に最新の消化器診療情報を提供するとともに我々の診療レベルの更なる向上を目指します。

沿革  
概要  
患者数・経営状況  
委員会  
トピックス  
診療業務  
医療社会事業部  
看護部  
事務部  
業績

# 31. 地域周産期母子医療センター

## 1. スタッフ

<産婦人科>

センター長            田嶋 公久  
                             辻 隆博  
                             福田 真  
                             佐藤 久美子  
                             山本 真  
                             杉田 元気

<小児科>

渡邊 康宏  
平野 聡子（令和元年12月から）  
玉村 宗一  
野村 詠史  
宮永 光次（令和元年9月まで）  
清水 沙知

## 2. 診療

周産期母子医療センターは、分娩前後（周産期）の母児を対象として、産科と小児科が協力しながら診療を行います。産科部門（2-4病棟）と新生児部門（ベビーセンター）で構成されています。

### ・産科部門（2-4病棟）

令和元年度の分娩数は285件でした。帝王切開率は28.8%で、昨年度とほぼ同じでした（詳細は産婦人科の項を参照）。早産率は8.4%で昨年度7.5%よりわずかに増加しました。令和元年度に分娩を行った初産婦164人中52人（31.7%）が、35歳以上の高齢初産婦でした。平成30年度は、25.1%が高齢初産婦でした。高齢初産婦が1/3を占め、晩婚少子化の世の流れを反映していると考えられます。また、ART妊娠の割合は、全出産の7.3%でした。合併症妊娠の管理は、日本周産期・新生児医学界専門医の佐藤医師が中心となって取り組んでいます。また、超緊急帝王切開のマニュアルの整備を行い、助産師・病棟、手術部看護師・産科医・小児科医・麻酔科医が連携したシミュレーションを行いました。このような準備の結果、帝王切開決定から児の娩出までに要した時間は全て30分以内でした。

### ・新生児部門（1-4病棟 ベビーセンター）

当院のベビーセンターは、院内で出生した新生児の預かり業務を行うとともに、院内外で出生した未熟児や病的新生児の治療を行っています。令和元年度にベビーセンターに入院となった病児は102人でした。患児の治療には、渡邊康宏部長をはじめ5人の常勤小児科医が当たっています。ベビーセンターは、10床の病床数を持ち、感染症罹患児に対応するための陰圧式空調装置を設置した感染症室を備えています。また、新生児用ME機器として、レスピレーターと持続陽圧呼吸（CPAP）装置を設置し、24時間体制で病児の治療・看護を行っています。

### 3. 目 標

地域周産期母子医療センターの今後として、胎児・母体の異常をいち早く診断し、素早い治療が行えるように、さらなる整備が必要と考えています。また、令和2年1月から新型コロナ症例が日本国内で発生しています。幸い、2019年度内には、当院を含め福井県内で妊婦・新生児の新型コロナ症例は発生しませんでした。今後は、妊婦・新生児の感染防止のみならず、医療従事者の安全も考慮した診療体制を構築する必要があると思います。

沿  
革

概  
要

患者数・  
経営状況

委員  
会

トピ  
ックス

診療  
業務

医療  
社会  
事業部

看  
護  
部

事  
務  
部

業  
績

## 32. 集中治療室

### 1. スタッフ

室長	田邊 毅
麻酔科医師	(部長：田邊毅 他医師 7名)
看護職員	31名 (看護師長：相模朋恵 看護係長：朝田和枝、原田幸枝、中山幸代 認定看護師：朝田和枝、原田幸枝 看護師 30名 看護助手 1名)

### 2. 業 務

General ICUとして「内科系・外科系を問わず、呼吸・循環・代謝その他の全身管理を強力、かつ集中的に行うことにより、治療効果を期待しうる急性期の患者を収容する」と共に、Intensive Observation Unit (集中観察室)の性格も加味して「Close Observation Heavy Duty Nursing (綿密な観察と強力な看護)」を要する患者も必要に応じて収容する

### 3. 目 標

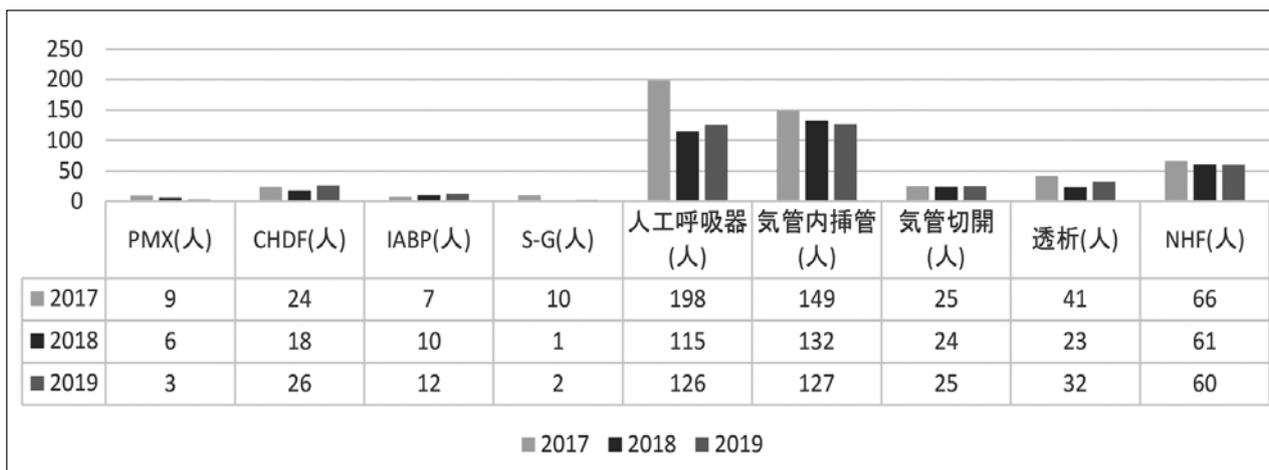
- ・治療方針について、患者・家族を含めた共有を徹底し、安全で質の高い医療を提供する
- ・ベッドサイドカンファレンスを徹底し、医療者間の意思疎通を図る
- ・感染管理の徹底により、医療関連感染発生を予防する
- ・早期離床リハビリテーション加算をICU入室患者全例取得する

### 4. 実 績

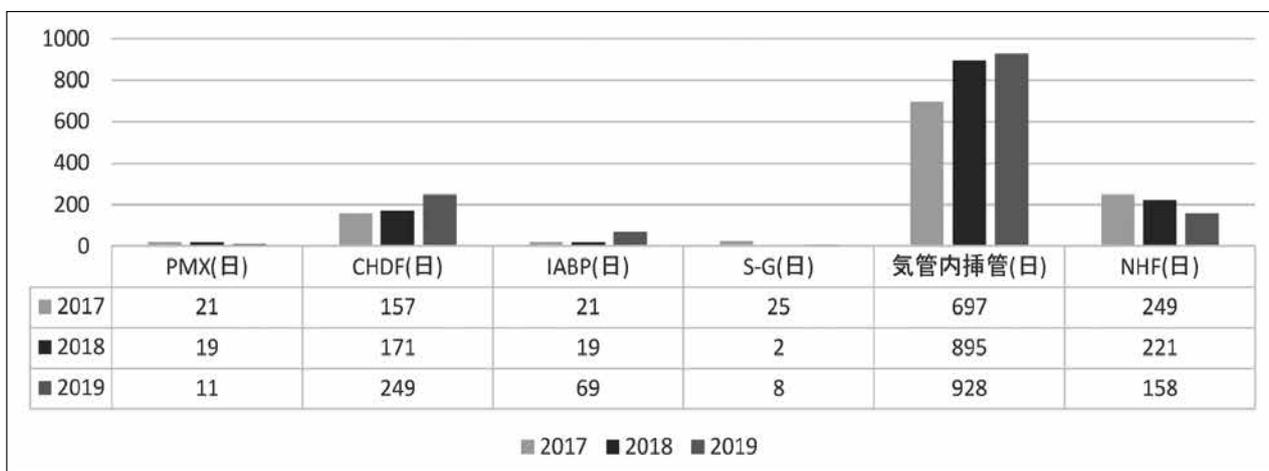
#### (1) 患者入室状況

	2017年度	2018年度	2019年度
患者総数(人)	725	751	694
延べ数(人)	1,869	1,968	2,029
病床利用率	64.0%	67.4%	69.5%
在室7日以内(人)	648	689	626
在室8日～14日(人)	54	39	39
在室15日以上(人)	23	23	29
男性(人)	458	455	437
女性(人)	267	296	257
緊急入室：人(%)	420(57.9)	386(51.3)	340(49.0)
救急外来直入室：人(%)	215(29.7)	208(27.6)	184(26.5)
予定入室：人(%)	305(42.1)	365(48.6)	354(51.0)
1日平均患者数(人)	5.1	5.4	5.6
平均在室日数(日)	2.6	2.6	3.0

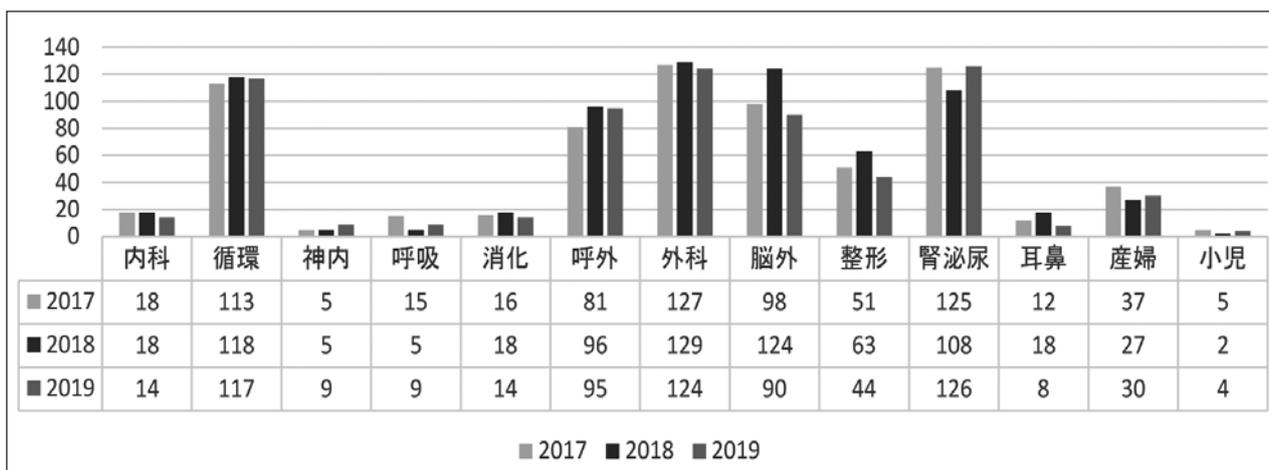
(2) 患者処置状況（人数）



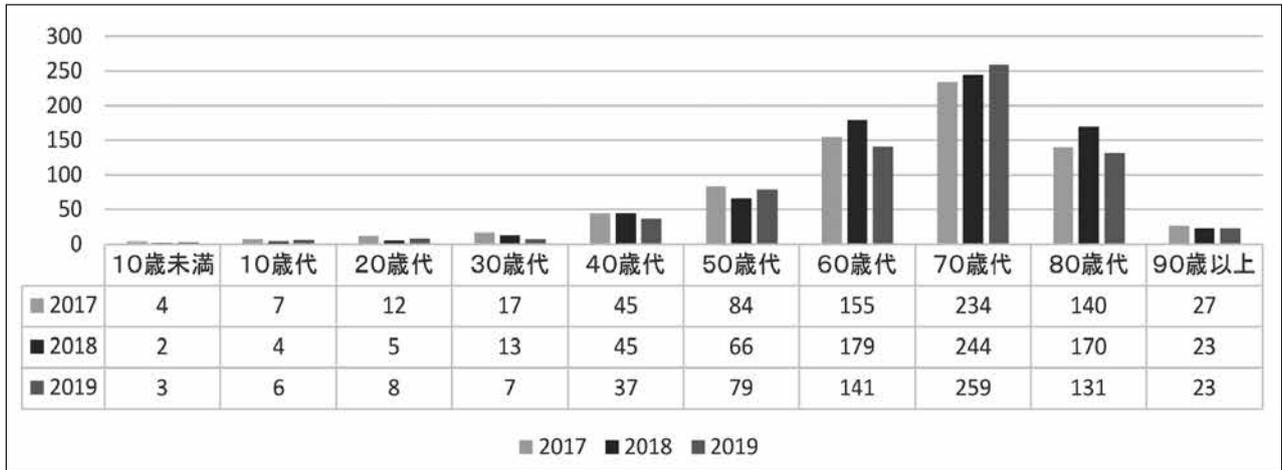
(3) 患者処置状況（日数）



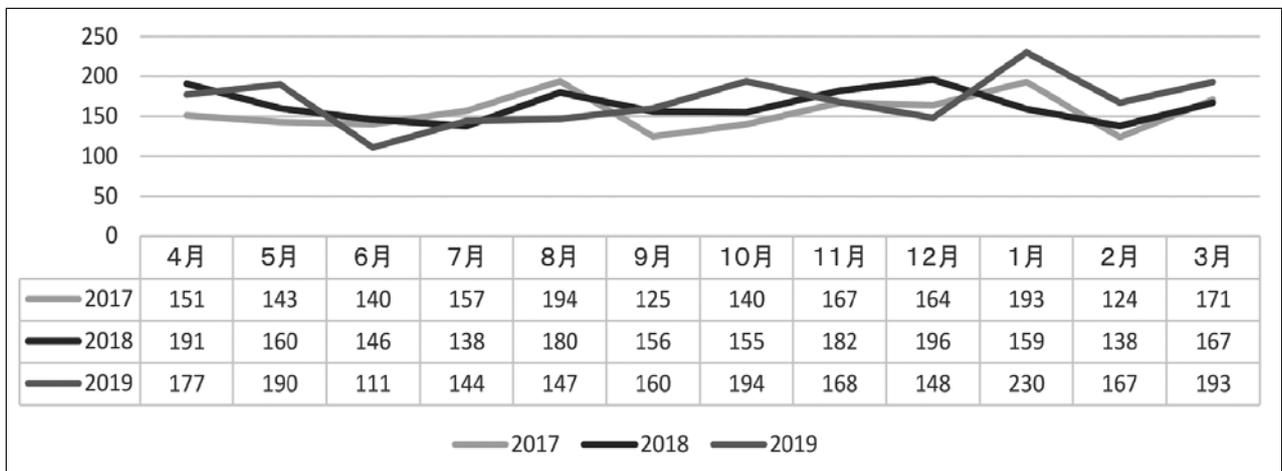
(4) 科別入室状況（人数）



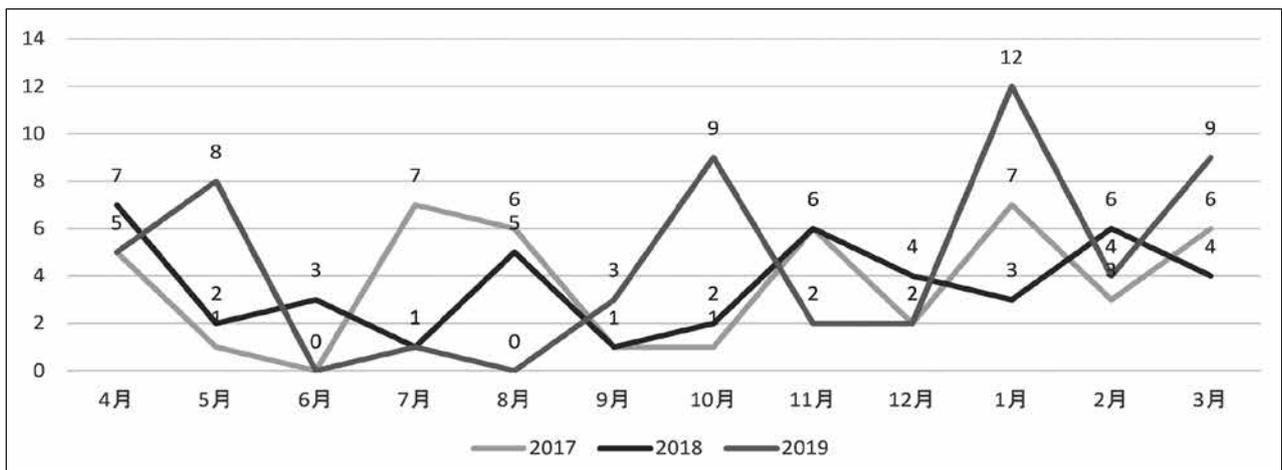
(5) 年代別入室状況（人数）



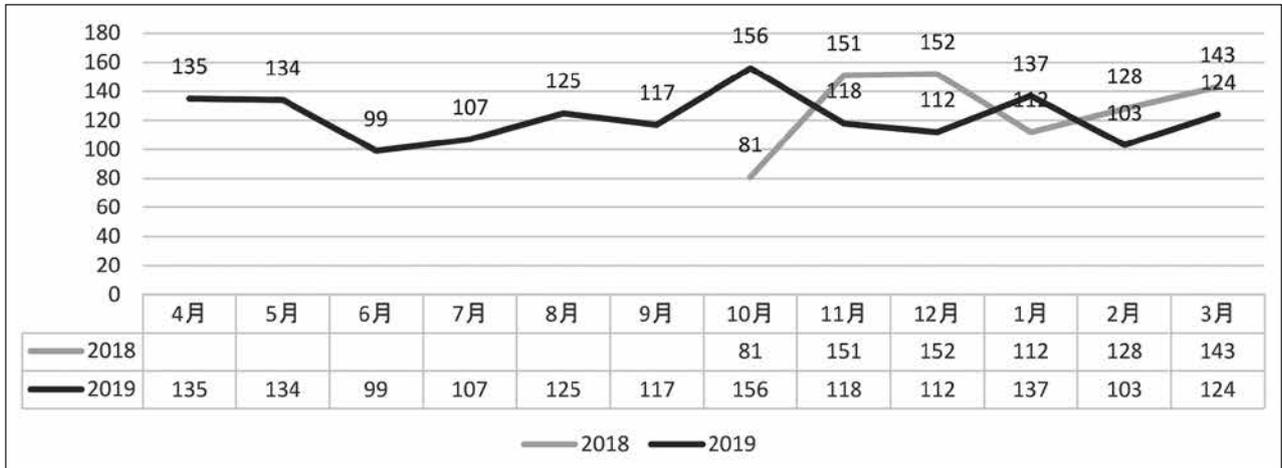
(6) 月別延べ入室患者数



(7) 集中治療室満床状況（救急隊への満床報告回数）



(8) 早期離床リハビリテーション加算取得件数（平成30年10月より）



まとめ

- 1) 病床利用率は69.5%で、前年度より上昇した。
- 2) 1日平均患者数は5.6人で横ばい、平均在院日数は3.0日であった。
- 3) 患者処置状況件数は大きな変化は見られなかった。
- 4) 科別の入室数は、腎泌尿器科、外科、循環器科の順に多かった。
- 5) 年代別の入室数は70代が最も多く、次いで60代であり、例年と同様であった。
- 6) 月別入室患者数は、1月は200人を超え、以下10月、3月、5月の順に多かった。
- 7) 年間の満床報告延べ回数は、計55回と昨年と10回以上増加した。
- 8) 早期リハビリテーション加算は、月平均122件でほぼ全例取得できていた。

沿革

概要

患者数・経営状況

委員会

トピックス

診療業務

医療社会事業部

看護部

事務部

業績

# 33. 中央手術室

## 1. スタッフ

室長	広瀬 由紀
麻酔科医	8名
臨床工学技師	4名：中央手術室・集中治療室兼任で配属
看護師	35名：師長1名、係長3名（1名は中央滅菌室）看護師31名
看護助手	3名
クラーク	2名

## 2. 診療

- 1) 総手術件数は、6,054件。昨年より150件増加した。  
前年より増加した診療科は、眼科、皮膚科、呼吸器外科、産婦人科、歯科である。
- 2) 緊急手術は、542件。昨年より57件減少した。外科が最も多く、緊急手術全体の35.2%を占めている。
- 3) 全身麻酔は、2,531件で前年より144件増加。全体の41.8%にあたる。
- 4) 手術台平均稼働率は、8時台41.5%、17時台44.0%である。午前平均稼働は55.5%、午後平均稼働は64.6%で、稼働率は前年と比べ大きな変動はなかった。
- 5) 17時以降の時間外延長手術件数は、802件である。総手術件数に対して約13.2%が時間外に延長しているが、件数は減少している。
- 6) 内視鏡（腹腔・胸腔・膀胱・関節・子宮・鼻等）手術件数は、1,768件で全体の29.2%にあたる。そのうちロボット手術件数は98件（泌尿器科・外科）であった。
- 7) 令和元年11月8日（金）超緊急帝王切開のシミュレーションを病棟と合同で実施し、より安全に実施できるようマニュアルを修正した。
- 8) 令和2年2月8日（土）福井県臓器移植ネットワークの指導者を招いて、脳死下臓器移植の研修・シミュレーションを実施しマニュアルを見直した。
- 9) 日本麻酔科学会の2019年度周術期管理チームに看護師5名が合格した。

## 3. 目標

- 1) 所定手術枠・全身麻酔枠を利用実績に基づき調整し、手術室の有効利用に努める。  
総手術件数5,800件以上を維持し、全身麻酔件数前年以上を目指す。
- 2) 内視鏡手術、ロボット支援手術の拡大に対応する。
- 3) 委託業者の手術部屋準備業務を拡大し、術間35分以内を目標に短縮し時間内稼働率を上げる。
- 4) 入退院支援センターと協力し、周術期患者への関りの充実を図る。
- 5) 稼働率が少ない手術部屋の有効活用し、手術台平均稼働率60%以上を目指す。
- 6) 新型コロナウイルス感染症患者または疑似症例受け入れ体制を構築する。

#### 4. 実績

##### 診療科別総手術件数の推移

	2017年度	2018年度	2019年度
外科	798	881	883
整形外科	808	809	824
脳外科	261	234	190
呼吸器外科	176	174	218
産婦人科	474	497	529
耳鼻科	252	230	243
泌尿器科	560	587	573
眼科	1,801	1,859	1,925
皮膚科	105	160	224
形成外科	283	264	225
歯科	160	162	187
循環器科	39	43	32
その他	3	4	1
総数	5,720	5,904	6,054

##### 各診療科別緊急手術件数の推移

	2017年度	2018年度	2019年度
外科	160	172	191
整形外科	104	76	82
脳外科	122	114	90
呼吸器外科	6	9	11
産婦人科	50	55	68
耳鼻科	10	15	11
泌尿器科	53	59	41
眼科	84	76	37
皮膚科	4	3	1
形成外科	13	10	5
歯科	0	0	0
循環器科	7	10	4
その他	0	0	1
合計	613	599	542

沿革

概要

患者数・経営状況

委員会

トピックス

診療業務

医療社会事業部

看護部

事務部

業績

業績	事務部	看護部	診療社会事業部	診療業務	トピックス	委員会	患者数・経営状況	概要	沿革
----	-----	-----	---------	------	-------	-----	----------	----	----

2019年度実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	2019年度合計
手術	501	475	522	585	564	485	511	508	509	447	440	507	6,054
内	86,854	81,093	91,515	94,672	85,054	78,204	83,932	81,121	80,862	79,543	73,409	80,572	996,831
予定手術件数	447	430	471	537	519	439	462	452	465	396	410	467	5,495
緊急手術件数	54	45	38	45	48	45	47	56	44	50	30	40	542
時間外延長件数	101	88	83	83	55	53	50	55	67	61	49	57	802
時間外延長%	20.2%	18.5%	15.9%	14.2%	9.8%	10.9%	9.8%	10.8%	13.2%	13.6%	11.1%	11.2%	13.3%
外来手術室件数	38	43	29	42	42	41	42	41	41	27	23	37	446
全身麻酔件数	225	196	222	238	227	198	219	206	210	200	174	216	2,531
腰椎(硬)麻酔件数	46	57	50	55	42	43	46	49	61	43	54	55	601
局所麻酔件数(副含む)	216	210	219	279	282	226	223	236	222	191	201	218	2,723
伝達麻酔件数	8	11	13	10	17	12	15	6	12	8	6	10	128
脊椎・硬膜外麻酔件数	6	1	5	3	1	6	8	11	4	5	5	8	63
外科	70	75	85	80	77	74	77	68	63	73	65	76	883
整形外科	65	70	75	77	70	55	76	62	89	64	60	61	824
脳外科	16	15	12	12	19	18	15	19	21	19	11	13	190
呼吸科	25	18	20	19	22	17	23	10	17	11	14	22	218
産婦人科	51	44	45	51	35	35	40	49	40	43	42	54	529
耳鼻科	23	17	24	25	24	19	25	20	16	16	11	23	243
泌尿器科	46	59	51	53	37	41	37	54	52	48	40	55	573
眼科	140	130	143	203	215	171	164	189	154	123	150	143	1,925
皮膚科	20	17	20	24	18	18	19	15	22	20	14	17	224
形成外科	25	14	22	24	28	22	13	7	16	13	20	21	225
歯科	13	11	24	14	18	14	19	13	17	15	13	16	187
内科・消化器科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小児科	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
循環器	7	4	1	3	1	1	3	2	2	2	0	6	32
8時平均(8:50)	38.3	36.7	55.6	41.4	37	34.5	39.3	45.6	41.7	44.3	44.4	38.6	41.5
午前平均	54.9	52.6	72	53.7	52.0	49.9	53.6	54.0	57.4	57.7	57.3	51.1	55.5
12時平均(12:50)	59.4	57.8	76.4	61.1	57.1	59.1	56.3	41.5	57.8	66.9	63.6	56.6	59.3
午後平均	67.4	61.9	81.9	65.3	61.8	61.5	60.4	57.2	61.0	67.5	62	62.6	64.6
17時平均(16:50)	40.6	53.3	58.3	50.5	41.3	38.6	37.8	40.1	41.1	45.7	37	43.4	44.0
最大稼働	78.3	71.7	100	80	74.1	79.5	75.7	75.0	75.0	81.3	77.2	80.4	79.1
最大時間	14	14	14	14	15	14	13	14	15	14	13	14	14.0

# 34. 中央滅菌室

## 1. スタッフ

看護師長 1 名（中央手術室兼任）、看護係長 1 名（中央手術室兼任）、委託業者 15 名

## 2. 目標

中央部門としての役割上関係各部門の協力のもとに、当院で使用される医療材料の消毒・洗浄・組み立て・滅菌・保管までの保障を管理する。またこれらに関わる作業者の作業環境の安全を確保する。

## 3. 業務

- (1) 令和元年度の洗浄滅菌処理件数は、256,657 件で前年比 4.5%減となった。
- (2) 洗浄機の使用回数は、13,040 件で前年比 3.1%減となった。また滅菌機器の使用回数は 8,149 件で前年比 0.4%減となった。
- (3) 10 月より乾燥機が 1 台増えたことで、未滅菌物の払い出しが早くできるようになった。

## 4. 実績

### 1. 年度別滅菌処理件数及び洗浄・乾燥機使用回数（2017 年～2019 年）

	2017 年	2018 年	2019 年
セット物	5,042	5,666	5,692
交換トレイ	1,962	1,545	1,279
カスト類	0	8	0
単品類	187,369	189,639	184,385
洗浄・乾燥	73,822	71,278	65,013
その他	29	103	288
合計	270,186	268,239	256,657

注：セット物＝生検、骨髄、縫合、PTCD、動脈撮影、気管切開など

### 2. 年別洗浄機使用回数（2017 年～2019 年）

	2017 年	2018 年	2019 年
真空超音波洗浄機	2,979	1,714	245
減圧沸騰洗浄機			1,220
WD 洗浄機	7,470	8,064	8,026
カート洗浄機	646	3,021	2,998
チューブ洗浄機	780	657	551
合計	11,875	13,456	13,040

注：WD＝ウォッシャーディスインフエクター

3. 年別滅菌機使用回数（2017年～2019年）

	2017年	2018年	2019年
高圧蒸気滅菌機	4,350	4,339	4,150
ホルムアルデヒドガス滅菌機	278	261	122
ステラッド滅菌機	3,656	3,584	3,877
合 計	8,284	8,184	8,149

沿 革
概 要
患者数・ 経営状況
委員会
トピックス
診療業務
医療社会事業部
看護部
事務部
業績

# 35. 薬 剤 部

## 1. スタッフ

薬剤部長	齊藤 孝次
薬剤副部長兼医薬品情報課長	小川 純也
調剤課長	青柳 哲治
製剤課長	吉村 はる美

以下係長 5 名 薬剤師 22 名

## 2. 業 務

医薬品の物流管理システム（SPD）を導入することで、薬品管理や発注業務などを外部業者に委託し、薬剤師の業務負担軽減を図るとともに、チーム医療に参加できる人員の確保に取り組んだ。また、高額医薬品や特殊管理が必要な医薬品に対して在庫、温度、期限を自動管理するトータルトレーサビリティシステム：キュービックスを導入し薬剤管理の合理化を行った。薬剤管理指導業務においては、薬剤管理指導料 1 に関する薬（ハイリスク薬）の患者への指導を充実させ、電子カルテへの記録の整備を行い、薬剤管理指導料 1 の算定件数増加を推進した。

## 3. 実 績

### ○処方箋枚数（1日平均枚数）

年 度	外来	入院	院外
2017 年度	623	280	24
2018 年度	627	281	25
2019 年度	618	282	26

### ○注射箋枚数（1日平均枚数）

年 度	外来	入院
2017 年度	251	286
2018 年度	262	297
2019 年度	273	297

### ○薬剤管理指導業務件数（延べ件数）

年 度	薬剤管理指導料 1	薬剤管理指導料 2	総件数	月平均
2017 年度	591	6,988	7,579	631
2018 年度	552	5,056	5,608	467
2019 年度	4,668	4,002	8,670	722

### ○TDM 解析件数（延べ件数）

年 度	件数	月平均
2017 年度	553	46
2018 年度	504	42
2019 年度	529	44

## ○持参薬鑑別件数（延べ件数）

年 度	件数	月平均
2017年度	5,200	433
2018年度	5,587	466
2019年度	5,645	470

## ○TPN調製件数（延べ件数）

年 度	件数	月平均
2017年度	2,373	198
2018年度	2,806	234
2019年度	1,922	160

## ○抗がん剤ミキシング件数（延べ件数）

年 度	外来	入院	総件数	月平均
2017年度	4,917	3,713	8,630	719
2018年度	4,594	3,429	8,023	669
2019年度	5,080	3,619	8,699	725

## ○治験・臨床試験実施件数

年 度	臨床試験件数
2017年度	15
2018年度	9
2019年度	6

## ○製造販売後調査契約件数

年 度	総件数
2017年度	65
2018年度	50
2019年度	56

## ○院内製剤調製数量

## 1. 外用剤

## 1) 外用液剤

品 名	規格 / 単位	2017年度 製剤数量	2018年度 製剤数量	2019年度 製剤数量	備 考
アロプリノール含嗽水	500mL/ 本	78	122	142	
塩化アルミニウム液	1000mL/ 本	5	6	7	皮膚科
ブロー氏液	10mL/ 本	60	4	0	耳鼻科
滅菌墨汁液	2mL/ 本	100	150	90	外科
1%フルオレセイン液	10mL/ 本	130	120	60	眼科
KOH加DMSO液	20mL/ 本	8	5	9	皮膚科
t-PA製剤（眼科用）	4万単位/ 本	20	40	80	眼科
0.025%BBG染色液	5mL/ 本	240	300	280	眼科
アバスチン眼科用注入液	0.1mL/ 本	20	0	0	眼科

## 2) 坐薬

	規格 / 単位	2017年度 製剤数量	2018年度 製剤数量	2019年度 製剤数量	備 考
チラージン S 坐薬	50 $\mu$ g/ 個	42	120	150	
	100 $\mu$ g/ 個	225	120	90	

## 3) 軟膏

品 名	規 格	2017年度 製剤数量	2018年度 製剤数量	2019年度 製剤数量	備 考
5%塩化ナトリウム眼軟膏	5g/ 個	60	60	0	眼科
0.075%カプサイシン軟膏	kg	0	1	3.5	麻酔科
メントール・レスタミン軟膏	kg	58	48	45	

## 2. 注射剤

品 名	規格 / 単位	2017年度 製剤数量	2018年度 製剤数量	2019年度 製剤数量	備 考
無水エタノール注射液	10mL/ 本	60	60	30	

沿革

概要

患者数  
経営状況

委員会

トピックス

診療業務

医療社会事業部

看護部

事務部

業績

# 36. 栄 養 課

## 1. スタッフ

医療技術部長	吉田 博之 (第1循環器内科部長)			
栄養課長	加藤 みえ子			
管理係長	大久保 祐子	以下	管理栄養士	9名
第1調理係長	重矢 悟			
第2調理係長	今田 滋之	以下	調理師	14名

### 〈専門職有資格者数〉

管理栄養士：日本糖尿病療養指導士 9名 病態栄養専門管理栄養士 3名  
栄養サポートチーム専門療養士 4名 人間ドック健診情報管理栄養士 1名  
がん病態栄養専門管理栄養士 1名  
調理師：病院給食専門調理師 3名 専門調理食育推進員 1名

## 2. 目 標

安全で美味しい治療食を提供する。多職種間で情報を共有し適切な栄養管理を図る。

## 3. 業 務

### (1) 食事の質および患者満足度の向上のための業務

- ・行事食 18食、郷土料理・アレンジ料理 7食、季節料理 33食を提供。行事食では手作りデザートを提供。メッセージカードは行事の逸話、郷土料理は料理の由来とレシピ、季節料理は食材の栄養、正月は干支の折り紙付きカードとお品書の敷き紙、飛び出すクリスマスカードなど思考を図った。緩和病棟の敷き紙は四季折々の食材や草花だけでなく、福井の各地方の物産、観光名所をあしらったものを作成した。
- ・今年度も検食、嗜好調査、残食調査の結果をもとに献立、調理の改善を図った。

### (2) 適切な栄養管理を実施するための業務並びに人材育成・教育

- ・定期的に栄養管理症例の報告、検討を行った。
- ・チーム医療 (NST、褥瘡、摂食・嚥下、緩和、糖尿病、腎臓病) に従事した。
- ・管理栄養士養成校、岐阜女子大学 2名「臨床栄養」の臨地実習を受け入れた。

### (3) 衛生管理・安全管理水準の維持および向上のための業務

- ・委託職員も含めた全員の手洗いチェック、食中毒予防・対策についての勉強会を毎月実施、衛生管理の周知に努めた。
- ・ノロウイルス感染予防目的に職員に高感度のノロウイルス検査を 12月、1月に実施した。

### (4) 老朽化に伴う厨房機器の入れ替え

- ・3月、食器消毒保管庫、厨介処理機の入替えを行った。

### (5) 適切な労務管理

- ・管理栄養士 1名が 5月より出産・育児休暇取得。代理人員として 8月より派遣事務が勤務となった。12月、管理栄養士 1名が出産・育児休暇となり、管理栄養士 1名を正職員として採用した。4月より、入院診療計画書作成に管理栄養士が介入することとなったが、食数管理を派遣事務が

担当、12月に管理栄養士1名増員したことで栄養管理業務に取り組むことができた。

- ・調理師は、採用、退職はなく、16名と変動はなかった。

(6) その他

- ・院内患者会（がんサポート教室、糖友会）で、講演を実施した。
- ・病院機関紙「ほやほや」に、おすすめレシピを提供した。

4. 実績

(1) 給食数

食 種	2017年度	2018年度	2019年度
常食	123,939	120,295	113,683
軟菜食	27,992	25,960	27,991
産後食	4,470	3,466	3,465
食欲不振対応食	7,175	7,859	8,169
嚥下訓練食	29,011	24,332	22,563
特軟・小児軟菜・離乳	10,986	9,743	8,035
一口大食	10,627	14,603	11,001
きざみ食	10,879	9,774	9,931
流動食・半流動食	13,614	13,498	14,129
濃厚流動食	30,822	31,816	29,451
腎臓病食	15,284	14,810	16,225
心臓病食	15,541	13,333	12,945
糖尿病食	78,238	73,892	81,771
肝臓病食	6,377	4,618	3,376
膵臓病食	6,890	6,782	4,749
胃潰瘍・十二指腸潰瘍食	6,216	6,054	5,420
痛風食	1	0	0
脂質異常症食	390	275	1,597
妊娠高血圧症候群食	674	598	500
低残渣食	1,295	972	1,074
慢性炎症性腸疾患	1,068	586	574
注腸食	131	124	74
貧血食	113	50	78
高血圧食	12,395	12,499	11,009
肥満食	0	68	15
脳梗塞食	3,508	3,776	2,269
その他	1,712	1,798	2,344
外来透析食	2,038	1,686	1,863
合 計	421,386	403,267	394,301
前年度比		95.7%	97.8%

項 目	2017年度(食)	2018年度(食)	2019年度(食)
1日平均食数	1,151	1,105	1,080
1食平均食数	384	368	360
特別食加算比	32.0%	30.2%	32.4%

## (2) 個人指導件数

沿 革 概 要	項 目	2017 年度	2018 年度	2019 年度	
患者数 経営状況	糖尿病食	580	648	635	
	エネルギー制限・肥満食	7	9	5	
	糖尿病性腎症・透析食	137	178	155	
	小児糖尿病食	0	0	2	
	脂質異常症食	85	84	91	
	腎症・腎不全・透析食	153	158	152	
	小児腎臓病食	6	4	2	
	小児ネフローゼ食	5	1	0	
	肝臓食	31	33	24	
	膵炎・胆嚢炎食	118	134	147	
委員会	潰瘍食	124	124	113	
	炎症性腸疾患食	7	6	9	
	消化管術後食	110	123	120	
	心臓食	149	121	148	
	高血圧食	36	37	32	
	脳梗塞食	12	6	6	
	妊娠高血圧症候群食	25	15	9	
	痛風食	2	1	1	
	がん対応食	150	177	196	
	低栄養対応食	10	11	8	
トピックス	嚥下調整食	36	38	29	
	呼吸不全	6	12	9	
	貧血食	0	0	1	
	食物アレルギー	0	0	2	
	骨粗鬆症食	1	0	0	
	診療業務	常食（イレウス含む）	31	43	58
		軟菜食	10	13	34
		産後食	307	246	242
		離乳食	3	0	0
		その他（健診等）	7	37	250
医療社会事業部		合 計	2,148	2,259	2,480
		前年度比		105.2%	109.8%

## (3) 集団指導件数

事務部	年 度	2017 年度		2018 年度		2019 年度	
	教 室 名	開催数	参加数	開催数	参加数	開催数	参加数
業 績	糖尿病教室	59	354	50	356	47	326
	糖尿病ハイキング	11	61	12	85	11	82
	母親教室	21	132	23	121	19	110
	高血圧教室	9	17	5	14	6	16
	心臓病教室	12	69	12	57	11	42

(4) 特定保健指導

年 度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
動機付け	4	0	1
積極的支援	3	1	0

(5) 入退院支援加算業務

年 度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
入院前食事栄養管理説明		13	97
退院時共同指導 ( 栄養管理等に関する情報提供書数)		212	206

(6) 緩和ケア診療加算業務

年 度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
個別栄養食事管理加算		21	19

5. 次年度の目標

(1) 食事の質の向上および患者満足度の向上

- ・行事食・郷土料理・季節料理を2回/月実施、検食やミールラウンド、嗜好調査、残食調査を基に食事の改善し患者満足度向上を目指す。

(2) 施設間での切れ目のない栄養連携を推進するために入退院栄養管理支援の強化体制整備

(3) 適切な栄養管理遂行、人材育成ため管理栄養士による事例検討

(4) 各疾患ガイドライン改定後食品構成表の見直し改定

(5) 衛生管理、安全管理強化継続

- ・月1回以上衛生・安全管理に関する職員の意識向上および知識習得のための研修会実施
- ・食物アレルギー誤配膳ゼロを目指す。
- ・厨房機器の老朽化に伴う厨房機器入れ替えに際し、衛生管理体制、調理作業の効率化を図るシステム作りの継続。

(6) 管理栄養士・栄養士養成校から臨地実習生受け入れ

# 37. 臨床工学技術課

## 1. スタッフ

医療技術部長	吉田 博之 (第1循環器科部長)
課長	重矢 直彦
第一係長	山中 雅弘
第二係長	谷口 貴洋
臨床工学技士	他9名

## 2. 目 標

安全な医療機器を提供するための技術と知識を身につけるとともに  
医療機器を取り扱う職員への支援に勤める

## 3. 業 務

### (1) 医療機器の中央管理

中央管理可能な医療機器を選定し、ME室にて保管し必要に応じて各部署に貸し出しをしています。現在、中央管理しているME機器は輸液ポンプ、シリンジポンプ、携帯型シリンジポンプ、人工呼吸器、生体情報監視装置、経腸栄養ポンプ、ネーザルハイフローの7機種です。貸し出し状況等をME機器管理システムで管理し返却された医療機器は、点検、必要時修理を行い次回の貸し出しに備えています。中央管理している医療機器の廃棄、更新を検討しています。

### (2) 医療機器の保守

院内点検可能な医療機器に対して、点検の実施に努めています。また各部署からの点検・修理依頼に対して出来る限り迅速に対応する様に心がけています。小児用人工呼吸器の点検・各病棟心電図モニタのラウンド点検も行っています。

### (3) ME機器の教育

メーカーが開催する機器のトレーニングや講習会に積極的に参加し、技術、知識を身に付けるよう努めています。また、各部署への機器取り扱い説明、指導・勉強会等のサポートも行っています。

### (4) 血液浄化業務

人工透析センター及び集中治療室での血液浄化業務を行っています。また、VAIVTに対するサポート業務もおこなっております。その他に、血液透析関連機器の保守、点検、整備をおこなっております。

### (5) 中央手術室・集中治療室業務

医療機器の術前点検や機器のトラブルに対する対応を行っています。中央手術室、集中治療室における臨床業務も行っています。

### (6) 心臓カテーテル業務

心血管造影室で行われるカテーテル検査や治療のサポート業務を行うと共にカテーテル検査や治療で使用される機器の操作や保守、点検を行っています。

#### 4. 実績

	2017年度	2018年度	2019年度
臨床工学技術課業務総件数	42,330	43,715	45,877
血液浄化業務（件）	18,451	18,385	19,029
血液透析	17,161	17,206	17,735
室外透析	8	16	65
白血球吸着	35	36	25
血漿交換	1	0	15
血漿吸着	16	0	0
二重濾過	3	0	0
DHP	0	0	0
腹水濾過濃縮	53	58	60
修理・メンテナンス	875	824	916
シャント造影	3	1	1
シャントPTA	224	196	172
モニター点検	72	48	40
OPE室業務（件）	6,898	7,190	8,238
（1）点検業務	5,829	6,099	6,979
全身麻酔器	2,051	2,128	2,438
内視鏡	1,089	1,113	1,264
ナビゲーション	57	32	42
NIM	24	42	56
モニタ	817	883	1,122
オーソパット	3	3	3
除細動器	0	1	0
電気メス	2	3	1
輸液ポンプ	40	45	47
シリンジポンプ	257	152	160
BIS	4	24	79
マイクロ	111	144	124
A-V インパルス	1,366	1,515	1,625
ダ・ヴィンチ (da Vinci)	94	144	186
その他	16	39	7
（2）操作業務	1,067	1,089	1,258
ナビゲーション（脳）	37	21	26
ナビゲーション（耳）	21	13	15
ナビゲーション（整形）		0	1
NIM（脳）	0	1	0
NIM（耳）	10	16	29
オーソパット	3	3	3
内視鏡（外）	352	385	410
内視鏡（泌）	98	96	108
内視鏡（婦）	260	280	282
内視鏡（呼外）	151	142	198

	2017年度	2018年度	2019年度	
沿革概要	内視鏡（耳鼻科）	36	35	55
	内視鏡（整外）	23	22	30
	内視鏡（脳）	12	3	7
	RFA	1	0	1
	ダ・ヴィンチ (da Vinci)（泌）	53	63	60
	ダ・ヴィンチ (da Vinci)（外）		8	33
	その他	0	1	0
	<b>（3）修理・メンテナンス</b>	2	2	1
	<b>ICU業務（件）</b>	3,518	3,625	3,671
	<b>（1）点検業務</b>	3,238	3,419	3,276
人工呼吸器	192	238	216	
全身麻酔器	198	202	215	
除細動器	0	0	0	
輸液ポンプ	1,945	2,066	1,897	
シリンジポンプ	895	902	948	
モニタ	0	11	0	
その他	8	0	0	
<b>（2）操作業務</b>	279	206	395	
血液透析	80	44	85	
血液濾過	0	0	0	
ECUM	22	20	26	
CRRT	134	113	208	
PMX	22	11	13	
血漿交換	3	0	22	
血漿吸着	1	0	0	
二重濾過	0	0	0	
DHP	0	0	0	
IABP	13	18	35	
PCPS	3	0	0	
その他	1	0	6	
<b>（3）修理・メンテナンス</b>	1	0	0	
<b>ペースメーカー業務（件）</b>	558	692	726	
PM 埋め込み	29	46	26	
PM 電池交換	3	8	3	
PM 動作チェック	408	478	531	
PM リード再固定	4	0	1	
PM 設定変更	100	125	118	
ICD 動作チェック	4	9	12	
ICD 設定変更	1	5	4	
CRT-D 動作チェック	8	16	24	
CRT-D 設定変更	1	2	4	
ループレコーダー 埋め込み		0	0	
ループレコーダー 動作チェック		5	10	

	2017年度	2018年度	2019年度
その他	16	19	17
<b>心カテ業務（件）</b>	<b>1,791</b>	<b>1,831</b>	<b>1,710</b>
（1）治療	257	254	237
PCI	185	192	161
PTA	55	46	61
下大静脈フィルター	17	16	15
（2）検査	239	250	216
CAG	219	231	209
スワングantz	12	7	5
Ach 負荷試験	7	12	2
EPS	1	0	0
点検	507	487	506
DC	169	162	169
ポリグラフ	169	163	169
IVUS	169	162	168
その他	0	0	0
（3）操作	788	840	751
IVUS	220	219	209
FFR	21	43	36
血管エコー	24	29	31
IABP	11	18	14
PCPS	0	1	1
ポリグラフ	476	478	426
体外式ペースメーカー	19	34	21
人工呼吸器	9	11	7
OFDI	8	7	6
<b>ME 業務（件）</b>	<b>11,114</b>	<b>11,992</b>	<b>12,503</b>
（1）点検業務	5,588	5,981	6,137
輸液ポンプ	3,889	4,050	4,102
シリンジポンプ	1,009	1,188	1,313
携帯型シリンジポンプ	221	179	158
経腸栄養ポンプ	238	288	259
心電図モニタ	87	117	120
人工呼吸器	101	84	83
Airvo	31	65	71
その他	12	10	31
（2）貸し出し業務	5,248	5,788	6,083
輸液ポンプ	3,787	3,934	4,083
シリンジポンプ	920	1,178	1,333
携帯型シリンジポンプ	117	143	145
経腸栄養ポンプ	233	267	258
心電図モニタ	94	126	137
人工呼吸器	71	61	55

沿革

概要

患者数・経営状況

委員会

トピックス

診療業務

医療社会事業部

看護部

事務部

業績

沿革概要患者数経営状況委員会トピックス診療業務医療社会事業部看護部事務部業績

	2017年度	2018年度	2019年度
Airvo	25	79	72
その他	1	0	0
<b>(3) 修理・メンテナンス</b>	<b>278</b>	<b>223</b>	<b>283</b>
輸液ポンプ	62	14	12
シリンジポンプ	7	7	8
携帯型シリンジポンプ	1	1	2
経腸栄養ポンプ	2	5	16
心電図モニタ	93	61	88
人工呼吸器	7	5	15
パルスオキシメーター	32	37	32
血圧計	13	7	34
携帯型電子血圧計	47	61	46
吸引器	0	2	6
その他	14	23	24

# 38. 検 査 部

## 1. スタッフ

検査部長	今村 信
検査医監（検体検査）	豊岡 剛
検査医監（輸血）	今村 信（日本輸血・細胞治療学会認定医）
技師長	加藤 幸久
輸血課長	杉本 正雄（認定輸血検査技師）
以下係長 4名	臨床検査技師 26名（内視鏡 3名含む）
臨床検査技師パート	1名（午前のみ） 看護師パート 1名（午前のみ）
事務派遣職員	2.5名

## 2. 業 務

採血業務：採血が原因と思われる偽性高カリウム血症を防ぐために、採血時の過度なハンドグリップ・クレンジングには十分注意することや、生化学用採血管に血算用採血管の抗凝固剤の逆流が起これないように採血時には気をつけて行なうこととした。

検体検査業務：検査部機器・試薬管理部会の下、精度管理作業部会にて、法改正による標準作業書・作業日誌・台帳の整備、内部精度管理・外部精度管理の充実と適切な研修を行なっている。また、各科より要望のあるβ-DグルカンとPIVKⅡの院内検査化を行なった。その他、2020年1月には肝炎コーディネーターが活動を始め、HCV・HBVの拾い上げ業務をおこなっている。

生体検査業務：術中モニタリング検査のオーダーを新設し、予約枠の活用による重複を避けるシステム更新をおこなった。また、呼吸機能検査として呼気NO（一酸化窒素）測定機器を購入し、吐く息に含まれるNO量を測定し、好酸球性炎症の発見と治療効果を見ています。

内視鏡業務：4月入職の新人技師に対し、内視鏡検査業務における教育と指導を行なった。また、東海・北陸エリアのコメディカルを中心とした内視鏡従事者セミナーにおいて、内視鏡検査業務に携わる臨床検査技師の役割についての講演を行なった。

沿革

概要

患者数・経営状況

委員会

トピックス

診療業務

医療社会事業部

看護部

事務部

業績

### 3. 実績

資料1) 件数の推移（検査システムからの統計）

	2017年度	2018年度	2019年度
尿・糞便検査	140,243	137,623	135,365
血液検査	282,646	284,642	284,724
生化学検査	2,503,314	2,503,439	2,477,629
免疫関連検査	139,019	142,782	144,990
微生物検査	43,543	47,607	49,671
生体検査	52,334	50,432	55,100
合計	3,133,799	3,274,525	3,147,479

資料2) 外来、入院別検査件数

	外来				入院				外来/入院
	院内	SRL	MCM	合計	院内	SRL	MCM	合計	
2017年度	2,286,777	19,958	21,101	2,327,836	801,895	6,744	7,627	816,266	2.85
2018年度	2,262,028	20,133	20,831	2,302,992	811,817	7,056	7,080	825,953	2.79
2019年度	2,273,904	20,251	19,127	2,313,282	799,441	7,318	7,753	814,512	2.84

資料3) 検査判断料件数と検査加算件数（医事課資料）

項目	2017年度	2018年度	2019年度
尿・糞便判断料	25,078	24,718	24,360
血液学的検査判断料	72,927	67,843	73,396
生化学検査判断料（Ⅰ）	73,011	72,710	73,614
生化学検査判断料（Ⅱ）	22,102	22,694	23,249
免疫学的検査判断料	53,516	54,219	53,925
微生物学的検査判断料	10,036	9,930	12,940
呼吸循環検査判断料	5,162	5,820	6,092
脳波図判断料	709	696	731
神経筋検査判断料	554	541	599
時間外緊急院内検査加算	5,027	5,302	5,267
検体検査管理加算（Ⅰ）	72,382	69,680	72,737
検体検査管理加算（Ⅲ）	—	—	—
検体検査管理加算（Ⅳ）	11,049	11,038	11,100
外来迅速加算	275,178	265,145	257,032
合計	626,731	778,260	615,042

資料 4) 令和元年度輸血関連業務 (2019 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日)

		2017 年度	2018 年度	2019 年度	前年度 比較増減
検査 (件)	血液型	7,424	7,706	7,737	31
	不規則抗体	3,696	3,633	3,815	182
	不規則抗体 陽性率 (%)	1.82%	1.08%	1.72%	0.64%
		31/1699	18/1661	29/1684	
	交差適合試験	3,223	3,091	2,860	-231
	直接クームス	149	150	159	9
輸血 (単位)	赤血球製剤 (RBC、洗浄赤血球を含む)	4,997	4,849	4,311	-538
	血小板製剤 (PC)	8,935	9,520	8,020	-1,500
	新鮮凍結血漿 (FFP)	556	305	252	-53
	自己血 (貯血式)	201	199	206	7
	アルブミン製剤使用単位	7,329.1	6,841.6	8,166.6	1,325
廃棄製剤 (単位)	赤血球製剤 (RBC、洗浄赤血球を含む)	10	4	22	18
	廃棄率 (%)	0.20	0.08	0.51	0.43
	血小板製剤 (PC)	20	30	10	-20
	廃棄率 (%)	0.22	0.32	0.12	-0.20
	新鮮凍結血漿 (FFP)	12	14	48	34
	廃棄率 (%)	2.16	4.59	19.05	14.46
	自己血採血 (回数)	154	143	132	-11
	自家末梢血幹細胞移植 (件数)	7	6	5	-1

#### 4. 目 標

2020 年度は ISO1819 の取得に向けて、SOP の勉強会や品質マニュアルの作成を行なっていきたい。また、紙運用の外注検査の電子カルテ化と、紹介患者の紹介時採血の優先化と ALP・LD の JCSS (日本臨床化学会) から IFCC (国際臨床化学連合) への測定法変更の医師へ周知を行なっていきたい。

沿革

概要

患者数・経営状況

委員会

トピックス

診療業務

医療社会事業部

看護部

事務部

業績

# 39. 放 射 線 部

## 1. スタッフ

放射線科部長	左合 直	以下 医 師 8名
技 師 長	西村 英明	以下 診療放射線技師 30名（うち1名嘱託）
看護係長	豊島 鈴恵	以下 看護師 4名
事 務	2名（午後1名）	

## 2. 方針 / 目標

- (1)「検査技術の向上と診療支援」を目指し、固定概念にとらわれない、幅広い視野を持った診療放射線技師を育成する。
- (2)「患者さん中心の医療」をスタッフ一人一人が実践できるような組織を目指す。  
(個人と組織がともに成長できるシステムづくり)

診療放射線技師においては、様々な検査において画像診断機器を操作するだけではなく、診断・治療の流れを理解し次の医療行為を予測できる力や、緊急検査への対応力も強化（時間外）していかねばならない。

診療以外にも、医療安全管理、放射線安全管理、放射線機器管理、放射線被ばく管理、医療情報管理など、更に精度管理の実践 / 充実を図らなければならず、「検査技術の向上と診療支援」を目指し、固定概念にとらわれない幅広い視野を持った診療放射線技師を育成する必要がある。

また、「患者さん中心の医療」をスタッフ一人一人が実践できるよう、まずは医療安全から見た、部門や個人で失敗しない質の確保とばらつかない質の確保を目指した段階的な教育 / 管理を行い、個人と組織がともに成長できる環境を整備することを目標とする。

## 3. 業 務

中央放射線部では、最新の画像診断機器、放射線治療機器を駆使し、より安全でより精度の高い検査・診断・治療が行えるよう、診療放射線技師、看護師、事務員、放射線診断医、放射線治療医との協働にて、患者さんが求める最善な検査・治療を提供している。

診断においては、撮影されたCT、MR、核医学の画像を中心に検査画像の画像診断報告書の作成と配信が行われており、4名の画像診断専門医が常勤し、画像診断管理加算2の施設基準を取得している。また、これら院内（他施設提供画像含む）で発生する各種検査画像、診断レポートに対し、セキュリティを保持 / 一元保管管理を行っており、院内どこでも瞬時に画像、レポートの参照が可能となり速やかな診療支援を行っている。

治療においては、治療計画はコンピューター化され、治療専門医による照射領域の決定 / 高精度の治療を行っている。『Vero4DRT』・『Vital Beam』の両装置が揃い、ほぼ全ての悪性疾患に高精度放射線治療が実施できる体制が整った。高精度放射線治療として、画像誘導放射線治療（IGRT）、強度変調放射線治療（IMRT/VMAT）、定位放射線治療、呼吸によって動く患部を追尾する動体追尾照射を実施し、充実したがん診療に寄与できるよう心がけている。

検査業務では、診療放射線技師による一般撮影、X線透視、CT、MRI、血管撮影、ラジオアイソトープ（RI）、骨塩定量検査、超音波検査（健診腹部 / 乳房、診療乳房）が行われ、各分野には先端の機

器を整備し、装置能力を十二分に発揮し、治療、診療に有用な情報を提供するために、医師、看護師、技師がチームを構成し業務に従事している。

また中央超音波室においては、放射線科医による超音波検査（頸部、腹部、表在、他全般）と、女性の診療放射線技師による乳腺超音波が行われているが、乳腺においては、3月に乳腺専用超音波装置を導入し、乳腺外来へ移設 / 技師出向とし、診療腹部領域において、次年度の診療放射線技師の参入を予定し研修を開始した。

今年度更新を行ったモダリティ（機器）は、RI 部門における中央監視システム（排水、排気濃度、エリアモニタ値の監視 / 制御等）と PET-CT である。

共に、老朽化による更新で、PET-CT においては、全身臓器の「がん診療」において、病変の検出のみならず、良悪性の判定や悪性度、治療方針決定に重要な病変の広がりの評価、さらには放射線・化学療法の治療効果判定や手術後の経過観察にも幅広く有効であり、全身を一度に検索できる PET/CT 検査は、他の画像検査以上の能力を持っている部分も多く、今回の更新で、感度向上に伴う画質向上や被ばくの低減、および呼吸同期撮影が可能になるなど、機能が向上された。

沿革

概要

患者数・経営状況

委員会

トピックス

診療業務

医療社会事業部

看護部

事務部

業績

### 3. 実績

#### 1) 放射線科部統計（年度比較）

	2017年度	2018年度	2019年度
一般撮影・透視部門			
撮影検査件数	91,706	91,779	90,963
単純撮影			
胸部	56,156	57,082	57,025
腹部			
骨部	27,227	26,164	25,309
マンモ	3,726	3,994	4,113
パントモ・デンタル	1,759	1,945	2,008
その他(H18以降LG含)	535	326	343
造影剤使用撮影			
消化器系	1,320	1,352	1,187
泌尿器系	378	358	376
小児・婦人科系	24	23	16
関節・脊髄	264	216	249
その他	317	319	337
CT部門			
CT検査件数	18,945	19,510	19,956
頭頸部	6,660	6,819	6,777
胸腹部他	12,285	12,691	13,179
MR部門			
MR検査件数	9,088	8,907	9,176
頭頸部	5,257	5,172	5,357
躯幹	3,157	3,106	3,195
その他	674	629	624
骨塩定量検査			
検査件数	2,745	2,560	2,408
血管撮影部門			
血管撮影件数	887	940	812
頭部	229	247	182
腹部他	31	39	46
心臓、下肢、シャント	627	654	584
核医学部門			
R I 検査件数	1,783	1,914	1,839
頭部	208	193	168
内分泌	45	36	50
心臓	432	447	352
呼吸器	10	14	12
腹部泌尿器	67	71	73
骨・軟部	310	306	321
血管	0	0	0
P E T	710	826	863
治療	1	21	0
放射線治療部門			
治療件数	5,359	5,022	5,403
L I N A C	5,359	5,008	5,394
IMRT	730	1,109	2,145
動態追尾	4	9	0
頭部定位照射	97	107	163
体幹部定位照射	47	62	0
全身照射	0	0	0
温熱治療	0	14	9
小線源治療	0	0	0
総計	130,513	130,632	130,557

2) 放射線検査 (詳細)

						総件数	総人数						
						130, 557	118, 149						
MRI	単純		造影		小計	MRI	患者数						
	外来	入院	外来	入院			外来	入院	小計				
(MRI) 頭頸部	3, 595	818	715	229	5, 357	(MRI) 単純	5, 906	1, 187	7, 093				
脊椎	1, 068	199	47	49	1, 363	造影	1, 635	448	2, 083				
胸部	14	6	142	18	180	小計	7, 541	1, 635	9, 176				
骨盤腹部	728	113	671	140	1, 652	他院読影	45	3	48				
上肢	158	4	30	1	193								
下肢	343	47	30	11	431								
小計	5, 906	1, 187	1, 635	448	9, 176								
CT	単純		造影		小計					CT	患者数		
	外来	入院	外来	入院							外来	入院	小計
(CT) 頭部	3, 967	1, 301	68	35	5, 371	(CT) 単純	10, 690	2, 790	13, 480				
顔面頸部	579	131	540	156	1, 406	造影	5, 272	1, 204	6, 476				
胸部	3, 893	905	1, 819	427	7, 044	小計	15, 962	3, 994	19, 956				
腹部	1, 139	234	2, 787	541	4, 701	他院読影	99	15	114				
脊椎	193	83	8	21	305								
四肢	636	84	36	24	780								
その他	283	52	14	0	349								
小計	10, 690	2, 790	5, 272	1, 204	19, 956								
血管造影					合計					血管造影	患者数		
	外来	入院	小計	科別		外来	入院	小計					
(血管造影) 頭頸部	8	174	182	放科	46	(血管造影) I A 造影	23	729	752				
循環器	10	408	418	脳外科	182	I V 造影	5	55	60				
胸部	0	0	0	循環器	470	小計	28	784	812				
腹部・骨盤	5	41	46	腎泌尿器	114								
四肢	1	52	53	小計	812								
シャント	4	109	113										
小計	28	784	812										
透視	単純		造影		小計					透視	患者数		
	外来	入院	外来	入院		外来	入院	合計					
循環・呼吸器	0	203	0	0	203	(透視)	1, 106	1, 138	2, 244				
消化器	7	1	689	442	1, 139								
肝・胆道	0	0	8	40	48	治療	外来	入院	合計				
尿路	0	0	258	109	367	(治療) LINAC	2, 675	2, 719	5, 394				
関節・脊髄	77	13	92	67	249	頭部定位 (163), 体幹部定位 (0), IMRT(2145), 全身照射 (0) 追尾照射 (0), 電子線 (129) を含む							
頭頸部咽頭	0	0	5	7	12	温熱治療	9	0	9				
小児・婦人科	0	0	16	0	16	小線源	0	0	0				
血管・シャント	0	0	0	0	0	小計	2, 684	2, 719	5, 403				
IVH・単純	65	54	0	3	122								
小計	149	271	1, 068	668	2, 156								
一般撮影	撮影区分			患者数						核医学	患者数		
	外来	入院	小計	外来	入院						外来	入院	小計
(一般撮影) 頭頸部	2, 723	692	3, 415	外来	59, 315					(核医学) 頭部	103	65	168
胸腹部	36, 556	20, 469	57, 025	入院	19, 517	内分泌	50	0	50				
脊椎骨盤	3, 958	696	4, 654	合計	78, 832	心臓	185	167	352				
胸郭	3, 107	236	3, 343	ドック		呼吸器	6	6	12				
上肢	3, 688	355	4, 043	胸部	7, 244	腹部泌尿器	67	6	73				
下肢	9, 602	2, 221	11, 823	胃	358	骨・軟部	215	106	321				
全身骨	38	1	39	脳	482	血管	0	0	0				
治療用	151	192	343	肺	167	P E T	766	97	863				
乳房	4, 113	0	4, 113	乳房	1, 855	治療	0	0	0				
骨塩定量	2, 352	56	2, 408	合計	10, 106	小計	1, 392	447	1, 839				
泌尿器系造影	9	0	9	他院読影		2	0	2					
件数小計	66, 297	24, 918	91, 215	歯科系	2, 008								

沿革  
概要  
患者数経営状況  
委員会  
トピックス  
診療業務  
医療社会事業部  
看護部  
事務部  
業績

# 40. 医療安全推進室

## 1. スタッフ

医師 2 名 看護師 1 名 薬剤師 1 名 診療放射線技師 1 名 臨床検査技師 1 名  
臨床工学技師 1 名 理学療法士 1 名 事務 3 名

## 2. 業務

- 1) 各部門における医療安全対策の実施状況を評価するため、定例カンファレンスを週 1 回開催し、その評価結果を記録する。
- 2) 各部門の業務改善計画書を各部門と共同で作成し、それに基づく対策の実施状況を評価し、記録する。
- 3) 定例カンファレンスにおいて評価した結果を医療安全管理委員会に定期的に報告する。
- 4) 医療に係る安全管理に対する意識の向上を主な目的として、医療安全管理者と協力して職員研修を開催し、その評価を行い、実績を記録する。
- 5) 患者や家族からの医療の安全に関する相談に対応するため、医療安全相談窓口を設置し、相談件数及び相談内容、相談後の取り扱いについて記録する。
- 6) 院内に置いて医療事故が発生した場合について、「医療事故・紛争対応マニュアル」に沿って対応する。
- 7) その他必要時は室長の判断に基づき、臨時にカンファレンスを開催する。

## 3. 実績

- 1) MSM ニュース、MSM だよりの発行、発信
  - (1) MSM ニュース（代表部長会議にて配布）No. 189～199
  - (2) MSM だよりの電子カルテニュースにて配信）No. 149～160

### 2) 医療安全推進室主催の主な研修会

日付	研修名	講師	対象	参加人数
2019年 6月7日	静脈血栓塞症 予防～弾性ストッキングを中心に～	アルケア株式会社 佐藤 聡 氏	看護師 他	39 名
2019年 6月26日 ～7月2日 (5日間)	院内感染防止対策、医療安全合同研修 ・RRS について	院内講師 白塚第 3 麻酔科部長	全職員	1,091 名
2019年 7月5日	輸液ポンプ・シリンジポンプの安全な 取扱い	テルモ株式会社	看護師	19 名
2019年 7月12日	輸液ポンプ・シリンジポンプ 認定試験		看護師	14 名

2019年 9月27日	Rapid Response System RRSとは何か？ 何故必要か？	北里大学医学部附属新世紀 医療センター 横断的医療領域開発部門 侵襲制御・生体危機管理医学（集中治療医学） 教授 荒井 正康 先生	全職員	155名
2019年 11月27日 ～12月3日 (5日間)	院内感染防止対策、医療安全合同研修 ・薬の安全な使用と管理について ・「低血糖と対処法」について ・「正しい血糖測定法」について ・抗がん剤による被曝対策 ・麻薬・向精神薬・覚せい剤原料の取り扱いについて ・インスリン無投薬のリスク ・当院の安全対策 ・その酸素ボンベ、あと何分持ちますか？	院内講師	全職員	1,094名
2019年 12月17日	警察OBが語る院内暴力対応の実際～ 患者は、なぜ怒る クレーム・暴力の 対応～	学校法人慈恵大学総務部渉 外室名誉顧問 東京海上日動メディカル サービス株式会社 審査企画部メディカルリス クマネージメント室顧問 横内 昭光 氏	全職員	84名

### 3) 医療安全対策地域連携相互チェック

訪問日	訪問先	当院参加
2019年 8月 29日	福井赤十字病院 → 林病院	6名
2019年 9月 3日	福井赤十字病院 → 福井県立病院	7名
2019年 10月 1日	福井県立病院 → 福井赤十字病院 (林病院 木村病院 オブザーバー参加)	12名

### 4) 福井医療安全研究会参加状況

2019年8月30日 コードブルーの現状と予期せぬ急変の現場保持について  
今後の医療安全地域連携の進め方について  
(於：福井県立病院)

### 5) 再発防止対策

#### (1) 事例検討会・事故調査委員会件数

	2017年度	2018年度	2019年度
事例検討会	28	20	17
事故調査委員会	5	3	3

(2) 係争件数

	2017年度	2018年度	2019年度
調停	0	1	1
和解	1	1	0

(3) 2019年度医療支援課と連携した事案数 10件  
(2017年度12件 2018年度10件)

(4) 2019年度業務改善実施状況 3件  
(2017年度7件 2018年度7件)

(6) 2019年度ドクタークロス発動件数 24件  
(2017年度28件 2018年度30件)

(7) 2019年度ワーキング実績

① R R S ワーキンググループ

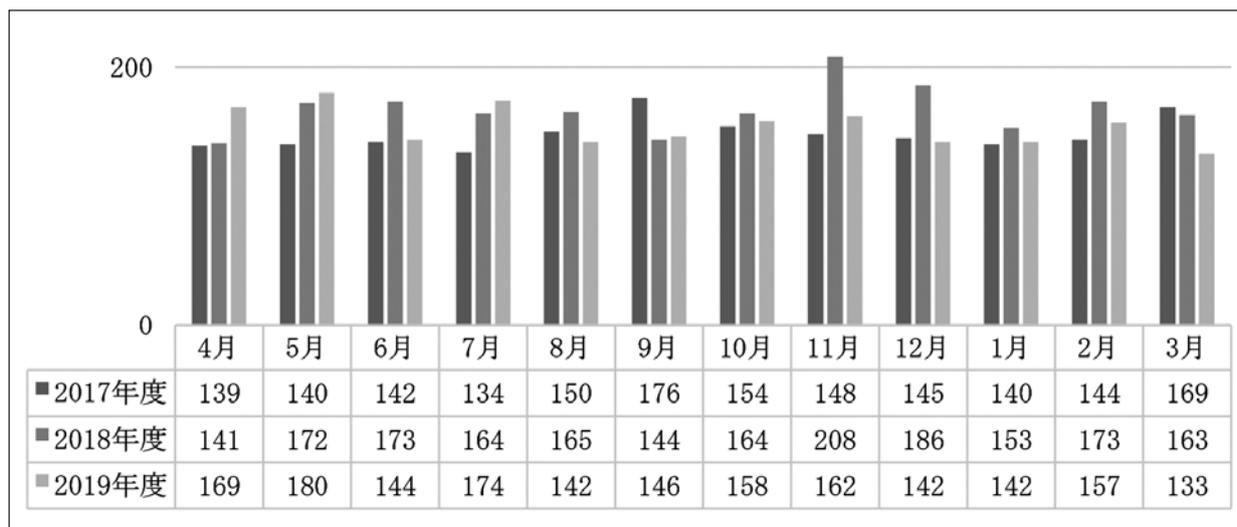
グループ長	小松副院長
メンバー	嶋田第1救急部長、白塚第3麻酔科部長、榊原循環器内科部副部長、井上看護副部長、相模集中治療室看護師長、原田集中治療室看護係長、西郡医療安全管理者、齋藤医療安全推進課長
活動内容	2019年度はR R Sのシステム構築をし、2020年2月にプレテストを3部署(2-5病、2-7病棟、2-8病棟)で実施した。

② ウイルス肝炎拾い上げワーキング

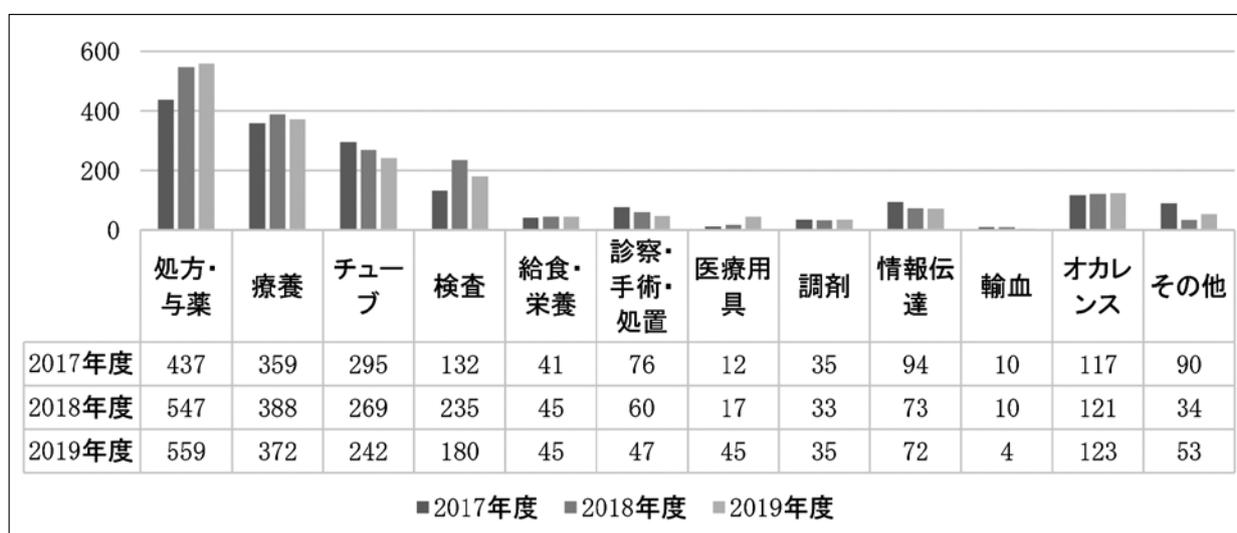
グループ長	小松副院長
メンバー	山崎消化器センター長、道上第2消化器科部長、今村検査部部長、豊岡検査医監、加藤検査部技師長、見谷検査技師、井上看護副部長、加藤外来看護師長、西郡医療安全管理者、齋藤医療安全推進課長
活動内容	当院のウイルス肝炎拾い上げシステムについて構築、検証した。陽性者に対するフォローアップ方法を検討した。

(8) 2019年度インシデント&アクシデントレポート報告件数 1,849件  
(2017年度1,781件 2018年度2,006件)

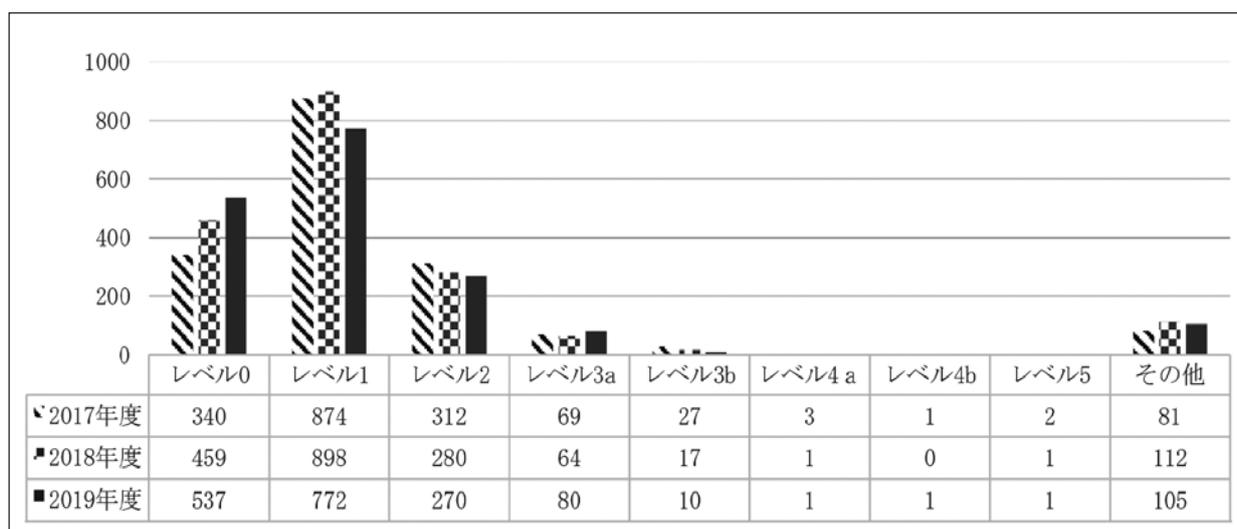
①月別レポート報告件数



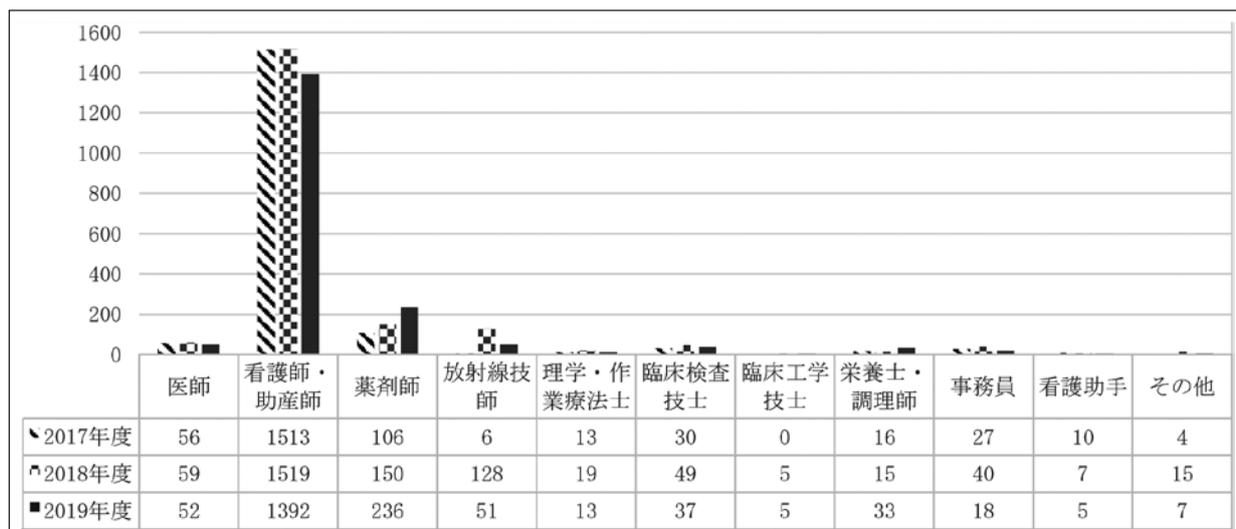
②事例別レポート報告件数



③インシント・アクシデントレベル別件数

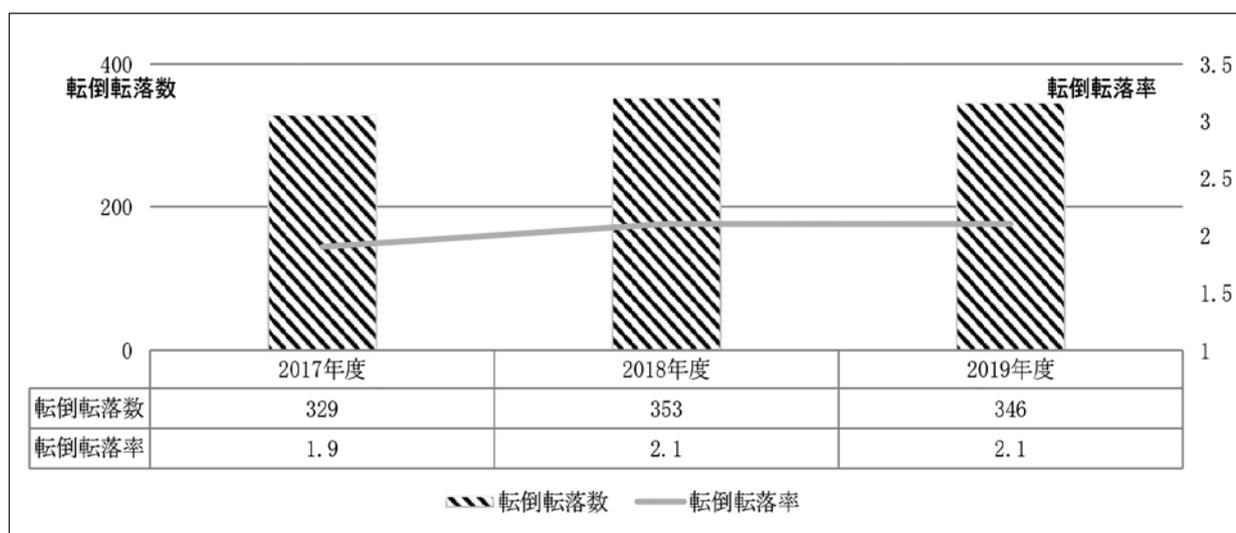


④ インシデント・アクシデント職種別報告件数



⑤ 当院入院患者の転倒転落数・転倒転落率（2017年度～2019年度）

（入院患者の転倒転落率（％）＝入院患者の転倒転落数／入院述べ数×1000人）



4. 目標

- 1) レポートシステムへの速やかな移行、レポート報告件数のUP
- 2) RRSの構築
- 3) 暴言暴力マニュアルの周知、医療者間カンファレンス2件以上実施

# 41. 教育研修推進室

## 1. スタッフ

教育研修推進室長（兼） 副院長	高野 誠一郎
教育研修推進室技監（兼） 外科部長	藤井 秀則
教育研修推進室（兼） 循環器内科副部長	皿澤 克彦
教育研修推進室（兼） 外科副部長	吉羽 秀麿
教育研修推進室（兼） 人事課長	川島 勇一
教育研修推進室（兼） 看護師長	東川 佐枝美（令和元年8月31日退職）
教育研修推進室（兼） 看護係長	井口 秀人（令和元年4月1日配属）
教育研修推進室（兼） 人事課職員係長	田中 延枝
教育研修推進室（兼） 主事	佐野 智美

## 2. 目 標

- (1) 初期臨床研修医の確保
- (2) 階層別研修・管理職研修の充実

## 3. 業務と実績

- (1) 医師の臨床研修に関わること

- 1) 令和元年度当院在籍の初期臨床研修医数

- ① 1年目 11名（当院Aプログラム8名・当院Bプログラム2名・福井大学病院Cプログラム1名）
- ② 2年目 10名（当院Aプログラム8名・当院Cプログラム2名）

- 2) 次年度初期臨床研修医採用試験応募者数と採用研修医数

採用試験応募者数：17名 当院プログラム採用者数：11名

- 3) 初期臨床研修医募集活動

下記、研修医募集説明会に参加し、募集活動を行った。

月 日	開 催 名	会 場
5月12日（日）	京都大学医学部研修医募集説明会	京都大学芝欄会館
5月26日（日）	e レジフェア東京	東京ドームシティプリズムホール
7月 7日（日）	レジナビフェア in 大阪	インテック大阪
7月13日（土）	京都大学医学部研修医募集説明会	京都大学芝欄会館
2月16日（日）	レジナビフェア in 金沢	石川県産業展示館

- 4) 研修医とプログラム責任者、研修医養成プロジェクトメンバーとの面接

研修が適切に行われるように、また心理的サポートのために、研修医とプログラム責任者、研修医養成プロジェクトメンバーの面接を調整し、5月（グループ面接）と10月・2月（個人面接）を実施した。

- 5) 院内医師による講義および研修医症例発表会の企画・実施

救急部嶋田医師の1回/月の講義を計8回、救急部中西医師の講義2回/月を計17回、および他の院内医師による講義を8回実施した。3月に症例発表会を企画していたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止とした。

(2) 職員教育研修に関わること

1) 赤十字救急法救急員資格取得の推進

教育研修推進室主催で講習を行い、35名が救急員資格を新たに取得した。

2) 階層別職員研修の計画・実施

実施月日	時間	対象者	研修名	参加者数
4月1日～3日(月～水)	終日	新採用者	新採用者研修	64人
6月11日(火)	17:15～18:15	管理職	働き方と休み方の改善	105人
6月15日(土)	9:00～12:00	希望者	中堅職員に期待される役割	22人
7月5～6日(金～土)	13:30 出発	新採用者	新人宿泊研修	57人
12月12日(木)	17:30～18:40	希望者	褒めて進める人材育成と職場風土改善	53人
1月30日(木)	17:15～18:00	1年目	1年間の振り返り	45人
2月18日(火)	17:15～18:00	2年目	1年間の振り返り	35人
3月10日(火)	17:15～18:00	3年目	就職後3年間の振り返り	中止

3) 管理職研修

上記に記載したように、「働き方と休み方の改善」についての管理職研修を実施した。

また、日本病院会主催の管理職研修に、下記の2名を派遣した。

澁谷貞一係長(薬剤部)、浜田友紀係長(リハビリテーション科)

4) キャリア開発ラダー

下記のとおり各部職員から申請があり、評価会、監査を経て、教育研修推進委員会にて承認された。

看護部 実践者ラダーⅠ・Ⅱ・Ⅲ(56名・42名・29名)、管理者ラダーⅠ・Ⅱ(9名・3名)および国際ラダーⅠ(1名)

事務部 レベルⅡ：西本哲也(管財課)、佐藤しずか・山崎悠平(医事サービス課)

レベルⅡ MSW：林佳奈(地域医療連携課)

レベルⅠ：田中健(医事サービス課)、土田勇樹(管財課)、鶴輪千尋(健診業務課)、  
奈須田瞳・古館美穂(地域医療連携課)

薬剤部 レベルⅡ：金森紀幸、前田太一

レベルⅠ：大久保翔悟、徳永順子、向井拓、漆崎汐里、西川翔太、森田友香、上坂歌奈、  
北島梓、木村武史

リハビリテーション科部 レベルⅢ：宮下崇

レベルⅡ：佐藤祐一、樋田貴紀、山本和雅

レベルⅠ：奥屋愛太郎、黒田圭太、高島尚生

5) 事務職員教育

到達目標にそった研修の計画・実施、1年目～3年目の目標達成状況評価(中間・最終)の実施

6) 学会参加への支援：人事課の項参照

#### 4. 次年度の目標

- (1) 初期臨床研修医の確保 (2) 階層別研修・管理職研修の充実

## 42. 感 染 管 理 室

### 1. スタッフ

室長（兼）	赤井 雅也	ICD 制度協議会認定インфекションコントロールドクター
副室長（兼）	木下 圭一	ICD 制度協議会認定インфекションコントロールドクター
薬剤師（兼）	寺本 敏清	日本病院薬剤師会認定 感染制御認定薬剤師
臨床検査技師（兼）	平井 舞	
看護師	坪田 マキ	日本看護協会認定 感染管理認定看護師
課長（兼）	齋藤 裕一	
主事（兼）	佐野 眞奈美	
主事（兼）	増永 浩子	

### 2. 実 績

#### 1) 感染防止対策地域連携

地域連携相互チェック

令和元年5月30日（木） 福井赤十字病院 → 公立丹南病院

令和元年7月19日（木） 公立丹南病院 → 福井赤十字病院

地域連携カンファレンス

日程	参加医療機関	内 容
令和元年 5月16日	木村病院、福井リハビリテーション病院、つくし野病院（オブザーバ）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・抗菌薬の適性使用について</li> <li>・質疑応答・情報交換</li> </ul>
6月21日	県内の感染防止対策加算1、2を算定している医療機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染防止対策加算〔1〕〔2〕届出状況について</li> <li>・抗菌薬適正使用支援加算について</li> <li>・各職種サーベイランス結果報告について</li> <li>・ラウンドに関して～教えて隣のラウンド～</li> <li>・流行性ウイルス疾患について</li> </ul>
9月19日	木村病院、福井リハビリテーション病院、つくし野病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手指衛生推進への取り組みについて</li> <li>・質疑応答・情報交換</li> <li>・職種別意見交換</li> </ul>
11月16日	県内の感染防止対策加算1、2を算定している医療機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染防止対策加算〔1〕〔2〕届出状況について</li> <li>・令和2年感染防止対策加算〔1〕相互チェック組み合わせについて</li> <li>・各職種サーベイランス結果報告について</li> <li>・耐性菌感染対策と地域連携</li> </ul>
令和2年 2月6日	木村病院、福井リハビリテーション病院、つくし野病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染性胃腸炎について</li> <li>・質疑応答・情報交換</li> <li>・新型コロナウイルス感染症について ～赤井医師によるプレゼンテーション～</li> </ul>

沿革
概要
患者数・経営状況
委員会
トピックス
診療業務
医療社会事業部
看護部
事務部
業績

2) 抗菌薬適正使用 (AST)

- ・抗菌薬ラウンド・血培ラウンド  
 (新規) 333 症例 (新規+継続) 2,769 症例
- ・抗菌薬コンサルテーション 226 件数

3) サーベイランス

- ・厚生労働省院内感染対策サーベイランス事業参加：全入院部門、耐性菌部門、SSI 部門、集中治療室部門
- ・福井 FICNet サーベイランス参加 (検査部門、薬剤部門、看護部門)

4) ICT ラウンド

- ・環境ラウンド 年 12 回 (46 部署)
- ・病棟ラウンド 月 4 回

5) 全職員対象感染管理研修開催 (年 6 回)

第 1 回 令和元年 6 月 26 日～7 月 2 日 (火)

手指衛生について

第 2 回 令和元年 10 月 1 日 (火)

HIV の基礎知識 講師：福井大学医学部附属病院 岩崎 博道 教授

第 3 回 令和元年 10 月 30 日 (水)

多職種で共に行う抗菌薬適正使用 講師：ながたクリニック 院長 永田 理希先生

第 4 回 令和元年 11 月 19 日 (火), 26 日 (火)

N95 マスクフィットチェック 業者による装着レクチャー

第 5 回 令和元年 11 月 27 日 (水)～12 月 3 日 (火)

麻疹・風しんについて、抗菌薬について

第 6 回 令和 2 年 2 月 6 日 (木)

新型コロナウイルス感染症について 講師：赤井 雅也 感染管理室室長

※全職員 2 回参加率 97.2%

6) その他の業務

- ・感染症診療コンサルティング業務
- ・感染症対策コンサルティング業務
- ・職業感染の対応
- ・感染管理システムの導入
- ・針刺し切創・粘膜曝露事故の対応
- ・他院職員の針刺し事故対応の院内システムの構築
- ・渡航用ワクチン接種の院内システムの構築
- ・新型コロナウイルス感染症対策
- ・手指衛生の促進活動
- ・工事のリスクアセスメント評価
- ・一般病棟結核曝露対応
- ・抗菌薬適正使用に係るデータの収集と解析

- ・第3世代経口セフェム抗菌薬が使われているパスの検討
  - ・マニュアル検討（二類以下感染症疑い患者入院フローチャート、汚染リネンの取り扱い、感染症発生報告・対応系統図、届出が必要な疾患の一覧および届出方法（擬似症定点・擬似症発生連絡・対応系統図）、結核の逝去時対応
  - ・インフルエンザアウトブレイク対応
- 7) ICT 研修コース
- ・感染管理研修コースⅠ 5月～12月 毎月第4木曜日 17:10～18:00
  - ・感染管理研修コースⅡ 6月～2月 偶数月第2木曜日 17:10～18:00
- コースⅠ修了者12名、コースⅡ修了者4名
- 8) 看護部 ICT リンクナース委員会活動
- ・ワードオーデイト、手指消毒薬使用量調査、部署サーベイランスの実施、部署勉強会の推進  
手指衛生直接観察、ワンポイントレクチャーによる教育、手洗いチェッカーによる手指衛生の評価  
手指衛生のタイミングベストプラクティスの作成
- 9) 感染管理室だよりの発行
- 感染管理室便り No. 85～No. 96 発行・電子カルテ掲載

沿革

概要

患者数・経営状況

委員会

トピックス

診療業務

医療社会事業部

看護部

事務部

業績

# 43. 災害救護支援室

## 1. スタッフ

災害救護支援室長兼麻酔科部長	田邊 毅
災害救護支援副室長兼麻酔科部長	白塚 秀之
災害救護支援室員兼看護副部長	井上 和子
災害救護支援室員兼1-8病棟看護師長	川端 和代
災害救護支援室員兼X線技術課長	西郡 克寛
災害救護支援室員兼集中治療室看護係長	朝田 和枝
災害救護支援室員兼医療社会事業係長	伊藤 心平
災害救護支援室員兼医療社会事業課主事	鈴木 敏弘

## 2. 業 務

- 災害時における医療援護の計画及び実施に関すること
- 原子力災害時における医療救護の実施に関すること
- 災害時診療事業継続計画（BCP）の運用、改定に関すること

## 3. 実 績

### (1) 災害救護活動

#### ①令和元年台風19号長野県長野市における救護班活動

班長（医師）	山下 智之（福井赤十字病院 脳神経外科医師）
看護師長	内田 一美（福井赤十字病院 1-5病棟看護師長）
看護師	渡辺 陽子（福井赤十字病院 集中治療室看護師）
看護師	新保 比奈子（福井赤十字病院 2-5病棟看護師）
薬剤師	山本 康太（福井赤十字病院 薬剤部 薬剤師）
主 事	小川 貴司（福井赤十字病院 病院経営課 主事）
主 事	栢谷 朋和（福井赤十字病院 医事サービス課 主事）
連絡調整員	藤井 友幸（日本赤十字社福井県支部 事業推進課長）

活動期間：令和元年10月16日（金）～10月20日（火）

※16日は移動日、現地での活動日は、17日から20日の午前中まで行い、20日の夕方に福井に帰宅  
主な活動場所：長野県長野市

#### ②令和元年台風19号における日赤災害医療コーディネートチームの派遣

活 動 者：白塚 秀之（福井赤十字病院 災害救護支援副室長兼麻酔科部長）  
川端 和代（福井赤十字病院 災害救護支援室員兼中央手術・滅菌室看護師長）  
山田 智也（日本赤十字社福井県支部 事業推進係長）

活動期間：令和元年10月21日（月）～10月23日（水）

活動内容：現地で活動している救護班の取りまとめ、避難所におけるDVTスクリーニングの体制の検討、長野県地域災害保健医療調整本部における調整活動

③令和元年台風19号こころのケア班活動

活動者：松田 ゆう子（福井赤十字病院 1-8病棟看護師長）  
寺島 由美（福井赤十字病院 1-6病棟看護師長）  
西尾 瑞穂（福井赤十字病院 中央手術室・滅菌室看護師）  
鈴木 敏弘（福井赤十字病院 災害救護支援室員兼医療社会事業課主事）

活動期間：令和元年11月1日（金）～11月5日（火）

活動内容：長野市内に開設している避難所でのこころのケア活動に従事

④新型コロナウイルス感染症中国武漢からの帰国者の健康管理活動（DMAT活動）

活動者：田邊 毅（福井赤十字病院 災害救護支援室長兼麻酔科部長）  
平崎 憲範（福井赤十字病院 外科医師）  
川端 和代（福井赤十字病院 災害救護支援室員兼中央手術・滅菌室看護師長）  
秋山 奈津江（福井赤十字病院 2-6病棟看護師）  
木戸 俊介（福井赤十字病院 病院経営課経理係長）  
鈴木 敏弘（福井赤十字病院 災害救護支援室員兼医療社会事業課主事）

活動期間：令和2年2月15日（土）～2月17日（月）

活動内容：埼玉県和光市の税務大学校において、武漢チャーター便で帰国した方の健康観察業務に従事

(2) 訓練の開催

- 令和元年度福井赤十字病院総合災害対応訓練

開催日：令和元年11月9日（土）

院内参加者数：213名

（院外組織参加者）

武生看護学校：26名（傷病者役、メイク係サポート役として）

福井市南消防署救急隊：4名（傷病者搬送役として）

福井県赤十字血液センター：2名（輸血用血液供給係として）

日本赤十字社福井県支部：2名

訓練内容

災害対策本部設営運営訓練、災害対策本部会議運営訓練

診療エリア（診療統括、トリアージ、赤、黄、緑、黒、コメディカル部門 など）立ち上げ訓練

診療エリアでの被災傷病者受入訓練

救護班による避難所アセスメントおよび感染症対策の検討、実施

- 原子力発電所内被ばく傷病者受け入れ訓練

（福井県原子力総合防災訓練における原子力災害医療措置訓練として実施）

開催日：令和元年8月31日（土）、院内参加者数：32名

（院外組織参加者）

福井県地域医療課（連絡調整役として）、福井県防災航空事務所（ヘリによる負傷傷病者の搬送）

関西電力

沿革

概要

患者数・経営状況

委員会

トピックス

診療業務

医療社会事業部

看護部

事務部

業績

## (3) 研修会の実施

## ①災害時能力育成研修（全6回）

日 時	研修内容	講 師	参加者数
第1回 5月16日(木) 17:15~18:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害とは、災害サイクル</li> <li>・赤十字と災害の関わり</li> <li>・災害拠点病院、救護班、DMATの役割</li> <li>・救護班の実際の活動紹介（出動前、出動、救護活動、帰還、帰還後）</li> </ul>	災害救護支援副室長 白塚 秀之 先生 (日本DMAT隊員)	56名
第2回 6月25日(火) 17:15~18:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多数傷病者受入体制について</li> <li>・災害対応マニュアルについて</li> <li>・災害拠点病院に勤務する職員の心構え</li> <li>・災害時における院内体制</li> <li>・災害時における各エリアの役割分担</li> </ul>	災害救護支援副室長 白塚 秀之 先生 (日本DMAT隊員)	51名
第3回 7月25日(木) 17:15~18:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時のトリアージ</li> <li>トリアージの方法（START法）</li> <li>トリアージタグの記載方法</li> <li>トリアージ演習（START法を用いた演習）</li> </ul>	外科医師 平崎 憲範 先生 (日本DMAT隊員) 集中治療室看護師 城野 佑歌 先生 (日本DMAT隊員)	34名
第4回 8月22日(木) 17:15~18:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時のトリアージ</li> <li>トリアージの方法（PAT法）</li> <li>トリアージ演習（PAT法を用いた演習）</li> <li>・災害カルテの記載方法</li> </ul>	外科医師 平崎 憲範 先生 (日本DMAT隊員) 集中治療室看護師 城野 佑歌 先生 (日本DMAT隊員)	41名
第5回 9月19日(木) 17:15~18:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各部署、各エリアのアクションカードについて</li> <li>・災害時における記録と情報の取扱い</li> <li>クロノロジーについて、組織図作成について、To Doリスト、コンタクトリスト</li> <li>・災害時の情報共有の方法（演習）</li> <li>クロノロジーの書き方</li> <li>トランシーバーの使い方</li> </ul>	看護副部長 井上 和子 先生 病院経営課経理係長 木戸 俊介 先生 (日本DMAT隊員) 2-6病棟看護師 秋山 奈津江 先生 (日本DMAT隊員)	42名
第6回 10月24日(木) 17:15~18:45 (90分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合シミュレーション</li> <li>目的：災害発生時の院内初動体制の確立について理解する</li> <li>目標①：CSCATTTが実践レベルで理解できる</li> <li>目標②：災害対応マニュアルに沿い、各エリアにおける役割が理解できる</li> </ul>	集中治療室看護係長 朝田 和枝 先生 (日本DMAT隊員)	31名

## ②全職員向け災害研修

### 研修内容

- ・災害発生時における自主登院基準と持参品、災害時における当院の役割、災害時における初動体制等

開催日：令和2年2月17日（月）、21日（金）の10時、12時、16時、17時10分

※計8回開催

※2月26日、28日（医局会分）、3月2日開催分は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

参加者数：540名

## (4) 各種会議、外部研修会および外部研修会講師

### ・日本赤十字社原子力災害アドバイザー会議

#### ①令和元年度第1回緊急被ばく医療アドバイザー会議

日時：7月10日（水）～11日（木）

参加者：災害救護支援室長 田邊 毅

災害救護支援室員 西郡 克寛

議題：赤十字原子力災害情報センターの今後の取組みについて  
原子力災害対応基礎研修会について

#### ②令和元年度第2回原子力災害医療アドバイザー会議

日時：12月12日（木）～13日（金）

参加者：災害救護支援室長 田邊 毅

災害救護支援室員 西郡 克寛

議題：赤十字原子力災害情報センターの今後の取組み  
令和2年度原子力災害対応基礎研修会について  
原子力災害時の救護活動について

### ・災害医療ACT研究所

#### ①熊本県災害医療コーディネート研修

日時：8月31日（土）

講師：災害救護支援副室長兼麻酔科部長 白塚 秀之

#### ②福井県災害医療コーディネート研修

日時：10月11日（金）

講師：災害救護支援副室長兼麻酔科部長 白塚 秀之

#### ③石川県災害医療コーディネート研修

日時：11月30日（土）

講師：災害救護支援副室長兼麻酔科部長 白塚 秀之

#### ④群馬県災害医療コーディネート研修

日時：12月21日（土）～22日（日）

講師：災害救護支援副室長兼麻酔科部長 白塚 秀之

沿革

概要

患者数・経営状況

委員会

トピックス

診療業務

医療社会事業部

看護部

事務部

業績

## 2019年度救護訓練・研修等参加者一覧

訓練 DMATとして参加

No.	行事名	日程	場 所	参加者名			備 考
				医 師	看護師・助産師	主事・業務調整員等	
1	こころのケア(3年目看護師対象)	6/1(土)	支部		3年目看護師 22名		
2	平成31年度日本赤十字社原子力災害基礎研修	6/7(金)~6/8(土)	日本赤十字社 静岡県支部	嶋田 喜充	妹尾 真理子	伊藤 心平 五十嵐 直樹 平野 風彩	
3	支部救護班研修	6/15(土)	病院	医師9名	看護師17名	コメディカル7名 事務職員7名	
4	令和元年度第2回原子力災害医療中核人材研修	7/30(火)~8/2(金)	福島県立医科大学			柑本 明美	
5	災害派遣医療チーム(DMAT)研修(西第4回)	7/30(火)~8/3(土)	兵庫県災害医療センター	榊原 圭一			
6	福井県原子力総合防災訓練	8/31(土)	病院	医師4名	看護師8名	放射線技師4名 臨床工学技士2名 事務職員:11名 警備員2名 電話交換手1名	
7	令和元年度大規模地震時医療活動訓練	9/6(金)~9/8(日)	首都圏(活動場所:さいたま赤十字病院)	平崎 憲範	原田 幸枝 清水 洋輔	坪田 泰典 鈴木 敏弘	
8	災害派遣医療チーム(DMAT)研修(東第4回)	10/6(日)~10/10(木)	国立病院機構災害医療センター	中西 泰造			
9	令和元年度福井県災害医療本部研修(ACT研修)	10/11(金)	福井大学医学部附属病院			木戸 俊介 伊藤 心平	
10	令和元年度日本赤十字社第3ブロック支部合同災害救護訓練	10/20(日)~10/21(月)	富山県富山市	柳田 成史	寺島 由美 真柄 昌代 長谷川奈津子	栢谷 朋和 田中 健	台風19号のため中止
11	2019年度福井県総合防災訓練および緊急消防援助隊中部ブロック合同訓練	11/2(土)	大野市	森川 太洋	中野 敦子 妹尾 真理子 圓道 加奈子	中谷 真悟 伊藤 心平	三嶋 隆介
12	令和元年度福井赤十字病院災害対応訓練	11/9(土)	病院・支部	医師35名	看護師45名	コメディカル31名	事務・技能職65名 院外参加者49名
13	令和元年度赤十字医療施設事業継続計画(BCP)研修会	11/25(月)	日本赤十字社本社	白塚 秀之		伊藤 心平	
14	近畿地区DMATブロック訓練	11/30(土)~12/1(日)	滋賀県	安富 久記	川端 和代 城野 佑歌	山田 智也	

15	令和元年度第5回 原子力災害医療中 核人材研修	12/8(日) ～11(水)	広島大学緊急 被ばく医療推 進センター		太田 妙子	鈴木 敏弘	
16	災害派遣医療チー ム技能維持研修	1/18(土) ～1/19(日)	石川県金沢市	嶋田 喜充	原田 幸枝 木水 麻里	木戸 俊介 坪田 泰典 鈴木 敏弘	大森 丈
17	全職員対象災害研 修	2/17(月) 計4回 2/21(金) 計4回	病院	医 師：8 名 参加	看 護 師：326 名参加	コメディカル 101名参加 事務職員：73 名参加 業務員等：29 名参加	残り8回分 と医局会 分はコロ ナで中止

沿  
革

概  
要

患者数  
経営状況

委  
員  
会

ト  
ピ  
ッ  
ク  
ス

診  
療  
業  
務

医  
療  
社  
会  
事  
業  
部

看  
護  
部

事  
務  
部

業  
績

沿 革
概 要
患者数・経営状況
委員会
トピックス
診療業務
医療社会事業部
看護部
事務部
業 績

# 医療社会事業部

# 1. 医療社会事業課

## 1. 災害医療救護活動

日本赤十字社救護規則に基づく災害時等に医療救護活動を行う常備救護班については、日本赤十字社福井県支部管下において当院に8個班が編成されている。2019年度の班編成は次のとおり。

班	医 師	看護師長	看護師 / 助産師	主 事	放射線技師	薬剤師
1	取越 貞治	内田 一美	渡辺 陽子 新保比奈子	小川 貴司 枡谷 朋和	西郡 克寛	安藤 和也
2	中嶋 康貴	中野 敦子	皿澤 和美○ 嶋田 梨乃	西本 哲也 田中 建伍	平井 克彦	山本 康太
3	小谷 友弥	尾崎 こはる	松浦 有紀 斉藤 みか○	吉岡 見悟 土田 勇樹	秋田 直昭	谷山 幸信
4	三原 美香	寺島 由美	羽生 将人 圓道加奈子○	中谷 真悟 大下 真人	山崎 亮一	金森 紀幸
5	加藤 成	濱野 みゆき	西尾 瑞徳 上田 悠平	田中 健 松宮 翔太	中尾 秀昭	細谷 拓史
6	品川 友親	相模 朋恵	山田 智美 大久保 瞳○	五十嵐 直樹 三嶋 隆介	村上 冬樹	草富 翔太
7	森川 太洋	松田 ゆう子	真柄 昌代 梅田沙耶加	山崎 悠平 戸田 友行	田賀 陽子	前田 太一
8	柳田 成史	石田 克子	嶋田 佳恵 長谷川奈津子○	長谷川 公二 井元 信彦	平野 凧彩	坂口 綾

※名前の後の「○」表記は助産師有資格者

## 2. 保健・衛生・医療事業

血液センター、地方自治体等が実施する保健・衛生・医療関係事業への協力状況は次のとおり。

依頼元	血液 センター	福井市医師会			合 計
		業務	基本健診	幼児健診	
派遣者	医師	医師	医師	看護師	
2017年度	23	5	9	9	46
2018年度	24	5	7	7	43
2019年度	24	5	7	7	43

## 3. 病院ボランティア活動

福井赤十字病院ボランティアの会が発足した平成12年5月以降、院内の様々な場面で病院ボランティアが活動しており、その活動状況については下表のとおり。

年1回ボランティアミーティングを開催していたが、今年度は新型コロナウイルス感染症により中止となっている。

	延活動回数	登録者数
2017年度	2, 534	55
2018年度	2, 900	66
2019年度	3, 065	63

#### 4. スポーツ大会等救護活動

今年度は派遣実績無し

	医 師	看護師
2017 年度	3	5
2018 年度	7	37
2019 年度	0	0

#### 5. 市民公開講座の開催

市民向けに病気やその治療法について、職員が講演を行った。

	日 時	講演名	講 師
第 1 回	2019年 5月11日(土)	花粉症と食物アレルギー	大澤 陽子 耳鼻咽喉科部長
第 2 回	2019年 10月19日(土)	講演前に頭のウォーミングアップ	山本 和雅 作業療法士
		コケない！ボケない！アタマとカラダの同時刺激体操	青山 朋樹 京都大学理学療法 学講座教授
第 3 回	2020年 1月11日(土)	腎臓病の内科的治療と献腎移植について（食事療法や薬物療法など）	松井 佑樹 腎臓・泌尿器科医師
		失われた腎機能を取り戻す腎移植手術（当院における腎移植の現況）	高田 昌幸 腎臓泌尿器科副部長
第 4 回	2020年 3月7日(土) ※新型コロナウイルス感染症により中止	脳卒中の病態、予防、急性期薬物療法	柳田 成史 神経内科医師
		脳卒中急性期のリハビリテーション	岡崎 雅樹 理学療法士
		脳卒中急性期から慢性期の看護	清水 洋輔 1－5病棟看護師
		脳卒中の急性期血管内治療	取越 貞治 脳神経外科医師

## 2. 居宅介護支援事業所

### 1. スタッフ

山崎 雪代（管理者、訪問看護兼） 山崎 奈満（専従 主任ケアマネジャー）

### 2. 目 標

(1) 安定的な経営基盤の確保

①ケアプラン件数の安定的な確保と維持 ②訪問看護との連携

(2) 地域医療・介護との連携を強化

①入退院支援体制の維持・強化

### 3. 業 務

(1) 介護保険、その他介護福祉制度についての相談対応、要介護認定者のケアマネジメント業務

(2) 院内ディスチャージプランニングと連携した地域支援（在宅医・地域関係機関との連携）

### 4. 実 績

専従ケアマネジャーが業務を行い、訪問看護ステーションの管理者が居宅介護支援事業管理、一部実務し常勤換算1.2人で業務を実施した。

新規依頼は当院退院支援担当MSWからのみでなく、地域包括支援センターや他の病院からの相談があり常に需要が高い状態にある。利用者が終了するとすぐ新規利用者を受け入れており、実績は安定して制度上限の件数に達成している（グラフ1参照）。そのため、相談は受けていたが介護支援開始までに永眠される等でサービスに繋がらないケース3件以外に、定員を超えているためにお断りしたケースが6件あった。

併設の訪問看護ステーションと連携した実件数は25件（38.5%）で、うち9件が癌末期、7件が非癌末期の利用者、その他認知症、難病、特別な医療的管理が必要な利用者であった。

終了者21件のうち76.2%が永眠されており、入院・入所者2名は認知症であった。また、癌の終末期の特徴から要介護1～2の利用者が多いが重症度は高く（グラフ2参照）、入退院の支援（表1参照）やケアプラン作成などの業務が多い。さらに、退院支援担当MSWとの連携で、今年度は特に癌末期の療養者でも化学療法中の比較的早期に相談を受けることが多く、相談開始から2ヶ月以内での終了は4件（前年度10件）と減っている。

年間実件数：65件（前年度62件）

新規受入れ24件（前年度32件）

内訳：癌末期 5件、呼吸不全末期等非癌 19件

新規依頼先：当院MSW等 10件（前年度21件）、包括支援センター 5件（前年度9件）

他機関5件（前年度2件）、その他 4件

相談のみ9件（前年度10件）

内訳：院内MSW3件、包括支援センター5件 その他1件

終了者数21件（前年度24件）

内訳：癌末期9件（うち在宅看取り3件、病院看取り6件）

非癌末期（うち在宅看取り2件、病院看取り5件）

沿  
革

概  
要

患者数・  
経営状況

委  
員  
会

ト  
ピ  
ク  
ス

診  
療  
業  
務

医  
療  
社  
会  
事  
業  
部

看  
護  
部

事  
務  
部

業  
績

入院・入所 2 件、軽快（要支援・非該当） 3 件

稼働状況（目標 35 件 / 月）

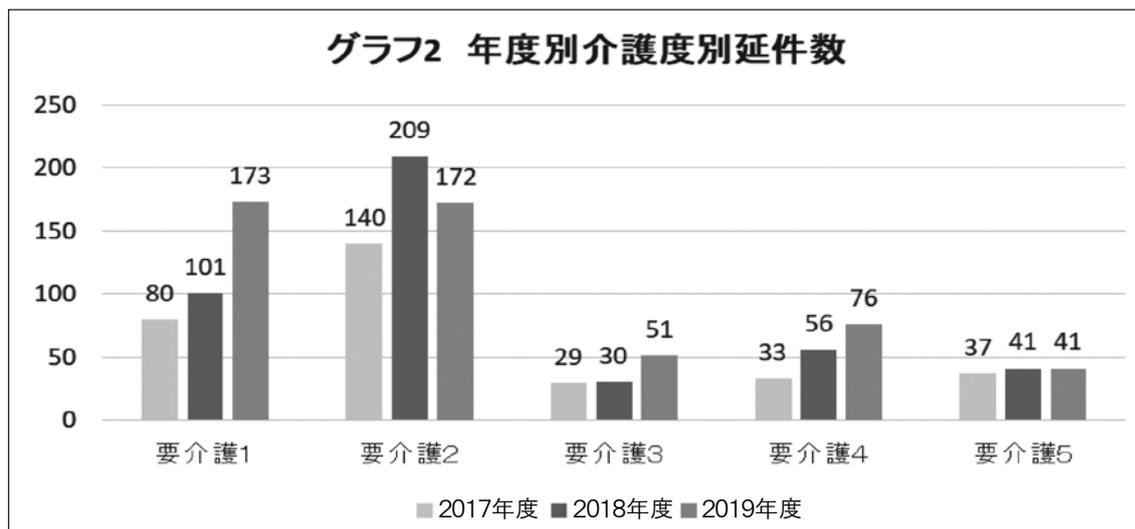
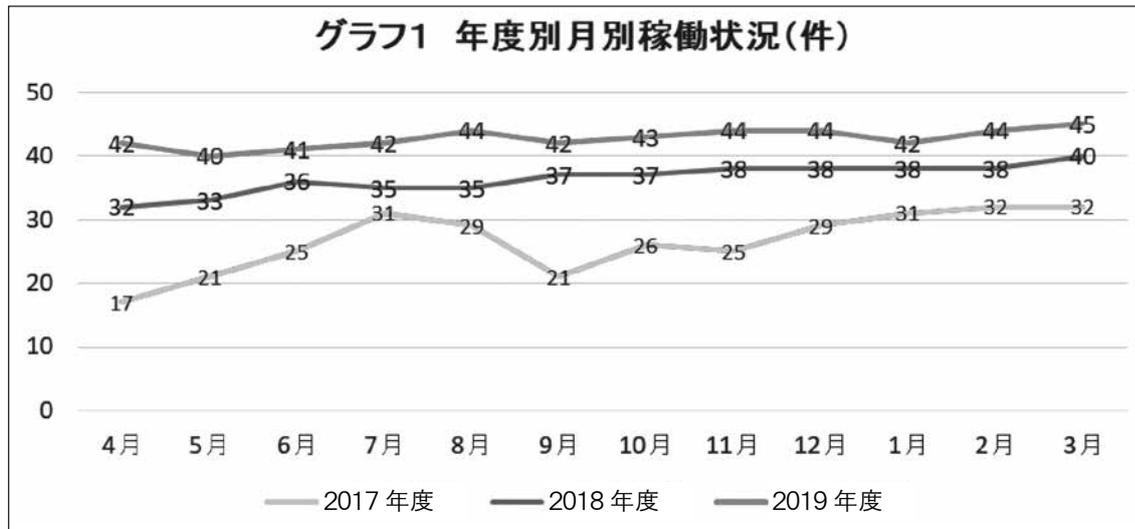


表1 居宅介護支援事業にかかる加算の年度別述べ件数

加算項目	年度	2017年度	2018年度	2019年度
初回加算		38	14	13
退院退所加算		5	20	22
入院時情報連携加算（I）		26	25	30
緊急時カンファレンス加算		2	0	0
ターミナル加算			2	3

## 3. 訪問看護ステーション

### 1. スタッフ

看護師長：山崎 雪代（兼）

看護師：藤本つゆ子（～7月） 森石智子（6月～） 前田照美 伊東志子 白崎江利子  
大石恵 吉村明子（5月～介護休暇） 藤川未穂（12月～） 岡美紀（12月～）

パート看護師：江戸絹代

看護補助者：渡辺和子 山崎奈満（兼） 事務：黒田憲治（兼務）

### 2. 目標

- 1) 機能強化型の要件を満たす実績を目指し、安定した経営基盤を構築する。
- 2) 訪問看護の質の向上と顧客満足度の向上  
(1) 多職種での勉強会の企画や参加。(2) 看護補助者の同行による安全な看護の提供。
- 3) 個々のコミュニケーション能力・看護ケア能力の向上：リフレクションの実施。

### 3. 業務

- 1) 4月～8月にスタッフの異動や介護休暇、病気休暇が重なり、訪問件数の確保が困難な状態が続いた。訪問件数は5,624件（前年比+826件）、実人員一人当たりの1日の訪問件数は3.0件（前年度比+0.1件）。在宅看取り件数の確保ができず医療保険の機能強化型の算定要件に到達しない状況であった。

利用者の実人数は128人/年（前年度109人）で、がん末期や難病、呼吸不全、心不全が多い。内科系では、老老介護、認認介護により生活管理や内服管理が必要な利用者が年々増え、ケアマネジャーと連携し業務をしている（表1）。慢性疾患や認知症の利用者が増えており、医療保険と介護保険の対象者割合はほぼ半数である（グラフ1）。

業務にあたり、看護補助者の同行で安全な看護の提供に努めている。介護保険対象疾患で重症寝たきり患者等も対象としているが、難病やがん末期の療養者の訪問件数が増えている（グラフ2）。

- 2) 新規利用者数：新規利用者数＝67件（前年度71件）、終了者数＝51件（前年度67件）

- 3) 終了理由分類

死亡36件（癌27件 非癌9件） 軽快：5件 入院：6件 入所：3件 転居：1件

死亡場所：病院22名（前年度25件） 在宅14名うち癌9件、非癌5件（前年度14件）

- 4) カンファレンス参加件数152件（前年度121件）

新規利用者の受け入れ時のカンファレンスが定着し退院前カンファレンス70件と多く、サービス担当者会議64件と増えている。また入院時等カンファレンスに13件参加し、入院時の書面による情報提供と合わせて情報共有し、病院スタッフ、ケアマネジャーと連携を深めている。

- 5) 電話相談件数等

電話総件数は、90件で前年より46件増加、臨時訪問総件数は87件で前年より32件増加した。臨時訪問のうち、癌・非癌の末期や難病利用者で51.7%を占め、その他の疾患利用者の臨時訪問は71.4%が重症管理を必要とする利用者であった。終末期の対応の他に老老介護、独居などの環境のため訪問することが増えている。

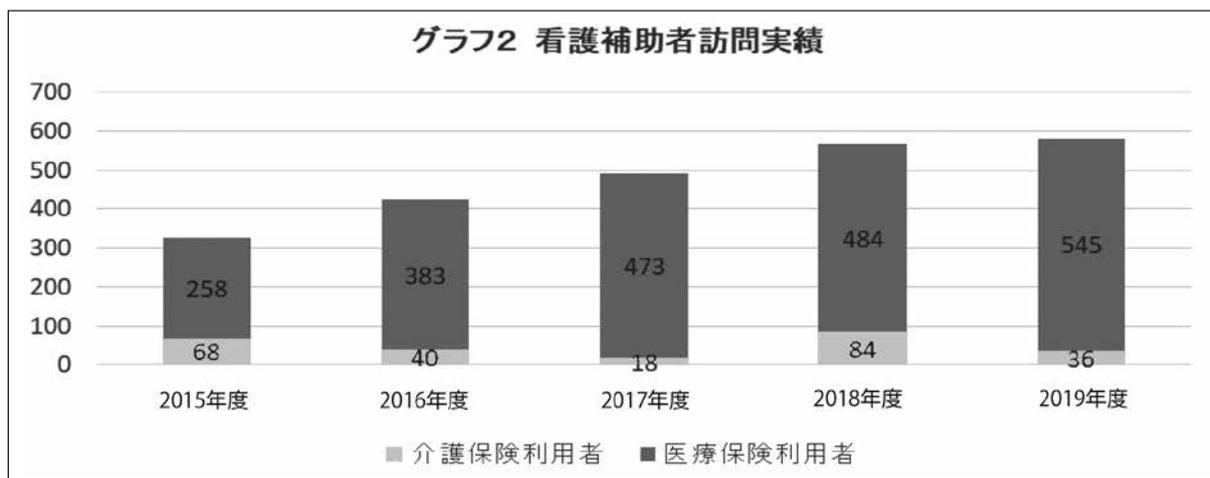
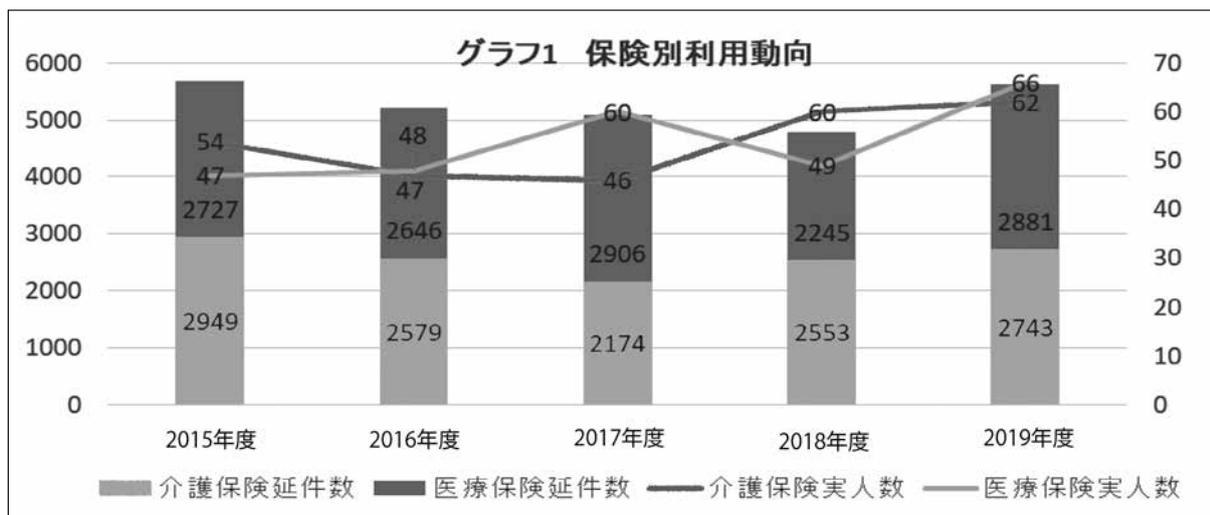
- 6) 院内との連携：DCP（退院支援）リンクナース委員会、緩和ケアリンクナース委員会 各1回/

月院内退院支援係との話し合い1回/週実施。外来（神経内科・呼吸器科）との話し合い1回/月

表1 訪問看護実施状況(科別)

延件数(実人数)

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
内科	994 (19)	517 (13)	611 (15)	638 (23)	647 (23)
神経内科	1199 (17)	1,317 (14)	1181 (12)	1111 (11)	1310 (18)
呼吸器科	689 (14)	667 (13)	407 (11)	497 (21)	721 (20)
消化器科	196 (6)	166 (7)	95 (4)	20 (2)	63 (6)
循環器科	679 (9)	645 (11)	737 (16)	775 (12)	992 (13)
小児科	133 (2)	148 (2)	157 (2)	233 (3)	199 (3)
外科	566 (11)	851 (19)	550 (16)	320 (10)	433 (13)
整形外科	529 (5)	503 (5)	433 (5)	418 (7)	397 (4)
脳神経外科	209 (4)	102 (4)	293 (6)	307 (6)	179 (7)
呼吸器外科	7 (1)	0 (0)	41 (1)	18 (1)	63 (3)
皮膚科	86 (2)	94 (3)	72 (2)	96 (2)	144 (3)
形成外科	93 (2)	50 (1)	56 (1)	88 (1)	130 (1)
泌尿器科	163 (4)	147 (3)	279 (7)	241 (8)	288 (7)
婦人科	12 (2)	0 (0)	93 (4)	33 (1)	39 (3)
耳鼻科	121 (3)	18 (1)	75 (3)	3 (1)	34 (1)
歯科	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	19 (1)
計	5,676 (101)	5,225 (96)	5,080 (106)	4,798 (109)	5,624 (128)
月平均	473.0	435.4	423.3	399.8	468.7



## 4. 地域医療連携課

### 1. スタッフ

地域医療連携担当副院長	高野 誠一郎
課長	青柳 芳重
係長	森岡 恵代
主事	5名
派遣職員	1名

### 2. 目標

決め細やかな対応と院内調整により他機関の満足度をあげる

### 3. 業務

- 1) 地域における病診・病病連携に関すること。
- 2) 地域医療支援病院の運営に関すること。
- 3) 紹介および退院支援の情報支援に関すること。
- 4) 高度医療機器の共同利用に関すること。
- 5) 開放型病床の運営に関すること。
- 6) 地域保険医療機関への広報および渉外活動並びに情報交換等に関すること。
- 7) その他地域医療連携の推進に関すること。

### 4. 実績

- 1) 登録医数の推移（基準日：年度末） (人)

	2017年度	2018年度	2019年度
医科	324	315	317
歯科	56	58	60
合計	380	373	377

- 2) 開放型病床 平均利用率 (%)

	2017年度	2018年度	2019年度
平均利用率	43.9	42.1	37.9

- 3) 紹介率 (%)

2017年度	2018年度	2019年度
68.3	69.0	70.6

- 4) 逆紹介率 (%)

2017年度	2018年度	2019年度
97.1	91.5	106.7

沿革

概要

患者数・経営状況

委員会

トピックス

診療業務

医療社会事業部

看護部

事務部

業績

5) 診療予約件数の推移 (件)

	2017年度	2018年度	2019年度
合計	9,871	10,206	10,189
月平均	822.6	850.5	849.1
稼働日1日平均	40.3	41.8	41.8

6) 研修会開催の実績および参加人数

研修会名	開催日時	内容	院外	院内	計
病診連携医会	令和元年7月3日(水) 役員会 18:45~19:10 懇談会 19:15~21:40 ザ・グランユアーズフクイ	「パーキンソン病の新しい治療」 副院長 兼 神経内科部長 高野誠一郎 「パーキンソン病に対する脳深部刺激療法について」 脳卒中センター長 兼 脳神経外科部長 戸田 弘紀	48	57	105
病診連携医会 冬季懇談会	令和元年11月20日(水) 19:00~21:30 ザ・グランユアーズフクイ	「小児の長引く咳嗽について」 小児科部長 渡邊 康宏	110	55	165
地域医療連携交流会	令和元年9月4日(水) 19:00~21:30 サバエシティホテル	【講演Ⅰ】座長 津田クリニック 院長 津田 武嗣先生 「慢性心不全と緩和医療」循環器内科部長 吉田 博之 【講演Ⅱ】座長 佐々木医院 院長 佐々木 浩三先生 「緩和ケアにおける症状マネジメント」 外科副部長 吉羽 秀麿	22	24	46
地域医療連携交流会	令和2年3月5日(木) 19:00~ ユアーズホテルフクイ	新型コロナウイルス感染症発生のため開催中止	/	/	/
イブニングセミナー	平成31年4月17日(水) 19:30~20:30 栄養管理棟3階講堂	「口腔癌と口内炎の見分け方」 歯科部長 山田和人	42	23	65
イブニングセミナー	令和元年6月5日(水) 19:30~20:30 栄養管理棟3階講堂	「アトピー性皮膚炎 病態と治療 ～注射療法の選択肢～」 皮膚科副部長 八木洋輔	23	8	31
イブニングセミナー	令和2年3月11日(水) 19:00~ 栄養管理棟3階講堂	新型コロナウイルス感染症発生のため開催中止	/	/	/
腎・泌尿器疾患 学術講演会	令和元年6月13日(木) 19:00~21:45 ユアーズホテルフクイ	【一般講演】 「DKDにおけるSGLT2阻害剤の可能性」 腎臓・泌尿器科部長 伊藤正典 【特別講演】 「災害時に望まれる医療の視点 ～過活動膀胱などの腎泌尿器関連疾患を含めて～」 山形県立中央病院 副院長 森野 一真 先生	17	62	79
消化器連携セミナー	令和元年6月20日(木) 19:00~20:40 ザ・グランユアーズフクイ	【一般講演】座長 坂の下クリニック 院長 栗田 浩史 先生 「当院における慢性便秘症治療薬についての 便通調査結果の検討」 消化器内科副部長 里見聡子 【特別講演】座長 消化器内科部長 山崎 幸直 「拡がる潰瘍性大腸炎治療の選択肢～5-ASA 製剤の位置づけ～」 京都府立医科大学 消化器内科 准教授 高木 智久 先生	21	33	54

心不全連携セミナー	令和元年7月22日(月) 19:00～20:40 栄養管理棟3階講堂	【基調講演】座長 三崎医院 院長 三崎 裕史 先生 「当院での慢性心不全の現状と対応」 慢性心不全看護認定看護師 田中 めぐみ 【特別講演①】座長 循環器内科部長 吉田 博之 「心不全の最新治療を包括的に考える」 三菱京都病院 心臓内科 部長 横松 孝史 先生 「末期心不全患者に対する緩和ケアのコツ」 三菱京都病院 慢性心不全看護認定看護師 山部さおり 先生	32	23	55
腎・泌尿器連携 セミナー	令和元年11月7日(木) 19:00～20:45 福井パレスホテル	【一般講演】座長 腎臓・泌尿器科副部長 高田 昌幸 「過活動膀胱以外の泌尿器科疾患に対する非 専門医診療」 副院長 小松 和人 【特別講演】座長 副院長 小松 和人 「過活動膀胱は治るのか？くすりとその他の治療」 かげやま医院 院長 影山 慎二 先生	29	38	67
IBD 医療連携 セミナー	令和元年11月27日(水) 18:50～20:30 福井商工会議所	【特別講演】座長 消化器内科部長 山崎 幸直 「意外と知らない!? 明日から役立つ5-ASA 治 療の豆知識」 兵庫医科大学 炎症性腸疾患学講座内科部門 准教授 樋田 信幸 先生 【パネルディスカッション】 「潰瘍性大腸炎におけるより良い紹介／逆紹 介のタイミング」	13	19	32
福井脳卒中セミナー	令和元年11月29日(金) 18:00～18:50 栄養管理棟2階研修室	「最近の抗凝固療法について」 神経内科医師 柳田 成史 「抗凝固薬の休と再開 ～当院の頭部外傷患者 300例の検討～」 脳神経外科部長 早瀬 睦	99	22	121
脳神経連携セミナー	令和2年1月22日(水) 18:30～19:30 管理棟2階多目的室	「脳神経減圧術手術成績の向上 発生機序」 医療法人春秋会城山病院 近藤明恵 先生	4	11	15
福井血栓塞栓連携 セミナー	令和2年1月30日(木) 19:00～21:30 福井パレスホテル	座長 副院長兼神経内科部長 高野 誠一郎 【特別講演1】 「脳卒中・心疾患の救急のピットフォール」 救急部長 嶋田 喜充 【特別講演2】 「脳卒中急性期治療と抗凝固薬の開始・継続について」 脳神経外科副部長 佐野 徳隆	21	24	45
第7回消化器カン ファレンス	令和2年1月18日(土) 15:30～19:30 福井パレスホテル	【話題提供】座長 外科部長 青竹 利治 「特発性食道破裂に対するFJ Clipを用いた 鏡視下手術の経験」 外科副部長 吉羽 秀磨 「当科で経験した好酸球性食道炎の1例」 消化器内科部長 道上 学 【特別講演I】座長 消化器センター長 山崎 幸直 「バレット腺癌の内視鏡診断と治療」 がん・感染症センター東京立駒込病院 内視鏡科部長 門馬 久美子 先生 【特別講演II】座長 外科部長 藤井 秀則 「食道癌に対するロボット支援下食道切除術」 佐賀大学医学部附属病院 一般・消化器外 科教授 能城 浩和 先生	15	40	55

沿革
概要
患者数・経営状況
委員会
トピックス
診療業務
医療社会事業部
看護部
事務部
業績

沿革概要	連携実務担当者 情報交換会	令和元年6月18日(火) 18:30～20:00 栄養管理棟3階講堂	テーマ「医療機関と施設との連携の課題について共有し、円滑な地域への移行支援体制を検討する」	75	32	107
	在宅担当者と退院支援 実務担当者の情報交換会	令和元年10月5日(土) 13:30～15:30 栄養管理棟3階講堂	入退院の問題を抱える要支援者・要介護高齢患者（及び疑いのある者）に対して、在宅療養における地域の課題（ニーズ）を検討し、地域の各事業所が協働して効果的な入院時の連携を考える	48	19	67
				619	490	1,109
患者数・経営状況						
委員会						
トピックス						
診療業務						
医療社会事業部						
看護部						
事務部						
業績						

# 4-(1). 地域医療連携課：退院支援係

## 1. スタッフ 総数9名（退院支援加算1体制）

### 入院前支援係

専従看護師1名 他看護師3名 医師事務作業補助者1名 事務職2名

### 退院支援係

専従看護師1名

病棟専任MSW8名（うち3名 退院支援係専任者）

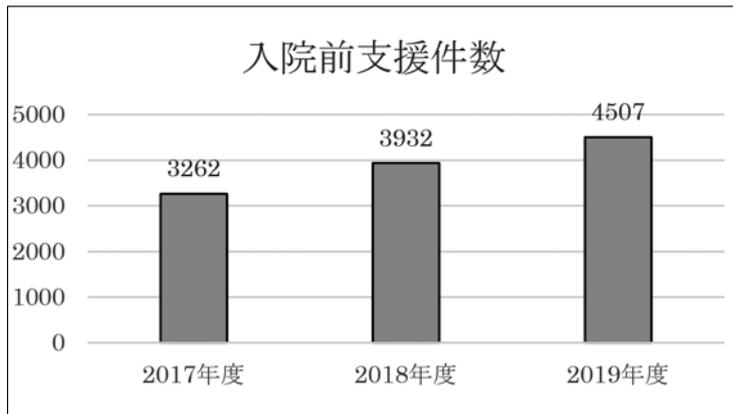
がん相談員（専任）認知症サポートチーム（専任）MSW1名

## 2. 目標

- 1) 入退院支援センターを中心に、多職種協働の切れ目のない入退院支援を実施する。
- 2) 地域との連携を強化し、在宅療養と地域包括ケアシステムに貢献する。

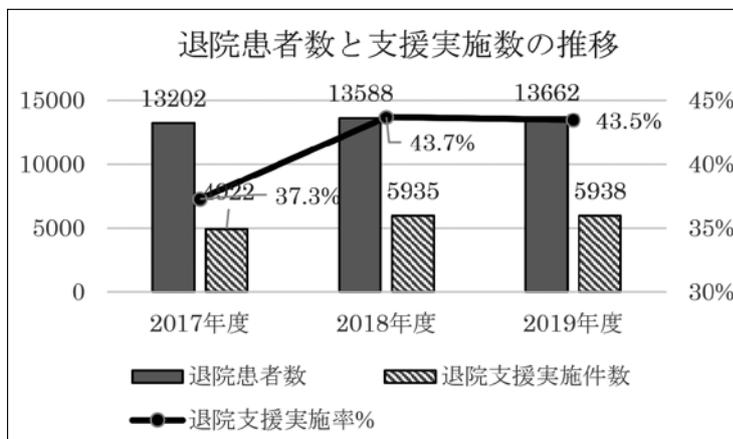
## 3. 実績

### 1) 入院前支援実績



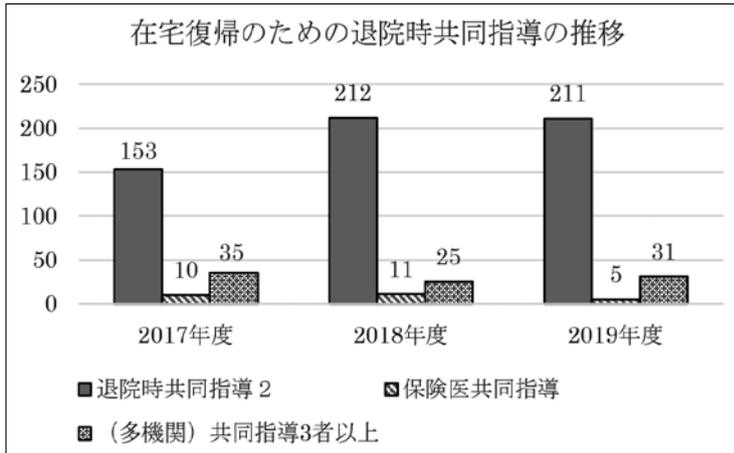
入退院支援センターにおいて、予定入院患者に入院前支援を実施している。術前検査調整を2019年度に開始し、対応診療科を6科（呼外、整形、腎泌尿器産婦人科、耳鼻咽喉科、歯科）まで拡大した。

### 2) 退院支援実績



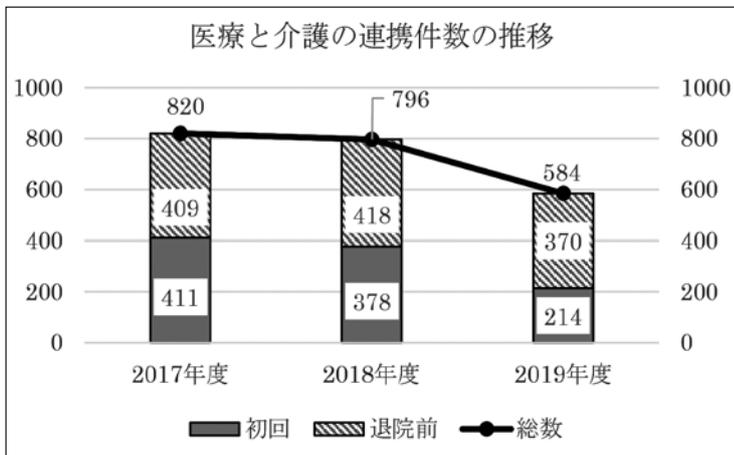
2019年度より入院時に総合評価を含む入退院支援スクリーニングシートを用いて要因抽出を開始した。前年度と比較して、支援実施件数は、ほぼ同程度であった。

### 3) 地域との連携状況



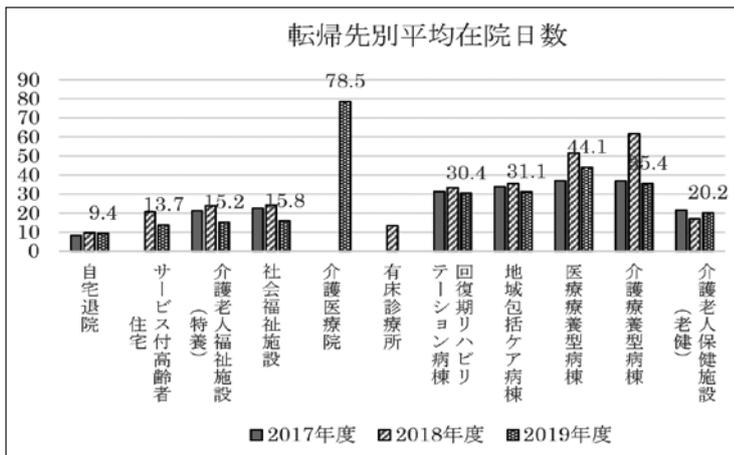
退院前カンファレンスで、院外多職種（かかりつけ医、看護師、リハビリ療法士、薬剤師、栄養師、訪問看護ステーション、介護支援専門員等）を含む退院時共同指導が実施できた件数は211件で大きな変化はなかった。三者以上の多機関共同指導は6件増加した。メディカルネットを用いた遠隔カンファレンスは2件あった。

### 4) 医療と介護の連携状況



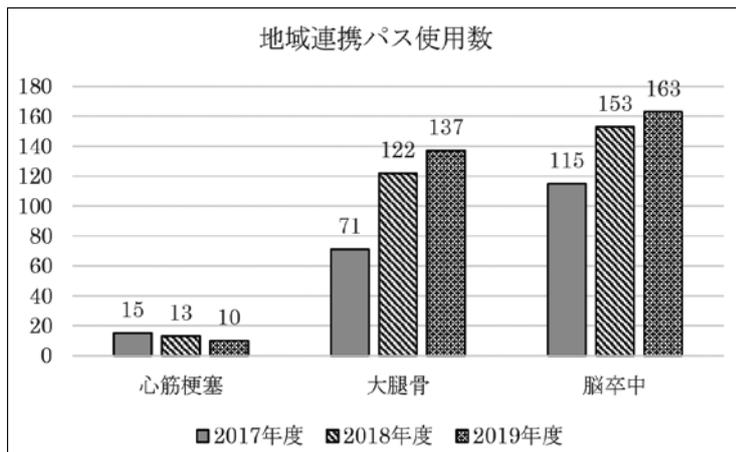
高齢入院患者の円滑な在宅復帰を支援するために、入院早期（7日以内）に、初回介護支援連携指導カンファレンスを開催している。COVID19感染症、電話・FAXでの情報交換が増加し、介護支援専門員の来院が減少したことにより、カンファレンス開催の件数が減少した。

### 5) 転帰先別平均在院日数



全退院患者の在宅復帰率は96.3%、平均在院日数は11.2日であった。回復期、療養型病床、介護医療院への転院は、転院先病床の空き待機期間を含めて30日を越えていた。

6) 地域連携パス運用実績



脳卒中の地域連携パスはメディカルネットワークで運用中。大腿骨、脳卒中連携パスは、増加傾向であった。

沿革

概要

患者数・経営状況

委員会

トピックス

診療業務

医療社会事業部

看護部

事務部

業績

## 4-(2). 地域医療連携課:相談支援係(医療ソーシャルワーカー)

### 1. スタッフ

社会福祉士 9名

### 2. 業 務

2019年度 院内のソーシャルワーカーの相談業務は、新ケース6,706件であった。(表1)

表1 ケース件数

新規/年	2017年	2018年	2019年
前年度からの継続	184	93	126
本年の新ケース	7,746	7,036	6,706

新ケースの紹介経路は、院内の看護師が多く、全体の96%である。(表2)

表2 新ケースの紹介経路

紹介経路/年	2017年	2018年	2019年
本人	12	25	16
家族・知人	7	14	46
医師	12	7	22
看護師	7,638	6,870	6,437
他職員	35	27	48
院外関係機関	42	87	137
その他	0	6	0
合計	7,746	7,036	6,706

相談援助調整内容は、在宅介護・地域生活に関することが11,970件で最も多く、次に転院に関することが6,961件と多い。(表3)

表3 相談援助調整内容

援助内容	2017年	2018年	2019年
家族関係に関すること	23	52	58
在宅介護・地域生活に関すること	11,206	12,342	11,970
療養生活に関すること	257	283	185
経済的問題に関すること	105	122	143
就労・職場環境に関すること	14	0	6
教育環境・就学に関すること	16	1	0
虐待・暴力・人権に関わること	3	18	16
受診・受療に関すること	126	172	308
転院に関すること	6,311	6,838	6,961
他施設利用に関すること	397	700	506
心理・情緒的問題に関すること	10	9	4
他福祉関係法利用に関すること	42	87	150
その他	0	19	23
合計	18,523	20,643	20,330

ソーシャルワーカー業務の傾向としては次のことが挙げられる。

- ① 新ケースは、前年度より減少した。
- ② 紹介経路で看護師の依頼が多いのは、ディスチャージプランニング（入院患者の退院支援）依頼が定着していると考えられる。  
院外関係機関が年々増加している。在宅のケアマネジャーからの相談などが増えてきていると考えられる。
- ③ 在宅介護、転院、他施設利用の件数が多いのは、病棟専任の退院支援担当をしているからである。受診・受療に関することが、2018年度に比べて約8割増加した。在宅医（訪問診療）を依頼したり、外来より他病院へ入院受け入れ先を探すなどの相談が増えてきていると考えられる。

沿革

概要

患者数・経営状況

委員会

トピックス

診療業務

医療社会事業部

看護部

事務部

業績

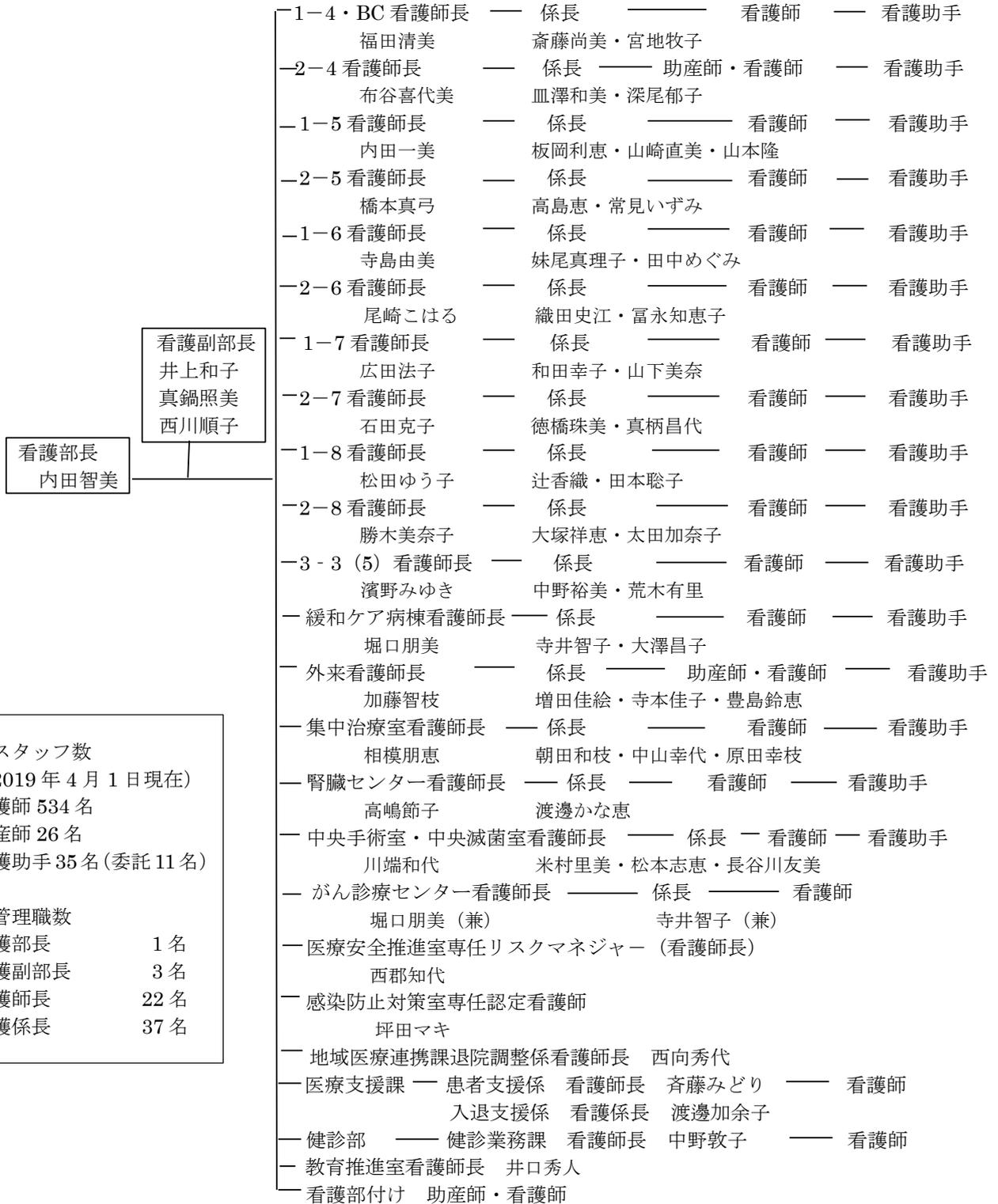
沿 革
概 要
患者数・経営状況
委員会
トピックス
診療業務
<b>医療社会事業部</b>
看護部
事務部
業 績

# 看 護 部

1. スタッフ

看護部組織図

2019年4月1日



\*スタッフ数  
(2019年4月1日現在)  
看護師 534名  
助産師 26名  
看護助手 35名 (委託 11名)

\*管理職数  
看護部長 1名  
看護副部長 3名  
看護師長 22名  
看護係長 37名

付帯施設 福井赤十字訪問看護ステーション管理者 — 看護師  
看護師長 山崎雪代

併設施設 福井赤十字病院居宅支援事業所  
看護師長 山崎雪代 (兼)

沿革  
概要  
患者数・経営状況  
委員会  
トピックス  
診療業務  
医療社会事業部  
看護部  
事務部  
業績

## 2019 年度実習指導者

(看護部内任命)

2019 年 4 月 1 日

部 署	実習指導者	実習指導者
1 の 4	土橋芳美	宮地牧子
1 の 5	笠島亜矢子	平本有紀江
1 の 6	木本佳芳里	妹尾真理子
1 の 7	戸田みゆ希	浜本千恵美
1 の 8	山田智美	田本聡子
2 の 4	井上めぐみ	松井恵美子
2 の 5	常見いずみ	高島恵
2 の 6	小林三佳	白谷志草
2 の 7	大濱由紀子	二谷恵
2 の 8	出雲真由美	伊東美由紀
3 の 3 (5)	中野裕美	野坂仁美
緩和ケア	渡辺淳子	大澤昌子
手術室	菅谷佳子	出村小百合
集中治療室	小玉理恵	長谷川淳子
腎センター	塚本ひとみ	渡邊かなえ
訪問看護ステーション	伊東志子	白崎江利子

## 2019 年度看護部リスクマネージャー

担当部署	リスクマネージャー
1 の 4・BC、2 の 4	宮地牧子
1 の 5, 2 の 5	橋本真弓
1 の 6、2 の 6	織田史江
1 の 7、2 の 7	和田幸子
1 の 8、2 の 8	辻香織
3 の 3、PCU、腎センター	濱野みゆき
手術室、集中治療室	長谷川友美
外来	加藤智枝
看護部	井上和子

## 2. 方針及び目標

2019年4月1日

### 《看護部の理念》

赤十字の基本理念である人道に基づき、一人ひとりを大切にし、その人らしい生活ができるよう支援します。

多様化する社会の変化に応じ、人々の生活やニーズも変化していきます。

疾病や障害からくる苦痛を軽減し、一人ひとりの健康レベルに合わせたライフスタイルを創造できるよう支援します。

そして、その人とのかかわりは個人の尊厳と権利を尊重し、一人ひとりを大切にします。

また、実践に当たっては、赤十字の7原則（人道・公平・中立・独立・奉仕・単一・世界性）を行動の指針とします。

### 《基本方針》

1. 私たちは、一人ひとりの人権を守り、意思を尊重します。
2. 私たちは、安全で安楽な、やさしい看護を提供します。
3. 私たちは、専門職業人としての自覚を持ち、自己研鑽に努めます。
4. 私たちは、地域の保健・医療・福祉と連携し、継続した看護を行います。  
(※平成24年1月1日より病院理念が見直されたことを受け、看護部理念・基本方針を変更した)

### 《2019年度看護部目標》

1. 体と心にやさしい看護を提供する DPNS を基盤に
  - ①安全な看護の実践
  - ②考える看護の実践
  - ③接遇の推進
2. 職員満足度を上げる
  - ④WLB推進
  - ⑤看護職員の負担感軽減
  - ⑥やりがいを実感できる職場風土
3. 健全経営に貢献する
  - ⑦適切な病床コントロール
  - ⑧適正な人員配置と活用
4. チーム医療の推進（専門職業人としての役割を果たす）





### 3. 実績

#### 2019年度 看護師長会審議事項

テーマ	メンバー	目的・方法等	結果及び考察
看護師経験年数 11年未満看護師 のキャリア支援	濱野・相模 勝木・川端	目的：当院の看護師経験年数11年未満看護師のキャリア支援 方法： ①キャリアデザインシートを作成し目標管理面接にて活用する。 ②自分の将来看護師像やライフスタイルを、面接にて明確にする。	キャリアデザインについて、全スタッフに周知し、目標管理面接にて師長より提示し記載させた。アンケート結果からは、今後の看護師生活での目標を定められない看護師も多く、動機付けが重要となる。今後も継続して、管理者からのキャリアデザイン設計の相談や支援が必要である。また、自律した看護師の育成には、現場でのOJTが重要であり、DPNSの体制を再構築しペアで教育していく必要がある。
患者の人権を尊重し必要最小限の身体抑制に繋がる身体抑制パスの改正	西向・中野 尾崎・石田	目的：身体抑制パス運営上の問題を把握する。身体抑制パスの改定と、抑制率の減少 方法： ①身体抑制の現状把握 ②身体抑制パスの改定 ③身体抑制実施率調査	身体抑制パスを改定し使用開始、抑制解除に向けた看護介入の確認を実施した結果、抑制率は減少した。今後も体策の継続と経年的な調査を実施する。また、身体抑制が最小限となる為には、臨床倫理を含めた教育プログラムを検討し、実施する必要がある
看護師長、看護係長の労務管理	加藤・西郡 堀口・山崎	目的：看護師長の管理業務時間と場所の確保と活用状況の評価。 看護係長のタイムマネジメントの現状把握 方法： ①看護師長の管理業務の場所と電子カルテを確保し活用方法状況把握 ②係長の時間外の業務量調査し要因を分析する	スタッフとの時間調整は出来ている。16時以降に看護師長が管理業務を実施できるように電子カルテと部屋を確保したが、活用できていたのは1名であった。17時以降のPHSを切る事も出来ていない人がいたが、意識付けは出来ていた。係長は、現場での実践業務が優先され、目標管理活動や審議G活動・委員会活動・代行業務等が時間外となっていた。代行業務と実践業務を兼任しない、時間内での活動時間を確保する、業務をスリム化する等の対応が必要である。
労務管理（働き方改革対応）	寺島・齋藤 布谷・西村	目的：年5日の年次有休休暇を確実に取得出来る働き方の検討 方法： ①全スタッフが、年間通して取得出来る様に計算式に基づき予定を組む ②希望した日に有休が取れる勤務表を作成	1日あたりの平均日勤可能者数の計算式を提示した。有休5日・夏休3日を100%取得できた部署は11部署で、3部署が取得できなかった。 有休取得のために、1～2名勤務者数を削減し業務量が増加した。時間外の増減については、部署により違いがあり、人員削減以外の要因も考えられる。日勤者を削減したことで負担がかかっていることはあると思うが、その中でも患者の安全と看護の質を確保することが重要である。

応援体制の基準作成	橋本・松田 内田・広田 福田	目的：日中・夜間の応援体制が明確になる 方法： ①応援体制基準の認知度と意見要望を確認する ②基準を見直し作成する	「応援体制基準」「外来と病棟、病棟間連携について」を全師長に再読してもらい見直しを実施した。応援必要部署と時間帯毎に区分した。応援依頼部署の順位は決めずに、検査・手術別に呼び出しや応援体制を明確にした。 今後は対応困難時例の収集を行い、対応方法を検討し共有していく。
-----------	----------------------	--	--

2019年度 看護係長会審議事項

審議事項	メンバー	目的・方法	評価
看護記録の質向上 質的監査者を育て、 看護実践の見える 記録が書ける	山下・荒木 皿澤・太田 大澤・富永 山崎 田中め	目標：質的監査ができる スタッフを育成し、看護実践が評価できる日々のSOAP記録内容が充実する。 方法： ①質的監査の実施とフィードバック体制を構築し、業務委員が指導教育する。 ②SOAP記録の勉強会を開催し「看護計画評価」達成率を上昇させる	質的監査の実施し、修正が必要な記録は、各人にフィードバックを実施したが、修正確認までは実施できなかった。質的監査が実施できるスタッフを26名育成した。質的監査結果の達成率が低下したが、評価できる看護師を更に育成し監査を継続して記録の質を向上させる。 看護過程を意識し、看護実践をSOAPで記録できるように勉強会を実施した。適正に評価する視点は養われたが、監査項目の達成率は低迷した。看護実践の記録は看護過程の一部であり、記録の充実は重要である。看護計画をもとに日々のケアを行う意識を高め、継続して働きかける必要がある。
業務量調査結果	和田・高島 原田・寺本 松本	目標：看護業務量調査を実施し、各部署の業務量を知り課題を抽出し業務改善に役立てる 方法： ①看護業務区分表看護行為分類を使用し実践する ②就業時間外の業務量とDPNSのペアの動きを確認する ③自部署のデータを分析し業務改善につなげる ④外来・手術室も同様に実施する	ワークサンプリング法にて実施した。「患者の世話」「診療の解除」が最もポイントが高かった。H27年殿調査結果と順位は同じであった。前時間外の業務は「情報収集」「引継ぎ申し送り」「注射の準備」、後時間外は「記録」「教育」「管理」であった。ペアで実施している業務は「患者の世話」「報告引継ぎ」「記録」「薬剤業務」が多かった。「ペアで情報共有」は一日を通して実施されており、ペアで実施しない業務について情報共有し、PNSの機能を果そうとしていると考える。今後は、各部署のデータと全部署のデータを比較分析し、部署の問題点を抽出して業務改善に繋げていく。また、外来・手術室も同様に調査を実施し、問題点抽出と改善活動を実施していく予定である。

沿革

概要

患者数経営状況

委員会

トピックス

診療業務

医療社会事業部

看護部

事務部

業績

沿革概要	日々のチームリーダーの役割の明確化と浸透	中野・増田 大塚・斎藤 織田	目標：日々のチームリーダーの役割の明確化 方法： ①チームリーダーの役割に関する調査実施 ②役割の実施状況調査 ③役割の周知と体策の検討し実施 ⑤体策実施状況の分析	看護基準に記載されている日々のチームリーダーの役割について、各部署にて周知した。どの程度できているか調査し、今年度は特に、「時間管理」「カンファレンスの実施」が実施できるように体策を立て実践した。意識して実践していたが、大きな変化は見られなかった。特に3年目のスタッフは、研修は終えているが実践機会が少ないため、役割を担う機会を増やし強化していく必要がある。
患者数経営状況	SPD 物品管理の確立に向けた活動	宮地・米村 徳橋・板岡 辻	目標： 部署毎の SPD 物品を見直し不要在庫削減と物品管理の確立 方法： ①回転していない SPD 物品を把握師選別する ②運用方法の検討と周知 ③物品管理テストの実施	3ヶ月間の SPD カードの動きを調査し、不必要なカードを選別して削減した。期限切れ物品の削減にも繋がった。全スタッフに対し、SPD カードの運用方法を伝え周知徹底を実施した。物品管理に対する意識が高まり、運用がスムーズになった。又、コスト削減にも繋がった。今後も継続していく必要がある。
委員会	リフレクションの定着を図るための活動	中山・田本 岩佐・深尾 渡辺か	目標： リフレクションを定着させ、係長がファシリテーターの役割を理解し、実践できる 方法： ①毎日看護を語る事が出来る体制を作る ②アンケートを実施し、ファシリテーターの役割を理解し、実践する	看護を語る大切さについて勉強会を実施し、強化月間を儲け実施した結果70%前後の実施率であった。しかし、強化月間終了後は継続できていない。定着させる為の取り組みが必要である。リフレクション実施による成果については今後の課題である。係長がファシリテーターを実施できるように研修会を行った。アンケートでは、役割を理解し実践できたと評価しており、今後も自信を持って実施できるように継続していく。
診療業務	身体抑制カンファレンス推進	真柄・井口 妹尾・朝田 山本・寺井	目標： 身体抑制カンファレンス実施手順に沿って実施できる 方法： ①身体抑止カンファレンスの方法を作成し周知させ、実施状況を把握 ②カンファレンス記録が記録されているか調査実施 ③解除に向けた代替案を提示し記録に残す	身体抑制カンファレンスの方法を全部署で周知した。開始時の実施率は85.9%で、経続時705%・解除時58.1%と低下傾向がみられた。漫然と抑制が継続されないように、カンファレンスを開催し解除基準を遵守することが需要であり、倫理的視点の育成が必要である。記録については、代替案の提示と計画への反映がされていない現状であった。確実な実践の為にも、計画への反映と看護指示を展開する必要がある。今後も継続した教育が必要と考える。
医療社会事業部				
看護部				
事務部				
業績				

環境調査活動	豊島・常見	<p>目標：環境調査を実施し、結果をフィードバックし改善する</p> <p>方法：</p> <p>①各部署のラウンドを実施</p> <p>②調査結果のフィードバックにより、再チェックの件数が削減する</p>	<p>環境整備マニュアルを改訂し、評価表を修正した。それを基に各部署で環境整備を実践し、他者評価を実施した。結果を集計し各部署にフィードバックし、更なる環境整備を実践してもらった。しかし、再チェック件数は減少しなかった。抜き打ちでラウンドを実施し、整備されていない箇所は徹底を呼びかけた。</p>
--------	-------	---	--

沿革
概要
患者数・経営状況
委員会
トピックス
診療業務
医療社会事業部
看護部
事務部
業績

## 2019 年度 専門・認定看護師活動実績

### 【専門看護師】

分野：がん看護専門看護師

がん化学療法看護認定看護師

氏名：富永 知恵子

実践・調整等	がん患者指導管理料 1, 2 にかかる面談：54 件 ニーズ陽性患者やフォロー面談：49 件、調整・相談 / コンサルテーション：22/3 件
教育・研究等	がん化学療法看護院内認定看護師フォローアップ研修実施 院内レベル教育講師（新人） 福井県立大学看護学科 非常勤講師 学部生講義担当 福井大学大学院医学系研究科 非常勤講師 CNS 教育課程講義担当 看護協会ピアサポート養成講座 講師 福井大学臨床看護研究会 研修担当 福井県がん教育ワーキンググループメンバー 立待小学校 6 年生対象 がん教育出前講義 福井県がん情報・連携部部会委員メンバー 第 50 回日本看護学会（看護教育）発表、 第 50 回日本看護学会（看護教育）原著論文提出

分野：災害看護専門看護師

氏名：朝田 和枝

実践 相談 調整 倫理調整	防災リソース委員会による火災を想定した机上訓練の実施と推進 災害時対応能力育成研修会（6 回 / 年）開催（災害ワーキンググループ教育班） 災害救護支援室コーディネーター班での活動、緊急被ばく医療受け入れ訓練参加（8 月 31 日土曜日 8:30～13:00）、災害対応訓練（11 月 9 日土曜日）実施 福井県看護協会 災害看護委員会活動 2019 年もっとクロス！赤十字フェスティバル 防災コーナ担当（5 月 11 日土曜日 9:00～16:00） 被災地訪問及び支援：平成 30 年 7 月豪雨（2018）災害後、岡山県倉敷市真備町（岡田仮設団地、みその仮設団地）支援活動（9 月 22 日）
教育	医師会看護専門学校 講義 1 件、福井県内研修会 10 件、 県外研修会 2 件
研究	9/5～6 日本災害看護学会第 21 回年次大会 示説発表 1 件、共同演者 2 件 11/2 第 27 回北陸腎疾患・血液浄化療法研究会 口説発表 1 件

【認定看護師】

分野：救急看護認定看護師

氏名：朝田 和枝

実践	院内トリアージ件数 11,067 件 (加算取得率 26.0%)、
指導	基礎教育 I・II (救急看護 I・II)、院内認定看護師 (院内トリアージナース) 養成コース (看護師 8 人) 開催、AHA BLS コース・AHA ACLS コース開催、ICLS コースインストラクターとして参加 (各々年 2 回開催)、福井 PTLs 研修会 インストラクターとして参加、JMECC にインストラクターとして参加、 大阪救急看護認定看護師会主催ブラッシュアップセミナーで、実践報告発表
相談	相談件数 10 件、救急搬送受け入れ困難事例 (54 件) 検討、救急外来で起こった問題事例の検討、院内調整困難事例の検討、救急カート薬品見直し

分野：皮膚・排泄ケア

氏名：上口 美恵 水島 典子

実践	褥瘡ハイリスク患者ケア加算 1562 件、褥瘡ラウンド (毎週)、褥瘡予防ラウンド (毎週)、 排尿チームラウンド件 309 件、 予防フットケア外来 565 件、創傷・ストーマ外来 850 件、 病棟：褥瘡 1050 件、ストーマ 250 件、創傷 540 件 退院後訪問指導 2 件
指導	院内講師 14 件
相談	褥瘡 50 件、ストーマ 80 件、創傷 70 件、がんカウンセリング 383 件
院外活動	講師 4 件、県内 WOC カンファレンス参加
研究発表	

分野：認知症看護

氏名：山本 隆

実践	もの忘れサポート看護外来件数：47 件、認知症ケアチーム介入患者総数：150 件、院内デイケア参加者総数：延 548 件、病棟勉強会：2 件、認知症ケアに関する研修会、看護助手への認知症研修会
指導	院内認定「認知症看護コース」育成
相談	毎週火曜日認知症ケアチーム相談ラウンド、電話相談 37 件
院外活動	認知症対応力向上研修会講師：2 件、認定看護師出前講座：2 件、認定看護師派遣事業：1 件、
研究発表	日本精神看護学会発表、日本認知症ケア学会参加

沿革

概要

患者数・経営状況

委員会

トピックス

診療業務

医療社会事業部

看護部

事務部

業績

分野：糖尿病看護

氏名：清水 雅代

実践	糖尿病療養支援外来（療養指導 1484 件）、化学療法支援外来、 糖尿病リンクナース委員会、糖尿病サポート部会チーム会、福井糖尿病療養指導士・ 日本糖尿病療養指導士資格更新の支援活動
指導	院内教育講義 3 回、医療安全研修
相談	治療や生活調整、簡易血糖測定機器選択等に関する相談 480 件
院外活動	院外講義 2 件、福井糖尿病看護研究会研修会企画運営、福井糖尿病療養指導研究会セ ミナー企画運営、福井県糖尿病協会協力活動
研究発表	日本糖尿病学会・日本糖尿病教育看護学会参加

分野：感染管理

氏名：真鍋 照美 坪田 マキ

実践	(専従) 感染管理室業務 (兼任) 感染に関する業務
指導	院内認定看護師フォローアップ、感染管理研修コース I・II、全職員対象感染対策研 修会、看護部レベル教育、業者対象研修
相談	コンサルテーション約 360 件 新型コロナウイルスに関する相談多数
院外活動	福井県看護協会感染対策地域支援委員会、福井県看護協会出前講座、認定看護師等派 遣事業、業者依頼研修講師
研究発表	

分野：摂食・嚥下障害看護認定分野

氏名：板岡 利恵

実践	嚥下カンファレンス毎週水曜日実施 摂食・嚥下看護外来 36 件 がんサポート外来 63 件
指導	がん診療センター勉強会・レベル研修 I・認知症院内認定講師 病棟勉強会 (1 部署)
相談	口腔ケア相談
院外活動	院外講師 3 件
研究発表	院内看護研究 (共同研究者)

分野：透析看護

氏名：高嶋 節子 丸岡 真紀

実践	腎移植後面談 100 件、CKD 教育指導 15 件、療法選択指導 13 件 PD 関連 3 件、
指導	院内部署勉強会 3 件、スタッフ指導 5 件
相談	スタッフ相談 2 件
院外活動	出前講座講師 3 件、福井県 PD ナースセミナーファシリテーター、 福井県血液浄化談話会座長、医師会看護専門学校非常勤講師、 製薬会社主催セミナー発表、製薬会社主催 DVD 収録 (透析患者の認知症看護)
研究発表	日本透析学会発表 (共同演者)、日本腹膜透析学会発表 (共同演者)、日本腎不全看護 学会発表 (共同演者)

分野：慢性呼吸器疾患看護

氏名：秋山 奈津江

実践	がん 42 例（うちがん末期 37 例）、難病 12 例、心疾患 11 例、認知症 9 例等、計 127 例 / 年自部署で担当し、訪問やカンファレンス参加。
相談	事業運営、多職種連携に関する相談 15 件（院外からの相談含）退院支援指導に関する相談 5 件（吸引、TPN、胃管管理）、CM、MSW からの相談
指導	新規 ST・看護大学等の実習指導。緩和ケア・DCP リンクナース・認知症院内認定看護師指導。入退院カンファレンスでの退院支援の指導 54 件
院外活動	福井県地域医療構想調整会議、福井県医師会・福井県歯科医師会・福井市医師会主催の会議、緩和版見える事例検討会ファシリテータ、日本看護協会学術集会参加、院外講師等（福井市在宅ケア講習会、福井大学看護学科在宅看護論、看護協会認定看護師派遣事業、看護協会退院支援研修、介護支援専門員専門研修過程 I）

分野：訪問看護

氏名：山崎 雪代

実践	がん 42 例（うちがん末期 37 例）、難病 12 例、心疾患 11 例、認知症 9 例等、計 127 例 / 年自部署で担当し、訪問やカンファレンス参加。
相談	事業運営、多職種連携に関する相談 15 件（院外からの相談含）退院支援指導に関する相談 5 件（吸引、TPN、胃管管理）、CM、MSW からの相談
指導	新規 ST・看護大学等の実習指導。緩和ケア・DCP リンクナース・認知症院内認定看護師指導。入退院カンファレンスでの退院支援の指導 54 件
院外活動	福井県地域医療構想調整会議、福井県医師会・福井県歯科医師会・福井市医師会主催の会議、緩和版見える事例検討会ファシリテータ、日本看護協会学術集会参加、院外講師等（福井市在宅ケア講習会、福井大学看護学科在宅看護論、看護協会認定看護師派遣事業、看護協会退院支援研修、介護支援専門員専門研修過程 I）

分野：乳がん看護

氏名：吉川 朋子

実践	がん相談窓口 522 件、がんサポート外来 692 件、リンパ浮腫外来 235 件 マンマカンファレンス（火曜日）、外来ケモカンファレンス（月 1 回）、乳がん患者さんのためのヨーガセラピー・おしゃべり会（月 1 回）
指導	がん看護セミナー「アピアランスケア」、院内勉強会「乳がん看護」2 回
相談	23 件（副作用対策、リンパ浮腫ケア、患者対応等）
院外活動	福井県がん相談員ワーキング委員、福井県がんサバイバーネットワーク会議オブザーバー、福井ピンクリボンの会運営委員、福井県ピアサポート勉強会ファシリテーター、日本がん看護学会 SIG 乳がん看護実践報告、第 16 回日本乳癌学会中部地方会実践報告
研究発表	

沿革

概要

患者数・経営状況

委員会

トピックス

診療業務

医療社会事業部

看護部

事務部

業績

がん放射線療法看護分野：

氏名：太田 妙子

実践	放射線治療室専従看護師業務 治療計画 CT 時の支援 195 件、治療説明・患者指導 409 件 治療説明同席 12 件
指導	院内研修講師 2 件
相談	スタッフからの相談 16 件（放射線治療前の疼痛緩和、皮膚炎、粘膜炎、口内乾燥のケア）
院外活動	日本放射線腫瘍学会参加、日本放射線看護学会参加
研究発表	なし

分野：がん性疼痛看護

氏名：寺井 智子

実践	緩和ケアチーム専任看護師業務（緩和ケア外来・チームラウンド・カンファレンス） 緩和ケア版見える事例検討会ファシリテーター 緩和ケア研修会補助
指導	研修講師 3 件
相談	66 件
院外活動	研修講師 1 件、福井県緩和ケアチーム検討会、福井県がん診療連携協議会研修部会幹事会、福井県緩和医療研究会幹事会、緩和ケア版見える事例検討会幹事会
研究発表	日本緩和医療学会学術大会

分野：脳卒中リハビリテーション看護

氏名：井口 秀人

実践	看護外来 57 件、排尿ケアラウンド 309 回
指導	院内講師 8 件
相談	脳血管撮影マニュアル作成、SCU 教育について等
院外活動	足羽地区健康講座講師、福井県脳卒中連携協議会実務担当者
研究発表	第 55 回日本赤十字医学会総会、第 1 回ふくい排泄ケア研究会

分野：緩和ケア

氏名：辻 かおり

実践 相談	緩和ケアチーム専任看護師業務、緩和ケア専任ラウンド 181 件、緩和ケアチーム介入 89 件（毎週水曜日：PCT カンファレンス）緩和ケア外来（月・火・木）126 件、 がん相談業務（がんサポート外来）41 件
指導	院内教育講師 2 件
院外活動	院外研修 1 件

分野：手術看護

氏名：常見 いずみ 岩佐 友美

実践	術前外来 154 件 眼科・形成外科手術患者術前・術後指導
院外活動	手術看護学会福井ブロック地区講師 手術看護学会福井ブロック地区理事会出席 手術看護学会年次大会認定看護師セミナー企画 手術看護学会福井ブロック地区研修会企画・運営
研究発表	

分野：慢性心不全看護認定看護師

氏名：田中 めぐみ

実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月（4月～2月）の心臓病教室運営・講義</li> <li>・日々の受け持ち患者の看護</li> <li>・心不全看護外来 年間 72 件</li> <li>・退院後訪問 1 件</li> </ul>
指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他病棟での勉強会（2－6・2－7・1－8）</li> </ul>
相談	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心不全患者の看護計画についての相談</li> <li>・他科入院中で心不全の既往がある患者の注意点についての相談</li> <li>・他病棟入院中の患者の ASV に関する相談</li> </ul>
院外活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福井県看護協会専門・認定看護師出前講座（光陽生協訪問看護ステーション・ほつとりハビリ訪問看護ステーション）</li> <li>・福井市医師会看護専門学校 看護学生への講義</li> <li>・6/14 福井心臓リハビリテーション地方会 演題発表 「慢性心不全入院患者に対する多職種情報共有のための取り組み—退院に向けての ADL/生活指導に着目して—」</li> <li>・7/22 心不全連携の会 演題発表「当院の慢性心不全患者の現状と対応」</li> <li>・11/16 Fukui Workshop 2019 メディカルセッション コメンテーター</li> </ul>
研究発表	<ul style="list-style-type: none"> <li>・11/2・3 第 16 回 日本循環器看護学会 学術集会（東京白金） 「A 病院に入院した慢性心不全患者の在院日数に関する因子の検討」</li> </ul>

分野：集中ケア

氏名：原田 幸枝 小川 佳代

実践	呼吸ケアサポートチーム病棟ラウンド（担当週）
指導	福井県看護協会救急看護委員会救急看護研修講師 1 件、院内レベル教育フィジカルアセスメント講師、AHA BLS インストラクター 3 件、AHA ACLS インストラクター 2 件、各病棟における急変時対応シミュレーション研修アドバイザー
相談	30 件（人工呼吸器装着中の管理、気管切開中の呼吸管理、酸素吸入管理、呼吸管理全般、RST に関するもの）
院外活動	福井県看護協会救急看護委員会活動、福井県看護協会出前講座派遣事業 1 件

沿革概要  
患者数経営状況  
委員会  
トピックス  
診療業務  
医療社会事業部  
看護部  
事務部  
業績

分野：がん化学療法看護

氏名：広田 法子、大塚 祥恵

沿革  
概要  
患者数・経営状況  
委員会  
トピックス  
診療業務  
医療社会事業部  
看護部  
事務部  
業績

実践	がん患者指導管理料 1, 2 算定にかかる IC 同席・面談 48 件 外来化学療法室応援
指導	院内レベル教育、がん診療センター勉強会、病棟勉強会、院内認定看護師フォローアップ研修実施
相談	院内相談 20 件
院外活動	福井県がん化学療法看護認定看護師会活動、看護協会出前講座
研究発表	なし

2019年度 看護管理課題解決実践研修A

目的：自部署の業務上の問題を明確にし、解決できる。

部署	氏名	テーマ
1-4病棟	宮地牧子	病棟スタッフのベビーセンター看護技術・知識の向上を図る ～安全な看護の提供のために～
1-4病棟	斉藤尚美	D P N S における日々の担当看護師の役割の見なおし
1-5病棟	板岡利恵	固定チーム・ディパートナー方式の再教育
1-5病棟	山崎直美	自重関連褥瘡予防の取り組み
1-5病棟	山本隆	院内ディケアの目的の評価と今後の課題の明確化
1-6病棟	田中めぐみ	予定入院患者への対応改善にむけて
1-6病棟	妹尾真理子	I - 6病棟における教育プログラムの作成 ～知識・技術習得にむけた支援～
1-7病棟	山下美奈	両チームで協働し看護の質向上を図る
1-7病棟	和田幸子	感染予防を視点とした環境整備徹底への取り組み
1-8病棟	田本聡子	看護師要因による内服インシデントを0にする ～正しくお薬カレンダーが使用できる～
1-8病棟	辻香織	病棟全体の接遇能力の向上を図る
2-4病棟	皿澤和美	病棟外来一元化体制におけるスタッフの有効活用のためレディース外来業務の見直し
2-4病棟	深尾郁子	患者・家族の思いを退院支援に生かすための取り組み
2-5病棟	常見いずみ	眼科患者パス用紙の見直しについて
2-5病棟	高島恵	倫理カンファレンス推進にむけての取り組み
2-6病棟	富永知恵子	がん患者・家族へのアドバンスケア・ケア・プランニング導入に向けた取り組み
2-6病棟	織田史江	入院時から在宅療養生活を視野に入れた看護過程を展開する取り組み
2-7病棟	徳橋珠美	退院前訪問の定着 ～受け持ち看護師が退院支援に活発に関われるシステム作りを目指して～
2-7病棟	真柄昌代	身体抑制パスの確実な記載を通して倫理的思考を培う
2-8病棟	太田加奈子	固定チーム・ディパートナー方式の見直し ～業務面からの検討～
2-8病棟	大塚祥恵	化学療法クリニカルパスの見直しとケモ係の業務内容の再検討
3-3(5)病棟	荒木有里	退院準備の効率化を図り、スタッフの精神的負担を軽減させる
3-3(5)病棟	中野裕美	3-3病棟における院内ディケアに対する意識向上の取り組み
PCU	大澤昌子	緩和ケア病棟における業務を見直し、症状緩和に繋がるスタッフカンファレンスが定着するための取り組み
PCU	寺井智子	麻薬取り扱いに関するシステムとマニュアルを活用した看護師の実践能力向上への試み
I C U	原田幸枝	R R S の運用開始準備の活動 ～R R T の看護師の育成～
I C U	中山幸代	勤務異動者が安全な看護を提供する為の環境づくり ～教育計画、支援システムを整える～
I C U	朝田和枝	災害【レベル1】20名未満の多数傷病者受け入れ体制の構築を目指して【第1報】
O P 室	長谷川友美	術前外来の定着に向けた取り組み
O P 室	松本志恵	手術の業務量調査を行い問題点の抽出を行う

沿革  
概要  
患者数・経営状況  
委員会  
トピックス  
診療業務  
医療社会事業部  
看護部  
事務部  
業績

OP室	米村里美	術後訪問の定着に向けた取り組み
HD	渡邊かな恵	透析室における看護記録記載基準の見直しに向けて看護記録記載状況を調査 -アンケートを実施して-
外来	豊島鈴恵	外来の環境整備を徹底する
外来	寺本佳子	外来のよりよい協働体制を築いていくために ~外来業務量調査と分析~
外来	増田佳絵	スタッフがリーダーシップを発揮できるための体制の再構築 ~消化器センターにおける係長業務の見直しを通して~
医療支援室	渡邊加余子	入退院支援センターにおける術前業務の標準化と対象診療科の拡大
教育推進	井口秀人	S C Uにおける教育プログラムの作成

### 2019年度 看護管理課題解決実践研修B

目的：組織における自部署の課題を明確にし、看護管理実践を展開する

部署	氏名	テーマ
1-4病棟	福田清美	病棟スタッフ間の応援体制の確立
1-5病棟	内田一美	施設基準を遵守したS C U運営の為の体制整備
1-6病棟	寺島由美	時間外削減、有給休暇取得に向けた取り組み
1-7病棟	広田法子	患者・家族への病状・治療説明時の病棟看護師のモヤモヤ感やジレンマの軽減に向けて
1-8病棟	松田ゆう子	職員満足度向上に繋がる目標管理
2-4病棟	布谷喜代美	有休休暇5日取得に向けての業務の効率化
2-5病棟	橋本真弓	働き方改革による法の改正に伴う有給休暇取得への取り組み ~年間計画に基づいた勤務作成への取り組み~
2-6病棟	尾崎こはる	時間管理の意識と業務改善に焦点を当てた時間外労働時間削減への取り組み
2-7病棟	石田克子	病棟看護師のW L B推進の実現に向けて ~時間外業務削減と確実な有給休暇取得の取り組み~
2-8病棟	勝木美奈子	固定チームディパートナー方式の見直し ~管理面からの検討~
3-3(5)病棟	濱野みゆき	倫理的看護実践が出来る病棟を目指す 第2報
PCU	堀口朋美	業務体制を再構築し、年次有給休暇5日間を取得する
ICU	相模朋恵	患者の安全・安楽を守り、優しい看護が出来る教育体制の構築
OP	川端和代	手術室内で目的を持った情報共有が機能する
外来	加藤智枝	当施設に勤務する看護師のキャリア継続に繋がる支援を考える ~福井県看護師職能委員会 I 「病院勤務看護師のキャリア継続に繋がる支援」の実態調査から~
腎センター	高嶋節子	スタッフの意欲・満足度を向上させる取り組み
訪問	山崎雪代	A C Pの実践を地域につなぐための看護師教育
入院前支援	西村智恵子	入退院支援センターの構築のための取り組み
退院支援	西向秀代	院内チームの連携強化による包括的な高齢者支援の向上 ~総合評価の映着と院内連携へ~
医療支援課	斉藤みどり	患者・家族支援体制に関する職員への教育・研修の推進
医療安全	西郡知代	R R Sに繋ぐことが出来るスタッフを育成する ~呼吸観察能力のアップを目指して
健診センター	中野敦子	健診受診当日における保健指導実施体制の構築

2019 年度 長期研修受講者

研修名	受講者
福井県看護協会実習指導者研修	宮本久美子 森国真奈美
福井県看護協会ファーストレベル研修	富永智恵子・田中めぐみ・山崎直美
福井県看護協会セカンドレベル研修	相模朋恵・尾崎こはる・川端和代

2019 年度 専門看護師数

	分野	人数		分野	人数		分野	人数
①	災害看護	1	②	がん看護	1			

2019 年度 認定看護師数

	分野	人数		分野	人数		分野	人数
①	感染管理	2	⑧	救急看護	1	⑮	嚥下・摂食障害	1
②	皮膚・排泄ケア	2	⑨	糖尿病看護	1	⑯	認知症看護	1
③	がん化学療法	3	⑩	透析療法看護	2	⑰	訪問看護	1
④	がん性疼痛	2	⑪	慢性心不全看護	1	⑱	がん放射線療法看護	1
⑤	乳がん看護	1	⑫	慢性呼吸器疾患看護	1	18 分野 26 名		
⑥	緩和ケア	1	⑬	手術看護	2	認定看護管理者 6 名		
⑦	重症集中ケア	2	⑭	脳卒中リハビリ	1			

沿革

概要

患者数・経営状況

委員会

トピックス

診療業務

医療社会事業部

看護部

事務部

業績

2019年度 看護部教育委員会主催 継続教育 予定一覧

月	日	曜日	対象	研修名	時間	講師	人数	参加率	院外
4	4	木	I	看護倫理 I (倫理綱領)	1.0	井上副部長	35	100	
	9	月	I	入院時の看護	3.0	西村師長	35	100	
				褥瘡予防	1.5	水島認定看護師	35	100	3
				配膳車の操作法	0.5	加藤栄養課課長	35	100	
			I A	移乗・移動の介助	1.0	井口認定看護師	37	100	
			I B	移乗・移動の介助	1.5	井口認定看護師			
			I B	嚥下障害のある人への食事介助	1.0	板岡認定看護師	35	100	3
			I A	嚥下障害のある人への食事介助	1.5	板岡認定看護師			
	10	水	I	看護過程 I (情報の整理と記述)	7.0	徳橋係長	35	100	
	12	金	I	医療安全 I ①医療安全の基本	1.5	西郡師長	35	100	5
				血糖測定とインスリン注射	2.5	清水認定看護師	38	100	
	15	月	I A	導尿・膀胱留置カテーテル法	3.5	東川師長	35	100	
			I B	導尿・膀胱留置カテーテル法	3.5	東川師長			
	18	木	I A	採血・皮下・筋肉・点滴注射	7.0	東川師長	35	100	
	19	金	I B	採血・皮下・筋肉・点滴注射	7.0	東川師長			
	26	金	I A	技術試験：採血・皮下・筋肉・点滴	3.5	東川師長	35	100	
I B			技術試験：採血・皮下・筋肉・点滴	3.5	東川師長				
I			研修部署師長との面接(A期間終了)		各部署師長	22	96		
5	17	金	I	輸血と看護	1.0	山下係長	35	100	3
				与薬と看護	1.0	中野係長	38	100	3
				気管吸引	1.5	秋山認定看護師	35	100	3
	24	金	選択	救護員フォローアップ研修①	1.5	井上副部長	18	78.3	
30	木	I	輸液ポンプ・シリンジポンプ	4.0	東川師長	35	100		
6	1	土	Ⅱ-3必修	災害看護論Ⅱ	7.0	勝木師長他	22	100	
	6	水	I B	救急看護Ⅰ (一次救命処置)	3.5	朝田認定看護師	35	100	
			I A	救急看護Ⅰ (一次救命処置)	3.5	朝田認定看護師			
	11	火	プリセプター	プリセプター研修①	1.5	東川師長	19	100	
			選択	実践に生かそう！ 呼吸・循環のフィジカルアセスメント	1.5	秋山・田中認定 看護師	35	100	
	13	木	プリセプター	プリセプター研修①	1.5	東川師長	15	100	
14	金	I	パスシステム	2.0	渡邊係長	35	100		
			重症度、医療・看護必要度	2.0	常見係長	35	100		
			配属部署への挨拶等	0.5		35	100		
20	木	I	標準予防策	2.0	坪田認定看護師	35	100	3	
			抗がん剤の安全な取扱い	2.0	富永認定看護師	38	100	3	
28	金	I	薬剤使用上の注意点	1.0	薬剤師	35	100		
			筆記試験 (研修終了認定)	1.0	東川師長	35	100		
			心電図モニターアラーム対応	1.5	田中認定看護師	35	100		
			アンケート、研修修了後について	0.5	東川師長	35	100		
			研修生・師長と研修修了面接	0.5	各部署師長	35	100		

月	日	曜日	対象	研修名	時間	講師	人数	参加率	院外
7	5	金	I	修了証授与式・宿泊研修	2日	教育研修推進室	35	100	
	9	火	II-3 必修	感染管理II：職業感染予防	2.0	真鍋認定看護師	20	90.9	
				プリセプター入門	2.0	東川師長	20	90.9	
				フィジカルアセスメント	4.0	原田認定看護師他	20	90.9	
	23	火	選択	看護のための薬の知識①血糖降下薬	1.5	薬剤師	29	100	
26	金	選択	救護員フォローアップ研修②	1.5	井上副部長他	22	95.6		
8	1	水	II-2 A 必修	看護倫理II	2.0	東川師長	13	100	
				事例研究	1.5	東川師長	13	100	
				救急看護研修オリエンテーション	0.5	東川師長	13	100	
				救急看護II	3.5	朝田認定看護師	13	100	
			II-2 B 必修	救急看護II	3.5	朝田認定看護師	14	100	
				看護倫理II	2.0	東川師長	14	100	
				事例研究	1.5	東川師長	14	100	
				救急看護研修オリエンテーション	0.5	東川師長	14	100	
	2	金	管理者	救護活動時の看護管理	2.0	川端師長他	44	69.8	
	9	金	I	赤十字概論	7.0	内田師長	37	100	
23	金	I A	留置針の挿入留置/メンタルヘルス	3.5	東川師長	34	100		
		I B	留置針の挿入留置/メンタルヘルス	3.5	東川師長	34	100		
9	6	金	I A	試験：留置針/アナフィラキシー対応	3.5	井口係長	34	100	
			I B	試験：留置針/アナフィラキシー対応	3.5	井口係長	34	100	
	10	火	プリセプター	プリセプター研修②	1.5	井口係長	34	100	
	13	金	プリセプター	プリセプター研修②	1.5	井口係長			
	12	木	II-3 必修	看護過程II	4.0	内田師長	23	95.8	
				リーダーの役割	4.0	尾崎師長	21	95.4	
27	金	選択	救護員フォローアップ研修③	1.5	井上副部長他	18	78.3		
10	1	火	I	看護師としての私 ～辛さを乗り越える～	1.5	井口係長	34	97.1	
	4	金	II-2 必修	感染管理I：病原体と感染経路別対策	1.5	坪田認定看護師	28	100	
				褥瘡ケア	2.0	水島認定看護師	28	100	
医療安全II ヒューマンエラー				3.5	西郡師長	28	100		
11	5	火	II-2 必修	災害看護論 I	7.0	川端師長他	27	100	
	7		I A	医療安全 I ②多重課題への対応	3.5	西郡師長・井口係長	33	97.1	
			I B	医療安全 I ②多重課題への対応	3.5	西郡師長・井口係長			
	19	火	選択	看護のための薬の知識②抗血栓薬	1.5	薬剤師	11	100	
22	金	選択	救護員フォローアップ研修④	1.5	井上副部長他	19	82.6		
12	10	火	I	認知症の人とのコミュニケーション	1.0	山本認定看護師他	31	100	3
				チームメンバーの役割	2.5	真柄係長	31	100	3
	13	金	プリセプター	プリセプター研修③	1.5	井口係長	34	100	
	16	月	プリセプター	プリセプター研修③	1.5	井口係長			
	14	土	選択	看護研究～事例研究の方法～	3.0	長谷川智子教授	26	89.6	

沿革  
概要  
患者数・経営状況  
委員会  
トピックス  
診療業務  
医療社会事業部  
看護部  
事務部  
業績

月	日	曜日	対象	研修名	時間	講師	人数	参加率	院外
1	9	木	選択	院内看護学会発表の進め方	1.5	看護研究委員	8	88.9	
	18	土	全員	院内看護研究学会	3.5	教育委員会			
	24	金	選択	救護員フォローアップ研修⑤	1.5	井上副部長他	18	78.3	
	30	木	I	キャリアを考える①（ラダーⅠ）	1.5	井上副部長他	34	97.1	
2	18	火	Ⅱ-2 必修	キャリアを考える②	1.0	井上副部長他	27	100	
				糖尿病看護Ⅰ（基礎編）	2.0	清水認定看護師	27	100	
3	10	火	Ⅱ-3 必修	キャリアを考える③（ラダーⅡ）	1.5	井上副部長他	22	100	
				糖尿病看護Ⅱ（応用編）	1.0	清水認定看護師	22	100	

## 2019年度 赤十字講習講師実績

### 【救急法講習】

月 日	依 頼 先	講 師		
4月 3日	福井赤十字病院	田本聡子 中山幸代	真鍋照美 米村里美	山田智美 野坂仁美
4月21日	舞屋町公民館	山田智美		
4月25日	若越ひかりの村	朝田和枝		
4月26日	大原学園	藤田由美	嶋田佳恵	
5月21日	坂井市教育研究所	嶋田佳恵		
5月26日	福井県支部	斎藤尚美		
6月 2日	福井県支部	福田清美	高島恵	
	春江小学校	駒香代子		
6月 8日	福井赤十字病院	内田一美	井上和子	
6月22日	明新小学校	嶋田佳恵		
6月23日	西藤島小学校	山田智美		
7月10日	大原学園	山田智美	土橋芳美	
8月24日	福井赤十字病院	西川順子	横山和恵	朝田和枝
8月31日	福井赤十字病院	橋本真弓	原田幸代	野坂仁美
9月 1日	福井県支部	尾崎こはる	松田ゆう子	
9月 7日	福井県支部	斎藤尚美	福田清美	
9月 8日	福井県支部	高島恵		
9月13日	啓新高校	朝田和枝		
9月20日	啓新高校	駒香代子		
9月22日	NPO 法人いないいないばあ	嶋田佳恵		
9月27日	啓新高校	織田史江		
	三国運動公園	横山和恵		
10月 1日	福井信越石英	山田智美		
10月11日	啓新高校	朝田和枝		
10月25日	啓新高校	駒香代子	織田史江	
11月 1日	啓新高校	嶋田佳恵		
11月 6日	清水東小学校	駒香代子		

月 日	依 頼 先	講 師		
11月 9日	福井県支部	石田克子	織田史江	
11月16日	福井赤十字病院	土橋佳恵		
11月23日	福井赤十字病院	相模朋恵		
1月24日	社西小学校	山田智美		
2月28日	(株)グレート片山	嶋田佳恵		

【健康生活支援講習】

月 日	依 頼 先	講 師		
4月27日	鯖江奉仕団	山田智美		
8月 4日	福井県支部	松田ゆう子		
8月10日	下長渕区長	山田智美		
10月 6日	福井県支部	松本志恵		

【幼児安全講習】

月 日	依 頼 先	講 師		
10月 6日	福井県支部	西村智恵子		
3月16日	福井高校	嶋田佳恵		

沿 革
概 要
患者数・経営状況
委員会
トピックス
診療業務
医療社会事業部
<b>看護部</b>
事務部
業 績

# 事 務 部

# 1. 総務課

## 1. スタッフ

課長	杉田 博之
係長	近藤 ひろみ
主事	2名
警備員	1名
嘱託業務員	1名
パート事務作業員	1名

## 2. 目標

院内各部門と調整し、まとめる力を身につける。

## 3. 業務

- (1) 公印に関する事
- (2) 文書の管理に関する事
- (3) 規則、規程等の制定および改廃に関する事
- (4) 宿直および日直に関する事
- (5) 霊安室の管理および屍体の取り扱いに関する事
- (6) 病院管理会議に関する事
- (7) 部長会議に関する事
- (8) 車両の運行に関する事
- (9) 儀式及び弔慰に関する事
- (10) 病院の危機管理に関する事
- (11) 情報の総括的管理に関する事
- (12) その他、他課に属しないこと

## 4. 実績

【会議】	代表部長会議	11回
	定例医局会	10回
【委員会】	救急医療検討委員会	1回
	救急作業部会	10回
	集中治療室運営委員会	1回
	集中治療室作業部会	9回
	中央手術室・滅菌室運営委員会	2回
	中央手術室・滅菌室作業部会	10回
	倫理委員会	3回
	臓器移植委員会	1回

沿革
概要
患者数・経営状況
委員会
トピックス
診療業務
医療社会事業部
看護部
事務部
業績

【行事】 2019年6月 すずらん（しおり）の受領式  
7月 近畿厚生局による施設基準にかかる適時調査  
8月 剖検者追悼式  
2020年1月 仕事始め式  
職員新年会

【施設基準】（2020年3月31日現在）（医科・歯科含む）

基本診療科 36件

特掲診療科 119件

先進医療 1件

【施設見学】 受入件数 6件

【選挙不在者投票】 5件

## 2. 人 事 課

### 1. スタッフ

課長 川島 勇一  
 係長 人事・給与係長 上野 陽子  
       職員係長 田中 延枝  
 主事 4名  
 嘱託主事 1名

### 2. 目 標

働き方改善をリードする

### 3. 業 務

- 1) 臨床研修に関すること
- 2) 職員の教育、研修に関すること
- 3) 職員の労務管理および福利厚生に関すること
- 4) 職員の人事および給与に関すること

### 4. 実 績

- 1) 学会出張取扱い件数

年度 職種別	2017年度	2018年度	2019年度
医 師	248	257	285
薬 剤 師	14	9	11
臨床検査技師	16	22	19
診療放射線技師	11	16	19
理学療法士	7	15	13
作業療法士	7	4	5
言語聴覚士	2	3	2
心理判定員	2	0	09
管理栄養士	9	5	4
視能訓練士	4	3	4
臨床工学技師	4	4	3
歯科衛生士	0	0	0
看護師・助産師	126	118	120
事 務	11	15	12
社会福祉士	0	2	1
業 務 員	0	0	0
計	461	473	498

## 2) 研修出張取扱い件数

職種別	年度	2017年度	2018年度	2019年度
医師		63	82	47
薬剤師		12	8	7
臨床検査技師		26	16	10
診療放射線技師		22	28	15
理学療法士		11	6	13
作業療法士		12	4	6
言語聴覚士		1	1	0
心理判定員		0	0	0
管理栄養士		3	4	3
視能訓練士		0	1	0
臨床工学技師		7	5	6
歯科衛生士		0	0	0
看護師・助産師		51	43	36
事務		83	70	58
社会福祉士		4	5	1
業務員		6	1	3
計		301	274	205

## 3) 臨床研修およびその他教育研修について 教育研修推進室の項参照

## 4) 職員会議の開催

開催日時 2019年12月9日(月) 16:00～16:30

開催場所 栄養管理棟3階講堂

議長 副院長 高野 誠一郎

出席者 代議員19名、職員34名、委任状提出776名 合計829名

(1/2以上の出席となり、職員会議要綱第5条第2項の定めに従い職員会議が成立した。)

議題 (1) 2018年度 議題の結果報告

①休日・当直に対し、平日代休を認めてほしい

②時間外勤務に対する待遇を改善してほしい

(2) 2019年度 議題の審議

①病院経営に関わる専門資格(専門医、認定看護師、認定薬剤師など)の取得に必要な費用負担、あるいは専門資格取得者に対する報酬の上乗せ

②職員棟の防犯

## 5) 第11回中部ブロック赤十字病院スポーツ大会

開催日 2019年7月27日(土)～28日(日)

開催場所 大会 中京大学 豊田キャンパス、中部電力日進総合運動場グラウンド  
愛知学院大学 日進キャンパス

開会式・夕食会 名古屋国際ホテル

参加施設 名古屋第一赤十字病院、名古屋第二赤十字病院、長野赤十字病院、諏訪赤十字病院、

安曇野赤十字病院、飯山赤十字病院、岐阜赤十字病院、高山赤十字病院、  
 静岡赤十字病院、浜松赤十字病院、伊勢赤十字病院、富山赤十字病院、  
 福井赤十字病院 計 13 施設  
 当番病院 名古屋第二赤十字病院  
 当院参加競技名 軟式野球、バレーボール、バスケットボール、フットサル (2 チーム)、  
 硬式テニス (2 チーム) 計 5 競技  
 当院参加者数 選手・応援 73 名  
 当院成績 バレーボール 優勝、フットサルAチーム 準優勝

6) 第 19 回全国赤十字病 (産) 院スポーツ大会

開催日 2019 年 10 月 26 日 (土) ~ 27 日 (日)  
 開催場所 開会式・夕食会 リーガロイヤルホテル (大阪市)  
 大会 大東市立市民体育館、舞洲スポーツアイランド 他  
 参加施設 全国 49 施設  
 当番病院 大阪赤十字病院  
 当院参加競技名 フットサル、バレーボール 計 2 競技  
 当院参加者数 27 名  
 当院成績 フットサル 優勝、バレーボール 1 回戦敗退

沿  
革

概  
要

患者数・  
経営状況

委  
員  
会

ト  
ピ  
ッ  
ク  
ス

診  
療  
業  
務

医  
療  
社  
会  
事  
業  
部

看  
護  
部

事  
務  
部

業  
績

## 3. 病院経営課

### 1. スタッフ

課長	川瀬 公一郎
経理係長	木戸 俊介
出納係長(兼)	川瀬 公一郎
企画・広報係長	島野 佳永
主事	4名
嘱託主事	1名

### 2. 目標

病院経営課・地域医療構想に向けた健全経営、的確な意思決定の支援を行う

### 3. 業務

- (1) 財務管理に関すること
- (2) 収入及び支出に関すること
- (3) 債権管理に関すること
- (4) 現金及び有価証券の出納及び保管に関すること
- (5) 出納用公印の管理に関すること
- (6) 租税に関すること
- (7) 病院運営の総合企画及び調整に関すること
- (8) 病院の広報に関すること
- (9) 経営分析・改善計画の立案及びその実施に関すること
- (10) 病院の各種統計の収集、作成及び照会事項の回答報告に関すること

### 4. 中期ビジョン(令和元年度～令和3年度)

「地域に寄り添う良質な医療を提供する病院になる」

重点戦略	具体的行動
地域医療・介護との連携を強化し、切れ目のない入退院支援を行う	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域医療機関との連携強化</li> <li>・入退院支援体制の整備</li> </ul>
質の高い優れた医療を提供する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がん医療の推進</li> <li>・高度専門医療の推進</li> <li>・救急医療の提供、充実</li> <li>・病院情報システムの円滑な整備</li> </ul>
安全・安心な医療を提供する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リスクマネジメントの強化</li> <li>・災害への対応強化</li> </ul>
良い人材を育成・確保し、患者・職員満足度を上げる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・働き方改革の推進</li> <li>・計画的な人材確保</li> <li>・効果的な人材育成</li> <li>・職員満足度・意欲度の向上</li> <li>・患者満足度の向上</li> </ul>

健全な安定した病院経営体制を構築する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医業収益の確保</li> <li>・ 経営の効率化と収支改善</li> <li>・ 地域医療構想への対応</li> </ul>
--------------------	--

## 5. 実績

### (1) メディア露出状況

#### 1. テレビ出演 (17件)

日付	内 容	メディア名
4月30日	健康いちばん グルテンアレルギー	福井放送
5月10日	みんなの伝言板 もっとクロス！赤十字フェスティバル	福井放送
8月20日	健康いちばん 冷房による体調不良 ストレッチ紹介	福井放送
9月24日	健康いちばん 音読で認知症予防	福井放送
9月27日	Livi&News &おかえりなさい〜い 生命の尊さ学ぶ 児童が”妊婦”に	福井テレビ
10月16日	おじゃまっテレ、FBC ニュース 台風19号 長野へ救護班出動	福井放送
12月20日	おじゃまっテレ 令和ベビー	福井放送
1月21日	健康いちばん 血栓回収の最新治療法	福井放送
2月 4日	おじゃまっテレ コロナウイルス 患者受け入れに備え訓練	福井放送
2月 4日	コロナウイルス患者対応シミュレーション	NHK
2月 4日	コロナウイルス患者対応シミュレーション	福井テレビ
2月 5日	海外からの帰国者に対するコロナ対応	福井テレビ
2月11日	健康いちばん 新型コロナウイルス	福井放送
2月17日	健康いちばん 早まる花粉症 対処も多様	福井放送
3月 3日	健康いちばん 食べて調べるアレルギー 食物負荷試験とは	福井放送
3月17日	新型コロナウイルス 県よりマスク配布	福井放送
3月17日	新型コロナウイルス 県よりマスク配布	福井テレビ

#### 2. 新聞掲載 (49件)

日付	内 容	メディア名
4月 3日	パーキンソン病 治療法を学んで 6日、福井で市民公開講座	日刊県民福井
4月 7日	パーキンソン病の市民講座 手術治療法を紹介	日刊県民福井
4月11日	ロボ支援がん手術 保険適用新たに2臓器 診療科を超え活用広がる	福井新聞
5月 2日	赤十字に理解を 福井で11日催し (もっとクロス！赤十字フェスティバル)	福井新聞
5月12日	赤十字の活動 納得 救急法や健康相談 (もっとクロス！赤十字フェスティバル)	福井新聞
5月16日	ふくいのできまの相談室 「逆流性食道炎」放置していいの？	福井新聞
5月30日	幸運のスズラン贈る 全日空CA 福井赤十字病院に	毎日新聞
5月31日	回復願い患者にスズラン 全日空が寄贈	福井新聞
6月27日	血栓溶解療法 適応可能時間が拡大	福井新聞
7月 3日	児童の語りに患者笑顔 (PCU七夕会)	福井新聞
7月 4日	ふくいのできまの相談室 親指の付け根に痛み、手術必要？	福井新聞

沿革	7月 5日	糖友会講演会「がんと糖尿病について」(開催告知)	日刊県民福井
	8月 7日	病理解剖献体医師らが感謝 追悼式	福井新聞
概要	8月29日	ふくいのできる相談室 「ビタミンK凝固因子欠乏症」と診断され不安	福井新聞
	9月 1日	医師や看護師ら除染処置を確認 福井赤十字病院、搬送対応	福井新聞
患者数経営状況	9月12日	手掌多汗症 手術も選択肢	福井新聞
	9月13日	がん予防法パネルで紹介	日刊県民福井
委員会	9月14日	患者さんに笑いを 三三さん落語会	福井新聞
	9月17日	がん防ぐ「12カ条」紹介 福井赤十字病院でセミナー親子100人に基礎知識	福井新聞
トピックス	9月24日	シリーズ「だから、健診！」 糖尿病	福井新聞社 月刊 f u
	10月1日	命の重み、大変さ実感 社西小児童が妊婦体験	福井新聞
診療業務	10月3日	がん患者会同士連携を 「スマイル会」交流や勉強会活動10年	日刊県民福井
	10月11日	人工股関節教室	日刊県民福井
医療社会事業部	10月17日	令和元年台風19号災害 県内から支援続々	日刊県民福井
	10月20日	命の授業「がん」ってどのような病気？(開催報告)	福井新聞
看護部	10月21日	日赤の救護班長野から帰還 台風被災地活動報告	日刊県民福井
	10月26日	患者を支え奉仕20年 福井の長谷川さん引退 赤十字病院から感謝状	日刊県民福井
事務部	10月31日	ふくいのできる相談室 1歳児の足裏にほくろ 放置しても大丈夫？	福井新聞
	11月28日	赤十字病院ボランティア長谷川さん 外来患者寄り添い20年	福井新聞
業績	12月5日	脳卒中に即応 センター認定 県内は11病院	福井新聞
	12月11日	皇后さま誕生日 雅楽を奏で祝う	福井新聞
看護部	12月12日	Xマス会 児童が熱演 越前市の2小披露	福井新聞
	12月13日	ホットライン 救急外来で別途5千円 医療制度に納得できず	福井新聞
事務部	12月19日	ふくいのできる相談室 甲状腺に腫瘍 どんな手術が必要？	福井新聞
	12月21日	サックスの調べ 患者にぬくもり	福井新聞
看護部	12月23日	教えてドクター(提供:マルホ株式会社) もっと知って、「乾癬のこと」治療は皮膚科専門医に相談を	福井新聞社 月刊 f u
	12月25日	キャンドルに願いこめ 看護師ら聖夜の巡回	福井新聞
事務部	1月20日	車椅子を寄贈 近畿ツーリスト中部観光協	福井新聞
	1月23日	北陸初 血栓回収に新型器具導入	福井新聞
看護部	2月 1日	新型肺炎 県内強まる危機感 手洗い・消毒・人混み避けて	読売新聞
	2月 5日	新型肺炎 患者対応を確認 訓練	福井新聞
事務部	2月 5日	新型肺炎 福井赤十字病院が訓練 受け付け、診察 流れ確認	日刊県民福井
	2月 5日	新型肺炎の対応訓練 患者受け入れ想定	毎日新聞
看護部	2月 5日	新型肺炎 高まる警戒感 病院は受け入れ対応訓練	朝日新聞
	2月 8日	伝えるこつ 新聞に学ぶ 広報担当が講座	福井新聞
事務部	2月27日	鼻づまりにレーザー治療	福井新聞
	3月 5日	ふくいのできる相談室 「重度の子宮脱」と診断され心配	福井新聞
業績	3月18日	25医療機関向けマスク配布開始 県、4万6900枚	福井新聞
	3月18日	新型コロナ 25病院へマスク配布	日刊県民福井

(2) 広報誌発行実績

- ・病院広報誌「ほやほや」 年4回 各4,400部発行
- ・病院連携通信「Partner」 年4回 各700部発行
- ・院内「よもっさ」 年4回 各200部発行

沿革

概要

患者数・経営状況

委員会

トピックス

診療業務

医療社会事業部

看護部

事務部

業績

# 4. 管 財 課

## 1. スタッフ

課長	酒井 雅枝
係長 用度係長	坪田 泰典
施設・管理係長	新河戸 由紀子
保安係長（兼）	上野 正巳
ボイラー係長	齊藤 太嗣
主事 4名、警備員 2名、ボイラー技士 1名、嘱託ボイラー技師 2名、 電話交換手 2名、電気工事士 1名、パート業務員 2名	

## 2. 目 標

『協働』他部門と協働して施設のメンテナンスおよび費用の削減を行う

## 3. 業 務

- 1) 地域医療・介護との連携を強化し、切れ目のない入退院支援を行う。  
入退院支援センターを整備する。
- 2) 質の高い優れた医療を提供する。  
予算に計上した医療器械を更新する。
- 3) 安全・安心な医療を提供する。  
ナースコール、受水槽、R I 測定装置、栄養課設備等、予算に計上した設備を更新する。
- 4) よい人材を育成・確保し、患者職員満足度を上げる。  
時間外勤務を削減する。有給休暇の取得を推進する。
- 5) 健全な安定した病院経営体制を構築する。
  - (1) 消費税増税時に価格交渉を行い、単価の上昇を増税額以下に抑える。
  - (2) 施設設備の長寿命化に取り組む。

## 4. 実 績

- (1) 建物  
入退院支援センター改修工事
- (2) 建物附属設備  
受水槽給排水設備装置（耐震化）更新  
建物設備中央監視更新  
ナースコール更新  
電気給湯器更新  
エアハンドリングユニット（AHU-1）更新  
R I モニターシステム更新  
安全キャビネット（核医学施設用）  
食器消毒保管庫更新  
厨房処理機更新 他

(3) 医療器械備品 資料1のとおり

(4) その他器械備品（資産名、規格形式、配置・使用部門）

固定資産名	規格型式	台数	配置・使用部門
牛乳保冷庫	24M5・大和冷機	1	栄養課
インバータ制御冷凍庫	221SS-EC・大和冷機	1	栄養課

(5) 車両

乗用自動車（訪問看護用）3台

(6) 年次推移

科目	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
材料費	6,734,527,858	6,781,822,034	6,822,686,470	6,870,410,774	7,103,334,498
医薬品費	5,046,055,083	5,108,873,708	5,060,218,887	5,127,373,958	5,410,790,196
給食材料費	113,022,660	122,620,093	110,513,461	108,115,101	105,987,037
診療材料費	1,546,103,000	1,524,370,111	1,571,479,308	1,562,702,229	1,513,877,348
医療消耗器具備品費	24,852,971	21,245,058	75,328,476	68,807,176	58,886,572
たな卸減耗損	4,494,144	4,713,064	5,146,338	3,412,310	8,655,813
たな卸評価損	0	0	0	0	5,137,532
委託費(主な管財課分)	236,948,928	224,952,976	225,988,187	221,511,248	231,119,694
検査委託費	115,128,650	105,936,617	105,138,801	103,899,842	113,413,751
清掃委託費	71,760,600	70,416,000	71,960,940	69,703,200	70,978,550
寝具委託費	50,059,678	48,600,359	48,888,446	47,908,206	46,727,393
設備関係費	2,089,998,847	2,176,694,294	2,201,794,552	2,043,271,735	1,905,757,404
経費(主な管財課分)	445,221,146	413,759,100	449,511,776	405,751,402	401,939,858
光熱水費	279,742,117	276,596,626	303,541,587	264,867,732	263,443,803
消耗品費	98,754,941	88,819,706	95,296,210	87,336,305	85,779,998
消耗器具備品費	24,094,589	6,937,499	9,538,692	11,108,830	11,185,683
賃借料	42,629,499	41,405,269	41,135,287	42,438,535	41,530,374

資料1. 医療用器械備品（資産名、規格形式、配置・使用部門）

固定資産名	規格型式	台数	配置・使用部門
全身麻酔器	Perseus A500	2	中央手術室
人工呼吸器(中古)	Evita Infinity V500	1	集中治療室
新生児・小児用人工呼吸器	サイハッポ	1	ベビーセンター
心電計	FCP-8800【解析装置付】	1	救急診療部
心電計	FCP-8800【解析装置付】	2	生体検査室
手術台	MOT-VS600Dj 一式	1	中央手術室
手術架台「エバーサルポジションA-C」	1-502-002-50	1	中央手術室・整形
无影灯(中古)	PUL IV 75 18-310-04	2	中央手術室
高周波手術装置「VIO3」	VIO3	1	中央手術室
パワーツールシステム8	8203-000-000 他	2	中央手術室・整形
マシバ・レラ凝固切開装置	6700-313-500	1	中央手術室・脳外
術中運動神経モニター	NIMレスポンス3.0システム8253002	1	中央手術室・耳鼻
関節鏡下電気手術装置「VAPR」	VAPR VUE 225024	1	中央手術室・整形
TUL 還流ポンプシステム	ウロマットE.A.S.I KUP410S1	1	中央手術室・腎泌

沿革概要	頭部固定装置「DORO スカルクランプ」	QR-3、1001.100	1	中央手術室・脳外
	内視鏡システム用カート	メデイトン - II MET-3141-N	1	中央手術室
患者数経営状況	27インチ2Kモニター(内視鏡システム用)	KTM220	1	中央手術室
	エアウェイマネジメントモジュールスコープ	MAF-DM2	1	中央手術室・呼外
委員会	気管支ビデオスコープ	BF-MP290F	1	X線TV室・呼内
	十二指腸ビデオスコープ	TJF-Q290V	1	中央内視鏡室
トピックス	呼吸中13CO2赤外分光分析装置	POC One	1	消化器内科
	体内挿入式	オートリスタッチ EHL ジェネレータ	1	中央内視鏡室
電気水圧衝撃波胆石破砕装置	M005466800			
診療業務	血液ガス分析装置(救急)	ABL90FLEX PLUS	1	救急外来
	血液ガス分析装置(ICU)	ABL835FLEX システム BASIC	1	集中治療室
医療社会事業部	血液ガス分析装置(透析)	GASTAT-720	1	透析センター
	血液ガス分析装置(心筋血液凝固用)	i-STAT 1、血液凝固計用	1	心筋室
看護部	超音波診断装置(乳腺用)	ARIETTA850SE	1	外科
	超音波膀胱画像診断装置	ブラッター・スキャン BVI6100	1	1-5病棟
事務部	内視鏡洗浄消毒器	イントゥレックス Neo 51721	3	耳鼻咽喉科
	鼻内視鏡システム	テレパツク X LED TP100EN、スコープ 11101VNSK 他	1	2-5病棟・耳鼻
業績	分娩台	マミージョイ LDR 14320	2	2-4病棟
	チューブ乾燥機	TUK-52	1	中央滅菌室
看護部	一包化錠剤監査支援装置「タグサイト」	YS-TPM-01	1	薬剤部
	一包化錠剤仕分機「タグソート」	YS-TSR01	1	薬剤部
事務部	多人数用透析液供給装置	DAB-50Si	1	人工透析センター
	多用途透析用監視装置	DCS-200Si-RWF	5	人工透析センター
看護部	全自動特殊染色装置	ベンタナベンチマーク SS / 518109950	1	病理診断科部
	セントラルモニタ	WEP-1450-Z06 他	1	1-5病棟
事務部	ベッドサイトモニタ	CU-152R・BSM-1763	1	救急外来
	ベッドサイトモニタ	PVM-2703-Q01	1	バビレーンセンター
看護部	ベッドサイトモニタ	PVM-4763-Q20	2	臨床工学技術課
	起立訓練傾斜台「フィルテーブル」	K1430MN	1	リハビリテーション科
事務部	ハラフィン浴装置	ハラパツク NS-212	1	リハビリテーション科
	薬用冷蔵ショーケース	MPR-1014-PJ	2	薬剤部
看護部	薬用冷蔵ショーケース	MPR-S313-PJ	1	薬剤部
	血液保冷库	MBR-506T4-PJ	1	輸血センター
事務部	空気感染隔離ユニット	ミンティ ECU3AR1000	1	感染管理室
	全自動身長体重計	AD-6228AP	1	入退院支援センター
看護部	ベッド・パッドウォッシャー【尿器洗浄機】	BP-W301	10	本館病棟
	炭酸ガスレーザーシステム	AcuPulse 40W DUO GA-1000000-SS1 他	1	中央手術室・耳鼻
業績	陽電子放射断層撮影装置 PET-CT	Discovery IQ.x	1	中央放射線科部
	内視鏡システム	KTC201EN、KTC304 他	1	中央手術室

## 5. 医事サービス課

### 1. スタッフ

課長 渡辺 速美

係長

第1医事係長 山本瑞恵 入院係長 大澤和代 外来係長 堀江玖美

医事係	主事	3名	嘱託主事	1名	
入院係	主事	10名	嘱託主事	1名	派遣 1名
外来係	主事	3名	嘱託主事	1名	

### 2. 目標

請求業務を適切に行い、請求結果を分析し患者数増、収入増の検討と対策を行う。

### 3. 業務

- ・患者の受付 案内及び接遇に関すること
- ・患者の入院および退院の手続きに関すること
- ・患者の料金算定及び支払請求、収入調定並びに医業未収金管理に関すること
- ・診療報酬請求事務に関すること
- ・医事統計に関すること
- ・医事業務電算システムの運用に関すること
- ・その他、医事サービスに関すること

### 4. 実績

令和元年度地域医療支援病院紹介率 70.6% 逆紹介率 106.7%

年度目標に対する取り組み

- ・接遇向上対策… 患者満足度向上部会、接遇推進WG等の院内の活動との協働、および課内勉強会の接遇向上班で接遇向上強化月間を定め、身だしなみチェックを行い接遇改善に努めた。
- ・業務適正… その都度発生した事案に対し業務適正を行うための対策を講じた。
- ・査定減対策… 毎月の査定結果を基にそれぞれに応じた対策を検討し対策を講じた。
- ・返戻減対策… 事務的返戻減を主な目的とし、毎月対策班で返戻レセプトと返戻理由から分析・検討を行い対策を講じた。

# 6. 医療情報課

## 1. スタッフ

課長	櫻井 慎二
係長	情報処理係長（兼） 櫻井 慎二
画像処理係長（兼）	上坂 大輔
病歴係長	中野 里加
図書係長（兼）	櫻井 慎二
主事	6名
嘱託職員等	5名
派遣・委託職員	6名

## 2. 目標

令和元年度（平成31年度）の事務部の目標「病院運営に事務の”力”を示す」に基づき、当課の目標を「①蓄積された診療情報の精度向上を図り、医療の質向上と経営改善に貢献する②病院情報システム更新に向けたプロジェクトを中期ビジョンに沿って円滑に進める」とした。情報処理係では、病院情報システム（地域医療連携システム、インシデント管理システム、感染制御支援システム）の新規導入に対し適切な実施に従事した。また、改元に伴う元号による年表示の対応、医療法等の改正に伴う臨床検査システム等、病院情報システムで必要な改修を適切に実施した。さらに、働き方改革法の施行を受け、就業管理システムの新規導入を適切に実施した。その他、情報資産の保全、情報漏えい、不正アクセス等への対策の一環として、外部講師を招聘し実務担当者に向けた研修を開催し、管下利用者への注意喚起を実施した。病歴係では、経営改善に必要な医療統計資料や経営資料の作成、各種臨床指標データの正確かつ遅延なく提供、医療の質の向上を図るクリニカルパスの推進やバリエーション分析、カルテ監査に関する取り組みを行った。

## 3. 業務

- (1) 病院コンピューターシステムの構築・導入及び管理運営に関すること
- (2) 病歴の分類と管理業務に関すること
- (3) 診療録その他診療に関する諸記録の管理に関すること
- (4) 診療情報の検索、統計、提供の業務に関すること
- (5) 図書室の管理に関すること
- (6) 健康・医療情報室（スマイル）の管理運営に関すること
- (7) 個人情報の管理に関すること（紛失・漏洩、不正アクセスの禁止等）

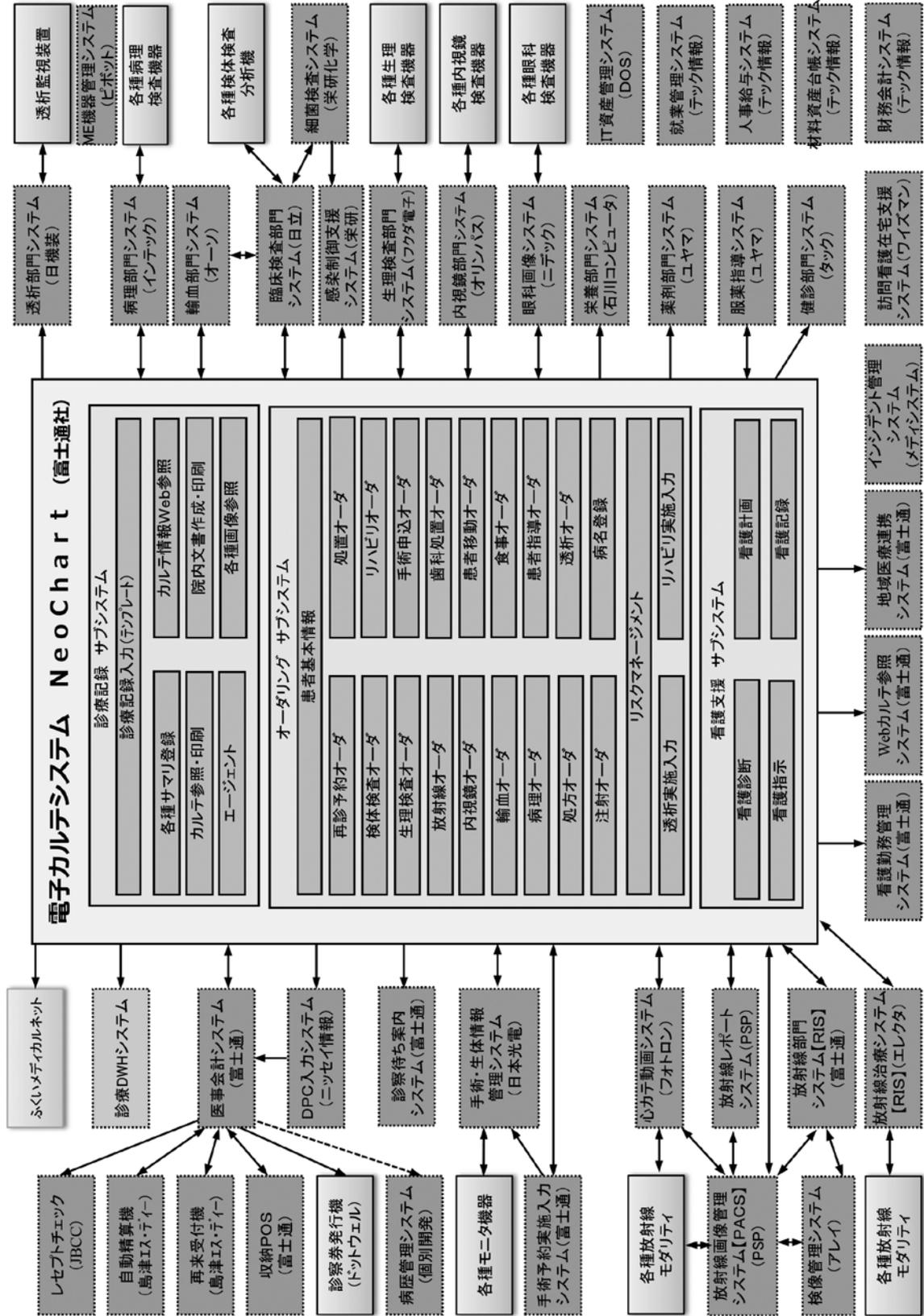
## 4. 実績

- (1) 主な情報システムの整備

感染制御支援システム	新規導入
地域医療連携システム	ハードウェア更新、ソフトウェア更新
就業管理システム	新規導入
インシデント管理システム	新規導入

# 福井赤十字病院 病院情報システム構成図

2020.3.31現在 別図1



福井赤十字病院

## (3) クリニカルパスの適用状況

区 分	パス 作成数	年度別パス適用件数				
		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
脳・神経系	32	1,086	1,065	1,128	1,128	1,122
内分泌系	4	52	72	66	92	115
眼	15	1,471	1,347	1,398	1,420	1,398
耳	6	137	141	163	148	121
上気道・口腔	22	444	368	471	462	529
呼吸器系	48	1,970	1,978	1,605	1,674	1,842
循環器系	33	896	980	914	920	873
血液・リンパ	13	255	334	417	348	428
消化器系	65	1,892	1,874	2,074	2,353	2,128
泌尿器系	42	968	1,027	1,265	1,333	1,218
女性生殖器	21	561	468	481	526	556
産褥・新生児	17	327	312	660	568	559
筋骨格系	37	609	646	663	711	722
乳房・皮膚	17	320	267	274	377	373
小児科領域	31	362	395	387	498	588
形成外科領域	8	136	100	150	131	136
経過観察入院	4	213	305	384	380	348
がん性疼痛	1	81	92	76	71	56
その他(身体抑制・NST等)	18	3,845	3,456	3,713	3,333	2,921
総 計	434	15,886	15,453	16,289	16,473	16,033

## (4) 電子カルテ情報の2次利用(DWH)の活用状況

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
抽出依頼件数	501	501	408	484	451

## (5) 健康・医療情報室「スマイル」の利用状況

患者情報室「スマイル」利用者数

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
利用者数	18,431	18,057	17,506	19,081	17,654
図書貸出数	9,868	10,058	8,326	8,837	8,258
図書返却数	9,767	10,052	8,348	8,797	8,267
コピー利用枚数	504	309	562	758	455
インターネット利用者数	1,362	1,098	1,197	769	807
プリント枚数	1,803	749	855	565	533
Wi-Fi利用者数	85	133	228	337	422
DVD視聴者数	13	15	16	28	12
医療相談	35	20	33	41	33

## 1日平均利用者数

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
利用者数	76	74	72	79	73
図書貸出数	41	41	34	36	34
図書返却数	41	41	34	36	34
コピー利用枚数	3	1	2	3	2
インターネット利用者数	7	5	5	3	3
プリント枚数	8	3	4	2	2
Wi-Fi利用者数	1	1	1	1	2
DVD視聴者数	0	0	0	0	0
医療相談	0	0	0	0	0

## 図書貸出数

種 類	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
医学図書	812	512	377	454	559
医学雑誌	257	244	212	185	126
一般図書	8,799	9,302	7,737	8,198	7,573
図書貸出数合計	9,868	10,058	8,326	8,837	8,258

沿革

概要

患者数・経営状況

委員会

トピックス

診療業務

医療社会事業部

看護部

事務部

業績

# 7. 医療支援課

## 1. スタッフ

課長 荒井 満

看護師長 患者支援係専任看護師 齋藤 みどり

係長 医療秘書係長 山崎 久美子

主事 3名

嘱託職員 20名

派遣職員 13名

## 2. 目標

医師事務作業補助者として必要な能力を身につけ、医師の業務負担軽減に貢献する

## 3. 業務

- (1) 医師の診療業務支援に関すること
- (2) 患者・医療の総合相談と調整に関すること
- (3) その他医療支援に関すること

## 4. 実績

- (1) 外来診療における医療事務作業補助業務

外来診療科に医師事務作業補助者（メディカル・セクレタリー（MS））を31名配置し、外来診療における診療支援業務や診断書等書類の作成支援業務を行っている。その他の部署に配置しているMSと合わせて、平成26年度から医師事務作業補助体制加算2の15対1補助体制加算の施設基準の届け出をしている。

- (2) 患者相談業務

患者またはその家族からの診療や療養生活上の不安等の相談に対応するために、患者相談窓口を設置し、患者支援のための専任看護師等を配置し、相談業務を実施している。

患者相談業務件数 別表1のとおり

別表 1

## 患者相談業務件数

		2017 年度	2018 年度	2019 年度
医療相談	受診科相談	2,079	1,999	2,055
	検査（内容・結果）	63	66	53
	治療について	76	123	103
	症状・副作用の対応	181	138	157
	医療者との関係対応	4	2	4
	療養生活について	33	24	23
	セカンドオピニオン	11	11	15
	がん相談	14	4	3
	なやみ相談	7	12	4
	医療機関の紹介	48	35	38
	お薬について	369	31	22
	その他		285	301
苦情・要望	診察に関して	5	20	14
	治療に関して	27	46	53
	職員の対応に関して	46	52	65
	待ち時間に関して	8	12	9
	施設設備に関して	7	11	9
	その他	37	41	33
他の相談	書類等相談	328	18	6
	医療費・支払い相談	128	71	60
関連部署との連絡調整		324	515	503
受診手続き	手続き案内	5,604	5,128	4,840
	診察申込書代筆	41	19	14
	問診票代筆	10	4	3
案内	入院	8,952	8,054	6,551
	外来	673	785	729
	人間ドック	446	382	324
		5,503	7,386	7,716

## 8. 医療安全推進課

### 1. スタッフ

課長 1名  
主事 2名

### 2. 目標

- 1) 医療安全及び感染研修会の2回以上参加率UP、医師の参加率UP
- 2) インシデントレポートの報告件数UP
- 3) 患者誤認を減らす
- 4) 医事紛争の裁判、調停による処理件数を減らす
- 5) 暴言・暴力対応マニュアルの周知

### 3. 業務

- 1) 医療事故等の調査・指導に関すること
- 2) 医療事故発生時の対応に関すること
- 3) 医療紛争に関すること
- 4) 医療安全推進室の事務取扱に関すること
- 5) 感染管理室の事務取扱に関すること
- 6) その他医療安全対策の推進に関すること

### 4. 実績

- 1) 医療紛争解決件数

	2017年度	2018年度	2019年度
示談件数	1	1	0
和解件数	0	1	1

- 2) 2019年度コードホワイト発動件数 4件

- 3) 研修会開催

日付	研修名	講師	対象	参加人数
2019年 5月15日	「医療現場で困る患者への対応」 精神医学の観点から	精神科 高橋 哲也 先生	全職員	163名

# 業 績

## 内 科

### 【学会発表】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
H30年福井豪雪における当院の状況と対策：糖尿病治療への対応	中野雅子	第26回日本糖尿病学会年次学術集会	5.25 仙台市
H30年福井豪雪における当院の状況と対策：糖尿病治療への対応	中野雅子	日本内科学会北陸地方会	6.16 敦賀市
高齢者DLBCLにおけるR-CHOP-21療法6コースと8コースの比較	塚崎 光 木下圭一 今村信 神谷健一	日本血液学会総会	10.19 東京国際フォーラム

## 神 経 内 科

### 【学会発表】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
レボドパ・カルバドパ配合経腸用液療法前後における抗パーキンソン病薬について	柳田成史	第37回神経治療学会	11.7 パシフィコ横浜

### 【院外活動】

活動内容・演題名	演者	会名	月日・開催地
第5回脳波セミナーアドバンスコース講師	今村久司	第5回脳波セミナー	8.31 9.1 京都大学芝蘭会館

## 呼 吸 器 内 科

### 【学会発表（全国）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
報告（一般演題） 当院における気管支サーモプラスティの有効性と安全性の検討	出村芳樹 塩崎晃平 中嶋康貴 大井昌寛 田畑未央 多田利彦 赤井雅也	第116回日本内科学会講演会	4.27 名古屋
報告（一般演題） 著名な好中球増加を示した急性サルコイドーシスの1例	中嶋康貴 出村芳樹 大井昌寛 田畑未央 多田利彦 塩崎晃平 赤井雅也	第68回日本アレルギー学会学術大会	6.14 東京

沿革	報告（ミニシンポジウム） 当院における気管支サーモプラスティの 短期及び長期有効性の検討	出村芳樹 塩崎晃平 中嶋康貴 大井昌寛 田畑未央 多田利彦 赤井雅也	第 68 回日本アレルギー 学会学術大会	6. 15 東京
概要	報告（一般演題） 当院における気管支サーモプラスティの 短期及び長期の有効性と安全性 の検討	出村芳樹 塩崎晃平 中嶋康貴 大井昌寛 田畑未央 多田利彦 赤井雅也	第 42 回日本呼吸器内 視鏡学会学術集会	7. 5 東京
患者数 経営状況				
委員会	報告（一般演題） CP-EBUS を用いた経食道的 EUS-FNA (EUS-B-FNA) の実効性	中嶋康貴 出村芳樹 大井昌寛 田畑未央 多田利彦 塩崎晃平 赤井雅也	第 42 回日本呼吸器内 視鏡学会学術集会	7. 5 東京
トピックス	報告（一般演題） 進行非小細胞癌に対する EBUS-TBNA 検 体での PD-L1 測定の有用性	中嶋康貴 出村芳樹 大井昌寛 田畑未央 多田利彦 塩崎晃平 赤井雅也	第 60 回日本肺癌学会 学術集会	12. 6 大阪
診療業務				
医療社会 事業部	報告（一般演題） 肺癌に伴う癌性髄膜炎に対して免疫 チェックポイント阻害薬が有効であった 2 例	出村芳樹 中嶋康貴 大井昌寛 田畑未央 多田利彦 塩崎晃平 赤井雅也	第 60 回日本肺癌学会 学術集会	12. 6 大阪
看護部				
事務部	報告（一般演題） EGFR 遺伝子変異陽性進行非小細胞肺癌 に対する低用量 Afatinib の第 II 相試験： OS update	今北卓間 横山俊秀 吉岡弘鎮 藤本大智 出村芳樹 平野勝也 川井隆広 鏡亮吾 石田直 富井啓介	第 60 回日本肺癌学会 学術集会	12. 8. 大阪
業績				

	赤井雅也 平林正孝 西村尚志 中原保治 金永学 吉村健一 平井豊博		
--	---	--	--

【学会発表（地方）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
報告（一般演題） 当院における Bronchial thermoplasty の短 長期の治療効果について	出村芳樹 中嶋康貴 大井昌寛 田畑未央 多田利彦 塩崎晃平 赤井雅也	第 68 回日本呼吸器内 視鏡学会北陸地方会	5. 25 長岡
報告（一般演題） 肺結節性リンパ組織過形成の 1 例	山岡幸司 多田利彦 中嶋康貴 大井昌寛 田畑未央 塩崎晃平 出村芳樹 赤井雅也	第 83 回日本呼吸器学 会北陸地方会	5. 25 長岡
報告（一般演題） 肺癌に伴う癌性髄膜炎に対して免疫 チェックポイント阻害薬が有効であった 1 例	出村芳樹 中嶋康貴 大井昌寛 田畑未央 多田利彦 塩崎晃平 赤井雅也	第 74 回日本肺癌学会 北陸支部学術集会	7. 13 富山
報告（一般演題） 当院における進行 / 再発非小細胞肺癌に 対する放射線治療後の免疫チェックポイ ント阻害薬の効果の検討	中嶋康貴 出村芳樹 大井昌寛 田畑未央 多田利彦 塩崎晃平 赤井雅也	第 74 回日本肺癌学会 北陸支部学術集会	7. 13 富山
報告（一般演題） 当院での肺癌診断に対する EUS-B-FNA の有用性と安全性の検討	中嶋康貴 出村芳樹 大井昌寛 田畑未央 多田利彦 塩崎晃平 赤井雅也	第 69 回日本呼吸器内 視鏡学会北陸地方会	11. 10 黒部

沿  
革

概  
要

患者数・経営状況

委員会

トピックス

診療業務

医療社会事業部

看護部

事務部

業  
績

沿革概要	報告（一般演題） 進行非小細胞癌に対する EBUS-TBNA 検体での PD-L1 測定の妥当性	中嶋康貴 出村芳樹 大井昌寛 田畑未央 多田利彦 塩崎晃平 赤井雅也	第 24 回呼吸器インターベンションセミナー	11. 24 下呂
患者数・経営状況	報告（一般演題） 気管支サーモプラスティ後の血清 IgE 値および末梢血好酸球数の検討	出村芳樹 塩崎晃平 中嶋康貴 大井昌寛 田畑未央 多田利彦 赤井雅也	第 24 回呼吸器インターベンションセミナー	11. 24 下呂
委員会	報告（一般演題） 当科での肺癌診断に対する EUS-B-FNA の有用性と安全性の検討	大井昌寛 出村芳樹 中嶋康貴 田畑未央 多田利彦 塩崎晃平 赤井雅也	NPO 法人西日本呼吸器内科医療推進機構 令和 2 年第 15 期総会	2. 8 京都
トピックス				

【論文発表】

	演題	著者	掲載紙名	掲載年月日
診療業務 医療社会事業部 看護部 事務部 業績	Osimertinib in elderly patients with epidermal growth factor reseptor T790M-positive non-small-cell lung cancer who progressed during prior treatment: A phase II trial.	Nakao A, Hiranuma O, Uchino J, Sakaguchi C, Kita T, Hiraoka N, Ishizuka T, Kubota Y, Kawasaki M, Goto y, Imai H, Hattori N, Nakatomi K, Uramoto H, Uryu K, Fukuda M, Uchida Y, Yokoyama T, Akai M, Mio T, Nagashima S,	The Oncologist 24. 1-7	2019

	Chihara Y, Tamiya N, Kaneko Y, Mouri T, Yamada T, Yoshimura K, Fujita M, Takayama K		
A phase II study of low starting dose of afatinib as first-line treatment in patients with EGFR mutation-positive non-small-cell lung cancer (KTORG 1402).	Yokoyama T, Yoshioka H, Fujimoto D, Demura Y, Hirano K, Kawai T, Kagami R, Washio Y, Ishida T, Kogo M, Tomii K, Okuno T, Akai M, Hirabayashi M, Nishimura T, Nakahara Y, Kim YH, Miyakoshi C, Yoshimura K, Hirai T	Lung Cancer 135. 178-180.	2019
Whole-brain radiation and Pembrolizumab treatment for a non-small lung cancer patient with meningeal carcinomatosis lacking driver oncogenes led to a long-term survival: A case report .	Nakashima K, Demura Y, Oi M, Tabata M, Tada T, Shiozaki K, Akai M, Ishizuka T	Internal Medicine Advance Publication DOI:10.2169/ internalmedicine.4232-19	March 12, 2020
著明な好中球増加を伴った急性サルコイドーシスの1例	中嶋康貴 出村芳樹 田畑未央 多田利彦 塩崎晃平 赤井雅也	日本呼吸器学会誌 9(2): 132-136	2020

治  
革

概  
要

患者数・  
経営状況

委  
員  
会

ト  
ピ  
ッ  
ク  
ス

診  
療  
業  
務

医  
療  
社  
会  
事  
業  
部

看  
護  
部

事  
務  
部

業  
績

肺癌診断における超音波気管支鏡下経食道的針生検法 (EUS-B-FNA) の有用性と安全性	中嶋康貴 出村芳樹 大井昌寛 田畑未央 多田利彦 塩崎晃平 赤井雅也	気管支学 42(2):129-133	2020
---	--	--------------------	------

【院外活動】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
講演 肺非結核性抗酸菌症の基礎と、関節リウマチ診療におけるピットフォール	赤井雅也	第28回東葛リウマチ医学会学術講演会	5.24 柏
講演 肺癌検診従事者研修会～「見つかる」から「見つける」へ～	赤井雅也	2019年度第2回肺癌検診従事者研修会（胸部写真読影の基礎）	8.8 福井
学会座長 結核・非結核性抗酸菌症5	赤井雅也	第59回日本呼吸器学会学術講演会	4.14 東京
学会座長 研修医セッション1	赤井雅也	第83回呼吸器合同北陸地方会	11.9 黒部
寄稿 肺癌検診について	赤井雅也	福井県医師会だより 第699号	8月25日発行

————— 消化器内科 —————

【学会発表（全国学会）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
消化管出血精査における小腸内視鏡検査の優位性	鳥居志充	第97回日本消化器内視鏡学会総会	5.31 東京
ESD加療したBarett食道腺癌の検討	西山悟	第97回日本消化器内視鏡学会総会	5.31 東京
当院における膵癌に対するEUS-FNAの成績	三原美香	第97回日本消化器内視鏡学会総会	5.31 東京
閉塞性大腸癌に対し大腸ステント留置後化学療法を行った27例の検討	松永心祐	第97回日本消化器内視鏡学会総会	5.31 東京
当科における表在型非乳頭部十二指腸上皮性腫瘍(SNADET)に対するunderwater EMR法の治療成績	山崎幸直	第97回日本消化器内視鏡学会総会	5.31 東京
外来受診患者における改訂Fスケールによる上腹部症状調査	山崎幸直	第61回日本消化器病学会大会	11.21 神戸

【学会発表（地方）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
低リン血症を来たした妊娠合併潰瘍性大腸炎の一例	三原美香	第128回日本消化器病学会北陸支部例会	6.9 富山
大腸スクリーニングを契機として診断されたマントル細胞リンパ腫の1例	保坂亮介	第113回日本消化器内視鏡学会北陸支部例会	6.23 富山
飲酒後の嘔吐を原因として発症した特発性食道破裂の一例	保坂亮介	第129回日本消化器病学会北陸支部例会	11.17 石川
吻合部潰瘍底に出現した仮性動脈瘤に対し、内視鏡的止血術を行った1例	河合信佳	第114回日本消化器内視鏡学会北陸支部例会	12.8 石川
シンポジウム 福井県における全県下統一した対策型胃内視鏡検診システム	山崎幸直	第49回日本消化器がん検診学会東海北陸地方会	11.30 金沢

【院外活動】

活動内容・演題名	演者	会名	月日・開催地
LCIG導入に難渋したケース－消化器科医の目線から－	山崎幸直	LCIG Gastroenterologists Expert Exchange Program 2019 in Osaka	4.6 大阪
当院における慢性便秘症治療薬についての便通調査結果の検討	里見聡子	持田製薬研究会	6.20 福井
LCIGの普及と消化器内科の役割－LCIG導入に難渋したケース－	山崎幸直	aPD研究会2019 関西	8.31 大阪
Crohn's Diseaseの難渋症例	里見聡子	Crohn's Disease TY seminar	9.13 福井
胃がんは早期発見・早期治療で治る！－ピロリ菌と胃がんの関係－	山崎幸直	がん推進センター講演会	10.25 福井
慢性便秘症治療の新規治療戦略－当院の便通調査結果の検討から－	山崎幸直	高岡市医師会 呉西地区便秘フォーラム	10.31 富山
当院における慢性便秘症治療薬についての便通調査結果の検討	山崎幸直	富山駅北エリア勉強会	11.20 富山
当科で経験した好酸球性食道炎の一例	道上学	第7回消化器カンファレンス	1.18 福井

## 循環器内科

【学会発表（地方）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
再狭窄ステント遠位端の変形・伸展によるバルーン不通過に対して buddy balloon で bail out し得た一例	三好真智子	日本心血管インターベンション治療学会 東海北陸地方会	10.12 石川県地場産業振興センター
浅大腿動脈に対する経皮的動脈形成術後に下腿仮性動脈瘤を合併した一例	片岡達宏	日本心血管インターベンション治療学会 東海北陸地方会	10.12 石川県地場産業振興センター

沿革概要 患者数経営状況 委員会	当院の Orsiro 使用経験と傾向	三好真智子	Fukui Orsiro Focus Summit 2019	5. 17 福井フェニックスホテル
	Case Report	片岡達宏	Onyx Case Conference @ Fukii2019	5. 24 AOSSA
	浅大腿動脈に対する経皮的動脈形成術後に下腿仮性動脈瘤を合併した一例	榊原圭一	福井冠動脈疾患治療を考える会 2019	6. 13 ザ・グランユワーズフクイ
	慢性心不全と緩和医療	吉田博之	地域医療連携交流会	9. 4 サバエシテイホテル
	福井県内におけるアブレーション連携の Up to Date	吉田博之	座談会	8. 27 ユワーズホテルフクイ
	心房細動患者をどう守るか～最近の話題～	皿澤克彦		10. 29 福井赤十字病院
	当院における VTE への取り組み	皿澤克彦		11. 26 福井パレスホテル

【院外活動】

	活動内容・演題名	演者	会名	月日・開催地
トピックス	座長	吉田博之	第 27 回福井県核医学研究会	4. 19 ユワーズホテルフクイ
	座長	吉田博之	福井循環器疾患フォーラム	5. 31 福井パレスホテル
診療業務	座長	榊原圭一	第 6 回福井県心臓リハビリテーション研究会 (一般演題)	6. 14 福井商工会議所
	座長	吉田博之	第 6 回福井県心臓リハビリテーション研究会 (特別講演)	6. 14 福井商工会議所
医療社会事業部	座長	吉田博之	福井 PAH セミナー 2019	6. 28 福井フェニックスホテル
	座長	皿澤克彦	C315 ガイディングカテーテルについての講演会	7. 19 福井赤十字病院
看護部	座長	吉田博之	心不全セミナー	7. 22 福井赤十字病院
	座長	吉田博之	福井県内科学会学術講演会	9. 28 福井県医師会館
事務部	座長	坪川明義	Fukui Workshop 2019	11. 16 福井県医師会館
	座長	坪川明義	E-ETC2020	2. 15 ホテルクラウンヒルズ武生

# 小 児 科

## 【学会発表】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
経過中に低リン血症と著明な FGF23 高値を呈した全身性エリテマトーデス・ループス腎炎の一女兒例	玉村宗一(福井赤十字病院小児科) 森夕起子 林泰平 宮永光次 野村詠史 渡邊康宏	第 54 回日本小児腎臓病学会学術総会	6.7～8 大阪
ネフローゼ症候群として発症し、腎生検にて基底膜の分節状菲薄化と同部位の EDD 沈着を認めた IgA 腎症の女兒例	林泰平(福井大学医学部小児科) 玉村宗一 森夕起子 大嶋勇成	第 54 回日本小児腎臓病学会学術総会	6.7～8 大阪
初診時の尿異常が軽微であったびまん性増殖性ループス腎炎の一女兒例	玉村宗一(福井赤十字病院小児科) 清水沙知 野村詠史 渡邊康宏 前田夢吉 森夕起子 林泰平	第 20 回日本小児科学会福井地方会	11.9 福井市

## 【論文発表】

演題	著者	掲載紙名	掲載年月日
鼻腔内チューブ留置により保存的に治療し得た先天性梨状口狭窄の 1 例	前田夢吉(福井県立病院小児科) 津田英夫 渡邊康宏	小児科臨床 72 巻 10 号 Page1547-1550	2019. 10
パーキンソニズムを合併したループス腎炎の小児例	田尾克生(福井愛育病院小児科) 石原靖紀 葛城卓弥 近藤博章 森岡茂己 平野聡子 春木伸一 石原義紀 玉村宗一 渡邊康宏	小児科臨床 72 巻 11 号 Page1643-1648	2019. 11

沿革

概要

患者数・経営状況

委員会

トピックス

診療業務

医療社会事業部

看護部

事務部

業績

沿革概要	児の血清カルシウム値の変動から母体の潜在性副甲状腺機能亢進症が判明した1例	田中奈々絵 (福井赤十字病院 小児科) 杉原啓一 玉村宗一 渡邊康宏	周産期学 49 巻 9 号 Page1290-1292	2019. 09
患者数経営状況	皮膚生検によって診断した組織球性壊死性リンパ節炎の14歳男子例	野村詠史(福井赤十字病院 小児科) 前田夢吉 宮永光次 杉原啓一 田中奈々絵 玉村宗一 渡邊康宏 白井駿也 大嶋勇成	日本小児皮膚科学会雑誌 38 巻 2 号 Page126-131	2019. 06
委員会				

## 整形外科

### 【学会発表（全国）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
インフリキシマブ投与間隔延長症例におけるレミチェックQ測定の意義 ～休薬への指標の可能性～	北折俊之	第63回日本リウマチ学会	4. 15～17 京都
当院における拘束型人工肘関節の治療成績	小谷友弥	第63回日本リウマチ学会	4. 15～17 京都
当院におけるトシリズマブ使用患者に対するアンケート調査	村上晃規	第63回日本リウマチ学会	4. 15～17 京都
結核の既往をもつRA患者において結核性関節炎との鑑別が困難であった肘関節炎に対して人工肘関節置換術を施行した1経験	森瀬博子	第48回日本リウマチの外科学	9. 13～14 京都
当院における化膿性足関節炎の治療成績	小谷友弥	第44回日本足の外科学会学術集会	9. 26～27 北海道

### 【学会発表（地方）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
当院でのbDMARD点滴製剤使用患者に対する皮下注射製剤希望のアンケート調査と活動性評価からみえる傾向	村上晃規	京整会 RA 懇話会	6. 29 京都
化膿性脊椎炎再発例に対して経皮的経椎弓的ドレナージを施行した1例	小谷友弥	第133回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会	9. 20～21 神戸

腎細胞癌の髄膜播種による下垂足に対して腰部脊柱管狭窄症として手術施行するも不幸な転帰をとった1例	北折俊之	第133回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会	9.20～21 神戸
--	------	--------------------------	---------------

【論文発表】

演題	著者	掲載紙名	掲載年月日
Risk stratification and clinical course of hepatitis G virus reactivation in rheumatoid arthritis patients with resolved infection: final report of a multicenter prospective observational study at Japanese Red Cross hospital.	Fukuda W, Hanyu T, Katayama M, Mizuki S, Okada A, Miyata M, Hanada Y, Hayashi M, Koyama Y, Arii K, Kitaori T, Hagiyama H, Uru-shidani Y, Yamasaki T, Ikeno Y, Suzuki T, Omoto A, Sugitani T, Morita S, Inokuma S.	Arthritis Res Ther. 2019; 21(1):255-63.	2019

【院外活動】

活動内容・演題名	演者	会名	月日・開催地
講演活動 超高齢化社会の脊椎外科～がんロコモの 実践にむけて～	北折俊之	芝蘭会福井県支部総会	7.20 福井
座長	北折俊之	第26回福井県リウマチケア研究会	8.25 福井
座長	北折俊之	第48回日本リウマチの外科学会	9.13～14 京都
相談員	北折俊之	福井県難病支援センター一定例相談（骨・関節系疾患）	10.10 福井

沿革

概要

患者数・経営状況

委員会

トピックス

診療業務

医療社会事業部

看護部

事務部

業績

## 形 成 外 科

### 【学会発表】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
ケロイド治療の最前線. ケロイド・肥厚性 癒痕の病状評価～最新の知見も含めて～	山脇聖子	第 62 回日本形成外科 学会総会・学術集会	5. 15 札幌市
耳垂・耳介ケロイドの手術における工夫	山脇聖子	第 62 回日本形成外科 学会総会・学術集会	5. 17 札幌市

## 脳 神 経 外 科

### 【学会発表（全国）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
報告（シンポジウム） Complication avoidance in deep brain stimulation for Parkinson's disease	戸田弘紀	第 5 回 World Parkinson Congress	6. 5 京都
報告（特別講演） デバイス補助療法における脳深部刺激療 法の役割	戸田弘紀	第 1 回パーキンソン病 デバイス補助療法研究 会	8. 10 京都
報告（一般演題） Visualization of anatomical borders of subthalamic nucleus and globus palli- dus interna using quantitative suscep- tibility mapping in patients with Park- inson's disease and dystonia	戸田弘紀	2019 Biennial meeting of the World Society of Stereotactic and Func- tional Neurosurgery	6. 25 ニューヨーク
報告（一般演題） Hemorrhage risk after deep brain stim- ulation surgery for movement disorders	戸田弘紀	2019 Biennial meeting of the World Society of Stereotactic and Func- tional Neurosurgery	6. 26 ニューヨーク
報告（一般演題） 吸引カテーテルの螺旋状コイルが破損し て回収された 1 例	池田宏之	脳血管内治療ブラッ シュアップセミナー 2019	7. 11 神戸
報告（一般演題） 直接経口抗凝固薬を服用中に合併した頭部 外傷例の管理と転帰	早瀬睦	一般社団法人 日本脳 神経外科学会第 78 回 学術総会	10. 9 大阪
報告（一般演題） 頸動脈カルシウムスコアは全身血管病に よるイベント予測に有用である	佐野徳隆	一般社団法人 日本脳 神経外科学会第 78 回 学術総会	10. 9 大阪
報告（一般演題） 急性両側内頸動脈閉塞に対して血栓回収 療法を施行し救命し得た一例	辻本吉孝	一般社団法人 日本脳 神経外科学会第 78 回 学術総会	10. 9 大阪
報告（一般演題） 静脈圧迫による三叉神経痛の特徴と血管減 圧術効果：システマティック・レビュー	戸田弘紀	一般社団法人 日本脳 神経外科学会第 78 回 学術総会	10. 9 大阪

報告(一般演題) PICAによるPontomedullary sulcusでの圧迫により症状を呈した片側顔面痙攣の1例	取越貞治	一般社団法人 日本脳神経外科学会第78回 学術総会	10.9 大阪
報告(一般演題) 急速進行性経過で発症し pilocytic astrocytoma with anaplasia が疑われた一例	大塚亮太郎	一般社団法人 日本脳神経外科学会第78回 学術総会	10.9 大阪
報告(一般演題) 破裂真菌性内頸動脈瘤に対してステント併用コイル塞栓術を行った一例	佐野徳隆	一般社団法人 日本脳神経外科学会第78回 学術総会	10.9 大阪
報告(一般演題) LVIS 近位部の拡張不良によりステント留置を断念した内頸動脈瘤の1例	池田宏之	一般社団法人 日本脳神経外科学会第78回 学術総会	10.9 大阪
報告(一般演題) パーキンソン病モデル動物に対する細胞移植と運動療法の相乗効果	取越貞治	一般社団法人 日本脳神経外科学会第78回 学術総会	10.9 大阪
報告(一般演題) 吸引カテーテルの螺旋状コイルがステントリトリバーにより破損して回収された1症例	大塚亮太郎	一般社団法人 日本脳神経外科学会第78回 学術総会	10.9 大阪
頭痛のみで発症し経過中に形態変化をきたした脳動脈解離の検討	早瀬睦	第47回日本頭痛学会 総会	11.16 さいたま市
脳幹梗塞で発症し短期間に動脈瘤様の変化を来しステント併用コイル塞栓術を行った脳底動脈解離の一例	早瀬睦	第35回NPO法人日本脳神経血管内治療学会 学術総会	11.21 福岡市
破裂真菌性内頸動脈瘤に対してステント併用コイル塞栓術を行った一例	佐野徳隆	第35回NPO法人日本脳神経血管内治療学会 学術総会	11.21 福岡市
LVIS 近位部の拡張不良によりステント留置を断念した内頸動脈瘤の1例	池田宏之	第35回NPO法人日本脳神経血管内治療学会 学術総会	11.21 福岡市
報告(一般演題) 吸引カテーテルの螺旋状コイルがステントリトリバーにより破損して回収された1症例	大塚亮太郎	第35回NPO法人日本脳神経血管内治療学会 学術総会	11.21 福岡市
報告(一般演題) Carotid artery calcification as a predictor of systemic vascular events	佐野徳隆	International stroke conference	2.19 ロサンゼルス

【学会発表(地方)】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
報告(一般演題) 螺旋状コイルがステントリトリバーで回収された一例	池田宏之	第51回日本脳神経血管内治療学会中部地方会	4.6 名古屋

沿革概要  
患者数・経営状況  
委員会  
トピックス  
診療業務  
医療社会事業部  
看護部  
事務部  
業績

沿革概要 患者数経営状況 委員会 トピックス	報告（一般演題） 医原性内頸動脈解離に緊急ステント留置を行った2症例	辻本吉孝	第96回日本脳神経外科学会中部地方会	4.20 岐阜
	報告（一般演題） 内後頭隆起上の骨棘による静脈洞損傷により急性硬膜外血腫をきたした一例	大塚亮太郎	第96回日本脳神経外科学会中部地方会	4.20 岐阜
	報告（一般演題） 進行性の複視・頭痛で発症した右側脳室三角部近傍腫瘍の一例	大塚亮太郎	第56回北陸脳腫瘍懇話会	6.8 富山
	報告（一般演題） 右中大脳動脈塞栓症に対して血栓回収療法を行った一例	大塚亮太郎	第10回 Kanazawa Kyoto Friendship Conference	7.13 福井
	報告（一般演題） 25mm 中大脳動脈瘤に対してバイパス併用クリッピングを行った一例	佐野徳隆	第10回 Kanazawa Kyoto Friendship Conference	7.13 福井
	報告（一般演題） 海綿静脈洞部硬膜動静脈瘻のシャントへのアクセスの確実性を高めるための工夫	池田宏之	第10回 Kanazawa Kyoto Friendship Conference	7.13 福井
	報告（一般演題） LVIS 近位部の拡張不良によりステント留置を断念した内頸動脈瘤の一例	池田宏之	第52回日本脳神経血管内治療学会中部地方会	8.3 名古屋

【論文発表】

	演題	著者	掲載紙名	掲載年月日
診療業務 医療社会事業部 看護部 事務部 業績	Prosthesis used in microvascular decompressions: a multicenter survey in Japan focusing on adverse events.	Hasegawa M, Hatayama T, Kondo A, Naga-hiro S, Fujimaki T, Amagasaki K, Arita K, Date I, Fujii Y, Goto T, Hanaya R, Higu-chi Y, Hongo K, Inoue T, Kasuya H, Kayama T, Kawashima M, Kohmura E, Maehara T, Matsushima T, Mizobuchi Y, Morita A,	World Neurosurg. Jun 14. pii: S1878-8750(19)	2019

	Nishi-zawa S, Noro S, Saito S, Shimano H, Shi-rane R, Takeshima H, Tanaka Y, Tanabe H, Toda H, Yama-kami I, Nishiyama Y, Ohba S, Hirose Y, Suzuki T.		
Two cases of primary ocular adnexal lymphomas diagnosed after pre-biopsy corticosteroid treatment using poly-merase chain reaction-based gene re-arrangement analysis	Kitahara T, Imamura S, Ohta M, Okoshi T, Kobori A, Miyakoshi A, Oichi Y, Toda H	American Journal of Ophthalmology Case Reports Sep; 15:100520	2019
Breakage and Retrieval of Aspiration Catheter Coil with a Stent Retriever During Mechanical Thrombectomy-A Case Report	Ryotaro Otsuka, Hiroyuki Ikeda, Yoshitaka Tsujiimoto, Takeshi Kawauchi, Sadaharu Torikoshi, Noritaka Sano, Makoto Hayase, Hiroki Toda	World Neurosurg. Oct; 130:54-58.	2019
Occipital Sinus Dural Arteriovenous Fistula Presenting with Cerebellar Hemorrhage: A Case Report	Takeshi Kawauchi, Hiroyuki Ikeda, Akinori Miyakoshi, Koichi Go, Yuki Oichi, Noritaka Sano, Makoto Hayase, Hiroki Toda	World Neurosurg. Nov 131:116-119	2019
Multiple spinal chronic subdural hema-tomas associated with thoracic hema-tomyelia: a case report and literature review	Oichi Y, Toda H, Yamagishi K, Tsujiimoto T	World Neurosurg. Nov;131:95-103	2019

沿  
革

概  
要

患  
者  
数  
・  
経  
営  
状  
況

委  
員  
会

ト  
ピ  
ッ  
ク  
ス

診  
療  
業  
務

医  
療  
社  
会  
事  
業  
部

看  
護  
部

事  
務  
部

業  
績

沿革	Biodegradable Flow Diverter for the Treatment of Intracranial Aneurysms: A Pilot Study Using a Rabbit Aneurysm Model	Hidehisa Nishi, Akira Ishii, Isao Ono, Yu Abekura, Hiroyuki Ikeda, Daisuke Arai, Yukihiro Yamao, Masakazu Okawa, Takayuki Kikuchi, Akiyoshi Nakakura, Susumu Miyamoto	J Am Heart Assoc. 8(20) e014074	2019
概要				
患者数・経営状況				
委員会	A survived case of acute bilateral in-ternal carotid artery occlusion treated by mechanical thrombectomy	Yoshitaka Tsujimoto, Hiroyuki Ikeda, Ryotaro Otsuka, Takeshi Kawauchi, Noritaka Sano, Makoto Hayase, Hiroki Toda	JNET14 195-201	2020
トピックス				
診療業務	Two patients who underwent emergency stenting for iatrogenic cervical internal carotid artery dissection during throm-bectomy	Yoshitaka Tsujimoto, Hiroyuki Ikeda, Ryotaro Otsuka, Takeshi Kawauchi, Noritaka Sano, Makoto Hayase, Hiroki Toda	JNET14 (6) 222-230	2020
医療社会事業部				
看護部	Dissection of the vertebral artery fen-estration limb presenting with occlusion following rupture: a case report	Hiroyuki Ikeda, Noritaka Sano, Sadaharu Torikoshi, Ryotaro Otsuka, Yoshitaka Tsujimoto, Tomoyuki Yamashita, Makoto Hayase, Hiroki Toda	World Neurosurg. Mar; 135 324-329	2020
事務部				
業績				

【院外活動】

活動内容・演題名	演者	会名	月日・開催地
報告（一般演題） 未破裂中大脳動脈瘤クリッピング術の1例	池田宏之	第10回京都脳神経外科マイクロサージェリー道場	4.27 京都
報告（一般演題） 未破裂中大脳動脈瘤に対する開頭クリッピング術の1例	川内豪	第10回京都脳神経外科マイクロサージェリー道場	4.27 京都
報告（特別講演） 微小血管減圧術に必要な外科解剖－静脈梗塞回避のための知識と基本手技－	戸田弘紀	第10回京都脳神経外科マイクロサージェリー道場	4.27 京都
（特別講演） 脳卒中にご用心！	早瀬睦	すこやか健康講座	5.22 福井県勝山市
（特別講演） 内科の積極的参加があるSCU運用における働き方改革	戸田弘紀	2019年度 京都大学脳神経外科関連病院部長会議	6.14 京都
（特別講演） 脳卒中・循環器病対策基本法をうけて脳卒中診療はどう変わるのか	早瀬睦	脳神経疾患循環器疾患の早期対応セミナー	9.30 福井県福井市
報告（一般演題） LVISを樽状に突出させて上小脳動脈を温存した再発大型脳底動脈瘤の一例	池田宏之	第10回京都大学脳神経外科NeuroIVR研修セミナー IVR道場	12.14 京都
（特別講演） 抗凝固薬の休薬と再開～当院の頭部外傷患者300例の検討～	早瀬睦	福井脳卒中セミナー、	11.29 福井県福井市
（特別講演） チームで繋がる脳卒中診療～抗凝固療法、血栓溶解療法、血栓回収療法～	早瀬睦	Stroke Seminar in KAGA 2019	12.4 石川県加賀市

## 呼吸器外科

【学会発表】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
肺腺癌術後再発にEGFRチロシンキナーゼ阻害薬を投与し小細胞癌化した1例	福井哲矢 南紀久子 若月悠佑 松倉規	日本肺癌学会総会	12.8 大阪
肺炎症性筋線維芽細胞腫の1例	若月悠佑 松倉規 福井哲矢 南紀久子	日本肺癌学会総会	12.7 大阪

沿革  
 概要  
 患者数・経営状況  
 委員会  
 トピックス  
 診療業務  
 医療社会事業部  
 看護部  
 事務部  
 業績

沿革概要 患者数経営状況 委員会 トピックス	EWS と胸腔内洗浄が有効であった術後遅発性肺癰による有癰性膿胸の 1 例	福井哲矢(福井赤十字病院呼吸器外科) 若月悠佑 塩崎晃平 松倉規	日本呼吸器内視鏡学会 総会	7. 4. 東京
	遷延する気胸に対する局麻胸腔鏡手術	福井哲矢 若月悠佑 松倉規	日本呼吸器外科学会学術集会	5. 17 大阪
	フレイル chests を伴う多発肋骨骨折に対してチタンプレートによる肋骨整復固定術を施行した 2 例.	若月悠佑 南紀久子 福井哲矢 松倉規	第 72 回日本胸部外科学会定期学術集会.	10. 31 京都
	拡大胸腺摘出術後に生じた乳糜胸を保存的に加療した 1 例	福井哲矢 若月悠佑 松倉規	第 62 回関西胸部外科学会学術集会	6. 13 徳島
	悪性腫瘍が否定できず手術を行った肺クリプトコッカス症 4 例の検討	松倉規 福井哲矢 若月悠佑	第 62 回関西胸部外科学会学術集会	6. 13 徳島

【論文発表】

演題	著者	掲載紙名	掲載年月日
Simple chest closure of open window thoracostomy for postpneumectomy empyema: a case report.	Fukui T, Matsukura T, Wakatsuki Y, Yamawaki S.	Surg Case Rep. 2019 Apr 5;5(1):53.	2019. 4. 5
Immunotherapy for advanced lung cancer combined with surgery for mediastinal myxofibro-sarcoma: a case report.	Fukui T, Wakatsuki Y, Matsukura T.	Surg Case Rep. 2019 Feb 26;5(1):37.	2019. 2. 26
Thoracoscopic surgery under local anesthesia for high-risk intractable secondary spontaneous pneumothorax.	Fukui T, Minami K, Wakatsuki Y, Matsukura T.	Gen Thorac Cardio-vasc Surg. 2020 Mar 29.	2020. 3. 29
右肺管状下葉切除術後に吻合部狭窄を来したが気道インターベンションで改善した 1 例	福井 哲矢 (福井赤十字病院呼吸器外科) 南 紀久子 若月 悠佑 松倉 規	気管支学 (0287-2137)41 巻 5 号 Page501-505(2019. 09)	2019. 9

業績

【院外活動】

活動内容・演題名	演者	会名	月日・開催地
VATS+TMA の併用で摘出した左上縦郭腫瘍の切除例	福井哲矢 若月悠佑 南紀久子 松倉規 伊達洋至	第 17 回 F I T 呼吸器外科研究会	9. 28 金沢
座長	松倉規	第 62 回 関西胸部外科学会学術集会	6. 13 徳島
座長	松倉規	第 18 回 北陸肺癌懇話会	10. 5 金沢
座長	松倉規	第 35 回 福井杯癌研究会	11. 15 福井

## ————— 皮 膚 科 —————

【学会発表】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
湧水が原因と考えられたマンソン孤虫症の一例	臼居駿也 滝本莉子 八木洋輔	第 118 回 福井県皮膚科医会例会	6. 6 愛知県名古屋市
結節性硬化症に伴う顔面血管線維腫に対する臨床的検討	桑井匠 滝本莉子 八木洋輔	第 132 回 福井県皮膚科医会例会	6. 27 福井県福井市
当院におけるマムシ咬傷 5 年間のまとめ	八木洋輔 桑井匠 滝本莉子	第 133 回 福井県皮膚科医会例会	9. 26 福井県福井市
福井赤十字病院におけるマムシ咬傷 5 年間のまとめ	八木洋輔 桑井匠 滝本莉子	第 463 回 京滋地方会	12. 21 京都府京都市

【院外活動】

活動内容・演題名	演者	会名	月日・開催地
アトピー性皮膚炎 病態と治療 ～注射療法の選択肢～	八木洋輔	福井赤十字病院 イブニングセミナー	6. 5 福井県福井市
福井新聞 ドクター相談室 1 歳児ほくろ、放置してよいのか	八木洋輔		10. 31

## 腎臓・泌尿器科

【学会発表（全国）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
肺・胸膜転移を伴う前立腺原発血管肉腫を発症し、マルチキナーゼ阻害薬パゾパニブにて治療を試みた維持透析患者の一例	片野健一 山岸瑞希 松井佑樹 伊藤正典	第64回日本透析医学会学術集会・総会	6.28～30 パシフィコ横浜
MRSA感染による感染性腹部大動脈瘤の1例	○伊藤正典 松井佑樹 山岸瑞希 品川友親 山内寛喜 高田昌幸 河野眞範 片野健一 小松和人 大越忠和  福井循環器病院 心臓血管外科 山田翔平	第64回日本透析学会学術集会	2019.6 横浜
ロボット支援腹腔鏡下手術にてS状結腸癌と同時に手術した女性尿道癌膀胱浸潤の一例	高田昌幸 河野眞範 平崎憲範 青竹利治	第32回日本内視鏡外科学会総会	12.5～7 横浜
腹腔鏡下仙骨腫固定術における術前尿培養の検討	河野眞範 品川友親 山内寛喜 高田昌幸 辻隆博 田嶋公久 小松和人	第21回日本女性骨盤底医学会	7.20 名古屋市
導入後2ヶ月で緑膿菌性腹膜炎を発症した腹膜透析患者の1例	山岸瑞希 伊藤正典 片野健一 河野眞範 高田昌幸 山内寛喜 松井佑樹 品川友親 小松和人	第25回日本腹膜透析医学会学術・集会	11.23～24 広島
原発性副甲状腺機能亢進症による代謝性アシドーシスが、高カリウム(K)血症の主因と思われた慢性腎臓病の一例	片野健一 山岸瑞希 松井佑樹 伊藤正典	第49回日本腎臓学会西部学術大会	10.18～19 高知県高知市

【学会発表（地方）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
導入後2ヶ月で緑膿菌性腹膜炎を発症した腹膜透析患者の1例	○伊藤正典 松井佑樹 山岸瑞希 品川友親 山内寛喜 高田昌幸 河野眞範 片野健一 小松和人	第18回福井県血液浄化談話会	2019.4 福井

【院外活動】

活動内容・演題名	演者	会名	月日・開催地
DKDにおけるアルブミン尿・蛋白尿の評価	伊藤正典	糖尿病性腎症重症化予防フォローアップセミナー	2019.11 福井
尿からわかる身体の異常	伊藤正典	鯖江市市民公開講座～腎臓セミナー～	2019.10 鯖江

産婦人科

【学会発表（全国）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
子宮頸癌に対して放射線治療後ホルモン補充療法中に発症した子宮留血症	福田真	第71回日本産科婦人科学会学術講演会	4.12～14 愛知県名古屋市
子宮卵管造影検査後に膿瘍形成した内膜症性嚢胞に対し、腹腔鏡手術を施行した1例	佐藤久美子	第71回日本産科婦人科学会学術講演会	4.12～14 愛知県名古屋市
骨盤臓器脱手術後に子宮体癌と判明し無症候性の肺塞栓症を発症した1例	辻隆博	日本骨盤底医学会	7.21 愛知県名古屋市
正常卵巣より有茎性に発育し捻転した充実性卵巣腫瘍の2例	福田真	88回福井県夏期臨床研修会	8.4 福井県福井市
遺残胎盤の子宮鏡下切除：腹腔鏡下での子宮動脈・卵巣動脈の一時的クリッピングを併用した2症例	田嶋公久	第59回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	9.12～14 京都市
卵巣卵管膿瘍に対し腹腔鏡手術を施行した10症例の後方視的検討	佐藤久美子	第59回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	9.12～14 京都市
緊急鏡視下手術を要した漿膜下筋腫の3例	井上大輔	第59回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	9.12～14 京都市
子宮頸癌に対して放射線治療後ホルモン補充療法中に発症した子宮留血症	福田真	第34回日本女性医学会学術集会	11.2 福岡県福岡市

【学会発表（地方）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
当科における腹腔鏡下子宮体癌根治術についての検討	服部克成	第12回福井産婦人科研究会	7.20 福井県永平寺町

【その他の講演など】

演題	発表者	講演会名	月日・開催地
専門医共通講習 医療安全・救急処置に関するもの	田嶋公久	令和元年度母体保護指定医師研修会	11.17 福井市
女性ホルモンとの上手な付き合い方～月経痛から更年期障害まで～	田嶋公久	第19回市民公開講座	11.30 鯖江市

## 眼 科

【学会発表（全国）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
Starr KSSP 手術動画	小堀朗	第123回日本眼科学会	4.18～21 東京
CTRの安全な挿入	講師 小堀朗	水晶体囊拡張リング(CTR)講習会	4.21 東京
Starr KSSP 手術動画	小堀朗	第34回日本白内障屈折矯正手術学会学術総会	6.28～30 京都
ランチョンセミナー： CTRは安全なのだ！	小堀朗	第34回日本白内障屈折矯正手術学会学術総会	6.28 京都
Alcon Clareon ? 白内障手術動画	小堀朗	第73回日本臨床眼科学会	京都

【学会発表（地方）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
	パネリスト 小堀朗	第8回北陸Crystal Meeting	1.19 金沢
糖尿病網膜症と内科医が気をつける眼科疾患	小堀朗	Sabae Small Seminar	2.14 福井
最近の macular surgery	小堀朗	福井県ORT会	3.2 福井
	座長 蒔田潤	Senju Ophthalmic Seminar 2019 in Fukui	3.22 福井
最近の macular surgery	招待講演 小堀朗	県南眼科手術研究会	3.23 宮崎
	座長 蒔田潤	第7回石川&福井黄斑疾患研鑽会	3.30 福井
Total Iridodialysis	小堀朗	第12回難治性網膜硝子体手術治療研究会	4.19 東京

市岡悠．「涙小管炎」 李相沅．「涙嚢ヘルニアの3例」 横田 開人．「レバミピド点眼による急性涙嚢炎」	座長 小堀朗 市岡悠 李相沅 横田 開人	第3回福井眼科オープンカンファレンス	8.3 東京
網脈絡膜組織の脱出した眼球破裂の修復	座長 小堀朗	第6回 Pitfall の会	6.15 福井
Total iridodiolysis	小堀朗	第14回福井大学眼科同窓会学術研究会	8.31 福井
Inverted ILM flap 法術後に進行した黄斑上膜の一例	横田開人 小堀朗 蒔田潤 市岡悠 李相沅	第69回福井県眼科集談会	8.31 福井
網膜剥離	パネリスト 小堀朗	第12回加越硝子体手術研究会	8.26 金沢
CTR を使おう！	特別講演 小堀朗	松山市眼科医会定例会	10.4 大阪
気がつきませんでした	小堀朗	第13回難治性網膜硝子体手術治療研究会	12.7 長崎

【論文・教科書・DVD】

演題	著者	掲載紙名	掲載年月日
Multicenter survey of sutureless 27-gauge vitrectomy for primary rhegmatogenous retinal detachment: a consecutive series of 410 cases	Shinkai Y, Oshima Y, Yoneda K, Kogo J, Imai H, Watanabe A, Matsui Y, Suzuki K, Sotozono C ;27G Vitrectomy Study Group	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol. 2019 Dec;257(12):2591-2600.	2019.12
The influence of sclerotomy size on intraocular lens tilt after intrascleral intraocular lens fixation	Matsumura T, Takamura Y, Makita J, Kobori A, Inatani M	J Cataract Refract Surg. 2019 Oct;45(10):1446-1451	2019.10
Two cases of primary ocular adnexal lymphomas diagnosed after pre-biopsy corticosteroid treatment using polymerase chain reaction-based gene rearrangement analysis.	Kitahara T, Imamura S, Ohta M, Okoshi T, Kobori A, Miyakoshi A, Oichi Y, Toda H	Am J Ophthalmol Case Rep. 2019 Jul 16;15	2019.7

眼科医がができること～そしてつなげて始めよう～	蒔田潤	日本の眼科 90:9 1147-51, 2019	2019
"攻め"の手術室の具体例と展望 眼科手術に特化した手術室開設の経緯と概要 専門・特化手術室の今後の展望も含め(解説/特集)	小堀朗	新医療 46:2 28- 31, 2019	2019
強度近視性黄斑円孔に対する内境界膜翻転法術後の外境界膜の連続性.	河合健太郎 小堀朗 額田和之 蒔田潤	あたらしい眼科 36:11 1456-1461, 2019	2019

【メディア】

活動内容・演題名	演者	会名	月日・開催地
「新しく非侵襲性眼底血管撮影を導入」	小堀朗 蒔田潤	パートナー	2019. 4
眼光学&屈折矯正法	小堀朗	福井大学医学部講義	12. 6

耳鼻咽喉科

【学会発表】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
入院加療を要した扁桃炎患者の重症化因子の検討	加藤永一	第 67 回日本耳鼻咽喉科学会中部地方部連合会学術大会	7. 31 金沢市
ILC2 活性化による鼻粘膜炎症増悪メカニズムの検討	森川大洋	第 24 回那須ティーンズ学術集会	7. 27 東京
花粉症を克服すれば、食物アレルギーも克服できる？	大澤陽子	第 35 回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会	4. 21 松山市
レンパチニブ治療による可逆性後白質脳症を起こした甲状腺未分化癌患者の経過	大澤陽子	第 120 回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会	5. 9 大阪市
患者満足度をあげる口腔アレルギー症候群(OAS)治療～概論～	大澤陽子	第 68 回日本アレルギー学会	6. 15 東京
花粉・食物アレルギー症候群に対するオオアワガエリ花粉の関与	大澤陽子	第 68 回日本アレルギー学会	6. 16 東京
オオアワガエリ花粉感作と食物誘発口腔症状	大澤陽子	第 32 回口腔・咽頭科学会学術講演会	9. 12 大分市
髄様癌と乳頭癌のリンパ節転移を伴った混合性髄様濾胞細胞癌の経験	大澤陽子	第 30 回日本頭頸部外科学会総会	1. 31 宜野湾市
胸鎖乳突筋を越えて頸部深葉へ進展した脂肪腫の一例	坪川 亜優 美	第 30 回日本頭頸部外科学会総会	1. 31 宜野湾市

【論文発表】

演題	著者	掲載紙名	掲載年月日
眼窩吹き抜け骨折整復における単独 / 併用アプローチの比較と重症度分類作成	加藤永一 成田憲彦 斎藤杏子 徳永貴広 菅野真史 大澤陽子 藤枝重治	日本頭頸部外科 29(2); 115-121	2019
Epidemiological study of oral allergy syndrome in birch pollen dispersal-free regions	Yoko Osawa, Yumi Ito, Noboru Takahashi, Chizuru Sugimoto, Yoko Kohno, Shigehito Mori, Taiyo Morikawa, Yukinori Kato, Masayuki Okamoto, Masafumi Kann, Tetsuji Takabayashi, Shigeharu Fujieda	Allergology International 69(2); 246-252	2020

【院外活動】

活動内容・演題名	演者	会名	月日・開催地
招待講演 口腔アレルギー症候群と花粉症	大澤陽子	第 69 回 新潟アレルギー研究会	6. 8 新潟市
招待講演 花粉症がもたらす厄介な病態 花粉・食物アレルギー症候群	大澤陽子	新潟市内科医会学術講演会	6. 8 新潟市
招待講演 花粉症がもたらす新たな問題！ 花粉・食物アレルギー症候群の臨床	大澤陽子	金沢市医師会水曜談話会	2. 12 金沢市

沿革  
概要  
患者数・経営状況  
委員会  
トピックス  
診療業務  
医療社会事業部  
看護部  
事務部  
業績

# 放射線科

## 【学会発表】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
腫瘍状に増殖し悪性腫瘍との鑑別が困難だった薬剤性歯肉増殖症の1例	高橋美紗 若林 佑 都司和伸 松井 謙 高橋孝博 左合 直	日本医学放射線学会第166回中部地方会	7.3～4 金沢大学医学類 石川県金沢市
悪性リンパ腫との鑑別が難しい結核症の3例	高橋美紗 若林 佑 都司和伸 松井 謙 高橋孝博 左合 直	日本医学放射線学会第167回中部地方会	2.15～16 愛知県がんセンター 愛知県名古屋市
悪性腫瘍と鑑別を要した左転子部 ischemic fasciitis の1例	若林 佑 高橋美紗 都司和伸 松井 謙 高橋孝博 左合 直	日本医学放射線学会第167回中部地方会	2.15～16 愛知県がんセンター 愛知県名古屋市
FDG-PET を契機に発見された関節周囲の巨細胞腫の3例	都司和伸 若林 佑 高橋美紗 松井 謙 高橋孝博 左合 直	日本核医学会第90回中部地方会	2.15 愛知県がんセンター 愛知県名古屋市
症例提示	高橋美紗	第63回北陸画像診断勉強会	4.20 金沢ニューグランドホテル 石川県金沢市
症例提示	高橋美紗	第64回北陸画像診断勉強会	10.26 金沢ニューグランドホテル 石川県金沢市

## 【論文発表】

演題	著者	掲載紙名	掲載年月日
Investigation of 4D dose in volumetric modulated arc therapy-based stereotactic body radiation therapy: does fractional dose or number of arcs matter?	Shintani T(新谷 堯), Nakamura M, Matsuo Y, Miyabe Y, Mukumoto N, Mitsuyoshi T,	J Radiat Res. 2020 Mar 23;61(2): 325-334. doi: 10.1093/jrr/rrz103	2020. 3

	Iizuka Y, Mizowaki T.		
Comparison of radiomic features in diagnostic CT images with and without contrast enhancement in the delayed phase for NSCLC patients.	Kakino R, Nakamura M, Mitsuyoshi T, Shintani T(新谷 堯), Hirashima H, Matsuo Y, Mizowaki T.	Phys Med. 2020 Jan;69:176-182. doi: 10.1016/ j.ejmp.2019.12.019. Epub 2020 Jan 6.	2020. 1
Pulmonary Oligometastases Treated by Stereotactic Body Radiation Therapy: A Nationwide Survey of 1,378 Patients.	Niibe Y, Yamamoto T, Onishi H, Yamashita H, Katsui K, Matsumoto Y, Oh RJ, Aoki M, Shintani T(新谷 堯), Yamada K, Kobayashi M, Ozaki M, Manabe Y, Yahara K, Nishikawa A, Kakuhara H, Yamamoto K, Inoue T, Takada YU, Nagata K, Suzuki O, Terahara A, Jingu K.	Anticancer Res. 2020 Jan;40(1):393-399. doi: 10.21873/ anticancerres.13965.	2020. 1

【院外活動】

活動内容・演題名	演者	会名	月日・開催地
座長	坂本 匡人	第49回京都放射線腫瘍研究会【I-①部】 一般演題	2.15 京都ガーデンパレス 2階 葵

沿革  
概要  
患者数・経営状況  
委員会  
トピックス  
診療業務  
医療社会事業部  
看護部  
事務部  
業績

## 麻 酔 科

### 【学会発表（全国）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
災害救護支援室開設後1年の活動報告	白塚秀之 川端和代 井上和子 朝田和枝 大森丈 伊藤心平 山田智也	第55回日本赤十字社 医学会総会	10.18 広島国際会議場

### 【研究会】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
診断に難渋した Lemierre 症候群の1例	藤岡沙織	第8回集中治療ミー ティング	10.25 福井商工会議所

### 【院外活動】

活動内容・演題名	演者	会名	月日・開催地
講演 大規模災害における災害診療記録の重要性	白塚秀之	第33回診療情報管理 実務研修会	6.22 福井赤十字病院
座長	田邊毅	第8回集中治療ミー ティングとく特別講演	

## リハビリテーション科

### 【学会発表（全国）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
大腿骨近位部骨折の歩行に影響する急性 期病院での因子について－認知機能と せん妄の要因を含めた検討－	仲辻良仁	第53回日本作業療法 学会	9.5～8 福岡
Duodopa 使用前後の長期的介入により再 就職に至った一症例	山岸耕二	第37回日本神経治療 学会学術集会	11.5～7 横浜
心不全再入院までの期間に影響する要因	佐藤祐一	第25回日本心臓リハ ビリテーション学会	7.13～14 大阪
心不全再入院までの期間に関与する因子 の検討	佐藤祐一	第48回日本赤十字リ ハビリテーション協会 学術集会	11.16～17 富山
Trousseau 症候群により脳梗塞を発症し た患者の治療経過による脳梗塞再発差	宮下崇	第17回日本神経理学 療法学会学術大会	9.28～29 横浜
在宅酸素療法機器操作の自立可否に関わ る要因の検討 －コース立方体テストの有用性について－ 当院における心不全再入院患者の特徴	樋田貴紀	第53回日本作業療法 学会	9.5～8 福岡

Activity ～新聞紙～	樋田貴紀	第 31 回活動分析研究会	5.18～19 山梨
Activity ～お手玉～	山田英二	第 31 回活動分析研究会	5.18～19 山梨
新膀胱造設術後の排泄障害に対する作業療法	山田英二	第 53 回日本作業療法学会	9.5～8 福岡
脊髄梗塞後、尿閉を呈した症例に対する作業療法経験	山田英二	第 46 回日本赤十字リハビリテーション協会学術集会	11.16～17 富山
当院の血液透析導入患者における腎臓リハビリテーションの取り組み	笥和馬	第 55 回日本赤十字社医学会総会	10.17 広島

【学会発表（地方）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
腸腰筋血腫により大腿神経麻痺を伴った後天性血友病 A 患者に対する理学療法経験	奥屋愛太郎	第 35 回東海北陸理学療法学会大会	11.9～10
当院における血液透析患者に対する運動療法の取り組み	笥和馬	第 23 回福井県理学療法学会学術集会	6.2 福井
当院における血液透析患者に対する運動療法の取り組み	笥和馬	第 18 回福井県血液浄化懇談会	4.14 福井
人工股関節再置換術後感染の治療により長期臥床を呈し歩行獲得に難渋した症例	高島尚生	第 23 回福井県理学療法学会学術集会	6.2 福井

【論文発表】

演題	著者	掲載紙名	掲載年月日
当院における血液透析患者に対する運動療法の取り組み	笥和馬	理学療法福井	2020.2 第 23 巻
人工股関節再置換術後感染の治療により長期臥床を呈し歩行獲得に難渋した症例	高島尚生	理学療法福井	2020.2 第 23 巻

【院外活動】

活動内容・演題名	演者	会名	月日・開催地
大会長	山岸耕二	第 7 回福井神経理学療法学会学術大会	1.26 福井

## 救 急 部

【学会発表】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
救急外来における良性発作性頭位めまい症の診断、治療とその問題点	中西泰造	第 47 回日本救急医学会総会・学術集会	10.2～4 東京国際フォーラム

## 【論文発表】

	演題	著者	掲載紙名	掲載年月日
沿革概要	A comprehensive validation of very early rule-out strategies for non-ST- segment elevation myocardial infarction in emergency departments: protocol for a multicentre prospective cohort study	Masafumi Tada, Hiroyuki Azuma, Naoki Yamada, Ken-ichi Kano, Hideya Nagai, Shigenobu Maeda, Hirosi Ishida, Takahiko Aoyama, Ryota Okada, Takahisa Kawano, Taketsune Kobuchi, Hiroyasu Uzui, Hideyuki Matano, Hose Iwasaki, Koji Maeno, Yoshimitsu Shimada, Hiroyuki Yoshida, Masaki Ando, Yoshimasa Murakami, Naotsugu Iwakami, Sanae Kishimoto, Taku Iwami, Hirosi Tada, Andrew Chapman, Nicholas Mills, Hiroyuki Hayashi, Toshi A Furukawa, Norio Watanabe	BMJ Open 2019;9:e026985. doi: 10.1136/ bmjopen-2018-026985	2019
患者数・経営状況				
委員会				
トピックス				
診療業務				
医療社会事業部				
看護部				
事務部				
業績				

Time in Collars and Collar-Related Complications in Older Patients	Taizo Nakanishi, Biswadev Mitra, Helen Ackland, Gerard O'Reilly, Peter Cameron	World Neurosurgery. Volume 129, September 2019, Pages e478-e484	2019
--	--	---	------

【院外活動】

活動内容・演題名	演者	会名	月日・開催地
脳卒中と循環器疾患のピットフォール	嶋田喜充	福井血栓塞栓連携セミナー	1. 30 福井パレスホテル

## 病 理 診 断 科 部

【論文発表】

演題	著者	掲載紙名	掲載年月日
Two cases of primary ocular adnexal lymphomas diagnosed after pre-biopsy corticosteroid treatment using polymerase chain reaction-based gene rearrangement analysis	Takahiro Kitahara, Shin Imamura, Makoto Ohta, Tadakazu Okoshi, Akira Kobori, Akinori Miyakoshi, Yuki Oichi, Hiroki Toda	American Journal of Ophthalmology Case Reports 16 July 2019 ( American Journal of Ophthalmology Case Reports 15 2019 100520 )	2019. 7. 16

## 薬 剤 部

【学会発表】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
一包化錠剤監査支援装置 (TabSight) による一包化調剤の合理化の検討	大森丈 西川翔太 青柳哲治 小川純也 齊藤孝次	第 55 回日本赤十字社 医学会総会	10. 17 ~ 18 広島
当院におけるパクリタキセルの末梢神経障害に対する予防薬の現状調査と評価	前田太一 漆崎汐里 安藤和也 谷澤範彦 吉村はる美 小川純也 齊藤孝次	日本病院薬剤師会 第 30 回北陸ブロック学術 大会	11. 17 石川

## 栄 養 課

### 【院外活動】

活動内容・演題名	演者	会名	月日・開催地
「いきいきと暮らすための食生活」～健康寿命ってご存知ですか～	阪本みゆき	第3回 ふくい終活フェア	4.20 福井市
「患者に寄り添った食事療法」	林敬之	福井糖尿病看護研究会 第15回研修会	12.22 福井市

## 検 査 部

### 【学会発表（全国）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
血液培養より Mycolicibacterium brisbanense を検出した一例	平井舞	第68回日本医学検査学会	5.20 下関
キャピリア TB-Neo 陰性の結核菌群の一例	平井英誉	第68回日本医学検査学会	5.20 下関
ビトロス 4600 を用いた災害時における臨床検査体制の構築に関する検討	見谷敦司	第22回日赤検査学術大会	7.12 北見
血液培養より Mycolicibacterium mucogenicum を検出した一例	米倉久剛	第55回日赤医学会総会	10.16 広島
真珠腫性中耳炎患者の耳漏培養から Stephanoacus ciferrii を分離した一症例	近藤朝衣	第31回日本臨床微生物学会総会・学術集会	2.10 金沢

## 放 射 線 部

### 【学会発表（全国）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
マンモグラフィ2方向から腫瘍の位置を推定するツールの有効性の検討（続報）	田賀陽子	第29回日本乳癌検診学会学術総会	11.9 福井県
健診マンモグラフィにおいて評価困難な画像の一例	平木美和	第29回日本乳癌検診学会学術総会	11.9 福井県
W/Rhの使用における画質と平均乳腺線量の検討	吉岡千絵	第29回日本乳癌検診学会学術総会	11.9 福井県
医師と技師で読影が一致しなかった2症例の検討	村中舞	第29回日本乳癌検診学会学術総会	11.9 福井県

### 【院外活動】

活動内容・演題名	演者	会名	月日・開催地
全国学会 実行委員	実行委員 大西一幸	第118回日本医学物理学会学術大会	9.12～15 福井県国際交流会館
統一講習会	講師 大西一幸	日本放射線治療専門放射線技師認定機構統一講習会	2.11 福井赤十字病院

# 災害救護支援室

【学会発表（全国）】

演題	発表者	学会名	月日・開催地
災害救護支援室開設後 1 年の活動報告	白塚秀之 <sup>1)</sup> 井上和子 <sup>2)</sup> 川端和代 <sup>3)</sup> 朝田和枝 <sup>4)</sup> 大森丈 <sup>5)</sup> 伊藤心平 <sup>6)</sup> 山田智也 <sup>7)</sup>  1) 福井赤十字 病院麻酔科 2) 同看護部 3) 同中央手術 室 4) 同集中治療 室 5) 同薬剤部 6) 同医療社会 事業課 7) 日本赤十字 社福井県支部	第 55 回日本赤十字社 医学会総会	10. 17 ~ 18 広島市
災害対応能力育成のための院内教育の在り方と今後の課題	川端和代 <sup>1)</sup> 白塚秀之 <sup>2)</sup> 井上和子 <sup>3)</sup> 朝田和枝 <sup>4)</sup> 大森丈 <sup>5)</sup> 伊藤心平 <sup>6)</sup> 山田智也 <sup>7)</sup>  1) 福井赤十字 病院中央手術 室 2) 同麻酔科 3) 同看護部 4) 同集中治療 室 5) 同薬剤部 6) 同医療社会 事業 7) 日本赤十字 社福井県支部	第 55 回日本赤十字社 医学会総会	10. 17 ~ 18 広島市

沿  
 革  
 概  
 要  
 患者数・経営状況  
 委員会  
 トピックス  
 診療業務  
 医療社会事業部  
 看護部  
 事務部  
 業  
 績

# 看 護 部

【学会発表】全国学会

演題	発表者	学会名	月日・開催地
身体抑制に関する倫理カンファレンスの定着－A病院における身体抑制の削減に向けた取り組み第1報－	布谷喜代美	第50回日本看護学会 急性期看護学術集会	7.18～19 盛岡
災害対応能力育成研修のための院内教育のあり方と今後の課題	川端和代	第55回日本赤十字社 医学会総会	10.16～18 広島
入院早期の介護連携を強化した入退院支援体制が病院経営に及ぼす影響～入院当日の病棟看護師発信の介護連携の取り組み～	西向秀代	第69回日本病院学会	8.1～2 札幌
看護管理者自身の労務管理への取り組み～看護師長自身のタイムマネジメント～	加藤智枝	第55回日本赤十字社 医学会総会	10.17～18 広島
術前浣腸の廃止に向けた取り組み	西郡知代	第55回日本赤十字社 医学会総会	10.17～18 広島
「身体抑制パス」のアウトカムの有効性の検討	中野敦子	第20回日本クリニカル パス学会学術集会	1.17 熊本
院内デイケアの効果	和田幸子	第50回日本看護学会 精神看護学術集会	8.30～31 福井
A病院に入院した慢性心不全患者の在院日数に関連する因子の検討	田中めぐみ	第16回日本循環器看護 学会学術集会	11.2～3 東京都
腹膜透析マニュアル導入に対する病棟看護師における理解度の現状調査	出店悠紀	第22回日本腎不全看護 学会学術集会	11.9～10 北海道
大動脈解離を発症した患者に対する日常生活指導	加藤万糸	第55回日本赤十字社 医学会総会	10.17～18 広島
維持透析患者の生活指導の理解度を評価する～導入期指導後のテスト結果から～	宮木早百合	第64回日本透析医学会 学術集会	6.28～30 横浜
A病院における「福井県PD災害マニュアル」の運用状況調査	北島幸絵	第25回日本腹膜透析 学会学術集会	11.23～24 広島
遠隔腹膜透析モニタリングシステム「かぐや・シェアソース」を活用した看護介入の有効性	前田裕子	第22回日本腎不全看護 学会学術集会	11.9～10 札幌
不顕性誤嚥を目指した60度ポジショニングの介入研究	朝倉雪江	第55回日本赤十字社 医学総会	10.17～18 広島
固定チームデイパートナー方式の評価と今後の課題	勝木美奈子	第55回日本赤十字社 医学会総会	10.16～18 広島
がん患者遺族による緩和ケアの満足度評価と関連要因の検討	寺井智子	第24回日本緩和医療 学会学術大会	6.21 神奈川
緩和ケアに携わる看護師が経験する困難感に関する経時的評価の試み	織田史江 堤昌美 堀口朋美	第55回日本赤十字社 医学会総会	10.16～18 広島

脳梗塞急性期における経腸栄養療法～SCUの現状調査～	手塚日暖	第35回日本臨床栄養代謝学会学術集会	2.27 京都
院内認定看護師「認知症看護コース」の育成プログラム	山本隆	第50回日本看護学会 日本精神看護学会	8.31 福井
身体抑制に関する倫理カンファレンス導入前後の看護職の意識変化	松田ゆう子	第50回日本看護学会 —急性期看護—学術学会	7.18～19 岩手
A町自主防災組織への災害看護専門看護師による実践的防災対応力向上に向けた活動報告	朝田和枝	日本災害看護学会 第21回年次大会	9.5～6 日本赤十字北海道看護大学、国立大学法人北見工業大学
ACPを地域につなぐための入退院支援の在り方—在宅療養を希望する高齢独居のがん患者の支援—	山崎雪代	日本看護学会—慢性期看護—学術集会	11.14～15 鹿児島

【学会発表】 地方学会

演題	発表者	学会名	月日・開催地
看護介入が困難であった双生児の母への退院支援	橋爪麻理子	第32回福井県母性衛生学会	6.23 福井
社会支援を望まない双胎初妊婦との関わりの考察	齊藤みか	第32回福井県母性衛生学会	6.23 福井
気がかりな妊婦の見逃しをなくす保健指導システムを確立するための取り組み	井上めぐみ	第32回福井県母性衛生学会	6.23 福井
当院のマンマカンファレンスによる多職種連携の現状と課題	吉川朋子	第16回日本乳癌学術中部地方会	9.1 名古屋
緊急手術によりストーマ造設を受けた患者が抱く思い—ストーマ造設患者のインタビューからの検討—	上田悠平	第54回福井赤十字病院看護研究学会	1.18 福井
当院におけるフットケアの現状	猪島靖子	第18回福井県血液浄化談話会	4.14 福井県医師会館
高齢患者とその患者へのHOT・NPPV導入時の看護の課題～病状理解が不十分な事例の指導を経験して～	木村友美	第28回福井呼吸ケア研究会	10.19 福井県商工会議所
平成16年7月福井豪雨災害体験からの当院における災害への体制づくり	朝田和枝	第27回北陸腎疾患・血液浄化療法研究会	11.2 金沢市アートホール 金沢駅前 ポルテ 金沢 6F

【論文発表】

演題	著者	掲載紙名	掲載年月日
死の臨床に向き合い受けとめるために	堀口朋美 他	エンド・オブ・ライフケア	2020. 1・2
医療と介護連携～3年間の取り組みと成果～	西向秀代	病院羅針盤	2019. 7. 1 vol. 10 No. 150

沿革概要	福井豪雪における福井赤十字病院看護部の活動	井上和子	看護のチカラ	2019. 4. 15 No. 513
	看護管理者自身の労務管理への取り組み～看護師長自身のタイムマネジメント～	加藤智枝	看護実践の科学	2020. 3 Vol. 45 No. 3
	中程度認知症入院患者の院内デイケアへの参加度、自主性、満足度の評価	和田幸子・ 西川順子・ 中野裕美	第 50 回日本看護学会 論文集精神看護	2020. 4. 6
患者数経営状況	【院外活動】			
委員会	活動内容・演題名	演者	会名	月日・開催地
	患者も医療者もひとりじゃない！	吉川朋子	日本がん看護学会 乳がん看護 SIG 学習会 2019	12. 14 福井
トピックス	新人看護師研修・医療看護安全の基礎知識—新人が起こしやすいインシデントの傾向・KYT 演習—	西郡知代	令和元年度新人看護職員研修	9. 9 福井県看護協会
	ポジショニングと創傷ケア	水島典子	認定看護師出前講座	7. 5 高沢内科医院
診療業務	スキンケアの予防と管理	水島典子	認定看護師出前講座	11. 13 齊藤病院
	スキンケア	上口美恵	認定看護師出前講座	11. 28 あわら病院
	看護師の視点で考える P コントロール	高嶋節子	SHP T 治療講演会 i n 福井	6. 6 福井商工会議所
医療社会事業部	認知症透析患者さんの看護の実際	高嶋節子	ピートル顆粒分包発売 1 周年記念学術講演会	10. 31 福井パレスホテル
	福井市防災訓練に参加する中で福井市円山地区の住民を対象に災害時における応急手当について指導	朝田和枝	主催：福井県看護協会 災害看護委員会＋福井市円山地区自主防災連絡協議会	6. 23 福井市円山小学校
看護部	令和元年度 永平寺町自主防災組織地区リーダー研修会 目的：永平寺町の自主防災組織が自分たちの命は自分たちで守るといった主体的で自律的な防災活動ができる。 内容：永平寺町の自主防災組織地区リーダーを対象に避難所の開設について講義と演習「机上シミュレーション」を永平寺町全域 3 回にわけて実施。	朝田和枝	主催：永平寺町 協力：地（知）の拠点 大学による地方創生推進事業（COC+）福井大学	第 1 回) 8. 4 上志比文化会館 サンサンホール 第 2 回) 11. 24 永平寺開発センター 消防ホール 第 3 回) 12. 15 本庁大会議室 3 階 (永平寺町役場) 3 階 大会議室
事務部	①避難所の開設や運営について理解できること、②自主防災組織地区リーダーの避難所での必要な役割が分かること、③ HUG を通して、地域の課題が分かることを目標に 各種ハザードマップについて			
業績				

近年の災害の現状と避難所の実際についての講義、避難所運営ゲーム（HUG）を通して、自分たちが住む地域の課題について話し合った。			
日本災害看護学会に参加する看護職30人を対象に、病院における災害時の図上型訓練「災害をイメージすることに役立つといわれる『状況予測型訓練』、地域の防災上の強さ・弱さを地図から理解できる『DIG』、コマを操作しながら模擬体験できる『図上シミュレーション訓練』を実施。	朝田和枝	主催：日本災害看護学会 第21回年次大会	9.6 日本赤十字北海道看護大学、国立大学法人北見工業大学
福大、県大、敦大の看護学生33名と一般看護師8名、福井大学工学部学生5名の46名を対象に、身の回りの放射線を正しく理解すること、事例から考えてリスクコミュニケーションを理解することを目的に座学、クロスロード、演示、演習、グループワークの研修会を開催した。	朝田和枝	主催：福井大学地（知）の拠点 C O C + 特色人材育成部会看護福祉分野	9.20 敦賀市立看護大学
訪問看護師を対象に、近年の被災地における被災者の生活の実際の様子を知り、訪問看護ステーションにおける災害時の備えに繋げることができることを目的とし、被災地の実際について講義を行った。	朝田和枝	主催：公益社団法人福井県看護協会、訪問看護ステーションさばえ	9.26 訪問看護ステーションさばえ
災害看護研修（基礎編）を受講修了した看護職及び災害支援ナース登録更新が必要な看護職を対象に、災害に関する講義と避難所での活動を想定した机上シミュレーションによる演習を実施。	朝田和枝	主催：公益社団法人福井県看護協会 災害看護委員会	10.19 福井県看護協会
あわら市金津雲雀ヶ丘寮の職員を対象に災害時の職員の資質の向上のため研修会を開催した。内容は、近年の災害についてと災害の基礎知識について講義し、福祉施設における災害時対応机上シミュレーションを実施した。	朝田和枝	主催：社会福祉法人あわら市社会福祉協議会	11.13 あわら市金津雲雀ヶ丘寮 ふれあいホール
病院に勤務する看護管理者および災害担当者を対象に、リーダー的な立場の看護職員に対して看護の本質を再確認し、看護管理や看護教育等の能力を高めることを目的に講義と机上シミュレーションを行った。	朝田和枝	主催：福井県委託事業看護管理能力育成研修事業	11.29 福井県看護協会

沿革

概要

患者数・経営状況

委員会

トピックス

診療業務

医療社会事業部

看護部

事務部

業績

沿革概要	災害発生時の看護師としての初期対応や時間経過と共に考え得る具体的な行動、心構えなどを学びたいという思いから、この研修会を開催した。今回は春江病院職員の災害時の備えに繋げることが出来ることを目的に、「災害時対応-トリアージ編-」の講義と一次トリアージ法（START法）の実際をグループごとに分かれて演習した。	朝田和枝	主催：公益社団法人 福井県看護協会、医療 法人博俊会 春江病院	12. 19 医療法人博俊会 春江病院
	患者数経営状況	大阪府看護協会救急看護認定看護師教育課程を修了した救急看護認定看護師 約100名を対象に「災害における救急看護認定看護師の役割と活動を考える - 自己の体験と学びから -」というテーマで実践活動報告を行った。	朝田和枝	主催：大阪救急看護認定看護師会
委員会	講演・医療から在宅医療・介護への移行のための円滑な退院支援	山崎雪代	全国自治体病院協議会 円滑な退院支援のための ワークショップ	12. 21 福井県立病院
	講師・リフレクション～訪問看護の実践を振り返る～	山崎雪代	福井県看護協会チャレン ジ雇用制度修了者研修	11. 30 福井県看護協会
トピックス	ファシリテーター・退院支援研修	山崎雪代	福井県看護協会	12. 3 福井県看護協会
	研修講師・訪問看護制度と利用について	山崎雪代	福井市明倫管轄内介護 支援専門員研修会	1. 17 福井市
診療業務	講師・入退院時等における医療との連携に関する事例	山崎雪代	福井県会議支援専門員 更新研修過程 I	7. 11・18 福井市・越前市
	講師・我が家で最期まで自分らしく過ごすために	山崎雪代	在宅ケア講習会	9. 12 福井市みのり地区
医療社会事業部	講師・アドバンス・ケア・プランニングについて	山崎雪代	福井県看護協会認定看 護師出前講座	9. 26 新田塚訪問看護 ST
	講師・その人が望む生活を最期まで送るために	伊東志子	在宅ケア講習会	8. 24 福井市清明地区
看護部	講演・嚥下障害について	板岡利恵	福井県看護協会専門・ 認定看護師出前講座派 遣事業	8. 2 林病院 8. 27 福井厚生病院 9. 30 林病院訪問看護
事務部	講演・重症患者のせん妄予防腹部フィジカルアセスメント	小川佳代	福井県看護協会専門・ 認定看護師出前講座派 遣事業	10月 福井中央クリニック 11月 福井県看護協会
業績				

## 編集後記

本年も皆さまのご協力のおかげで、令和元年度の当院の活動記録である年報第30巻を刊行することができました。

平成31年1月1日として始まり、天皇陛下の退位にともない、5月1日に「令和」と改元されました。心も新たに、皆さまも令和の時代を迎えられたことと思います。

この1年のことを思い出すと、新型コロナウイルス感染症のことしか、思い出せない方も多いと思います。

年報では、新型コロナウイルス感染症以外にも、この1年、皆がどのように医療に取り組んできたか、振り返りたいと思います。

この1年を振り返りますと、良いこと、楽しいことで思い出されるのは、ラグビーのワールドカップです。日本代表の勇気あるプレー、今までの戦跡をはるかに上回る成績、皆さま、熱狂してご覧になられたと思います。そして、海外からの観客に、日本が素晴らしい国であると賞賛され、日本人として嬉しかったです。この様な、いい事もありました。

令和2年は、新型コロナウイルス感染症。1月に中国 湖北症の武漢市で新型コロナウイルスの感染症が発生し、拡大しました。1月31日には、福井赤十字病院では、新型コロナウイルス感染対策本部が設置されました。毎朝のように、副院長、感染対策室など、病院幹部、対応部署が集まり、対策を検討しました。

2月4日には横浜港を出国した豪華客船・ダイヤモンドプリンセス号の乗客から新型コロナウイルス感染症の患者さんが発生しました。その後、ダイヤモンドプリンセス号は横浜港で長期の検疫体制に入り、毎日のようにニュースで報道されていたのを思い出します。

2月15日には、当院も救護を要請され、中国よりの帰国者の隔離先（埼玉県）に救護班を派遣しました。新型コロナウイルス感染症は、残念ながら、その後も拡大を続けました。

3月18日には福井県では、1例目の患者さんが確認されました。3月25日には、当院での1例目の新型コロナウイルス感染症の患者さんが入院されました。

福井赤十字病院の、新型コロナウイルス感染症に対する取り組みは、令和2年度になり、本格化します。しかし、これは令和2年の2月、3月での、感染対策本部を初めとする、全病院での準備があればこそのことと考えております。

まだまだ、編集後記を作成している本日も、新型コロナウイルス感染症の先は見えません。病院全体が力を合わせて、この世界的な感染症に対処したいと思います。

（文責 高野 誠一郎）

## 年報編集検討会

年報編集責任者：高野 誠 一 郎

広報委員長：坪川 明 義

オブザーバー：木村 正 二

委 員：加 藤 成

榑原 圭 一

西川 順 子

渋谷 貞 一

杉田 博 之

川瀬公 一 郎

事 務 局：病院経営課

発 行：令和3年2月